秋田県文化財調査報告書第389集

新　屋　敷　遺　跡

―一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―

２００５・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂(しろざか)遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

新屋敷遺跡

―一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―

２００５・３

秋田県教育委員会

1　調査区全景（北東から）

2　調査区全景（南西から）

調査区全景（上が北東）

1　掘立柱建物跡群（上が南東）

2　掘立柱建物跡群（北西から）

掘立柱建物跡群確認状況（南西から）

1　SKI38完掘状況（西から）

2　SKI74・75完掘状況（北西から）

1　SD45確認状況（南西から）

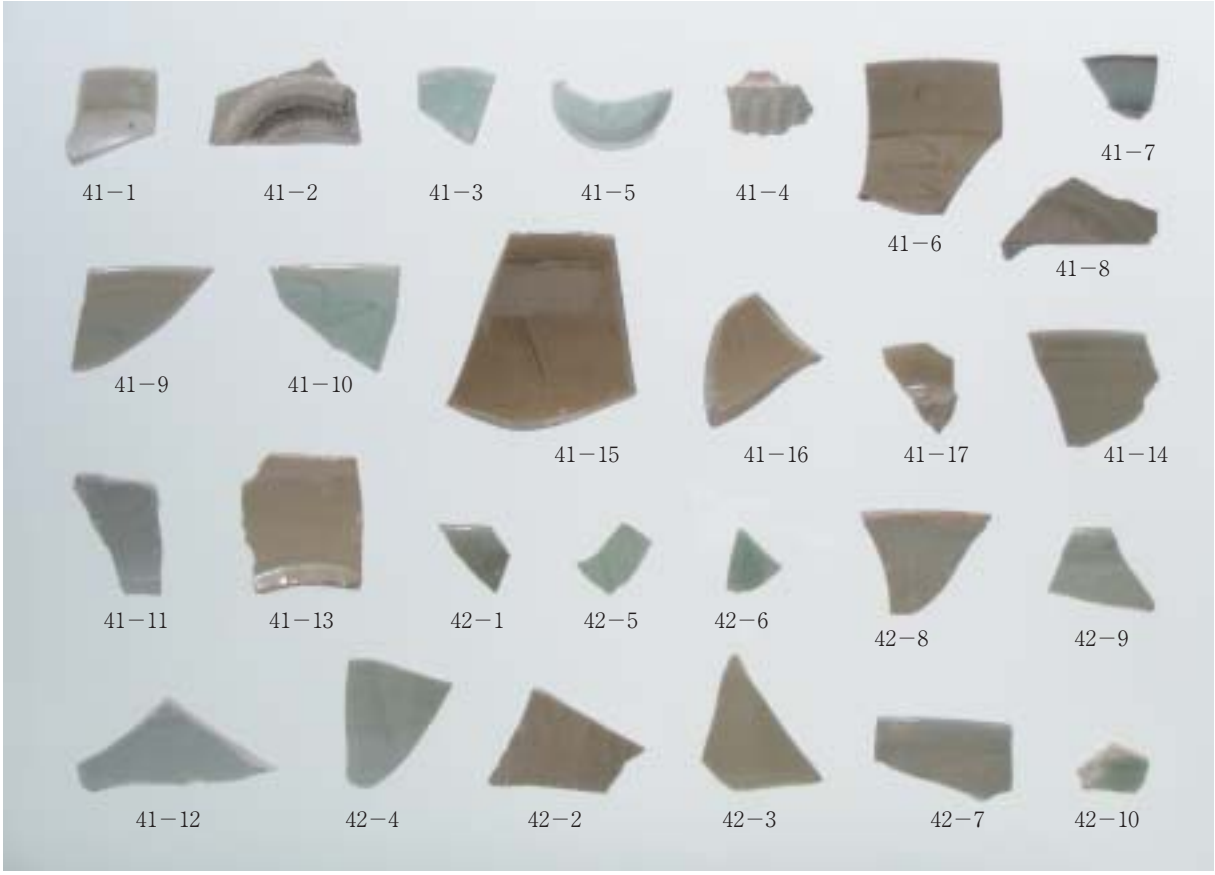
2　SD45Ａ－Ａ’ライン土層断面（北西から）

1　SD64確認状況（北西から）

2　SD64Ａ－Ａ’ライン土層断面（東から）

1　SE71上部土層断面（北西から）

2　SE71下部土層断面（北西から）



1　中国産磁器

2　常滑産・瀬戸産陶器

1　LQ52⑥かわらけ杯出土状況（南西から）

2　LS48⑥（SB62）かわらけ皿出土状況（東から）

3　かわらけ杯内面状況

4　かわらけ皿内面状況

5　かわらけ杯

6　かわらけ皿

7　かわらけ杯底面状況

8　かわらけ皿底面状況

序

本県には、これまでに発見された約4,600か所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備や国道の建設は、ゆとりと活力に満ちた新しいふるさと秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会では、これら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、一般国道13号湯沢横手道路建設事業に先立って、平成15年度に実施した新屋敷遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。調査の結果、中世の掘立柱建物跡や、それらを区画する溝跡などが検出され、当時の有力者が構えた居館の一部であることが分かりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所、雄勝町教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成17年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　清

例　　言

1　本報告書は、平成15年度に行った新屋敷遺跡の発掘調査成果を収めたもので、一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書としては２冊目にあたる。

2　調査の内容についてはすでにその一部を埋蔵文化財センター年報などによって公表しているが、本報告書を正式のものとする。

3　本報告書の第１章第１節・第２章第２節・第３章・第４章・第７章は加藤竜が、第１章第２節・第２章第１節は伊藤誠が執筆し、全体の編集は加藤が行った。

4　『第５章　自然科学的分析』の「第１節　新屋敷遺跡出土鉄関連資料の金属考古学的調査」は岩手県立博物館に、「第２節　新屋敷遺跡出土炭化材の自然科学分析」は株式会社パリノ・サーヴェイに業務委託した分析報告である。

5　『第６章　新屋敷遺跡の掘立柱建物跡』は、八戸工業大学建築工学科教授　高島成侑氏より玉稿を賜った。

6　出土した陶磁器の産地・時期等については、飯村均氏、中野晴久氏、羽柴直人氏、藤沢良祐氏、八重樫忠郎氏、山口博之氏より多くのご教示を頂いた。

7　本報告書の作成にあたり、以下の方々からご指導・ご助言を頂いた。記して感謝申し上げます。
（敬称略、五十音順）

赤沼英男、浅野晴樹、飯村均、伊藤武士、岩崎厚志、榎本剛治、及川真紀、小野寺麻耶、
金子優子、神田和彦、北村忠昭、君島武史、工藤直子、小松正夫、齋木秀雄、齋藤正、榊原滋高、
佐野一絵、佐野忠史、島田祐悦、菅原計二、杉本良、鈴木俊男、千田嘉博、高島成侑、竹内弘和、
田中照久、中野晴久、羽柴直人、橋本久和、福田貫之、藤沢良祐、水澤幸一、宮内信雄、宮尾亨、
百瀬正恒、森一欽、八重樫忠郎、山口博之

凡　　例

1　本報告書に使用した地形図は、国土地理院発行の１／25,000「横堀」および１／50,000「浅舞」「横手」「湯沢」「稲庭」と、国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所提供の１／1,000工事用図面である

2　本報告書で使用した土色の色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖2001年版』によった。

3　遺構については検出順にその種類を示す略記号と通し番号を付したが、後に遺構ではないと判断したものは欠番とした。遺構に使用した略記号は以下のとおりである。

SA（柱穴列）　SB（掘立柱建物跡）　SD（溝跡）　SE（井戸跡）　SK（土坑）
SKI（竪穴状遺構）　SKP（柱穴）　SN（焼土遺構）

4　挿図中の方位は、世界測地系平面直角座標第Ｘ系の座標北を示す。なお、磁北は座標北から東へ０°13′25.2″偏する。

5　『第５章　自然科学的分析』で用いた挿図・表・図版番号は原文通りに表記し、各通し番号とは別扱いとした。

6　掲載した遺物には挿図毎に１からの通し番号を付した。なお、文中・遺構挿図中・写真図版中において掲載遺物を示す場合、例えば第39図の１という遺物は、39－１と表記することとした。

7　挿図中に使用したスクリーントーンの凡例は、以下のとおりである。なお、付図については柱穴の柱痕跡を赤色で示した。

柱痕跡　　炭化物

8　遺構内出土遺物については、以下の記号を用いて、遺構挿図中にその出土地点と種別を示した。

■　中国産磁器　　◆　常滑産陶器　　＊　瀬戸産陶器　　▲　須恵器系中世陶器
●　かわらけ　　★　鉄製品・銭貨・製鉄関連遺物

目　　次

巻頭図版
序
例言……ii
凡例……iii
目次……iv
挿図目次……v
表目次……v
図版目次……vi
報告書抄録……viii

第１章　はじめに……1
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　調査要項……1

第２章　遺跡の立地と環境……3
　第１節　遺跡の位置と立地……3
　第２節　歴史的環境……7

第３章　調査の概要……11
　第１節　遺跡の概観……11
　第２節　調査と整理の方法……12
　第３節　調査の経過……13

第４章　調査の記録……15
　第１節　基本層序……15
　第２節　検出遺構……16
　第３節　出土遺物……93

第５章　自然科学的分析……109
　第１節　新屋敷遺跡出土鉄関連資料の金属考古学的調査……109
　第２節　新屋敷遺跡出土炭化材の自然科学分析……124

第６章　新屋敷遺跡の掘立柱建物跡……130

第７章　まとめ……141

挿図目次

第１図　一般国道13号湯沢横手道路と関連遺跡……２
第２図　遺跡の位置……４
第３図　地形区分図……４
第４図　遺跡周辺の地形分類図……５
第５図　遺跡周辺の表層地質図……６
第６図　周辺の遺跡……８
第７図　調査区の区画……12
第８図　遺構配置図・基本土層図……17
第９図　遺構集中区域図……18
第10図　掘立柱建物跡（１）SB52・54……60
第11図　掘立柱建物跡（２）SB55・57……61
第12図　掘立柱建物跡（３）SB58・66……62
第13図　掘立柱建物跡（４）SB59……63
第14図　掘立柱建物跡（５）SB60……64
第15図　掘立柱建物跡（６）SB61……65
第16図　掘立柱建物跡（７）SB62……66
第17図　掘立柱建物跡（８）SB63……67
第18図　掘立柱建物跡（９）SB65……68
第19図　掘立柱建物跡(10) SB72・73……69
第20図　掘立柱建物跡(11) SB88・95……70
第21図　掘立柱建物跡(12) SB97……71
第22図　掘立柱建物跡(13) SB100・104……72
第23図　柱穴列　SA56・69・70・82・83・86・89・90・91・92・93・96・105・106……73・74
第24図　竪穴状遺構（１）SKI10……75
第25図　竪穴状遺構（２）SKI38……76
第26図　竪穴状遺構（３）SKI74……77
第27図　竪穴状遺構（４）SKI75……78
第28図　溝跡（１）SD45……79・80
第29図　溝跡（２）SD64……81・82
第30図　溝跡（３）SD46・102・103……83
第31図　井戸跡、焼土遺構　SE71、SN79・81……84
第32図　土坑（１）SK01・02・03・04・05・26・36・50・51……85・86
第33図　土坑（２）SK07・08・09・11・12……87
第34図　土坑（３）SK13・14・15・17・18・20・21・67……88
第35図　土坑（４）SK23・28・29・30・31……89
第36図　土坑（５）SK32・33・34・35・37・39・40……90
第37図　土坑（６）SK41・42・43・44・47・53……91
第38図　土坑（７）SK68・76・77・80・87・98・99……92
第39図　縄文土器……99
第40図　石器……100
第41図　中国産磁器（１）……101
第42図　中国産磁器（２）・常滑産陶器・瀬戸産陶器……102
第43図　須恵器系中世陶器（１）……103
第44図　須恵器系中世陶器（２）……104
第45図　須恵器系中世陶器（３）……105
第46図　須恵器系中世陶器（４）・瓦質土器……106
第47図　かわらけ……107
第48図　鉄製品・銭貨・砥石……108
第49図　掘立柱建物跡の配置と年代（１）……136
第50図　掘立柱建物跡の配置と年代（２）……137
第51図　掘立柱建物跡の配置と年代（３）……138
第52図　掘立柱建物跡の柱間寸法（１）……139
第53図　掘立柱建物跡の柱間寸法（２）……140
第54図　遺構新旧関係模式図……145
第55図　各検出遺構の主軸方位……146

付図１　遺構配置図（１）
付図２　遺構配置図（２）
付図３　遺構配置図（３）

表目次

第１表　周辺遺跡一覧……９
第２表　検出遺構一覧……18
第３表　掘立柱建物跡一覧……19
第４表　土坑一覧……32
第５表　柱穴一覧（１）……42
第６表　柱穴一覧（２）……43
第７表　柱穴一覧（３）……44
第８表　柱穴一覧（４）……45
第９表　柱穴一覧（５）……46
第10表　柱穴一覧（６）……47
第11表　柱穴一覧（７）……48
第12表　柱穴一覧（８）……49
第13表　柱穴一覧（９）……50
第14表　柱穴一覧(10)……51
第15表　柱穴一覧(11)……52
第16表　柱穴一覧(12)……53
第17表　柱穴一覧(13)……54
第18表　柱穴一覧(14)……55
第19表　柱穴一覧(15)……56
第20表　柱穴一覧(16)……57
第21表　柱穴一覧(17)……58
第22表　柱穴一覧(18)……59
第23表　遺構集中区域の掘立柱建物跡各属性値……141

図版目次

巻頭図版１　１　調査区全景（北東から）
　　２　調査区全景（南西から）
巻頭図版２　調査区全景（上が北東）
巻頭図版３　１　掘立柱建物跡群（上が南東）
　　２　掘立柱建物跡群（北西から）
巻頭図版４　掘立柱建物跡群確認状況（南西から）
巻頭図版５　１　SKI38完掘状況（西から）
　　２　SKI74・75完掘状況（北西から）
巻頭図版６　１　SD45確認状況（南西から）
　　２　SD45A－A’ライン土層断面（北西から）
巻頭図版７　１　SD64確認状況（北西から）
　　２　SD64A－A’ライン土層断面（東から）
巻頭図版８　１　SE71上部土層断面（北西から）
　　２　SE71下部土層断面（北西から）
巻頭図版９　１　中国産磁器
　　２　常滑産・瀬戸産陶器
巻頭図版10　１　LQ52⑥かわらけ杯出土状況（南西から）
　　２　LS48⑥（SB62）かわらけ皿出土状況（東から）
　　３　かわらけ杯内面状況
　　４　かわらけ皿内面状況
　　５　かわらけ杯
　　６　かわらけ皿
　　７　かわらけ杯底面状況
　　８　かわらけ皿底面状況

図版１　１　遺跡遠景（北東から）
　　２　遺跡遠景（北東から）……147
図版２　１　LR48⑬（SB58）土層断面（南東から）
　　２　LQ50⑪（SB59）土層断面（南東から）
　　３　LR53②（SB60）土層断面（北東から）
　　４　LR47②（SB61）土層断面（南東から）
　　５　LQ47⑤（SB62）土層断面（南東から）
　　６　LR48①（SB63）土層断面（南東から）
　　７　LQ57③（SB65）土層断面（北西から）
　　８　LP56①（SB66）土層断面（北西から）……148
図版３　１　LO56⑩（SB72）土層断面（北東から）
　　２　LP57⑰（SB73）土層断面（北東から）
　　３　LQ49①（SB63）・②（SB58）土層断面（東から）
　　４　LQ51④（SB59）・⑤（SB60）土層断面（南西から）
　　５　LO48③（SB61）・④（SB62）・⑯（SB59）土層断面（南東から）
　　６　LP48①（SB62）・⑯（SB61）土層断面（南東から）
　　７　LR49②（SB61）・③（SB63）土層断面（北西から）
　　８　LO56⑧（SB66）・⑨（SB65）土層断面（北東から）
……149
図版４　１　SK09・12、SKI10土層断面（南から）
　　２　SK09・12、SKI10完掘状況（南から）……150
図版５　１　SKI38土層断面（南西から）
　　２　SKI38土層断面（北西から）……151
図版６　１　SKI74土層断面（南西から）
　　２　SKI74土層断面（北西から）……152
図版７　１　SKI75土層断面（北西から）
　　２　SKI75土層断面（南西から）……153
図版８　１　SD45完掘状況（南西から）
　　２　SD45B－B’ライン土層断面（北から）
　　３　SD45C－C’ライン土層断面（南西から）
　　４　SD45D－D’ライン土層断面（南西から）
　　５　SD45E－E’ライン土層断面（南西から）
　　６　SD46土層断面（南西から）
　　７　SD102・103土層断面（北西から）……154
図版９　１　SD64完掘状況（北西から）
　　２　SD64B－B’ライン土層断面（北西から）
　　３　SD64C－C’ライン土層断面（北西から）
　　４　SD64D－D’ライン土層断面（北西から）
　　５　SD64E－E’ライン土層断面（北西から）
　　６　SD64F－F’ライン土層断面（北西から）
　　７　SD64G－G’ライン土層断面（西から）……155
図版10　１　SE71中位平面（南東から）
　　２　SE71完掘状況（北西から）
　　３　SN79土層断面（北西から）
　　２　SN81土層断面（北西から）……156
図版11　１　SK01土層断面（南西から）
　　２　SK01・02完掘状況（南から）
　　３　SK01・02・03土層断面（南から）
　　４　SK03土層断面（北西から）
　　５　SK03・50土層断面（北東から）
　　６　SK03完掘状況（西から）
　　７　SK03・04土層断面（北東から）
　　８　SK04完掘状況（西から）……157
図版12　１　SK05土層断面（北西から）
　　２　SK05完掘状況（北西から）
　　３　SK07土層断面（北から）
　　４　SK07完掘状況（北から）
　　５　SK08土層断面（北西から）
　　６　SK08完掘状況（北から）
　　７　SK09土層断面（南東から）
　　８　SK09完掘状況（南から）……158

図版13　1　SK11土層断面(北から)
2　SK11完掘状況(北から)
3　SK12土層断面(南東から)
4　SK12完掘状況(南から)
5　SK13土層断面(北西から)
6　SK13完掘状況(西から)
7　SK14土層断面(北東から)
8　SK14完掘状況(北から)……159
図版14　1　SK15土層断面(東から)
2　SK15完掘状況(北西から)
3　SK17土層断面(西から)
4　SK17完掘状況(南西から)
5　SK18土層断面(北西から)
6　SK18完掘状況(北から)
7　SK20土層断面(南から)
8　SK20完掘状況(北東から)……160
図版15　1　SK21完掘状況(西から)
2　SK33確認状況(西から)
3　SK23土層断面(南西から)
4　SK23完掘状況(南から)
5　SK26土層断面(北西から)
6　SK26完掘状況(北から)
7　SK28土層断面(南西から)
8　SK28完掘状況(南から)……161
図版16　1　SK29土層断面(南から)
2　SK29完掘状況(南から)
3　SK30土層断面(南東から)
4　SK30完掘状況(南から)
5　SK31土層断面(南西から)
6　SK31完掘状況(南から)
7　SK32土層断面(北西から)
8　SK32完掘状況(南から)……162
図版17　1　SK34土層断面(南西から)
2　SK34完掘状況(西から)
3　SK35土層断面(南西から)
4　SK35完掘状況(南から)
5　SK36土層断面(北西から)
6　SK36完掘状況(西から)
7　SK37土層断面(西から)
8　SK37完掘状況(西から)……163
図版18　1　SK39土層断面(南西から)
2　SK39完掘状況(北東から)
3　SK40土層断面(北西から)
4　SK40完掘状況(西から)
5　SK41土層断面(東から)
6　SK41完掘状況(西から)
7　SK42土層断面(南から)
8　SK42完掘状況(北西から)……164
図版19　1　SK43土層断面(南西から)
2　SK43完掘状況(北西から)
3　SK44土層断面(南東から)
4　SK44完掘状況(南東から)
5　SK47土層断面(南東から)
6　SK47完掘状況(南から)
7　SK50完掘状況(北西から)
8　SK67土層断面(西から)……165
図版20　1　SK51土層断面(北西から)
2　SK51完掘状況(西から)
3　SK53土層断面(南東から)
4　SK53完掘状況(南から)
5　SK68土層断面(西から)
6　SK68完掘状況(北から)
7　SK76土層断面(北東から)
8　SK76・77土層断面(北西から)……166
図版21　1　SK77土層断面(南西から)
2　SK76・77完掘状況(北東から)
3　SK80土層断面(北西から)
4　SK98土層断面(南から)
5　SK87土層断面(南西から)
6　SK87礫出土状況(北西から)
7　SK99土層断面(南西から)
8　SK99完掘状況(東から)……167
図版22　1　縄文土器
2　縄文土器底面
3　石器……168
図版23　1　須恵器系中世陶器甕　個体1・2
2　須恵器系中世陶器甕　個体3……169
図版24　1　須恵器系中世陶器甕　個体4・5
2　須恵器系中世陶器甕　個体6・7……170
図版25　1　須恵器系中世陶器甕　個体8
2　須恵器系中世陶器鉢……171
図版26　1　SE71出土かわらけ杯
2　LS48⑥(SB62)出土かわらけ皿
3　かわらけ
4　鉄製品・銭貨・砥石……172

報　告　書　抄　録

ふりがな	あらやしきいせき
書名	新屋敷遺跡
副書名	一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅱ
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第389集
編著者名	加藤竜・高島成侑・伊藤誠
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　　電話0187-69-3331
発行年月日	西暦2005年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
新屋敷遺跡	秋田県 雄勝郡 雄勝町 桑ケ崎 字新屋敷 146外	05462		39° 28′ 47″	140° 28′ 42″	20030520 ～ 20031007	8,733m²	一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る事前発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新屋敷遺跡	遺物散布地	縄文時代		縄文土器 石器	
	居館跡	中世	掘立柱建物跡　19棟 柱穴列　14条 柱穴　1240基 竪穴状遺構　4基 溝跡　5条 井戸跡　1基 焼土遺構　2基 土坑　47基	中国産磁器 瀬戸産陶器 常滑産陶器 須恵器系中世陶器 瓦質土器 かわらけ 鉄製品 砥石	12世紀末から13世紀代を中心とした、掘立柱建物からなる居館跡を検出した。居館は溝で区画されており、調査区は広大な居館の一部であることが判明した。
	遺物散布地	近世		陶磁器 銭貨	

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

一般国道13号は、福島市を起点として秋田市に至る総延長303.7㎞の主要幹線道路として、重要な役割を果たしてきた。しかし近年、湯沢・横手両市街地を中心に、交通量の増加と車両の大型化等に伴う交通渋滞が慢性化し、騒音・振動等による沿道住民の生活環境の悪化も指摘されていた。

このような諸問題を解消するために、1984(昭和59)年度には横手南バイパス、1985(昭和60)年度には湯沢バイパスの建設事業が着手されたが、その後両事業は曲折を経て一般国道13号湯沢横手道路建設事業と事業名を変更し、高規格道路としての機能を持たせ活用を図るものとして整備が進められている。このうち十文字ＩＣ～横手ＩＣ間と湯沢ＩＣ～十文字ＩＣ間についてはすでに供用を開始しており、残る湯沢ＩＣ～雄勝ＩＣ間(13.2㎞)の工事が平成19(2007)年度の完成を目指して現在進められている。

工事対象区域に埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、秋田県教育委員会は国土交通省湯沢河川国道事務所と今後の対応について協議し、2000(平成12)年に工事対象区域のうち湯沢市関口から湯沢市上関までの約3.9㎞について、踏査及び試掘による分布調査を実施した。この際事業予定地内で新発見の遺跡１か所(堀量遺跡)を確認し、2001(平成13)年には同遺跡の発掘調査を実施した。さらに2002(平成14)年には、分布調査が残っていた湯沢市上関地区から雄勝町桑ヶ崎地区にかけての6.1㎞の区間で試掘を行い、新屋敷遺跡を含む新発見の遺跡４か所を確認した。これらの遺跡は同年に確認調査を実施している(第１図)。

新屋敷遺跡の確認調査は15,000㎡を対象とし、多数の柱穴様ピットや土坑を検出したほか、縄文土器が出土したことなどから、縄文時代の遺物散布地と中世の集落跡が重複する複合遺跡であると考えられた。また工事区域内の発掘調査対象区域は、遺構の検出及び遺物の出土が認められた9,200㎡の範囲とされた。遺跡の一部が工事対象区域に及んでいることが確認されたため、協議の結果、事業計画との関連から2003(平成15)年度に発掘調査を実施するに至った。

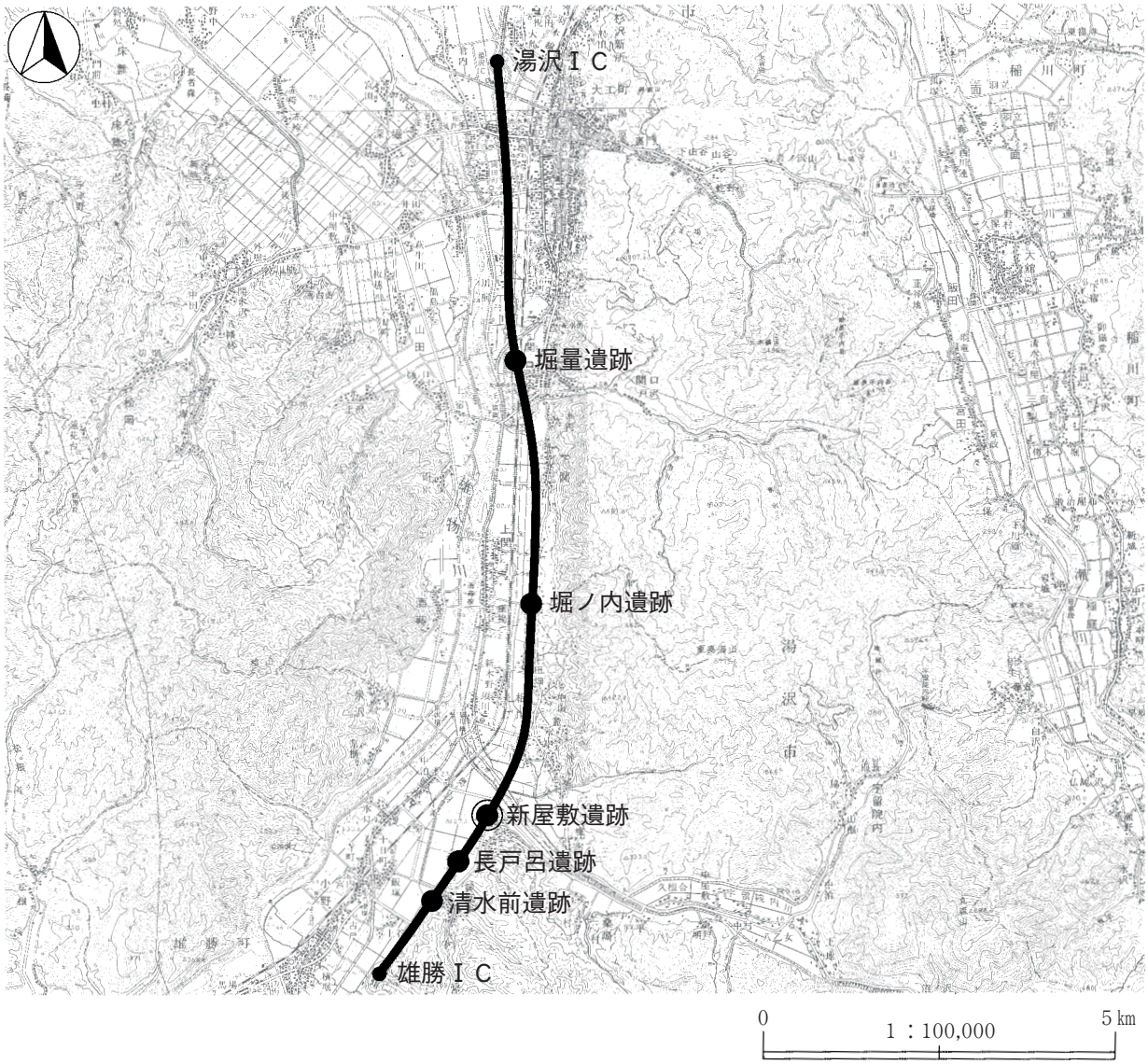
第２節　調査要項

遺　跡　名　新屋敷遺跡（略記号：９ＡＹＳ）
所　在　地　秋田県雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字新屋敷146外
遺 跡 状 況　水田
調 査 目 的　一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査
調 査 期 間　平成15年５月20日～10月７日
調査対象面積　9,200㎡
調 査 面 積　8,733㎡
調 査 主 体 者　秋田県教育委員会

調査担当者　加藤　　竜（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　文化財主事）
伊藤　　誠（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　学芸主事）
麻生　彩子（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　調査・研究員）
小松田博嗣（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　調査・研究員）
調査総務担当　金　　義晃（秋田県埋蔵文化財センター総務課　課長）
高橋　　修（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主任）
田口　　旭（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主事）
※担当者・職名は発掘調査時のものである。
調査協力機関　国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所　雄勝町教育委員会

参考文献

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第324集　2001(平成13)年
秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第365集　2003(平成15)年
秋田県教育委員会　『堀量遺跡－一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』
秋田県文化財調査報告書第367集　2004(平成16)年



第１図　一般国道13号湯沢横手道路と関連遺跡

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地

新屋敷遺跡の所在する秋田県雄勝郡雄勝町は、秋田県の南東部、山形、宮城両県との県境に位置し、秋田県湯沢市、羽後町、鳥海町、皆瀬村、山形県新庄市、金山町、真室川町、最上町、宮城県鳴子町と接する。町を東西に二分するように役内川が北流し、ＪＲ横堀駅の西約1.5㎞で町北部を流れる雄物川に合流する。雄物川はさらに湯沢市との境で高松川と合流し、その扇状地が町の北端部を覆っている。また、雄物川に並行してＪＲ奥羽本線と国道13号が秋田－山形方面に、役内川に並行して国道108号が鳥海－宮城方面に走る。町域は北西－南東方向約32㎞、北東－南西方向約15㎞にわたり、その面積は約306.02㎢である。

新屋敷遺跡は雄勝町桑ヶ崎地区に所在し、北緯39°28′47″、東経140°28′42″、ＪＲ横堀駅の北東約2.7㎞に位置する(第２図)。周辺地域の土地利用は、水田がその多くを占める。

遺跡周辺の地形は、山地・火山地、丘陵地、低地の３つから形成されるが、丘陵地はより北方の湯沢市と羽後町に存在し、遺跡周辺では見られない(第３・４・５図)。特に遺跡近隣地域に限定すると、東部に小比内山火山山麓地(Ｉｒ)と小比内山火山地(Ｉｑ)が南北に連なり、西の檜山山地(Ｉｍ)との間に雄物川低地(Ⅲａ)を形成する。さらに(Ｉｒ)は､北の東鳥海山山地(Ｉｎ)との間に高松川低地(Ⅲｂ)を、南の烏帽子山山地(Ｉｌ)との間に役内川低地(Ⅲｃ)を形成する。

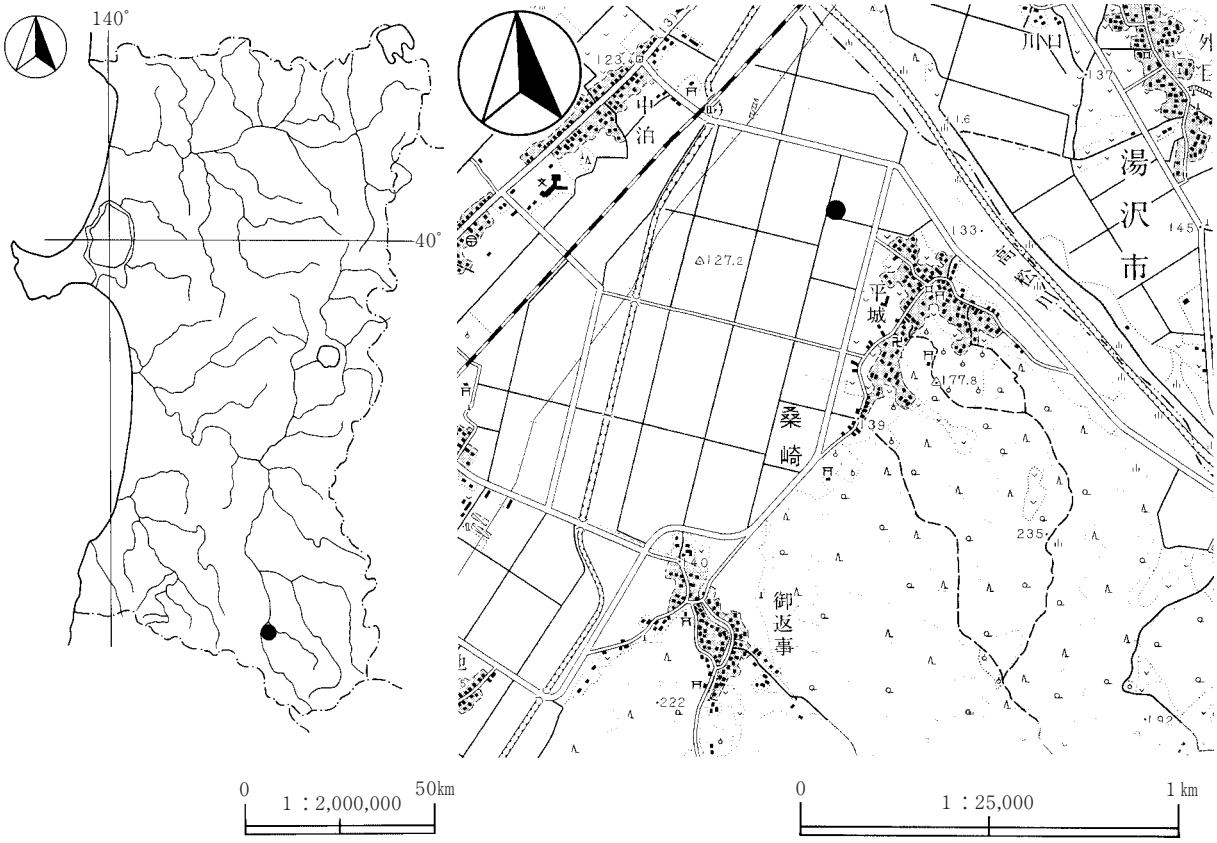
(Ｉｑ)・(Ｉｒ)は出羽山地に含まれ、図幅以東に位置する小比内山を主峰とする、およそ70～100万年前に噴火しその火山噴出物によって一帯を形成した火山地である｡起伏量は400ｍ以下とさほど大きくない。特に(Ｉｒ)は、火砕流や泥流が成層状に堆積しているため、(Ｉｑ)に比べると、山麓面は緩傾斜となっている。地質は、山体部は第四紀に形成された母沢安山岩、川井山石英安山岩、小比内山安山岩からなり、山麓部はそれら安山岩由来の砕屑岩からなる。

(Ｉｍ)は、湯沢市との境に位置する檜山を主峰とした、出羽山地の一部である。起伏量は200～300ｍの中起伏山地であるが、(Ⅲａ)に面した一部では400ｍ以上の大起伏山地を呈している。地質は飯沢層をなす輝石安山岩およびその火山砕屑岩、女川層をなす酸性軽石凝灰岩、火山礫凝灰岩からなる。

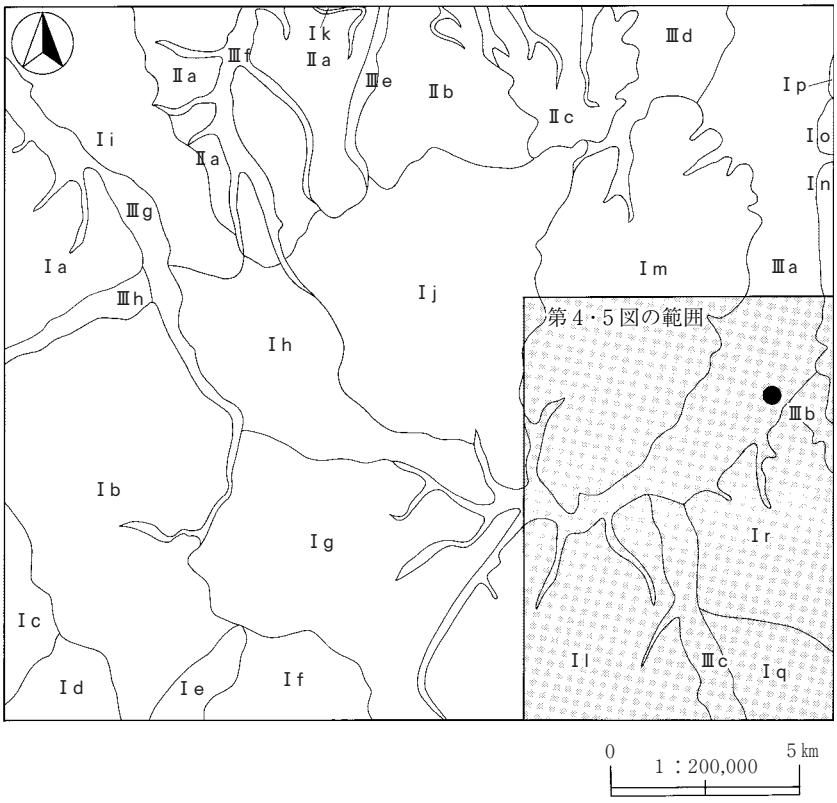
(Ⅲａ)は湯沢断層によって形成された断層谷であり、同時に雄物川によって創り出された河谷低地でもある。本低地東部には、小型の扇状地が南北にいくつも連なり、いわゆる複合扇状地が発達している。この複合扇状地は傾斜が３°未満と緩やかなものである。また、国道13号に並行して点在する砂堆地は、集落の立地などからみても、河川の流路変更に伴って取り残された自然堤防と考えることができる。地質は、第四紀にもたらされた沖積低地堆積物が主である。

(Ⅲｂ)も、断層谷であると同時に、高松川によって創り出された河谷低地である。旧河道の縁辺部には、河道の氾濫によって沖積段丘崖が形成されている。

新屋敷遺跡は、小比内山火山山麓地の西縁、雄物川低地に形成された複合扇状地上に立地する。本遺跡の標高は約127ｍである。



第２図　遺跡の位置



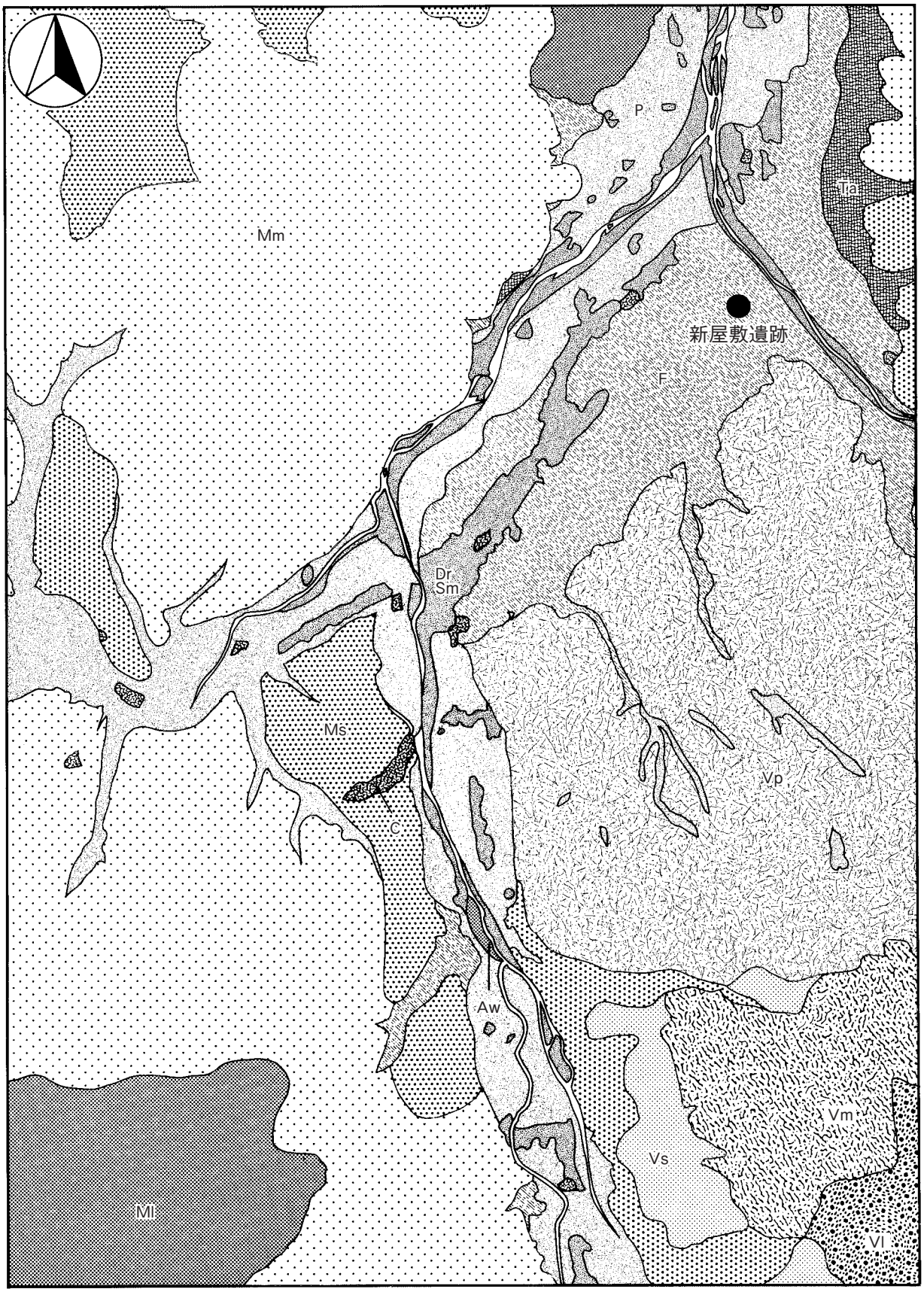
Ⅰ　山地・火山地
Ⅰａ：朝日森山地　Ⅰｂ：大森山山地
Ⅰｃ：萱森山地　Ⅰｄ：加無山山地
Ⅰｅ：甑山山地　Ⅰｆ：前森山山地
Ⅰｇ：大仙山山地　Ⅰｈ：姥井戸山山地
Ⅰｉ：蒲倉山山地　Ⅰｊ：大黒森山山地
Ⅰｋ：太平山山地　Ⅰｌ：烏帽子山山地
Ⅰｍ：桧山山地　Ⅰｎ：東鳥海山山地
Ⅰｏ：三本鎗山山地　Ⅰｐ：御岳山山地
Ⅰｑ：小比内山火山地
Ⅰｒ：小比内山火山山麓地

Ⅱ　丘陵地
Ⅱａ：仙道丘陵地　Ⅱｂ：飯沢丘陵地
Ⅱｃ：田沢丘陵地

Ⅲ　低地
Ⅲａ：雄物川低地　Ⅲｂ：高松川低地
Ⅲｃ：役内川低地　Ⅲｄ：作内川扇状低地
Ⅲｅ：西馬音内川低地　Ⅲｆ：仙道川低地
Ⅲｇ：笹子川低地　Ⅲｈ：丁川低地

● 新屋敷遺跡

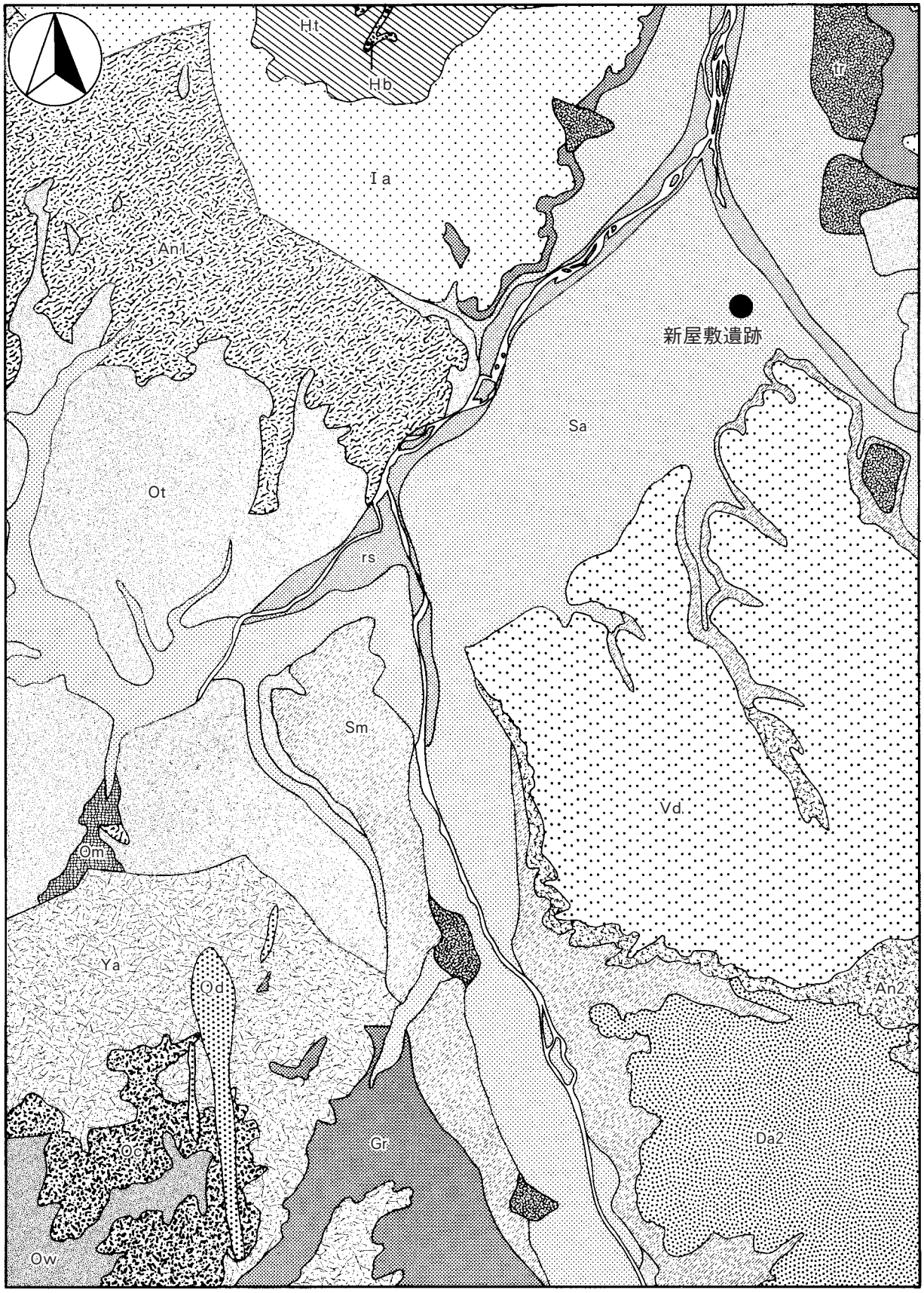
第３図　地形区分図



Ｍｌ：大起伏山地(起伏量400ｍ以上)　Ｍｍ：中起伏山地(起伏量400～200ｍ)　Ｍｓ：小起伏山地(起伏量200ｍ未満)
Ｖｌ：大起伏火山地(起伏量400ｍ以上)　Ｖｍ：中起伏火山地(起伏量400～200ｍ)　Ｖｓ：小起伏火山地(起伏量200ｍ未満)
Ｖｐ：火山山麓地　Ｐ：谷底平野　Ｆ：扇状地　ＤｒＳｍ：河原、砂堆地　Ｔａ：崖錐　Ａｗ：旧河道　Ｃ：人工改変地

0　1：50,000　2.5km

第４図　遺跡周辺の地形分類図



rs:現世河川堆積物　sa:砂がち堆積物　tr:礫･砂および泥　Sm:泥岩･砂岩･酸性凝灰岩および礫岩
Om:硬質泥岩(塊状泥岩･酸性凝灰岩および砂岩を伴う)　Ot:酸性軽石凝灰岩および火山礫凝灰岩(泥岩を伴う)
Ht:酸性凝灰岩･火山礫凝灰岩および安山岩火山砕屑岩(砂岩および泥岩を伴う)
Ow:角閃石黒雲母石英安山岩熔結凝灰岩･凝灰岩および火山礫凝灰岩　Oc:変質輝石安山岩火山砕屑岩および礫岩(酸性凝灰岩などを伴う)
Vd:安山岩火山岩屑　An2:両輝石安山岩　Da2:角閃石石英安山岩火山砕屑岩　An1:両輝石安山岩およびその火山砕屑岩　Hb:橄欖石玄武岩　Ia:輝石安山岩およびその火山砕屑岩
Ya:変質輝石安山岩および火山砕屑岩(熔結凝灰岩などを伴う)　Qd:角閃石閃緑岩および角閃石石英閃緑?岩　Gr:角閃石黒雲母花崗閃緑岩および片麻状花崗閃緑岩

0　1：50,000　2.5km

第５図　遺跡周辺の表層地質図

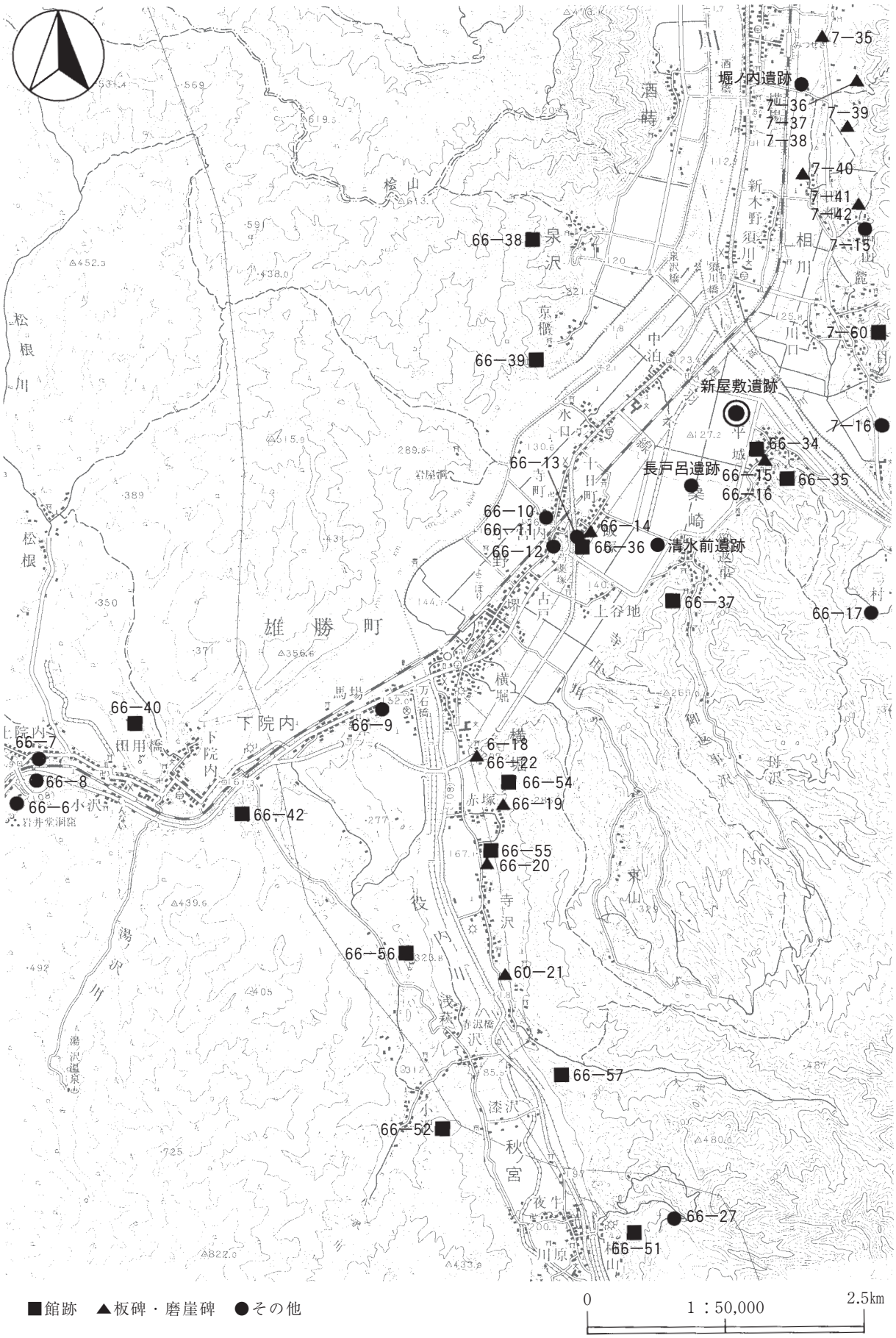
第２節　歴史的環境

新屋敷遺跡周辺では、縄文時代から近世までの遺跡が確認されており、その殆どが縄文時代と中世の遺跡である。これらは雄物川とその支流である役内川流域の低地や丘陵地、山麓などに立地している。また当地域は古代から交通の要所であり、有屋峠・雄勝峠を越えて山形県最上郡金山町・真室川町、鬼首峠から宮城県玉造郡鳴子町、松の木峠から由利郡鳥海町へ通じている。雄勝峠は国道13号、鬼首峠と松の木峠は国道108号にあたり、今日でも県内外への出入り口として重要な役割を担っている。ただし駅屋設置の際に開通した有屋峠道は、慶長八(1603)年に羽州街道が雄勝経由となったため閉鎖された。以下に、発掘調査の実施された遺跡を中心に当遺跡周辺の歴史的な環境を概観したい。なお、文中・挿図中・表中にある(７－15)等の表記は、『秋田県遺跡地図(県南版)』に掲載された遺跡の地図番号と一致する(第６図・第１表)。

図幅中における縄文時代の遺跡は、雄物川流域を上流から辿っていくと、院内地区の丘陵上に岩井堂洞窟(66－６)、釜ノ上Ⅰ(66－７)・釜ノ上Ⅱ(66－８)・下馬場(66－９)などが確認されている。これらのうち岩井堂洞窟遺跡は、1962(昭和37)年、県内埋蔵文化財の一斉調査を機に発見され、1963(昭和38)年から1976(昭和51)年まで８次にわたり、凝灰岩壁に形成された大小４つの洞窟が調査された。調査の結果、縄文土器(早期・前期・後期・晩期)・弥生土器・石器・土師器などが出土し、特に縄文時代早期の押型文土器や貝殻沈線文系土器などは県内でも数少ない貴重な資料であり、1977(昭和52)年には国指定史跡として登録されている。横堀・小野地区近辺には雄物川により形成された自然堤防上に現集落が展開しており、ここでは小野熊野神社遺跡(66－10)・小野Ⅰ遺跡(66－11)・小野Ⅱ遺跡(66－12)が確認されている。さらに下流の三関地区では新発見の堀ノ内遺跡が2003(平成15)年とその翌年に発掘調査が行われている。この遺跡は雄物川に注ぐ麓沢川の旧河道に沿う微高地上に立地しており、調査の結果、多数の土坑・土器埋設遺構・柱穴のほか配石遺構・焼土遺構などが検出され、縄文時代後期から晩期にかけて営まれた墓域であることが判明した。長戸呂遺跡も堀ノ内遺跡と同様、一般国道13号湯沢横手道路の建設に先立ち、2003(平成15)年に調査が行われた新発見の遺跡である。この遺跡は寺田川もしくは御返事川の旧河道沿いに立地しており、調査の結果、旧河道に沿って土器埋設遺構や配石遺構などが検出され、縄文時代後期の祭祀関連遺跡とされた。雄物川支流に目を転じると、役内川右岸に九十九沢遺跡(66－27)があるほか、図幅外ではあるが秋の宮山居野で発見された魚形文刻石は通称「鮭石」と呼ばれ、県指定有形文化財となっている。高松川流域では、三ツ村遺跡(66－17)・中山遺跡(７－15)・外ノ目遺跡(７－16)などが確認されている。新屋敷遺跡周辺では、現在まで縄文時代遺跡の発掘調査が少なく、その様相は不明確である。しかし最近実施された堀ノ内遺跡や長戸呂遺跡の調査では、後期以降に低地が墓地や祭祀域として利用されていることが判明し、土地利用状況の一端を垣間見ることのできる貴重な情報が追加されたと言えよう。

弥生時代の遺構は確認されていないが、前述の岩井堂洞窟遺跡では、ほぼ完形に復元可能な土器が出土しており、岩陰が生活の場として利用されていた可能性がある。また洞窟内では土師器も出土しており、その出土状態から、古代には祭祀の場として利用されたと考えられている。

古代の遺構を伴う遺跡は未発見であるが、古代における当地域の動向に関しては『続日本紀』などの文字資料により窺い知ることができる。それによると、奈良時代の天平五(733)年には出羽柵が庄


7−35
堀ノ内遺跡
7−36
7−37
7−38
7−39
7−40
7−41
7−42
7−15
66−38
泉沢
7−60
66−39
新屋敷遺跡
7−16
66−34
66−13
長戸呂遺跡
66−15
66−35
66−16
66−10
66−14
66−11
66−36
清水前遺跡
66−12
66−37
66−17
雄勝町
66−40
66−9
66−7
66−18
66−22
66−8
66−54
66−6
66−19
66−42
66−55
66−20
66−56
60−21
66−57
66−52
66−27
66−51
■館跡　▲板碑・磨崖碑　●その他
0
1：50,000
2.5km

第６図　周辺の遺跡

第１表　周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	種別	遺構・遺物
7-15	中山	湯沢市相川字中山	遺物包含地	縄文土器片(後期)、石鏃
7-16	外ノ目	湯沢市相川字新坊	遺物包含地	縄文土器片(後期)、石箆、石鏃
7-35	立石	湯沢市八反田字八反田	板碑	
7-36	正和５年碑	湯沢市上関字鍋ヶ沢	板碑	種子、月輪に胎蔵界大日(アーンク)
7-37	貞和３年碑	湯沢市上関字鍋ヶ沢	板碑	種子、阿弥陀(キリーク)
7-38	延文５年碑	湯沢市上関字鍋ヶ沢	板碑	種子、阿弥陀(キリーク)
7-39	建武元年双式碑	湯沢市相川字岩の沢	板碑	種子、阿弥陀(キリーク)、蓮台
7-40	貞和４年碑	湯沢市相川字田畑	板碑	種子、釈迦如来(バク)、貞和４年
7-41	無紀年碑	湯沢市相川字中山	板碑	種子、阿弥陀(キリーク)、釈迦如来(バク)の２尊
7-42	無紀年碑	湯沢市相川字中山	板碑	種子、阿弥陀三尊(キリーク、サ・サーク)、蓮台
7-60	相川城	湯沢市相川字古館山	館跡	
66-6	岩井堂	雄勝郡雄勝町上院内字岩井堂	洞窟	縄文土器(早期・前期・中期・後期・晩期)、 石器、弥生式土器、土師器
66-7	釜ノ上Ⅰ	雄勝郡雄勝町上院内字釜ノ上	遺物包含地	縄文土器片(前期)、石鏃、掻器、丸石、石匙
66-8	釜ノ上Ⅱ	雄勝郡雄勝町上院内字釜ノ上	遺物包含地	縄文土器片(前期)、石器
66-9	下馬場	雄勝郡雄勝町下院内字下馬場	遺物包含地	縄文土器片(中期)、フレーク、打製石斧、石錘
66-10	小野熊野神社	雄勝郡雄勝町小野字小野	遺物包含地	縄文土器片(中期)
66-11	小野Ⅰ	雄勝郡雄勝町小野字小野	遺物包含地	縄文土器片、石鏃、石斧
66-12	小野Ⅱ	雄勝郡雄勝町小野字小野	遺物包含地	縄文土器片(前期)
66-13	桐木田の井戸	雄勝郡雄勝町小野字桐木田	史跡	井戸
66-14	姥っこ石	雄勝郡雄勝町小野字桐木田	板碑	板碑３基
66-15	桐善寺紀年碑	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字平城	板碑	板碑３基
66-16	無紀年碑	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字平城	板碑	阿弥陀、金剛界大日
66-17	三ツ村	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字蟹沢	遺物包含地	石器
66-18	嘉暦元年碑	雄勝郡雄勝町横堀字板橋	板碑	金剛界大日、胎蔵界大日
66-19	貞和碑	雄勝郡雄勝町横堀字館堀	板碑	板碑１基
66-20	嘉暦２年碑	雄勝郡雄勝町寺沢字堀ノ内	板碑	嘉暦２年丁卯３月
66-21	応永７年碑	雄勝郡雄勝町寺沢字田中	板碑	梵字　阿弥陀三尊
66-22	磨崖碑	雄勝郡雄勝町横堀字板橋	磨崖碑	
66-27	九十九沢	雄勝郡雄勝町秋ノ宮字九十九沢	遺物包含地	
66-34	鵜沼城	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字平城	館跡	掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、堀跡、溝跡、 陶磁器類、漆器、木製品、石製品
66-35	平城館	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字平城	館跡	
66-36	桐木田館	雄勝郡雄勝町小野字桐木田	館跡	掘立柱建物跡、竪穴状遺構、土坑、堀跡、土橋、 溝跡、陶磁器類、石製品
66-37	御返事城	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字御返事	館跡	
66-38	泉沢館	雄勝郡雄勝町大字泉沢	館跡	
66-39	小野城	雄勝郡雄勝町泉沢字古館	館跡	
66-40	法領館	雄勝郡雄勝町下院内字館山	館跡	
66-42	臼館	雄勝郡雄勝町下院内字焼山	館跡	
66-51	椛山館	雄勝郡雄勝町秋ノ宮字九十九沢	館跡	
66-52	影平館	雄勝郡雄勝町秋ノ宮字影平	館跡	
66-54	草井崎城	雄勝郡雄勝町横堀字館ノ沢	館跡	
66-55	館堀城	雄勝郡雄勝町寺沢字館堀	館跡	掘立柱建物跡、竪穴状遺構、土坑、堀跡、溝跡、 陶磁器、漆製品、木製品、石製品、銭貨
66-56	浅萩館	雄勝郡雄勝町寺沢字浅萩館	館跡	
66-57	穴小屋址	雄勝郡雄勝町寺沢字黒森	館跡	
	堀ノ内	湯沢市上関字堀ノ内	遺物包含地	土器埋設遺構、配石遺構、土坑、焼土遺構 縄文土器(後期・晩期)、土製品、石器、石製品
	長戸呂	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字長戸呂	遺物包含地	土器埋設遺構、配石遺構、掘立柱建物跡 縄文土器片(中期・後期)、石器
	清水前	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字清水前	遺物包含地	土師器

内地方から秋田高清水岡に移され、間もなく秋田県内陸部の横手盆地にも律令体制がおよび、雄勝郡が建郡されたと記されている。また、天平寶字三(759)年には平鹿郡の建郡と、雄勝城築城の際、有屋峠を通じて平戈駅屋(山形県最上郡金山町)と雄勝駅屋(雄勝郡羽後町)を結ぶ中間の雄勝町にも横河駅屋が設けられたと記されている。こうして国府からの通路が整備されるとともに、横手盆地の積極的な開発が進み、多くの集落が形成され、現在の雄勝町一帯も令制下に入ったことが窺われる。なお、横河駅屋が設けられた場所は未だ特定されていないが、横堀の寺沢地区には大伝馬などの地名があり、その名残とも考えられている。

中世以降、当地域は小野寺氏や最上氏の影響下にあり、これらに関係すると目される城館跡が多数存在する。図幅中では、雄物川流域に鵜沼城(66－34)・平城館(66－35)・桐木田館(66－36)・御返事城(66－37)・泉沢館(66－38)・小野城(66－39)・法領館(66－40)・臼館(66－42)、役内川流域に椛山館(66－51)・影平館(66－52)・草井崎城(66－54)・館堀城(66－55)・浅萩館(66－56)・穴小屋址(66－57)、高松川流域に相川城(７－60)などが確認されている。鵜沼城跡は奥羽山脈から続く丘陵裾部の微高地上に立地し、1979(昭和54)年に実施された発掘調査の結果、多数の掘立柱建物跡・井戸跡・土坑・溝跡と、これらを囲む堀跡が検出され、中世後半には平城、江戸時代初期～中期頃には集落として機能していたと考えられている。桐木田館(遺跡)は雄物川とその支流寺田川によって形成された自然堤防上にあり、1980・81(昭和55・56)年の２か年にわたって調査された。掘立柱建物跡・竪穴状遺構・土坑・集石遺構・溝跡・堀跡・土橋が検出され、中世前半には竪穴建物群が、後半には方形居館が、近世以降には掘立柱建物跡群が成立していたと考えられる。役内川沿いの河谷低地に立地する館堀城は1999(平成11)年に調査が行われ、堀に囲まれた掘立柱建物跡・竪穴状遺構・火葬墓・溝跡などから、中世の平地居館であることが判明した。なお、雄勝地区の山裾部には板碑が多く分布しており、これらが古代に横河駅と雄勝城を結んでいた駅路を踏襲し、中世に開発された交通路を示すとする意見もある。

中世の当地域における領地支配の変遷は文献資料等から以下のように捉えられている。文治五(1189)年の奥羽合戦の後、雄勝郡は下野国都賀郡に本拠をもつ小野寺氏に与えられた。13世紀後半に雄勝郡に入部したのは庶流の経道で、稲庭を中心に領地経営に当たり、西馬音内や湯沢に一族を配して惣領的支配体制を固め､孫道有の代には北方の平賀郡･山本郡(後の仙北郡)の一部を領有するに至った。室町時代末期には平鹿郡沼館、次いで横手へと本拠地を移し、永禄年間(1558～70)には山形の最上地方を支配下に入れていた。しかし天正年間(1573～92)後半には、逆に最上氏に侵入されることになり、慶長年間(1596～1615)初めには雄勝郡の大部分が最上氏の領地となった。当地域で発掘された中世遺跡は、その年代観から殆どが小野寺氏の領地支配に関連するものと考えられる。

参考文献

秋田県　『土地分類基本調査　湯沢』　1979(昭和54)年
秋田県教育委員会・雄勝町教育委員会　『岩井堂岩陰発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第16集　1969(昭和44)年
秋田県教育委員会　『鵜沼城跡』秋田県文化財調査報告書第73集　1980(昭和55)年
秋田県教育委員会　『桐木田遺跡』秋田県文化財調査報告書第95集　1982(昭和57)年
秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図(県南版)』　1987(昭和62)年
秋田県教育委員会　『館堀城跡』秋田県文化財調査報告書第320集　2001(平成13)年
秋田県教育委員会　『秋田県埋蔵文化財センター年報22(平成15年度)』　2004(平成16)年
斎藤實則　『湯沢叢書８　羽州街道の変遷』　建設省東北地方建設局湯沢工事事務所　1998(平成10)年
山下孫継　『岩井堂洞窟　第４洞穴第８次発掘調査報告書』　ニューサイエンス社　1979 (昭和54) 年

第３章　調査の概要

第１節　遺跡の概観

新屋敷遺跡は雄勝町を北流する雄物川の右岸にあり、雄物川支流の高松川や御返事川などによって形成された複合扇状地上に立地する。周辺地域は広大な水田地帯となっており、調査対象区も以前は全て水田として利用されていた。調査区の標高は約127～129mで、過去に行われたほ場整備の際、広範囲に削平を受けて平坦となっているが、基本的に北西に向かってきわめて緩やかな傾斜をもつ地形であったと推定される。なお調査対象区は農道を挟んで南北２地区に分かれているが、北側調査区の中央部において河道跡が確認され、さらにこれに沿った形でほ場整備以前に使用された水路と考えられる溝状の掘り込みも確認されている。今回実施した発掘調査により、遺跡は縄文時代の遺物散布地、中世の居館跡、近世の遺物散布地であることが判明した。

縄文時代の遺物は、縄文時代後期初頭・後期中葉・晩期の土器と、打製石斧や磨製石斧などの石器が散発的に少量出土した。縄文時代の遺物が出土する地点を中心にトレンチ等を設定し、部分的に深掘りも試みたが、明確な遺構は確認されなかった。ところで、新屋敷遺跡の南西にあり、今回の調査と並行して実施された長戸呂遺跡の調査では、同じく後期初頭・後期中葉の遺物群とともに配石遺構や土器埋設遺構が検出され、御返事川の氾濫原に立地した祭祀関連の遺跡であると考えられている。今回の調査対象地区において縄文時代の明確な遺構は確認されなかったが、出土遺物の時期的な整合性を考慮すると、周辺域が長戸呂遺跡と同様に利用されていた可能性も指摘できる。

中世に関しては特に北側調査区を中心として、掘立柱建物跡・竪穴状遺構・土坑などの遺構が濃密に分布している。遺物は12世紀末～15世紀の陶磁器が出土しており、特に12世紀末～13世紀に属するものが多いため、鎌倉時代には大形の掘立柱建物跡群を配した居館が成立していたと推測できる。また遺構集中区域から南北に離れた地点では調査区域外へと延びる溝跡が検出されており、居館の区画に関連したものと考えられる。南側調査区で検出した溝跡は、掘立柱建物跡群と長軸方位がほぼ整合しており、居館の南側を画する性格をもつと推測される。さらに空撮を実施した結果、この溝が調査区外南東側へ延伸していることを示すクロップマークが写真上で確認された。一方、北側調査区の北東端で検出された溝跡は、直角に折れ曲がって調査区外へと続いている。今回の調査で確認した掘立柱建物群を中心とする遺構群とは別の遺構群が調査区隣接地に存在し、それらを画していた可能性を想定できる。以上のように今回調査対象となった地区は、掘立柱建物群とそれらを画する溝を伴う居館の一部であることが確認された。

近世に関しては陶磁器や銭貨等が耕作土中から出土している。しかし遺構内から近世の遺物が出土した例は無く、当該時期の遺構が調査区内に存在したのか判断できない。また、数多くある掘立柱建物跡の中には間尺が他と揃わないものがあり、これが近世に帰属する可能性もあるが確実とは言えない。全体的に近世の様相は不明確である。

第２節　調査と整理の方法

調査区には、世界測地系平面直角座標第Ｘ系に整合する任意の点（Ｘ＝－102,060m、Ｙ＝－30,690m）を原点として、Ｘ軸・Ｙ軸の方向に４ｍ間隔の方眼を設定した。方眼の原点を通る南北Ｘ軸方向の線をMA、同じく東西Ｙ軸方向の線を50とし、Ｘ軸方向の線には西に向かって昇順する２文字のアルファベットを、Ｙ軸方向の線には北に向かって昇順する２桁の数字をそれぞれ付した。なおＸ軸方向に付した２文字のアルファベットには、繰り返しとなるＡ～Ｔまでの20文字を組み合わせて用いた。方眼による４ｍ四方の区画は、南東隅を通過する線の記号を組み合わせ、例えば方眼の原点をMA50と呼ぶことにした（第７図）。

第７図　調査区の区画

調査開始に当たり、表土の水田耕作土および確認調査時のトレンチ内排土は重機を用いて除去し、その後人力で遺構・遺物の検出を行うこととした。基本層序の確認に際しては、調査区南東側の境界付近にトレンチを設定し、壁面で観察と記録を行った。

遺構は、柱穴を除いて確認した順に遺構の種別を示す略記号と01からの番号を付し、例えばSK01のように呼称することとした。また柱穴に関しては、MA50①のように各区毎の通し番号を付した。なお、調査の結果遺構と判断されなかった場合は欠番とした。遺構の精査は、柱穴を除き、半截または十字にベルトを残して掘り下げ、堆積土を観察し、土層断面の実測と写真撮影を行った。土層は土色・土性・粘性・硬度・混入物の相違によって分層し、各層の注記を行った。これらの記録項目のうち、粘性と硬度については度合いの強い方から＋＋＋→＋＋→＋→±→－の記号を用いて表記した。柱穴は、検出した順に３～５㎝程度の掘り下げを行い、柱痕跡の確認に努め、確認された柱痕跡はその平面形を実測した。柱穴のうち掘立柱建物や柱穴列を構成すると判断されたものは、柱通りに揃えて半截し、断面図を作成した。柱穴内の堆積土は、その特徴を記号化して簡略に記録し、完掘した。写真撮影には、35㎜およびブロニー版カメラを使用し、モノクロフィルムとカラーリバーサルフィルム中心に、ネガカラーフィルムを交えて行った。なお発掘調査終了間際には、バルーンによる空中写真撮影を業務委託し、遺跡全景等をデジタルカメラで撮影した。

遺構内から出土した遺物は出土地点を計測し、平面図中に記録した。遺構内遺物については、遺跡名・出土遺構・出土層位・遺物番号・出土年月日を、遺構外出土遺物については遺跡名・出土地区・出土層位・出土年月日を記入した袋に入れ、取り上げた。

室内における整理は、遺構については現場で図化した平面・断面図より第２原図を作成し、これをトレースした。遺物は洗浄・注記の後、接合と復元を行い、分類・計数・計量を経て実測図・拓影図の作成・写真撮影を行った。遺物の注記は、遺跡略記号（９AYS）・出土位置（地区名もしくは遺構名）・遺物番号・出土層位・出土年月日（030520のような６桁の数字）を記入した。

第３節　調査の経過

新屋敷遺跡の発掘調査は、５月２日に作業員面接、８～21日に重機による表土除去、12～23日に方眼杭設置などの諸準備を経て、５月20日から開始した。調査は調査員４名・作業員35名の体制で行ったが、予想を上回る数の遺構が確認されたため、途中２名の調査員と８名の作業員を増援した。

第１週（５月20～23日）　20日、調査開始。機材の搬入、作業員の説明会、周囲の環境整備を行った。22日、ベルトコンベアーの設置を行い、南側調査区では南東端にトレンチを設定し、基本層序の観察を開始する。トレンチ内で縄文土器がまとまって出土した。22日午後、作業員健診を行う。

第２週（５月26～30日）　南側調査区で基本層序の観察と記録を行う。北側調査区では南西側から遺構確認作業を開始し、土坑・柱穴などが検出された。

第３週（６月２～６日）　北側調査区南西側で遺構確認を行い、確認した柱穴の段下げを行う。柱穴から青磁など中世の遺物が数点が出土した。南側調査区では、基本層序の記録を終了。縄文土器が出土した地点を拡張したが遺構は検出されなかった。３日、児玉南調査課長来跡。

第４週（６月９～13日）　北側調査区での遺構確認を継続し、確認面での実測を開始する。10日、北上

市埋蔵文化財センター職員と発掘作業員27名が見学のため来跡。

第５週（６月17～20日）　遺構確認は北側調査区南東部に移る。検出済みの遺構平面実測を継続する。検出した多数の柱穴から数棟の掘立柱建物跡が復元できた。17日、芳賀雄勝高校長来跡。

第６週（６月23～27日）　北側調査区南東側で多数の遺構が確認されたが、切り合い状況では柱穴よりも土坑の方が新しいため、土坑の精査を優先して進める。27日、大野所長来跡。

第７週（６月30日～７月４日）　遺構確認は北側調査区中央部に移る。幅10mほどで蛇行する落ち込みにベルトを設定して掘り下げ、河川跡であると判断した。３日、雄勝町教育委員会生涯学習課長、同職員１名来跡。

第８週（７月７～11日）　遺構確認は北側調査区の北部まで進んだ。確認した柱穴の段下げと平面実測を継続する。８日、秋田大学教育文化学部生２名、見学のため来跡。９日、武田副所長来跡。

第９週（７月14～18日）　北側調査区での遺構確認はほぼ終了し、遺構精査と実測を進める。17日、雄勝町教育委員会生涯学習課職員２名と25日の見学の件で打ち合わせを行う。

第10週（７月22～25日）　南側調査区で遺構確認を開始。調査区を東西に横切る溝跡（SD64）とこれに沿う柱穴を確認した。25日、雄勝町昔を語る会・雄勝町文化財保護協会18名が見学。

第11週（７月28日～８月１日）　柱穴の平面図から掘立柱建物を検討し、建物と認定された柱穴から精査を開始する。29日、大野所長来跡。雄勝町総務課職員が広報に掲載するため写真撮影を行う。

第12週（８月４～８日）　北側調査区南東部では土坑の精査をほぼ終了し、新たに掘立柱建物７棟を認定する。４日、芳賀雄勝高校長と社会科教諭３名が見学のため来跡。６日、児玉課長来跡。次週夏期休暇に入るため、調査区周辺の環境整備を行う。

第13週（８月18～22日）　調査を再開。南側調査区では溝跡の掘り下げに着手する。北側調査区では新たに掘立柱建物跡２棟を認定し、精査を開始する。21日、雄勝町教育委員会・遺跡見学の会６名来跡。

第14週（８月25～28日）　北側調査区では竪穴状遺構および井戸跡の精査を行う。南側調査区では溝跡の断面図作成を行う。25日、大野所長来跡。27日、秋田放送職員ビデオ撮影のため来跡。

第15週（９月１～５日）　北側調査区で掘立柱建物跡を中心に精査を進める。４日、大野所長来跡。

第16週（９月８～12日）　掘立柱建物群の断面図作成はほぼ終了し、周辺の柱穴や他の遺構の精査を進める。12日、八戸工業大学高島成侑教授来跡。掘立柱建物群の性格について指導を受ける。

第17週（９月16～19日）　遺構精査を進める。16日、羽後町明治公民館26名見学のため来跡。

第18週（９月22～26日）　南側調査区では遺構精査を終了。北側調査区北部で柱穴・土坑の精査を進める。26日、児玉南調査課長来跡。

第19週（９月29日～10月３日）　北側調査区での遺構精査を継続。４日の遺跡見学会に向け、環境整備を行う。29日、雄勝町商工観光課職員３名来跡。30日、生涯学習課文化財保護室藤澤・磯村学芸主事来跡。１日、文化財保護室桜田主幹来跡。デジタルビジネス秋田社員２名、バルーンによる空中写真撮影のため来跡。３日、湯沢市「ユートピア探検」グループ見学のため来跡。４日、遺跡見学会を実施し、125名の参加者を得た。

第20週（10月５～７日）　残りの遺構精査を完了。７日、児玉課長来跡。発掘用機材を撤収し、調査を終了した。

第４章　調査の記録

第１節　基本層序

調査区は先に述べたとおり水田として利用されており、地表面高は北西側が若干低い傾向にある。昭和40年代末から昭和50年代初頭にかけて実施されたほ場整備により、調査区は大きく削平を受けているが、本来的な地形は雄物川に向かって北西側に緩く傾斜していたものと推測される。遺跡の基本層序は、調査区南東側の境界付近にトレンチを設定し、部分的に確認調査時に掘り込まれたトレンチ壁面を利用して土層断面を観察した。その結果、本遺跡で主体をなす中世の遺構構築面は大きく失われており、プライマリーな層は削平を免れた田地周縁の畦付近でわずかに確認されるに過ぎなかった。

なお、北側調査区の中央部には幅５ｍほどの旧河道が蛇行しており、旧河道底面からは中世の遺物が少なからず出土している。また中世の遺構はこの河道を境界として、分布状況が明らかに異なっている。これらのことから、中世の遺構群が展開していた時期に、河道が存在した可能性が高いと考えられる。さらに旧河道沿いには、直線的な溝状の掘り込みが調査区を横断している。ここには昭和期の廃棄物が含まれており、ほ場整備が行われる以前に使用された水路と考えられる。

遺跡の基本層序は、以下に示すⅠ～Ⅴ層である。

Ⅰ層　遺跡全体に存在する、水田耕作関連の堆積土である。本層は以下のIa層とIb層に細分した。本層には縄文時代・中世・近世の遺物が含まれるが、全て水田造成時に本来的な位置から移動し、混入したものと考えられる。

Ia層　黒褐色を主体とした水田耕作土。下層のIb層との層界に鉄分の沈着が著しい。

Ib層　黒褐色を主体とした水田床土。Ia層同様、直下層との層界に鉄分の沈着が著しい。なお、部分的に本層より下にIa層に類似した堆積土が確認されており、ほ場整備以前の旧耕作土と考えられる。

Ⅱ層　水田造成以前の旧表土。黒色土を主体とする。本層は大部分が現水田造成時に失われており、削平を免れた畦部分等に残存するに過ぎない。しかし検出した中世の遺構堆積土中には、本層を由来とする黒色土の混入が認められる場合が多く、さらに本層から中世の青磁破片が出土している。本層は中世において遺構構築面を形成していた可能性が高い。

Ⅲa層　Ⅱ層とⅢ層の中間にある漸移層。遺跡全体がⅢ層もしくはこれより下位の層まで削平を受けているため、Ⅱ層が存在する場所でわずかに観察できる。

Ⅲ層　にぶい黄褐色土。いわゆる地山土で、大部分の遺構は本層中で確認した。構成土の粒径は上部でやや粗く、下部で細かくなっており、断面で観察すると部分的に縞状の堆積を示す。遺跡北側の高松川を給源とした河成堆積物の可能性もあろう。本層に遺物は包含されていない。

Ⅳ層　黒褐色土。本層には縄文時代後期初頭の遺物がプライマリーな状態で包含されており、当該時期の地表面を形成していたと考えられる。

Ⅴ層　にぶい黄褐色土。細砂質土が主体となる。基本的に本層下に基盤礫層があるが、堆積の厚さは一定でなく、部分的に本層を介在せずⅣ層直下に礫層が存在する場合もある。

第２節　検出遺構

１　概要

今回の調査で検出した遺構は、掘立柱建物跡19棟、柱穴列14条、柱穴1,240基、竪穴状遺構４基、溝跡５条、井戸跡１基、焼土遺構２基、土坑47基である（第８・９図、第２表）。

先述したとおり、調査区は南北に分断されているが、殆どの遺構は北側調査区に存在する。北側調査区でも特に中央部においては掘立柱建物跡や竪穴状遺構・土坑等の遺構が密集しており、河川跡を隔てた北部では掘立柱建物跡・溝跡・土坑などが散漫な状態で分布している。南側調査区では、調査区を横断する溝跡の他は、柱穴が少数分布する程度である。ところで北側調査区中央部では、部分的に基盤層である河床礫層にまで削平が及んでいる。検出された遺構のうち特に柱穴は、礫層に達した段階でそれ以上掘り下げないという傾向があり、この河床礫層が露出した箇所では、本来存在した遺構が滅失した可能性もある。

検出した遺構は、遺構構築面の削平により文化層と対応した検出が不可能であったこと、堆積土中の出土遺物が少ないことから、多くの場合時期の特定は困難である。しかし、少ないながらも遺構内堆積土から出土した遺物は殆ど中世に帰属するものであり、また遺構の形態や堆積土には共通した特徴が多く認められるため、大部分は中世に属する遺構群と考えられる。

なお、遺構図は本節の最後に、本文記述順に掲載する。ただし柱穴は、掘立柱建物跡および柱穴列を構成するものについては柱筋に揃えた断面図を含めて各挿図中に示したが、それ以外は付図への掲載に留めた。また全ての柱穴は、計測値・堆積土等を記録した表を本文の次にまとめて掲載する。

２　遺構各説

（１）掘立柱建物跡（第10～22図、第３表、巻頭図版３・４、図版２・３）

掘立柱建物跡は北側調査区で19棟検出し、特に南西部から中央部にかけて17棟が集中する（第９図）。これらは柱穴の切り合いによって新旧関係が認められる場合があり、最も重複した箇所では少なくとも５棟の変遷が追認できる。重複する掘立柱建物群は、隣接する南北２か所のまとまりに大きく分けることができ、北側では北西方向の、南側では北東方向の桁行方位を維持しながら移り変わっている。遺構集中区域にある掘立柱建物跡は、大部分が時期的に隔絶せず変遷していったものと推測される。

一方、これらの密集する掘立柱建物跡群から、河川跡を隔てた北部にある２棟の掘立柱建物跡は、遺構集中区域にあるものとは柱間距離や柱配置が若干異なっており、別時期に構築された可能性もあろう。掘立柱建物群の変遷観・年代観等については、第７章で述べることにする。

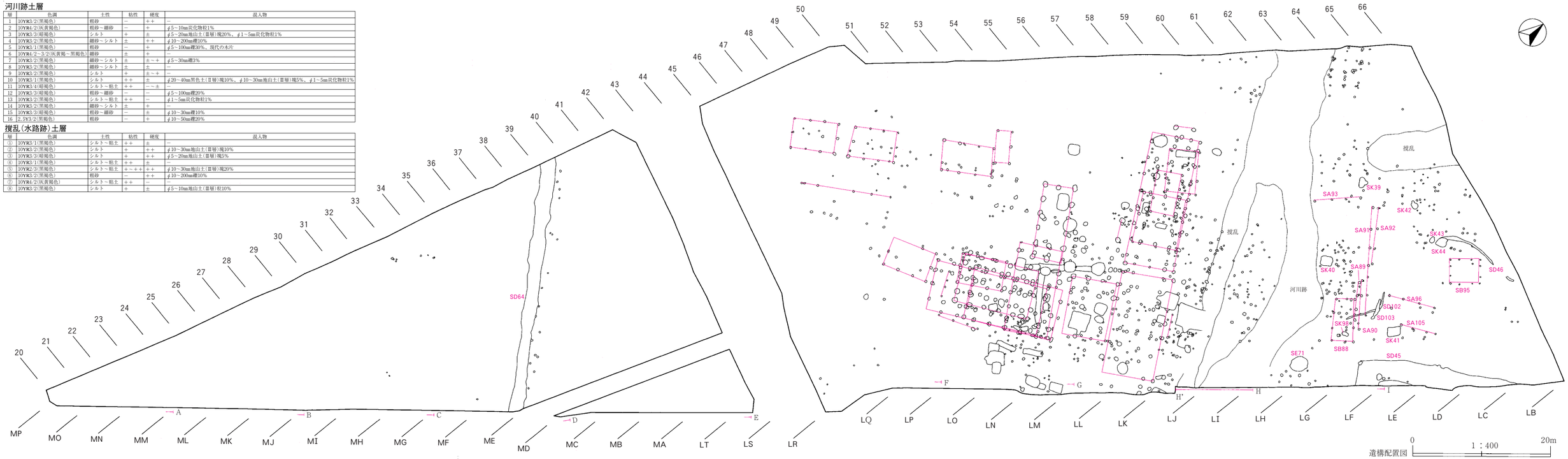
掘立柱建物跡は、その柱配置により総柱建物（SB52・54・88）・梁行１間（SB104）・梁行２間・梁行３間（SB95）の４つに大きく分類することができ、さらに梁行２間の建物は下屋を持つもの（SB55・59・61・62・63・65・66・73・97・100）と持たないもの（SB57・58・60・72）に分けることができる。各掘立柱建物跡の身舎規模・桁行方位・下屋の付く方位・柱間寸法・下屋の出・他遺構との新旧関係については第３表にまとめた。

河川跡土層

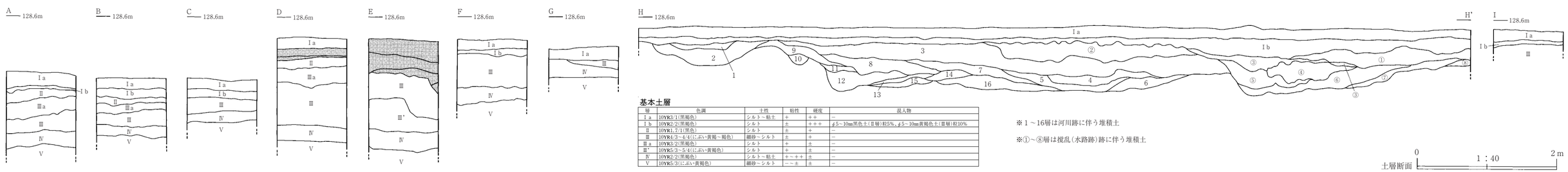
層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	粗砂	－	＋＋	－
2	10YR4/2(灰黄褐色)	粗砂～細砂	－	＋	φ5～10mm炭化物粒1%
3	10YR3/3(暗褐色)	シルト	＋	±	φ5～20mm地山土(Ⅲ層)塊20%、φ1～5mm炭化物粒1%
4	10YR3/2(黒褐色)	細砂～シルト	±	＋＋	φ10～200mm礫10%
5	10YR3/1(黒褐色)	粗砂	－	＋	φ5～100mm礫30%、現代の木片
6	10YR4/2～3/2(灰黄褐～黒褐色)	細砂	±	＋	－
7	10YR3/2(黒褐色)	細砂～シルト	±	±～＋	φ5～30mm礫3%
8	10YR3/2(黒褐色)	細砂～シルト	±	±	－
9	10YR3/2(黒褐色)	シルト	＋	±～＋	－
10	10YR3/1(黒褐色)	シルト	＋＋	±	φ20～40mm黒色土(Ⅱ層)塊10%、φ10～30mm地山土(Ⅲ層)塊5%、φ1～5mm炭化物粒1%
11	10YR3/4(暗褐色)	シルト～粘土	＋＋	－～±	－
12	10YR3/3(暗褐色)	粗砂～細砂	－	－	φ5～100mm礫20%
13	10YR3/2(黒褐色)	シルト～粘土	＋＋	－	φ1～5mm炭化物粒1%
14	10YR3/2(黒褐色)	細砂～シルト	±	＋	－
15	10YR3/3(暗褐色)	粗砂～細砂	－	±	φ10～30mm礫10%
16	2.5Y3/2(黒褐色)	粗砂	－	＋	φ10～50mm礫20%

撹乱(水路跡)土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
①	10YR3/1(黒褐色)	シルト～粘土	＋＋	±	－
②	10YR3/2(黒褐色)	シルト	＋	＋＋	φ10～30mm地山土(Ⅲ層)塊10%
③	10YR3/3(暗褐色)	シルト	＋	＋＋	φ5～20mm地山土(Ⅲ層)塊5%
④	10YR3/1(黒褐色)	シルト～粘土	＋＋	±	－
⑤	10YR2/3(黒褐色)	シルト～粘土	＋～＋＋	＋＋	φ10～30mm地山土(Ⅲ層)塊20%
⑥	10YR3/2(黒褐色)	粗砂	－	＋＋	φ10～200mm礫10%
⑦	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト～粘土	＋＋	－	－
⑧	10YR3/2(黒褐色)	シルト	＋	±	φ5～10mm地山土(Ⅲ層)粒10%



遺構配置図　0　1：400　20m



※スクリーントーン部分は現水田造成に伴う盛土

基本土層

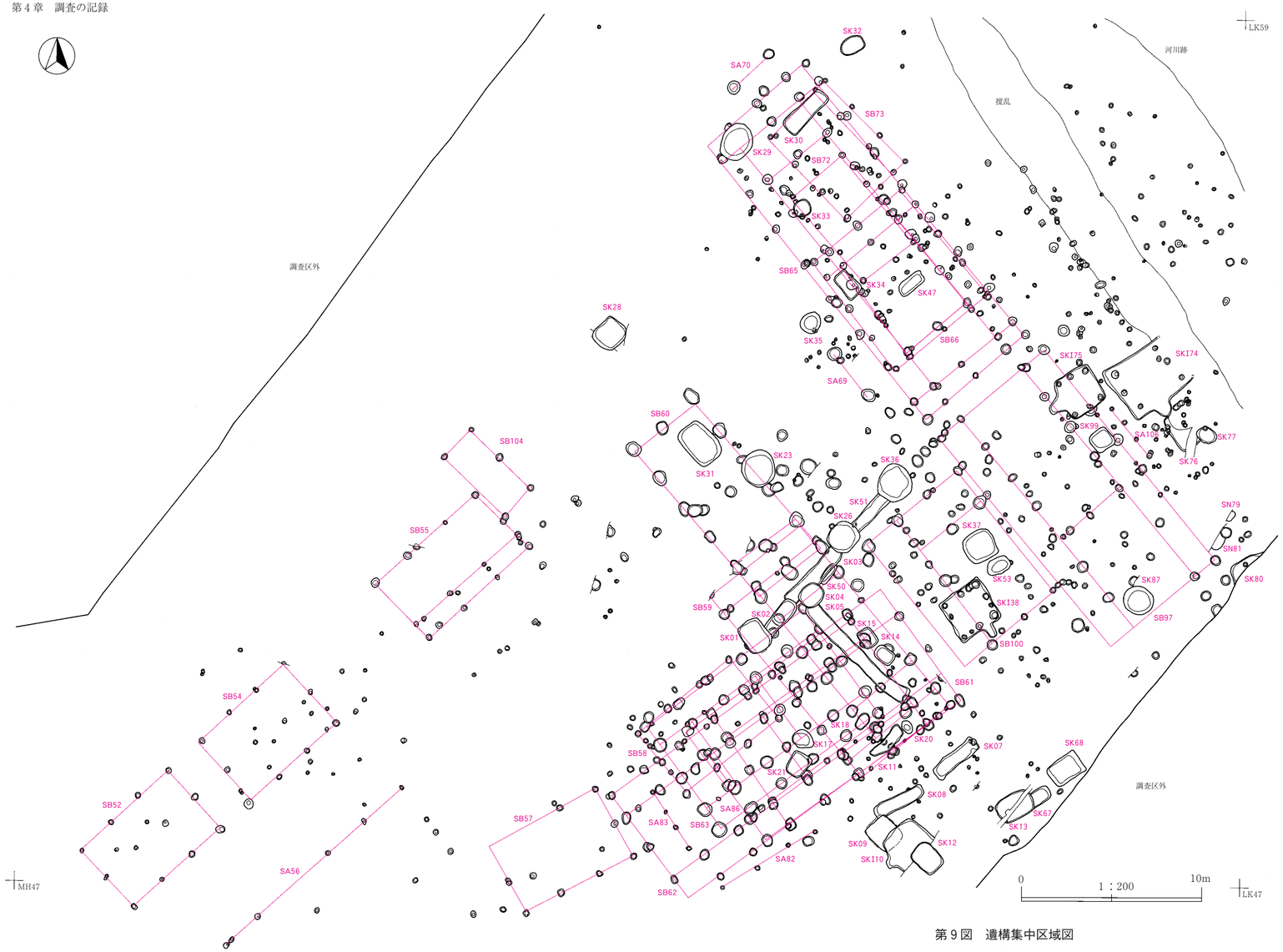
層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
Ⅰa	10YR3/1(黒褐色)	シルト～粘土	＋	＋＋	－
Ⅰb	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	＋＋＋	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒5%、φ5～10mm黄褐色土(Ⅲ層)粒10%
Ⅱ	10YR1.7/1(黒色)	シルト	±	＋	－
Ⅲ	10YR4/3～4/4(にぶい黄褐～褐色)	細砂～シルト	±	＋	－
Ⅲa	10YR3/2(黒褐色)	シルト	＋	±	－
Ⅲ'	10YR5/3～5/4(にぶい黄褐色)	シルト	＋	±	－
Ⅳ	10YR2/2(黒褐色)	シルト～粘土	＋～＋＋	±	－
Ⅴ	10YR5/3(にぶい黄褐色)	細砂～シルト	－～±	±	－

※１～16層は河川跡に伴う堆積土

※①～⑧層は撹乱(水路跡)跡に伴う堆積土

土層断面　0　1：40　2m

第８図　遺構配置図・基本土層図



第９図　遺構集中区域図

第２表　検出遺構一覧

SB：掘立柱建物跡（19棟）

番号	検出位置	挿図番号	図版番号
SB 52	ME 47・48、MF 46・47・48、MG 47	10	－
SB 54	MC 48・49、MD 48・49、ME 48・49	10	－
SB 55	LT 51、MA 50・51・52、MB 50・51・52、MC 51	11	－
SB 57	LS 47・48、LT 46・47・48、MA 46・47	11	－
SB 58	LQ 48・49、LR 48・49・50、LS 48・49	12	2・3
SB 59	LO 48・49・50、LP 48・49・50・51、LQ 49・50・51、LR 50・51	13	2・3
SB 60	LP 51、LQ 50・51・52、LR 51・52・53、LS 52・53	14	2・3
SB 61	LN 49、LO 48・49・50・51、LP 48・49・50・51、LQ 47・48・49・50、LR 48・49	15	2・3
SB 62	LO 48・49・50、LP 47・48・49・50、LQ 47・48・49・50、LR 46・47・48・49、LS 47・48	16	巻頭10、2・3
SB 63	LO 49、LP 48・49・50、LQ 47・48・49・50、LR 47・48・49・50、LS 48・49	17	2・3
SB 65	LM 54、LN 53・54・55、LO 53・54・55・56・57、LP 54・55・56・57・58、LQ 55・56・57・58、LR 56・57	18	2・3
SB 66	LN 54・55、LO 54・55・56、LP 54・55・56、LQ 55	12	2・3
SB 72	LO 55・56、LP 55・56・57、LQ 56	19	3
SB 73	LO 56・57、LP 56・57・58、LQ 56・57	19	3
SB 88	LG 58、LH 57・58・59、LI 58・59	20	－
SB 95	LF 62・63、LG 62・63、LH 62	20	－
SB 97	LK 50・51・52、LL 50・51・52・53、LM 50・51・52・53・54、LN 51・52・53・54、LO 52・53	21	－
SB 100	LM 50・51、LN 50・51・52、LO 50・51・52、LP 51	22	－
SB 104	LT 52、MA 52・53、MB 52	22	－

SA：柱穴列（14条）

番号	検出位置	挿図番号	図版番号
SA 56	MB 47・48、MC 47、MD 46・47、ME 46	23	－
SA 69	LP 53・54	23	－
SA 70	LQ 58、LR 57・58	23	－
SA 82	LP 47、LQ 47、LR 46	23	－
SA 83	LR 47・48、LS 48	23	－
SA 86	LQ 47・48、LR 48	23	－
SA 89	LH 58・59、LI 59	23	－
SA 90	LH 58・59、LI 59	23	－
SA 91	LH 59、LI 59・60、LJ 60・61、LK 61	23	－
SA 92	LI 60、LJ 60・61、LK 61	23	－
SA 93	LK 61 、LL 60・61	23	－
SA 96	LG 60・61、LH 60	23	－
SA 105	LF 60、LG 59・60	23	－
SA 106	LL 52・53	23	－

SKI：竪穴状遺構（4基）

番号	検出位置	挿図番号	図版番号
SKI 10	LO 47	24	4
SKI 38	LN 50・51、LO 50・51	25	巻頭5、5
SKI 74	LK 53・54、LL 53・54	26	巻頭5、6
SKI 75	LL 53、LM 53・54	27	巻頭5、7

SD：溝跡（5条）

番号	検出位置	挿図番号	図版番号
SD 45	LB 61、LC 60・61、LD 59・60 LE 57・58・59・60、LF 57・58・59 LG 57・58	28	巻頭6、8
SD 46	LF 63・64、LG 63、LH 63	30	8
SD 64	MD 32、ME 32・33・34 、MF 33・34 ・35 MG 34・35・36、MH 35・36・37 MI 36・37・38、MJ 37・38・39、MK 38・39	29	巻頭7、9
SD 102	LH 58・59・60	30	8
SD 103	LH 59	30	8

SE：井戸跡（1基）

番号	検出位置	挿図番号	図版番号
SE 71	LH 55・56	31	巻頭8、10

SN：焼土遺構（2基）

番号	検出位置	挿図番号	図版番号
SN 79	LK 52	31	10
SN 81	LK 51	31	10

SK：土坑（47基）

番号	検出位置	挿図番号	図版番号
SK 01	LQ 50	32	11
SK 02	LQ 50	32	11
SK 03	LP 51、LQ 50・51	32	11
SK 04	LP 50・51、LQ 50・51	32	11
SK 05	LO 49、LP 49・50、LQ 50	32	12
SK 07	LN 48・49、LO 48	33	12
SK 08	LO 47・48、LP 47・48	33	12
SK 09	LO 47、LP 47	33	4・12
SK 11	LO 48・49、LP 48	33	13
SK 12	LO 47	33	4・13
SK 13	LM 47・48、LN 47・48	34	13
SK 14	LO 50、LP 50	34	13
SK 15	LP 50	34	14
SK 17	LP 48・49、LQ 48・49	34	14
SK 18	LP 49	34	14
SK 20	LO 49	34	14
SK 21	LP 48、LQ 48	34	15
SK 23	LQ 52	35	15
SK 26	LP 51・52	32	15
SK 28	LS 54、LT 54	35	15
SK 29	LQ 57、LR 57	35	16
SK 30	LP 57、LQ 57	35	16
SK 31	LR 52・53	35	16
SK 32	LP 58	36	16
SK 33	LQ 56	36	15
SK 34	LP 55	36	17
SK 35	LP 54、LQ 54	36	17
SK 36	LO 52、LP 52	32	17
SK 37	LN 51	36	17
SK 39	LL 61・62	36	18
SK 40	LJ 58・59、LK 59	36	18
SK 41	LG 59	37	18
SK 42	LJ 62・63	37	18
SK 43	LH 62、LI 62	37	19
SK 44	LH 62・63	37	19
SK 47	LO 55	37	19
SK 50	LP 51	32	11・19
SK 51	LO 52、LP 52	32	20
SK 53	LN 51	37	20
SK 67	LM 48	34	19
SK 68	LM 48	38	20
SK 76	LK 53、LL 53	38	20・21
SK 77	LK 53	38	20・21
SK 80	LJ 51、LK 51	38	21
SK 87	LL 50・51	38	21
SK 98	LH 57・58	38	21
SK 99	LL 53、LM 53	38	21

第３表　掘立柱建物跡一覧

番号	身舎規模 桁行×梁行	桁行方位	下屋	身舎全長(m)		柱間寸法(m)		下屋出 (m)	新旧関係
				桁行	梁行	桁行	梁行		
SB52	３×２	N-47°-E	－	6.4	4.2	2.1	2.1	－	－
SB54	３×２	N-47°-E	－	6.4	4.2	2.1	2.1	－	－
SB55	３×２	N-44°-E	SE	7.3	3.2	2.3･2.4･2.6	0.9･2.4	1.1	SB104より古
SB57	３×２	N-61°-E	－	6.6	4.2	2.1･2.4	2.1	－	－
SB58	３×２	N-52°-E	－	6.6	4.2	2.1･2.3	2.1	－	SB63より古
SB59	５×２	N-41°-W	NW･SE･SW	10.5	4.3	2.1	2.1	1.2･2.1	SB60･61･62、SK01･02･03･04･05･11･50より古
SB60	５×２	N-41°-W	－	10.5	4.3	2.1	2.1	－	SB59より新、SK03･23より古
SB61	５×２	N-52°-E	NW･SE･SW	11.7	4.2	2.1･2.3･2.4	2.1	1.5	SB59より新、SB62･63･SK05･11･15･21より古
SB62	７×２	N-53°-E	NW･SE	16.4	4.2	2.3･2.4	2.1	1.5	SB59･61より新、SK11･15より古
SB63	５×２	N-53°-E	NW･SE	10.8	4.2	2.1･2.3	2.1	1.4･1.5	SB58･61より新、SK01･02･04･05･07･21より古
SB65	７×２	N-37°-W	四面	16.8	4.2	2.4	2.1	1.2･1.5	SB66･73･SK29･33･34より古
SB66	３×２	N-39°-W	NE･NW･SW	6.3	4.3	2.0･2.1･2.2	2.1	1.2	SB65より新、SK34より古
SB72	３×２	N-38°-W	－	6.1	3.6	2.0･2.1	1.5･2.1	－	－
SB73	３×２	N-44°-W	NE	6.3	3.6	2.1	1.2･2.4	0.9	SB65より新、SK30より古
SB88	３×２	N-45°-W	－	6.1	3.0	1.8･2.1	1.8･2.1	－	SD102より古
SB95	３×３	N-44°-E	－	4.3	3.4	1.2･1.8	0.9･1.2･1.5	－	－
SB97	７×２	N-40°-W	NE・SW	14.8	4.3	2.1	2.1	1.7	SB100･SKI75･SK99より古
SB100	４×２	N-38°-W	SW	8.5	4.3	2.1	2.1	2.1	SB97より新
SB104	２×１	N-47°-W	－	4.6	2.1	2.1･2.6	2.1	－	SB55より新

①SB52掘立柱建物跡（第10図）

ME47・48、MF46・47・48、MG47区にあり、調査区で最も南西に位置する掘立柱建物跡である。全長約6.4×4.2m、桁行３間、梁行２間の身舎規模をもつ総柱建物で、桁行方位は北から47°東へ偏する。柱間寸法は桁行・梁行ともに７尺に揃っている。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、長径の平均値は31.4㎝、深さの平均値は39.4㎝である。柱穴には全て直径10～15㎝ほどの柱痕跡が認められ、明確な柱抜き取り痕はない。単独の柱穴１基と切り合い、これより新しい。柱穴から遺物は出土しなかった。本掘立柱建物跡は柱通りが揃うことから当初SB54と一体をなすものと捉え、桁行７間、梁行２間の長大な掘立柱建物跡と考えた。しかしその場合桁行の柱間寸法が真ん中だけ８尺となっていて、他とは揃わない。現段階では柱間寸法の整合性を優先し、SB52とSB54の２つの掘立柱建物跡に分離している。

②SB54掘立柱建物跡（第10図）

MC48・49、MD48・49、ME48・49区に位置する。先述したSB52と同様の規模・柱配置をとる総柱建物で、柱通りも共通する。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、長径の平均値は31.1㎝、深さの平均値は35.1㎝である。柱穴には直径10～15㎝の柱痕跡が確認された。１基の柱穴のみ柱痕跡を確認できなかったが、この柱穴について抜き取りの有無は判然としなかった。単独の柱穴１基と切り合い、これより古い。柱穴から遺物は出土しなかった。本掘立柱建物跡は当初SB52と一体をなす建物と捉えていたが、先述のとおり別々の建物に分離した。

③SB55掘立柱建物跡（第11図）

LT51、MA50・51・52、MB50・51・52、MC51区に位置する。全長約7.3×3.2m、桁行３間、梁行２間の身舎規模をもつ建物で、桁行方位は北から44°東へ偏し、南東側に出が1.1mの下屋が付く。柱間寸法は桁行で南西側から８・8.5・7.5尺となり、梁行は北東側で８・３尺の２間に分かれるが、南西側で同様に梁間を分割する柱穴は確認されなかった。梁行方向と桁行方向が直交せず、柱間寸法も揃っていないが、８尺の間尺を基準としたものと考えられる。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する柱穴の長径平均値は31.9㎝、深さの平均値は24.2㎝を測る。これに対

し、下屋を構成する柱穴の長径平均値は33㎝、深さの平均値は17.8㎝で、下屋の柱穴が若干浅めとなっている。柱穴には全て直径10～15㎝ほどの柱痕跡が確認でき、明確な柱抜き取り痕は認められない。SB104を構成する柱穴１基との新旧関係から、これより古く、また単独の柱穴１基よりも古い。柱穴から遺物は出土しなかった。

④SB57掘立柱建物跡（第11図）

LS47・48、LT46・47・48、MA46・47区に位置する。確認調査時の試掘坑に削られているため、北西側の状況が不明であるが、全長約6.6×4.2m、桁行３間、梁行２間の身舎規模をもつ建物と推定され、桁行方位は北から61°東へ偏する。柱間寸法は桁行・梁行ともに７尺が用いられるが、桁行の真ん中だけ若干延びて８尺となっている。柱穴はⅢ層上面で確認した。方形平面を基調とし、大きさのばらつきが少ない。長径の平均値は29.3㎝、深さの平均値は33.8㎝である。柱穴には直径10～15㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。単独の柱穴１基と切り合い、これより新しい。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑤SB58掘立柱建物跡（第12図、図版２・３）

LQ48・49、LR48・49・50、LS48・49区に位置する。全長約6.6×4.2m、桁行３間、梁行２間の身舎規模をもつ建物で、桁行方位は北から52°東へ偏する。柱間寸法は桁行の北東端が7.5尺となるほかは７尺に揃っている。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、長径の平均値は42.3㎝、深さの平均値は46.6㎝である。柱穴には直径10～20㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。なお柱穴土層断面に着目すると、柱痕跡下端部が柱穴堀方底面まで達していないものが数例認められ、柱痕跡下端部の標高が全体的に近似した値となっている。この現象は南東列および南西列の柱穴に顕著である。おそらく、柱穴に設置する柱は長さの規格が揃ったものを用いており、標高の高い北側の列に柱の上端レベルを合わせるため、柱設置の際に柱穴を少し埋め戻しているのであろう。SB63を構成する柱穴２基との新旧関係からこれより古く、また単独の柱穴２基よりも古い。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑥SB59掘立柱建物跡（第13図、図版２・３）

LO48・49・50、LP48・49・50・51、LQ49・50・51、LR50・51区に位置する。柱穴が確認されない箇所もあるが、全長約10.5×4.3m、桁行５間、梁行２間の身舎規模で、その両端に１×２間の小部屋をもつ建物と考えた。桁行方位は北から41°西へ偏する。身舎南西側には出が2.1mの下屋が付き、さらに北西・南東側に出が1.2mの下屋が付く。柱間寸法は桁行・梁行ともに７尺に揃い、南西側の下屋の出もこれに共通する。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する柱穴の長径平均値は64.8㎝、深さの平均値は27.5㎝を測る。一方下屋を構成する柱穴の長径平均値は50.5㎝、深さの平均値は34.8㎝で、下屋の柱穴が若干小さく深い傾向にある。柱穴には直径15～25㎝ほどの柱痕跡が認められ、明確な柱抜き取り痕はない。SK01・02・03・05・50の５基の土坑と切り合い、これらより古い。また、SK04は想定される身舎の柱穴配置と重複することから、本掘立柱建物跡より新しいものと推測する。なお、SK11は本掘立柱建物跡を切り込む単独の柱穴と新旧関係を有し、これも間接的に新しいと言える。18基の柱穴との切り合いでは、SB60を構成する５基、SB61を構成する３基、SB62を構成する３基との新旧関係から、これらの掘立柱建物跡より古い。また単独の柱穴５基より古く、２基より新しい。遺物は下屋を構成する柱穴LQ49⑭の柱痕跡部分から青磁碗底部破片

１点(41－17)と器種不明の瀬戸産陶器破片１点(42－20)が、裏込め部分から須恵器系中世陶器甕の体部破片１点(43－５)が出土した。本掘立柱建物の構築時期は、出土遺物から12世紀末が上限と考えられる。

⑦SB60掘立柱建物跡(第14図、図版２・３)

LP51、LQ50・51・52、LR51・52・53、LS52・53区に位置する。全長約10.5×4.3m、桁行５間、梁行２間の身舎規模で、南東端に１間×２間の小部屋をもつ建物である。桁行方位は北から41°西へ偏する。柱間寸法は桁行、梁行ともに７尺に揃っている。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、長径の平均値は84.3㎝、深さの平均値は54.8㎝を測り、全ての掘立柱建物跡のうち柱穴規模が最も大きい。直径20～40㎝ほどの柱痕跡が認められるが、特に径の大きいものは柱の引き抜きを示すかもしれない。またいくつかの柱穴底面には、柱当たりが明瞭に観察できた。SK03･23の２基の土坑と切り合い、これらより古い。８基の柱穴との切り合いでは、SB59を構成する５基との新旧関係からこれより新しい。また単独の柱穴３基より古い。遺物は柱穴LR53①と②から須恵器系中世陶器甕の体部破片が１点ずつ(43－12・13)出土している。本掘立柱建物の構築時期は、出土遺物から12世紀末が上限と考えられる。

⑧SB61掘立柱建物跡(第15図、図版２・３)

LN49、LO48・49・50・51、LP48・49・50・51、LQ47・48・49・50、LR48・49区に位置する。全長約11.7×4.2m、桁行５間、梁行２間の身舎規模をもつ建物で、桁行方位は北から52°東へ偏する。北西・南東・南西側に出が1.5mの下屋が付く。柱間寸法は桁行が南西側から7.5・7.5・８・８・７尺となり揃わないが、梁行は７尺に揃う。桁行には7.5尺前後の寸法を基準としているようである。柱穴は基本的にⅢ層上面で確認したが、北東側の列はⅣ層上面での検出となり、北西隅は削平により消滅したと考えられる。柱穴は円形平面を基調とし、身舎を構成する長径の平均値は54㎝、深さの平均値は27㎝を測る。一方下屋を構成する柱穴の長径平均値は65㎝、深さの平均値は33.2㎝で、下屋の柱穴の方が大きい傾向にある。柱穴には直径15～25㎝ほどの柱痕跡があり、一部の柱は抜き取られている。SK05・11・15・21の４基の土坑と切り合い、これらより古い。32基の柱穴との切り合いでは、SB59を構成する３基との新旧関係からこれより新しく、SB62を構成する20基、SB63を構成する１基、SA86を構成する３基との新旧関係からこれらより古い。また単独の柱穴５基より古く、１基より新しい。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑨SB62掘立柱建物跡(第16図、巻頭図版10、図版２・３)

LO48・49・50、LP47・48・49・50、LQ47・48・49・50、LR46・47・48・49、LS47・48区に位置する。全長約16.4×4.2m、桁行７間、梁行２間の身舎規模をもち、桁行は３間と４間に間仕切りされる。桁行方位は北から53°東へ偏する。北西と南東側に出が1.5mの下屋が付く。柱間寸法は桁行が南西側から7.5・８・８・7.5・８・８・7.5尺となり、梁行はともに７尺である。桁行方向の柱間平均値は約7.8尺で、先述したSB61より若干広い間尺を採用したものと考えられる。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する長径の平均値は52.4㎝、深さの平均値は46.9㎝、下屋を構成する柱穴の長径平均値は42㎝、深さの平均値は42.5㎝で、下屋の柱穴が小さい傾向にある。柱穴には直径10～30㎝ほどの柱痕跡があり、明確な柱抜き取りの痕跡はない。また柱痕跡は身舎より下屋に伴うものの方が小さい傾向にある。SK11･15の２基の土坑と切り合い、これよりも古い。30基

の柱穴との切り合いでは、SB59を構成する３基、SB61を構成する20基との新旧関係から、これらより新しい。また単独の柱穴５基より新しく、２基より古い。遺物はLS48⑥の裏込め部分から完形の皿形かわらけ１点(47－17)、LR47②の柱痕跡部分から皿形かわらけ底部破片が１点(47－22)、LQ49⑬から棒状の鉄製品１点(48－２)が出土した。かわらけは柱穴の裏込め部分から完形の状態で出土しており(巻頭図版10参照)、建物構築の際、意図的に埋めた可能性を指摘できる。本掘立柱建物は出土したかわらけの年代観より、13世紀中葉から後葉にかけての構築時期が想定される。なお柱穴LS48⑥から採取した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、BP676±35の年代値が得られ、出土遺物から推定された年代観と調和的である。炭化材の樹種はブナ属と同定された(第５章第２節参照)。

⑩SB63掘立柱建物跡(第17図、図版２・３)

LO49、LP48・49・50、LQ47・48・49・50、LR47・48・49・50、LS48・49区に位置する。全長約10.8×4.2m、桁行５間、梁行２間の身舎規模をもつ建物で、身舎は間仕切りによって１×２間と２×２間の部屋に分割される。桁行方位は北から53°東へ偏し、北西側には出が1.5mの、南東側には出が1.4mの下屋が付く。柱間寸法は桁行が南西から７・7.5・7.5・７・７尺となり、梁行はともに７尺である。桁行には７尺もしくは７尺強の柱間寸法を基準としているようである。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する柱穴の長径平均値は66.1㎝、深さの平均値は32.8㎝、下屋を構成する柱穴の長径平均値は69.2㎝、深さの平均値は37.9㎝を測り、両者に大きな差は認められない。柱穴には直径15～20㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕も確認された。SK01・02・04・05・21の５基の土坑と切り合い、これらより古い。またSK07は身舎の柱配置と重複しており、本掘立柱建物跡より新しいものと考えられる。13基の柱穴との切り合いでは、SB58を構成する２基、SB61を構成する１基との新旧関係から、これらより新しい。またSA86を構成する２基との新旧関係から、これより古い。さらに単独の柱穴３基より新しく、５基より古い。遺物はLP49③から、須恵器系中世陶器甕の口縁部破片１点(45－１)が出土した。本掘立柱建物の帰属時期は、出土遺物から13世紀後半を上限と考える。なお、柱穴LP49⑧から採取した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、BP860±36の年代値が得られたが、これは出土遺物の年代観とは隔絶した古い値を示している。炭化材の樹種はハンノキ属ハンノキ亜属と同定された(第５章第２節参照)。

⑪SB65掘立柱建物跡(第18図、図版２・３)

LM54、LN53・54・55、LO53・54・55・56・57、LP54・55・56・57・58、LQ55・56・57・58、LR56・57区に位置する。全長約16.8×4.2m、桁行７間、梁行２間の長大な身舎規模をもつ建物で、身舎の北西・南東端にそれぞれ１間×２間の小部屋をとる。桁行方位は北から37°西へ偏し、四面に下屋が付く。下屋の出は南東側が1.2m、他は1.5mを測る。全ての掘立柱建物跡のうち全体規模が最も大きい。柱間寸法は桁行が８尺に、梁行が７尺に揃っている。柱穴は基本的にⅢ層上面で確認したが、南東側の一部ではⅣ層上面での確認となり、また北西端の柱穴は削平により消滅している。円形平面を基調とし、身舎を構成する長径の平均値は48.9㎝、深さの平均値は22.9㎝を測る。一方下屋を構成する柱穴の長径平均値は46.8㎝、深さの平均値は22.8㎝となり、両者に大きな差はない。柱穴には直径15～25㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。SK29・33・34の３基の土坑と切り合い、これらより古い。19基の柱穴との切り合いでは、SB66を構成する６基、SB73を構成する１基との新旧関係から、これらより古い。また単独の柱穴10基より古く、２基より新しい。柱穴から遺物は

出土しなかった。

⑫SB66掘立柱建物跡（第12図、図版２・３）

LN54・55、LO54・55・56、LP54・55・56、LQ55区に位置する。全長約6.3×4.3m、桁行３間、梁行２間の身舎規模をもつ建物で、桁行方位は北から39°西へ偏し、北西・北東・南西側の三面に下屋が付く。下屋の出は全て1.2mである。柱間寸法は桁行が南東側から7.5・７・6.5尺と徐々に短くなっているが､梁行は７尺に揃っている。柱穴は基本的にⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する柱穴の長径平均値は38.7㎝、深さの平均値は34.5㎝、下屋を構成する柱穴の長径平均値は38.1㎝、深さの平均値は25.4㎝で、下屋の柱穴が若干浅くなっている。柱穴には直径10～15㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。10基の柱穴との切り合いでは、SB65を構成する５基との新旧関係から、これより新しい。また単独の柱穴３基より古く、２基より新しい。なお、SK34土坑は本掘立柱建物跡を切り込む単独の柱穴と新旧関係をもち、間接的に新しいと言える。柱穴から遺物は出土しなかった｡本掘立柱建物跡はより南東側へ延長する長大な建物であったことが推測され、柱通りの延長線上で柱穴の確認作業を試みたが、検出されなかった。南東側一帯は削平によって基盤礫層が露出した状態であり、水田造成の際に柱穴が滅失した可能性もあろう。現状では先述した規模の掘立柱建物跡とするが、本来SB62･97に代表されるような、長大な身舎に間仕切りを伴う大形の掘立柱建物跡の一部である可能性を指摘しておく。

⑬SB72掘立柱建物跡（第19図、図版３）

LO55・56、LP55・56・57、LQ56区に位置する。全長約6.1×3.6m、桁行３間、梁行２間の身舎規模をもつ建物で、桁行方位は北から38°西へ偏する。柱間寸法は、桁行が南東側から７・6.5・７尺となり、梁行は南東側で７尺と５尺に、北西側で６尺に二分される。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、長径の平均値は28.4㎝、深さの平均値は38.7㎝を測る。柱穴には直径15～20㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。単独の柱穴２基より古く、１基より新しい。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑭SB73掘立柱建物跡（第19図、図版３）

LO56・57、LP56・57・58、LQ56・57区に位置する。全長約6.3×3.6m、桁行３間、梁行２間の身舎規模をもつ建物で、桁行方位は北から44°西へ偏し、北東側に出が0.9mの下屋が付く。柱間寸法は桁行が全て７尺に揃い、梁行は南東側で８尺と４尺に分かれる。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する長径の平均値は31.2㎝、深さの平均値は28.7㎝、下屋を構成する柱穴の長径平均値は22.5㎝、深さの平均値は16.5㎝を測り、下屋の柱穴の方が小さく浅い傾向にある。柱穴には直径10～15㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。SK30土坑１基と切り合い、これより古く、SB65を構成する柱穴１基との新旧関係から、これより新しい。また単独の柱穴２基より新しい。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑮SB88掘立柱建物跡（第20図）

LG58、LH57・58・59、LI58・59区に位置する。全長約6.1×3.0m、桁行３間、梁行２間の身舎規模をもつ総柱建物で、桁行方位は北から45°西へ偏する。柱間寸法は桁行が南東側から６・７・７尺となり、梁行は６尺と４尺に分かれる。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、長径の平均値は27.7㎝、深さの平均値は28.6㎝を測る。柱穴には直径10～15㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取

り痕は認められない。SD102溝跡１条と切り合い、これより古い。また単独の柱穴１基より新しい。遺物はLH57⑤から縄文土器破片が１点出土しており、混入したものと考えられる。

⑯SB95掘立柱建物跡（第20図）

LF62・63、LG62・63、LH62区に位置する。全長約4.3×3.4m、桁行３間、梁行３間の身舎規模をもつ建物で、桁行方位は北から44°東へ偏する。柱間寸法は桁行が南西側から４・６・４尺となり、梁行は南東から４・５・３尺となる。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、長径の平均値は17.4㎝、深さの平均値は24.2㎝を測り、全ての掘立柱建物跡のうち柱穴規模が最も小さい。柱穴の半数に直径10～15㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。他の遺構との新旧関係はなく、柱穴から遺物も出土していない。本掘立柱建物跡は、柱穴配置・柱間寸法・柱穴規模の点で他の掘立柱建物跡とは異質であり、時期を異にする可能性もあるが、判然としない。

⑰SB97掘立柱建物跡（第21図）

LK50・51・52、ＬＬ50・51・52・53、LM50・51・52・53・54、LN51・52・53・54、LO52・53区に位置する。確認調査時のトレンチや削平によって失われた柱穴が多いが、全長約14.8×4.3m、桁行７間、梁行２間の身舎規模をもち、身舎が桁行３間と４間に間仕切りされる長大な建物と推定する。桁行方位は北から40°西へ偏し、北東と南西側に出が1.7mの下屋が付く。柱間寸法は桁行・梁行ともに７尺に揃っている。本掘立柱建物跡は大部分がⅣ層もしくは基盤礫層まで削平された場所に位置しており、柱穴はこれらの層で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する柱穴の長径平均値は48.9㎝、深さの平均値は12.9㎝、下屋を構成する柱穴の長径平均値は53㎝、深さの平均値は11㎝を測り、大きな差はない。柱穴には直径15～20㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。SKI75竪穴状遺構１基、SK99土坑１基と切り合い、これらより古い。８基の柱穴との切り合いでは、SB100を構成する２基との新旧関係からこれより古い。また単独の柱穴４基より新しく、２基より古い。遺物はＬM51⑤から、須恵器系中世陶器甕の体部破片２点(43－11・45－２)と鉢の口縁部破片１点(46－３)が出土した。本掘立柱建物跡の帰属時期は、出土遺物から13世紀前半を上限にすると考えられる。

⑱SB100掘立柱建物跡（第22図）

LM50・51、LN50・51・52、LO50・51・52、LP51区に位置する。全長約8.5×4.3m、桁行４間、梁行２間の身舎規模をもち、身舎北西端に１×２間の小部屋をとる建物と考える。桁行方位は北から38°西へ偏し、南西側に出が2.1mの下屋が付く。柱間寸法は桁行・梁行ともに７尺に揃っている。本掘立柱建物跡はSB97と同様にⅣ層もしくは基盤礫層まで削平された場所に位置しており、柱穴はこれらの層で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する柱穴の長径平均値は57.3㎝、深さの平均値は15.6㎝測る。一方下屋を構成する柱穴の長径平均値は30㎝、深さの平均値は12.7㎝を測り、下屋の柱穴の方が小さい。柱穴には直径10～20㎝ほどの柱痕跡があり、一部抜き取り痕が観察された。４基の柱穴との切り合いでは、SB97を構成する２基との新旧関係から、これより新しい。また単独の柱穴２基より新しい。なお、SKI38は身舎の柱配置と重複しており、本掘立柱建物跡より新しいものと考えられる。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑲SB104掘立柱建物跡（第22図）

LT52、MA52・53、MB52区に位置する。全長約4.6×2.1m、桁行２間、梁行１間の身舎規模をもつ建物で、桁行方位は北から47°西へ偏する。全体規模の最も小さい建物である。柱間寸法は桁行が南東から8.5・７尺、梁行が７尺となる。柱穴はⅢ層上面で確認した。円形平面を基調とし、身舎を構成する長径の平均値は33.8㎝、深さの平均値は26.6㎝を測る。柱穴には直径10～20㎝ほどの柱痕跡があり、柱抜き取り痕は認められない。SB55を構成する柱穴１基との新旧関係から、これより新しい。柱穴から遺物は出土しなかった。

（２）柱穴列（第23図）

数多くの柱穴から、主要な掘立柱建物跡や溝跡の主軸方位と整合する並びを抽出し、これを柱穴列として14条を認定した。遺構集中区域に７条、河川跡より北側に７条が分布する。これらは掘立柱建物に伴う目隠し塀や門などの、付帯施設である可能性が考えられる。

①SA56柱穴列

MB47・48、MC47、MD46・47、ME46区に位置する。全長約13.1m、北から48°東へ偏する方位に、５基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は29.2㎝、深さ平均値は19㎝である。直径15㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。SB52・54と並行しており、これに伴う目隠し塀の可能性が考えられる。

②SA69柱穴列

LP53・54区に位置する。全長約2.9m、北から38°西へ偏する方位に、２基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は79㎝、深さ平均値は46.5㎝である。直径20㎝ほどの柱痕跡が確認され、１基は柱抜き取り痕を伴う。柱穴から遺物は出土しなかった。単独の柱穴１基より古い。SB62の南西側にあってこれと並行し、柱穴規模・柱痕跡規模が共に大きいことから、門などの付帯施設である可能性を指摘しておく。

③SA70柱穴列

LQ58、LR57・58区に位置する。全長約2.8m、北から46°東へ偏する方位に、２基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は65㎝、深さ平均値は31.5㎝である。直径20㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。SB62の北西側にあってこれと並行しており、SA69と同様の理由で、門など付帯施設の可能性がある。

④SA82柱穴列

LP47、LQ47、LR46区に位置する。全長約5.9m、北から58°東へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は21㎝、深さ平均値は12.3㎝である。直径10㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑤SA83柱穴列

LR47・48、LS48区に位置する。全長約3.7m、北から33°西へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は18㎝、深さ平均値は9.3㎝である。柱痕跡は伴わない。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑥SA86柱穴列

LQ47・48、LR48区に位置する。全長約4.4m、北から37°西へ偏する方位に、３基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は50.7㎝、深さ平均値は43㎝である。直径20㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。SB61を構成する３基、SB63を構成する２基の柱穴と切り合い、これらより新しい。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑦SA89柱穴列

LH58・59、LI59区に位置する。全長約5.5m、北から43°西へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は35.5㎝、深さ平均値は52㎝である。直径15㎝ほどの柱痕跡を伴い、柱穴１基において柱抜き取り痕が確認された。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑧SA90柱穴列

LH58・59、LI59区に位置する。全長約6.9m、北から46°西へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は28㎝、深さ平均値は41㎝である。直径10㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。SD102と切り合い、これより古い。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑨SA91柱穴列

LH59、LI59・60、LJ60・61、LK61区に位置する。全長約15.8m、北から48°西へ偏する方位に、７基の柱穴が並ぶ。全ての柱穴列のうち、最も全長が長い。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は26.8㎝、深さ平均値は36.5㎝である。直径10～15㎝の柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑩SA92柱穴列

LI60、LJ60・61、LK61区に位置する。全長約8.2m、北から45°西へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は23.7㎝、深さ平均値は23㎝である。直径10㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑪SA93柱穴列

LK61、LL60・61区に位置する。全長約6.7m、北から36°東へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は30.7㎝、深さ平均値は29.3㎝である。直径10～15㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑫SA96柱穴列

LG60・61、LH60区に位置する。全長約6.8m、北から56°東へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は28.3㎝、深さ平均値は40㎝である。直径15㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑬SA105柱穴列

LF60、LG59・60区に位置する。全長約5.2m、北から55°東へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴はⅢ層上面で確認され、長径平均値は27.7㎝、深さ平均値は37.7㎝である。直径10㎝ほどの柱痕跡を伴うが、柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。

⑭SA106柱穴列

LL52・53区に位置する。全長約3.4m、北から39°西へ偏する方位に、４基の柱穴が並ぶ。柱穴は

Ⅲ層上面で確認され、長径平均値は23.5㎝、深さ平均値は21.3㎝である。柱痕跡は伴わない。柱穴から遺物は出土しなかった。

（３）柱穴（巻頭図版10、第５～22表、付図１～３）

柱穴は調査区全体で1,240基検出した。分布状況を見ると、北側調査区の河川跡より南側で924基を数え、特に中央部に集中して掘立柱建物跡や柱穴列を構成する。河川跡より北側では287基が分布し、主として柱列を構成する。一方南側調査区ではSD64の北側に沿う形で18基が、SD64よりさらに南に離れて11基が散在するに過ぎない。

柱穴内の出土遺物は、その大部分が偶然に混入したものと判断されるが、LQ52⑥では完形のかわらけ杯が底面直上から正位の状態で出土しており、意図的に埋納したものと想定できる（巻頭図版10参照）。この遺構については、周辺部で大形の掘立柱建物が継続的に構築されている状況を含めて考えると、地鎮行為に関連する小穴として評価することもできよう。

ところで一部の柱穴からは炭化物とともに焼土が検出される場合があるが、特に焼土を混入する柱穴は北側調査区中央部の掘立柱建物跡や竪穴状遺構周辺にある13基と、河川跡沿い北寄りの柱穴集中域にある９基に限られる。北側調査区中央部の柱穴内焼土の由来は、現状では付近に存在する竪穴状遺構での鉄器生産作業を一つの要因に挙げることができる。従って河川跡沿いの柱穴集中域における焼土混入についても、同様な作業空間が付近に存在した可能性を注意する必要がある。

個々の柱穴については、掘立柱建物跡および柱穴列を構成するものを含め、本節最後に一覧（第５～22表）を掲載するに留める。ただし竪穴状遺構に伴うと判断した柱穴については別扱いとする。

表において、長径・短径・深さには㎝、底面標高にはｍの単位を用いた。なお、柱穴が他の遺構や撹乱、確認調査時のトレンチ等に一部または上部が削られ、全体の状況が把握できない場合、その最大値を（　）内に記載した。さらに大部分が欠落し計測できない場合や、計測漏れがあった場合は「－」と記入した。柱穴内堆積土は、基本層序との対応関係から以下Ａ～Ｄの４種類に類型化した。

Ａ：Ⅱ層由来と考えられる黒色土。Ｂ：Ⅲ層由来と考えられる黄褐色土。Ｃ：Ⅳ層以下の砂礫。Ｄ：基本層序に認められず、やや粘性を帯びた、北側調査区中央部の土坑内堆積土に類似する灰色土。これらの堆積土が混合している場合、混入する方を小文字で併記し、その混入割合に応じて、１（１～５％）・２（６～29％）・３（30～50％）の３段階に分けた。堆積土が複層に分かれる場合、上位から順に・（ナカグロ）でつなげた。また、明らかに柱痕跡を示す堆積土は（　）内に、抜き取り痕を示す場合は［　］内に記載した。記載は「裏込め・柱痕跡」「上・下」の順を基本とするが、柱痕跡の下位にさらに堆積土が存在する場合は、最後に・（ナカグロ）でつなげて記載した。抜き取り痕に関しては柱痕跡と同様の順番に扱った。なお、調査時に記録漏れがあった場合は「－」と記入した。

（４）竪穴状遺構（第24～27図、巻頭図版５、図版４～７）

竪穴状遺構は北側調査区の中央部で４基検出した。掘立柱建物跡群と重複あるいは周辺部に位置する分布状況を示している。全ての竪穴状遺構床面では炭化物及び焼土の集中範囲を検出しており、一部で金床石や鍛造剥片の出土が見られたことから、これらの竪穴状遺構は鉄製産もしくは鉄器製作に関連する工房と考えられる。

①SKI10竪穴状遺構（第24図、図版４）

LO47区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。南東側を確認調査時のトレンチで削られているため全体形状は不明であるが、方形平面を基調として北東－南西方向で約240㎝を測り、南西縁に約50㎝の張り出しをもつ。張り出しを軸線とした長軸は北から47°東へ偏する。壁は急傾斜に立ち上がり、床面はほぼ平坦で、確認面から床面までの深さは32㎝である。底面に貼床や顕著な硬化面は認められず、また柱穴も確認されなかった。堆積土は地山由来土粒が混入する若干灰色味を帯びた単一層からなり、一括の埋め戻し土と考える。床面西側には小径の炭化物と焼土で構成される薄層が広がっていた。SK09・12と切り合い、これより新しい。遺物は常滑産陶器甕の体部破片１点（42－12）、須恵器系中世陶器甕の体部破片１点（43－16）が出土したほか、床面で出土した長さ約40㎝の大形礫には、表面に微弱な鉄分の付着が観察され、分析の結果固体鉄を加熱・鍛打する際の台石と判定された（第５章第１節参照）。さらに炭化物集中範囲から採取した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、BP525±35の年代値が得られ、樹種の同定には至らないものの広葉樹材と判定された（第５章第２節参照）。

②SKI38竪穴状遺構（第25図、巻頭図版５、図版５）

LN50・51、LO50・51区に位置する。Ⅳ層上面で確認した。264×258㎝の方形平面を呈し、南東縁の東寄りに約70㎝の張り出しをもつ。張り出しを軸線とした長軸は北から36°西へ偏する。壁は垂直に立ち上がり、確認面から床面までの深さは12㎝である。床面は基盤礫層が露出し凹凸が著しいが、貼床や顕著な硬化面は認められなかった。柱穴は壁際に12基確認されたが、このうち四隅とその中間に位置する北西・南東列の６基が主要な柱穴と考える。この主要な柱穴の深さの平均値は27.6㎝である。堆積土は黒色を主体とし、灰色味を帯びる強度から２層に分けられるが、色調以外の性質は似通っており、一連の埋め戻しによる堆積と考える。床面南側には炭化物と焼土から構成される薄層が確認された。本竪穴状遺構は、SB100の身舎柱穴と重複し、これより新しいものと考える。遺物は出土していない。炭化物集中範囲から採取した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、BP565±35の年代値が得られ、樹種はクリ・カエデ属の２種類が同定された（第５章第２節参照）。

③SKI74竪穴状遺構（第26図、巻頭図版５、図版６）

LK53・54、LL53・54区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。北東側を水路によって撹乱されているため全体規模は不明であるが、方形平面を基調とし現況で北東－南西方向は400㎝、北西－南東方向は317㎝を測る。南東縁の西寄りに約80㎝の張り出しをもち、この張り出しを軸線とした長軸は北から36°西へ偏する。壁は急傾斜に立ち上がり、床面はほぼ平坦で、確認面から床面までの深さは31㎝である。底面に貼床や顕著な硬化面は認められない。柱穴は床面において南西壁と北東壁に沿う形で７基を検出した。これらの柱穴の深さの平均値は37㎝である。堆積土は灰色を主体とし、地山由来土粒など混入物の粒径や多寡によって分層されたが、ともに類似するため一連の埋め戻しによる堆積と考える。床面南側には主に小径の炭化物からなる薄層が確認された。遺物は出土していないが、床面付近の土壌サンプルから微細な金属剥片が少量得られ、分析の結果、鋼を加熱・鍛打する際に生成された鍛造剥片と判定された（第５章第１節参照）。また炭化物集中範囲から採取した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、BP489±35の年代値が得られ、樹種はクリ・ハンノキ属ハンノキ亜属の２種類が同定された（第５章第２節参照）。

④SKI75竪穴状遺構（第27図、巻頭図版５、図版７）

ＬＬ53、ＬＭ53・54区に位置し、Ⅲ層上面およびⅣ層上面で確認した。235×245㎝の方形平面をなし、南西縁の中央に約80㎝の張り出しをもつ。張り出しを軸線とした長軸は北から58°東へ偏する。壁は垂直に立ち上がり、床面は一部基盤礫層が露出するがほぼ平坦で、確認面から床面までの深さは46㎝である。柱穴は床面において北西壁・南東壁に沿う形で６基が検出された。これら柱穴の深さの平均値は27.2㎝である。堆積土は黒褐色主体で６層に分層し、１・２層を一括の埋め戻し土、５層を柱穴の裏込め土と捉え、３・４・６層を貼床と考えた。なお柱穴の土層断面では一括埋め戻し土が柱穴底面まで至ることが観察され、本竪穴状遺構廃絶の際には柱の抜き取りが行われたと推測する。床面南側には炭化物と焼土の広がりが確認され、特に南隅柱穴近辺の窪みでは炭化物を多量に含む堆積土が重層した状態で観察された。本竪穴状遺構はSB97を構成する柱穴を切っており、これより新しい。遺物は青白磁小皿の口縁部破片が１点（41－３）、皿形かわらけの底部破片が２点（47－16・20）が出土したほか、炭化物集中範囲近辺で出土した長さ約40㎝の大形礫は、SKI10出土例と同じく鉄の加熱・鍛打の際に使用された台石と判定され、またSKI74と同様の状況で得られた微細な金属剥片についても、分析の結果鍛造剥片と判定された（第５章第１節参照）。さらに炭化物集中範囲から採取した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、BP653±33の年代値が得られ、樹種はクリと同定された（第５章第２節参照）。

（５）溝跡（第28～30図、巻頭図版６・７、図版８・９）

溝跡は５条あり、北側調査区の河川跡より北側で４条、南側調査区で１条検出した。北側調査区東端と南側調査区で検出した比較的規模の大きい溝跡は、中央部にある掘立柱建物跡等と整合した主軸方位を示しており、中世居館の区画に関連するものと考えられる。一方、河川跡より北側で検出した３条の溝跡は小規模で、時期・性格ともに不明確である。

①SD45溝跡（第28図、巻頭図版６、図版８）

ＬＢ61、ＬＣ60・61、ＬＤ59・60、ＬＥ57・58・59・60、ＬＦ57・58・59、ＬＧ57・58区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。本溝跡は調査区東端部にあり、調査区外となる東側へさらに続くため全体の形状および規模は不明であるが、現状で北東～南西方向の最長約23.4ｍ、確認面の幅331～337㎝、底面の幅154～238㎝を測り、長軸方位は北から51°東へ偏し、ほぼ直角に折れて南東方向へと続く。断面形は逆台形を呈して上部は緩やかに開き、確認面から底面までの深さは60～74㎝を測る。底面の標高は北側が若干低い傾向を示している。なお、西側隅は確認調査時のトレンチで削られており詳細な状況は不明である。堆積土は、底面上に10～20㎝ほどにある下部の堆積と、それより上部の堆積で様相を異にする。上部では黒褐～暗褐色シルトを主体として全体的に地山土（Ⅲ層）・黒色土（Ⅱ層）・炭化物等の粒子を混入する。これに対して下部では基本的に混入物の少ない粘質土の薄層が形成されている。下部は溝機能時の自然堆積、上部は溝廃絶後の堆積で、人為的な埋め戻しの可能性が高いと考える。なお、本溝跡の東側に沿う形で検出した柱穴は、廃絶時の堆積土に被覆されており、溝と同時期もしくは以前の構築と考えられる。遺物は、主に上部堆積土と下部堆積土との境界付近のレベルにあり、青磁碗口縁部破片１点（41－６）、常滑産陶器甕底部破片１点（42－19）、須恵器系中世陶器甕体部破片３点（43－４・44－２・45－５）・鉢口縁部破片１点（46－２）、かわらけ２点（47－６・７）が出土した。

本溝跡の帰属時期は、出土遺物から13世紀前半を上限と推測する。ところで本溝跡周辺では柱穴の分布自体が希薄で、溝の東側に沿う形で数基が確認されているに過ぎない。溝より東側における調査区域がごく狭いため明確ではないが、これらの柱穴が溝に伴う板塀等の施設を構成すると仮定した場合、調査区外となった溝の東側に中世遺構群が展開することも十分想定できる。

②SD46溝跡（第30図、図版８）

LF63・64、LG63、LH63区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。途中撹乱されているが、現状で最長約12.4m、確認面での幅16～59㎝、底面の幅10～32㎝を測り、東西方向を主軸として北側へ緩やかに湾曲する。断面形は逆台形を基調とし、確認面から底面までの深さは９～21㎝である。堆積土はⅡ層由来の黒色土を主体とし、地山土粒子を少量含んでいる。SK44と切り合い、これよりも古い。本溝跡から遺物は出土しておらず、切り合いをもつ土坑の時期も明確でないため、帰属時期等については不明である。

③SD64溝跡（第29図、巻頭図版７、図版９）

MD32、ME32・33・34、MF33・34・35、MG34・35・36、MH35・36・37、MI36・37・38、MJ37・38・39、MK38・39区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。調査区外の東西へさらに延伸するため全体の形状および規模は不明であるが、現状で最長約37m、確認面の幅149～239㎝、底面の幅36～80㎝を測る。長軸方位は北から45°西へ偏し、ほぼ直線をなして調査区東西両端に至る。断面形は逆台形を基本とし、部分的に上部へ緩やかに開くが、一様ではない。確認面から底面までの深さは28～63㎝を測り、底面の標高は全体的に南東側が高く、北西側へと傾斜している。溝跡内の堆積土は、SD45と同様に上部と下部において堆積の様相が異なる。上部では黒褐～暗褐色シルトを主体として全体的に地山土（Ⅲ層）・黒色土（Ⅱ層）・炭化物等の粒子を混入する。一方下部では細砂・粗砂と粘質土の薄層が交互に堆積する現象が認められる。粒度の粗い砂は本溝跡周辺の基本層序中に含まれていないため、このような下部の堆積土は標高の高い南東側から流下してきたものと考えられる。下部の堆積は溝機能時の自然堆積、上部の堆積は溝廃絶後の堆積で、人為的な埋め戻しによるものと考える。なお、本溝跡の北西端では土層断面上で明確な非整合面が観察された（巻頭図版７参照）。この非整合面を平面的に確認することはできなかったが、北西側で溝の幅が拡張する傾向にあるため、本来の溝跡ラインを踏襲した掘り直しが行われたものと推測する。この新段階の溝中には、底面直上にわずかな砂の堆積が認められるものの、大部分は黒色主体の粘質土が占めており、溝の掘り直し後では堆積環境が大きく変化したと考えられる。遺物は主として上部に堆積する黒色土中に含まれ、青白磁梅瓶蓋破片１点（41－５）、青磁Ⅲ底部破片１点（41－８）、かわらけ底部破片２点（47－12・23）が出土した。本溝跡の帰属時期は、出土遺物から13世紀前半を上限と推測する。ところで、本溝跡周辺の空中写真撮影を実施した際、東側延長線上に対応した形でクロップマークが認められ（巻頭図版１・２参照）、さらに西側延長線上で一部試掘した結果、西側へも延伸していることが判明した。詳細な状況は未確認であるが、少なくとも西側に20m、東側に70mは直線的に延び、総延長距離130m以上の規模をもつと推定される。本溝跡の北縁辺に柱穴が分布し、さらに北部に掘立柱建物跡等が集中する一方、溝より南側では遺構と遺物の分布が希薄であることから、本溝跡は居館南側の縁辺を区画するものと考える。

④SD102溝跡（第30図、図版８）

LH58・59・60区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。北東方向を主軸とし、途中で北西側へ折れ曲が

り、最長約6.8m、確認面での幅11～31㎝、底面の幅７～18㎝を測る。確認面から底面までの深さは６～10㎝ほどしかなく、断面形はⅢ形を呈する。堆積土は由来の不明な黒褐色土を主体とし、地山土や炭化物の粒子を少量含んでいる。SB88・SA90を構成する柱穴と切り合ってこれらより新しく、SD103と切り合ってこれより古い。本溝跡からは遺物が出土しておらず、また切り合いをもつ遺構の時期も不明確であり、帰属時期や性格等については現時点で不明である。

⑤SD103溝跡（第30図、図版８）

LH59区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。北西方向を主軸とし、総長311㎝、確認面での幅21～56㎝、底面の幅12～40㎝を測る。確認面から底面までの深さは４～８㎝ほどしかなく、断面形はⅢ形を呈する。堆積土は黒褐色土を主体とし、地山土や炭化物の粒子を少量含んでいる。SD102と切り合ってこれより新しい。遺物はかわらけ底部破片１点(47－12)が出土した。本溝跡の帰属時期は出土遺物から13世紀前半を上限とするが、明確ではない。

（６）井戸跡（第31図、巻頭図版８、図版10）

井戸跡は北側調査区の河川跡沿い北東で１基検出した。掘立柱建物跡群とは河川跡を挟んだ場所に位置するため、これらに伴う井戸であるのかは不明である。

①SE71井戸跡

LH55・56区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。確認調査時のトレンチにより上部北西側半分を欠くが、現状で北東方向に長径261㎝を測る楕円形平面を呈する。断面形は逆台形をなして壁は急傾斜に立ち上り、確認面から底面までの深さは238㎝である。底面はほぼ平坦で、基盤礫層を40㎝ほど掘り下げている。堆積土は垂直方向の非整合面を境として大きく二分することができる。一つは１～15層に相当し、遺構底面から中位にかけては中央部に、遺構上部では全体に堆積する。１～６層はⅡ層由来と考えられる黒色シルト質土、７～10層は基盤層の礫を含む黒褐色シルト質土、11～15層は青灰色粘土を主体とする。もう一つは16～22層に相当し、遺構底面から中位にかけて壁際に堆積するもので、青灰色粘土を主体としてⅡ層由来の黒色土塊を若干含む。このような堆積の様相は、遺構中位レベルの平面を観察した際にも、断面と整合する形で確認することが出来た（図版10参照）。ここでは前者を井戸廃絶後の堆積、後者を井戸側設置時の裏込め土と捉える。井戸構築当初は木製等の井戸側を備えており、廃絶の際にそれらを抜去して人為的に埋め戻したものと想定する。垂直に立ち上がる非整合面の形成は、井戸側の痕跡として合理的な解釈が可能と考える。遺物は上部に堆積する黒色土中から、かわらけ２点が出土した。このうち１点(47－８)は坏形を呈するもので比較的良く残存しており、意図的に投入された可能性が高いと考える。この遺物出土状況は、井戸廃絶に伴う儀礼的行為の結果と評価できよう。本井戸跡の廃絶時期は、出土遺物から13世紀前半を上限と推測する。

（７）焼土遺構（第31図、図版10）

焼土遺構は北側調査区の遺構集中区域東側において、隣接する２基を検出した。時期・性格ともに不明確であるが、周辺にある遺構の殆どが中世に属するため、同様に中世のものと推測する。

①SN79焼土遺構

LK52区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。西側を確認調査時のトレンチによって削られているが、

現状で北東方向を長軸とし、長径57㎝を測る楕円形の範囲に焼土や炭化物の広がりが認められた。焼土は粒状となって炭化物塊とともに暗褐色土中に混入した状態であり、確認面から５㎝ほどの浅い窪みに堆積している。本焼土遺構は、この浅い窪みに焼土が形成された後、撹拌されたものと推測する。なお、焼土中から採取した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、BP760±36の年代値が得られ、遺跡の年代と調和的である。樹種はヤナギ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・トネリコ属の４種類が同定された(第５章第２節参照)。

②SN81焼土遺構

LK51区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。西側を確認調査時のトレンチによって削られるほか、柱穴１基にも切られるため、全体形状は明確でないが、円形平面を基調として残存部で最大長108㎝を測る。SN79より焼土塊の量は多いものの、炭化物塊とともに黒褐色土中に混入した状態で、確認面から10㎝ほどの窪みに堆積しており、SN79の状況に酷似している。時期・性格ともに判然としないが、SN79と隣接し、かつ同様の堆積状況であることから、中世に帰属するものと推測する。

第４表　土坑一覧

番号	平面形	長径×短径(㎝)	深さ(㎝)	長軸方位	堆積土	遺物	新旧関係
SK01	方形	187×140	56	N-35°-W	B類	－	SB59･63､SK02より新
SK02	長方形	226×84	9	N-42°-E	D類	－	SB59･63､SK03より新、SK01より古
SK03	長方形	388×92	20	N-42°-E	D類	－	SB59、SK50より新、SK02･04･26より古
SK04	方形	137×121	59	N-47°-E	B類	かわらけ１点	SB59･63､SK03･05より新
SK05	長方形	755×84	30	N-43°-W	D類	－	SB59･61･63より新、SK04より古
SK07	長方形	288×76	38	N-52°-E	D類	須恵器系中世陶器１点、鉄製品１点	－
SK08	長方形	298×72	23	N-61°-E	D類	かわらけ１点、須恵器系中世陶器１点	SK09より古
SK09	方形	184×156	70	N-45°-W	B類	－	SK08より新、SKI10より古
SK11	長方形	221×64	6	N-57°-E	D類	－	SB61･62より新
SK12	方形	168×131	24	N-47°-W	B類	－	SKI10より古
SK13	長方形	210×140	62	N-58°-E	B類	－	SK67より新
SK14	方形	112×79	16	N-54°-W	B類	かわらけ１点	－
SK15	方形	106×89	7	N-35°-W	B類	－	SB61･62より新
SK17	円形	120×100	22	N-47°-W	D類	銭貨１点	－
SK18	方形	96×59	7	N-37°-E	B類	－	－
SK20	円形	76×50	9	N-46°-W	D類	－	－
SK21	方形	129×107	14	N-35°-E	B類	－	SB61･63より新
SK23	円形	208×190	43	N-３°-E	B類	かわらけ３点	SB60より新
SK26	方形	167×153	67	N-42°-E	C類	－	SK03･51より新
SK28	方形	170×152	40	N-43°-E	B類	－	－
SK29	円形	210×168	28	N-21°-E	E類	－	SB65より新
SK30	長方形	285×100	32	N-45°-E	D類	－	SB73より新
SK31	方形	241×171	35	N-42°-W	B類	－	－
SK32	円形	132×90	7	N-59°-E	B類	須恵器系中世陶器１点	－
SK33	円形	95×90	6	N-55°-E	A類	－	SB65より新
SK34	方形	157×94	11	N-40°-W	A類	－	SB65･66より新
SK35	円形	126×108	23	N-41°-E	D類	－	－
SK36	方形	198×189	63	N-42°-E	C類	－	SK51より新
SK37	方形	177×169	20	N-65°-E	C類	かわらけ１点	－
SK39	不整形	150×120	22	N-45°-E	A類	－	－
SK40	方形	173×146	10	N-42°-E	E類	青磁１点	－
SK41	方形	190×128	13	N-35°-E	A類	－	－
SK42	不整形	124×88	9	N-75°-W	A類	－	－
SK43	不整形	91×69	12	N-34°-W	A類	－	－
SK44	不整形	182×136	23	N-52°-E	A類	－	SD46より新
SK47	長方形	152×72	26	N-40°-E	B類	－	－
SK50	長方形	129×49	12	N-40°-E	D類	－	SB59より新、SK03より古
SK51	長方形	230×84	12	N-42°-E	D類	－	SK26･36より古
SK53	円形	131×91	26	N-60°-E	D類	－	－
SK67	方形	102×78	32	N-58°-E	D類	－	SK13より古
SK68	方形	192×132	34	N-53°-E	D類	－	－
SK76	長方形	211×122	14	N-34°-W	A類	青磁１点	SK77より古
SK77	方形	100×80	18	N-48°-E	B類	－	SK76より新
SK80	方形	200×100	32	N-63°-E	D類	－	－
SK87	円形	165×151	50	N-67°-W	F類	－	－
SK98	不整形	98×52	26	N-59°-E	A類	－	－
SK99	方形	120×114	24	N-55°-E	C類	－	SB97より新

（８）土坑（第32～38図、第４表、図版４・11～21）

土坑は47基検出し、その分布域は北側調査区の遺構集中区域近辺と河川跡より北側の部分とに大きく二分される。土坑内の堆積土は、以下に示すＡ～Ｆの６種類に類型化することができ、形態・規模・長軸方位・出土遺物・新旧関係とともに、前頁に掲載した第４表にまとめた。

Ａ類：Ⅱ層由来の黒色土を主体とし、Ⅲ層（地山）由来土等を若干含む。Ｂ類：Ⅲ層由来の暗褐色土を主体とし、灰色粘土やⅡ層由来の黒色土等を若干含む。Ｃ類：Ⅲ層由来の暗褐色土を主体とし、基盤層の礫を多く含む。Ｄ類：基本層序にはない灰色粘土とⅢ層由来の暗褐色土が混合する。Ｅ類：黒色土・暗褐色土等の薄い層が互層をなす。Ｆ類：黒褐色土を主体とし、全体に炭化物を多く含む。

これらの土坑は、堆積土および形態の似通ったものがその分布域も同じくする傾向が認められる。土坑の性格は明確でないが、このような形態および堆積状況の共通性と分布の集中傾向は、ある一定範囲の場の使われ方を反映している可能性が高いと考えられる。

①SK01土坑（第32図、図版11）

LQ50区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径187㎝、短径140㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から35°西へ偏する。底面は一部基盤礫層が露出するがほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がり、確認面から底面までの深さは56㎝である。堆積土は褐色を基調として地山土粒と黒色土粒および基盤層の礫を含む。地山土の混入程度から分層が可能であるが層界は明瞭ではなく、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SB59・63を構成する柱穴と切り合ってこれらより新しく、またSK02よりも新しい。遺物は出土しなかった。

②SK02土坑（第32図、図版11）

LQ50区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。南西側でSK01に切られるが、現状で長径226㎝、短径84㎝の長方形平面をなし、長軸方位は北から42°東へ偏する。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは９㎝である。堆積土は黄褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒と黒色土粒を少量含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SB59・63を構成する柱穴およびSK03と切り合ってこれらより新しく、SK01より古い。遺物は出土しなかった。

③SK03土坑（第32図、図版11）

LP51、LQ50・51区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。北東側でSK26に、南西側でSK02・04に切られるが、現状で長径388㎝、短径92㎝の長方形平面をなし、長軸方位は北から42°東へ偏する。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは20㎝である。堆積土は褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒と黒色土粒を少量含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。なお、底面には部分的に灰・炭化物・焼土からなる層が薄く堆積していた。SB59を構成する柱穴およびSK50と切り合ってこれらより新しく、SK02・04・26と切り合ってこれらより古い。遺物は出土しなかった。

④SK04土坑（第32図、図版11）

LP50・51、LQ50・51区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径137㎝、短径121㎝の丸みを帯びた方形平面をなし、長軸方位は北から47°東へ偏する。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がり、確認面から底面までの深さは59㎝である。堆積土は暗褐色を基調とし、地山土粒と黒色土粒および基盤層の礫を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SB63を構成する柱穴およびSK

03・05と切り合い、これらより新しい。遺物はかわらけ破片１点が出土した。

⑤SK05土坑（第32図、図版12）

LO49、LP49・50、LQ50区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。北西側でSK04に切られるが、現状で長径755㎝、短径84㎝の長方形平面をなし、長軸方位は北から43°西へ偏する。底面は中央部に向かって若干浅く窪み、壁は長軸方向で緩やかに、短軸方向で急傾斜に立ち上がり、確認面から底面最深部までの深さは30㎝である。堆積土は黄褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒や黒色土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。なお、底面には灰・炭化物・焼土からなる薄層が広範囲に堆積していた。SB59・61・63を構成する柱穴と切り合ってこれらより新しく、SK04より古い。遺物は出土しなかった。

⑥SK07土坑（第33図、図版12）

LN48･49、LO48区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径288㎝、短径76㎝の長方形平面をなし、長軸方位は北から52°東へ偏する。底面は南西側へわずかに傾斜し、壁は長軸方向で緩やかに、短軸方向で急傾斜に立ち上がり、確認面から底面最深部までの深さは38㎝である。堆積土は黄褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒や黒色土粒の混入程度で２層に分けられるが、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。単独の柱穴２基と切り合い、これより古い。なお、底面には灰・炭化物・焼土からなる薄層がわずかに観察された。遺物は須恵器系中世陶器甕の体部破片１点（43－２）、釣り針状を呈する器種不明の鉄製品１点（48－１）が出土した。

⑦SK08土坑（第33図、図版12）

LO47・48、LP47・48区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。南西側でSK09に切られるが、現状で長径298㎝、短径72㎝の長方形平面なし、長軸方位は北から61°東へ偏する。底面は平坦で、壁は長軸方向で緩やかに、短軸方向で急傾斜に立ち上がり、確認面から底面までの深さは23㎝である。堆積土は褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒等の混入程度で３層に分けられるが、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。なお、底面には灰・炭化物・焼土からなる薄層がわずかに観察された。遺物はかわらけの破片１点、須恵器系中世陶器鉢の体部破片１点（46－５）が出土した。

⑧SK09土坑（第33図、図版４・12）

LO47、LP47区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。南東側でSKI10に切られるが、現状で長径184㎝、短径156㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から45°西へ偏する。底面は一部基盤礫層が露出するがほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がり、確認面から底面までの深さは70㎝である。堆積土は暗褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒と黒色土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SK08と切り合ってこれより新しく、SKI10より古い。遺物は出土しなかった。

⑨SK11土坑（第33図、図版13）

LO48・49、LP48区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径221㎝、短径64㎝の不整な長方形平面をなし、長軸方位は北から57°東へ偏する。底面は平坦で、確認面から底面までの深さは６㎝と非常に浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。堆積土は暗褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒や黒色土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SB61・62を構成する柱穴および単独の柱穴１基と切り合い、これらより新しい。遺物は出土しなかった。

⑩SK12土坑（第33図、図版４・13）

LO47区に位置し、確認調査時のトレンチ底面であるⅣ層上面で確認した。本来はⅢ層より上から掘り込まれたものであろう。北西側をSKI10に切られるが、現状で長径168㎝、短径131㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から47°西へ偏する。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がり、確認面から底面までの深さは24㎝である。堆積土は暗褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SKI10と切り合い、これより古い。遺物は出土しなかった。

⑪SK13土坑（第34図、図版13）

LM47・48、LN47・48区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。確認調査時のトレンチにより南西側が削られているが、現状で長径210㎝、短径140㎝の長方形平面をなし、長軸方位は北から58°東へ偏する。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がり、確認面から底面までの深さは62㎝である。堆積土は４層に分層された。１層は黄褐色を基調として地山土を多量に含み、一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。２層は地山土を主体として混入物は無く、壁面崩落土の可能性が高い。３・４層は暗褐色を基調として底面直上に薄く堆積し、炭化物の混入が認められる。これは土坑機能時に堆積したものであろう。SK67と切り合ってこれより新しく、単独の柱穴１基より古い。遺物は出土しなかった。

⑫SK14土坑（第34図、図版13）

LO50、LP50区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径112㎝、短径79㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から54°西へ偏する。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは16㎝である。堆積土は黄褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。単独の柱穴１基と切り合い、これより新しい。遺物は、かわらけ杯の底部破片１点（47－５）が出土した。

⑬SK15土坑（第34図、図版14）

LP50区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径106㎝、短径89㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から35°西へ偏する。底面は平坦で、確認面から底面までの深さは７㎝と非常に浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。堆積土は黄褐色を基調としてわずかに灰色を帯び、地山土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SB61・62を構成する柱穴と切り合い、これらより新しい。遺物は出土しなかった。

⑭SK17土坑（第34図、図版14）

LP48・49、LQ48・49区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径120㎝、短径100㎝の不整な円形平面をなし、長軸方位は北から47°西へ偏する。底面は全体的に丸く窪み、壁は西側で急傾斜に、他の部分では緩やかに立ち上がり、確認面から底面最深部までの深さは22㎝である。堆積土は褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土の混入程度により分層できるが、層界は不明瞭であり、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。本土坑はSB63の身舎柱穴と重複した位置にあり、これより新しいものと考える。遺物は堆積土上位から銭貨の破片１点が出土したが、腐食が著しく法量・銭銘ともに不明で帰属時期も判別できない。

⑮SK18土坑（第34図、図版14）

LP49区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径96㎝、短径59㎝の方形平面をなし、長軸方位は北か

ら37°東へ偏する。底面は平坦で、確認面から底面までの深さは７㎝と非常に浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。堆積土は黄褐色を基調としてわずかに灰色を帯び、地山土粒や炭化物粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

⑯SK20土坑（第34図、図版14）

LO49区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径76㎝、短径50㎝の不整な円形平面をなし、長軸方位は北から46°西へ偏する。底面は丸く窪み、確認面から底面最深部までの深さは９㎝と非常に浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。本土坑は現状で規模が非常に小さく、上部を削平され本来の形状を失っている可能性もあろう。堆積土は暗褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

⑰SK21土坑（第34図、図版15）

LP48、LQ48区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径129㎝、短径107㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から35°東に偏する。底面は北東側へ傾斜して、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面最深部までの深さは14㎝である。確認時に大部分を掘り上げてしまったが、残った部分の堆積土は暗褐色を基調としたシルト質土の単一層であった。SB61・63を構成する柱穴と切り合い、これらより新しい。遺物は出土しなかった。

⑱SK23土坑（第35図、図版15）

LQ52区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。確認調査時のトレンチによって一部削られているが、現状で長径208㎝、短径190㎝の円形平面をなし、長軸方位は北から３°東へ偏する。底面は基盤礫層が露出するため凹凸はあるが全体的に平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは43㎝である。堆積土は暗褐色を基調とし、黒色土および地山土の混入程度から３層に分層するが、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SB60を構成する柱穴と切り合ってこれより新しく、また単独の柱穴１基より新しい。遺物はかわらけ杯の底部破片３点（47－９・10・11）が出土した。

⑲SK26土坑（第32図、図版15）

LP51・52区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径167㎝、短径153㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から42°東へ偏する。底面は基盤礫層が露出するため凹凸はあるが全体的に平坦で、壁は急傾斜に立ち上がり、確認面から底面までの深さは67㎝である。堆積土は黒褐色を基調とし、地山土塊と礫の混入程度によって２層に分層され、特に下部の２層は多量の礫を混入する。人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SK03・51及び単独の柱穴２基と切り合い、これらより新しい。遺物は出土しなかった。

⑳SK28土坑（第35図、図版15）

LS54、LT54区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。一部暗渠や確認調査時のトレンチによって削られているが、現状で長径170㎝、短径152㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から43°東へ偏する。底面は中央が若干浅く窪むが全体的に平坦で、壁は急傾斜に立ち上がり、確認面から底面最深部までの深さは40㎝である。堆積土は暗褐色を基調として全体的に灰色を帯び、黒色土粒と地山土粒の混入程度によって２層に分層できるが層界は明瞭でなく、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㉑SK29土坑（第35図、図版16）

LQ57、LR57区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径210㎝、短径168㎝の円形平面をなし、長軸方位は北から21°東へ偏する。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの底面までの深さは28㎝である。堆積土は細砂・シルト・粘土およびこれらの混合土が互層をなしており、10層に分層した。概ね上位では黒色シルト、中位では黄褐色細砂質土、下位では黒褐色粘土を主体とする。最下位層の東側直上には円礫が散在し、人為的に投げ込まれたものと推測する。これより上位ではほぼ水平の堆積を示し、土坑放置後の自然堆積と考えられ、また最上位の黒褐色土は地山土粒を多く混入することから、最終的な埋め戻しが行われたものと想定する。SB65を構成する柱穴と切り合い、これより新しい。遺物は出土しなかった。

㉒SK30土坑（第35図、図版16）

LP57、LQ57区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径285㎝、短径100㎝の長方形平面をなし、長軸方向は北から45°東へ偏する。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がり、確認面から底面までの深さは32㎝である。堆積土は暗褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒と黒色土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SB73を構成する柱穴と切り合い、これより新しい。遺物は出土しなかった。

㉓SK31土坑（第35図、図版16）

LR52・53区に位置し、確認調査時のトレンチ底面においてⅣ層上面で確認した。現況で長径241㎝、短径171㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から42°西へ偏する。底面は基盤礫層が露出するがほぼ平坦で、壁は急傾斜に立ち上がり、確認面から底面までの深さは35㎝である。堆積土は暗褐色を基調とし、地山土と黒色土の混合程度から分層されるが層界は明瞭でなく、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㉔SK32土坑（第36図、図版16）

LP58区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径132㎝、短径90㎝の楕円形平面をなし、長軸方位は北から59°東へ偏する。底面は中央部が浅く窪むがほぼ平坦で、確認面から底面最深部までの深さは７㎝と非常に浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。堆積土は暗褐色を基調とし、地山土と黒色土を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は須恵器系中世陶器甕の体部破片１点（45－３）が出土した。本土坑の帰属時期は出土遺物から13世紀前半を上限と考えるが、明確でない。

㉕SK33土坑（第36図、図版15）

LQ56区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径95㎝、短径90㎝の円形平面をなし、長軸方位は北から55°東へ偏する。底面は平坦で、確認面から底面までの深さは６㎝と非常に浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。堆積土は黒色を基調として地山土を含んでおり、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。SB65を構成する柱穴および単独の柱穴２基と切り合い、これらより新しい。遺物は出土しなかった。

㉖SK34土坑（第36図、図版17）

LP55区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径157㎝、短径94㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から40°西へ偏する。底面は北西側へ緩く傾斜し、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深

さは11㎝である。堆積土は黒褐色を基調とし、地山土の混入程度により２層に分層され、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。SB65を構成する柱穴および単独の柱穴２基と切り合い、これらより新しい。また、本土坑に切られる柱穴はSB66を構成する柱穴を切っているため、間接的にSB66より新しいと言える。遺物は出土しなかった。

㉗SK35土坑（第36図、図版17）

LP54、LQ54区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径126㎝、短径108㎝の円形平面をなし、長軸方位は北から41°東へ偏する。底面は丸く窪み、壁の立ち上がりは不明瞭で緩やかに開き、確認面から底面最深部までの深さは23㎝である。堆積土は黒褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒と黒色土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。単独の柱穴１基と切り合い、これより新しい。遺物は出土しなかった。

㉘SK36土坑（第32図、図版17）

LO52、LP52区に位置し、基盤礫層上面で確認した。長径198㎝、短径189㎝の丸みを帯びた方形平面をなし、長軸方位は北から42°東へ偏する。底面は基盤礫層となるため多少の凹凸はあるがほぼ平坦で、壁は急傾斜に立ち上がり、確認面から底面までの深さは63㎝である。堆積土は暗褐色を基調として多量の礫を混入し、その混入程度から分層されるが層界は明瞭でなく、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SK51と切り合い、これより新しい。遺物は出土しなかった。

㉙SK37土坑（第36図、図版17）

LN51区に位置し、基盤礫層上面で確認した。長径177㎝、短径169㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から65°東へ偏する。底面は基盤礫層となるがほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは20㎝である。堆積土は黒褐色を基調として全体的に灰色を帯び、礫の混入程度から分層されるが層界は明瞭でなく、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物はほぼ完形のかわらけ皿１点（47－15）が出土した。本土坑の帰属時期は出土遺物から13世紀前半を上限と考えるが、明確でない。

㉚SK39土坑（第36図、図版18）

LL61・62区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。楕円形を基調として北東側中央部が張り出す不整な平面形をなし、長径150㎝、短径120㎝、長軸方位は北から45°東へ偏する。底面は平坦で、壁は東側で急傾斜に、南西側で緩く立ち上がり、確認面から底面までの深さは22㎝である。堆積土は黒色を基調として地山土を混入し、その混入程度によって分層される。なお北東側の張り出し部近辺に薄く堆積する３層には、多量の炭化物とともに、わずかな量の焼土および白色粉末状の物質が観察された。なお、採取した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、BP683±34の年代値が得られ、樹種はカエデ属と同定された（第５章第２節参照）。本土坑は出土遺物も無く帰属時期は不明確であるが、放射性炭素年代測定による年代観、ならびに炭化物の集中と微量ではあるが焼土と白色粉末状物質が検出されたことを重視し、中世の火葬墓である可能性を指摘しておく。

㉛SK40土坑（第36図、図版18）

LJ58・59、LK59区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。一部確認調査時のトレンチに削られているが、現状で長径173㎝、短径146㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から42°東へ偏する。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは10㎝である。堆積土は上下に大きく分け

ることができ、上部は黒色を基調として地山土粒を少量混入し、下部は暗褐色土と黄褐色土が互層をなして堆積する。下部は土坑開口時の自然堆積によるものであろう。遺物は上部黒色土中から青磁碗破片１点(41－12)が出土した。本土坑の帰属時期は出土遺物から12世紀末を上限と考える。

㉜SK41土坑（第37図、図版18）

LG59区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径190㎝、短径128㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から35°東へ偏する。底面は平坦であるが、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは13㎝である。堆積土は黒褐色を基調として地山土粒を混入する単一層である。人為的な埋め戻しによる堆積であろう。遺物は出土しなかった。

㉝SK42土坑（第37図、図版18）

LJ62・63区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。円形を基調として西側に張り出しをもつ不整な平面形をなし、長径124㎝、短径88㎝を測り、長軸方位は北から75°西へ偏する。底面は東西両端部が窪み、壁の立ち上がりは不明瞭で、確認面から底面最深部までの深さは９㎝である。堆積土は２層に分層した。全体を覆う１層は黒褐色を基調として地山土粒を多く混入する。西側張り出し部の底面に堆積する２層は炭化物を多く含んでいる。遺物は出土しなかった。本土坑は不整な平面形状をなして掘り込みが浅く、炭化物を特徴的に混入するという点でSK39に類似し、火葬墓の可能性もあるが、明確でない。

㉞SK43土坑（第37図、図版19）

LH62、LI62区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。円形を基調として北西側に短い張り出しをもつ不整な平面形をなし、長径91㎝、短径69㎝を測り、長軸方位は北から34°西へ偏する。底面は南東側が窪み、壁は北西側で緩やかに、他の部分では急傾斜に立ち上がり、確認面から底面最深部までの深さは12㎝である。堆積土は黒色を基調として地山土を混入し、その混合程度で４層に分層された。このうち北西側張り出し部の底面に堆積する４層は炭化物を含んでいる。遺物は出土しなかった。本土坑もSK42と同様の理由で、火葬墓の可能性を指摘しておく。

㉟SK44土坑（第37図、図版19）

LH62・63区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。円形を基調として南北へ張り出す不整な平面形をなし、長径182㎝、短径136㎝を測り、長軸方位は北から52°東へ偏する。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がり、確認面からの底面までの深さは23㎝である。堆積土は黒褐色を基調として地山土等の混入程度により分層された。下部では地山土が多量に混入するとともに、中央部では直径10～20㎝程度の礫がまとまって出土し、人為的に投入されたものと考えられる。北西側でSD46と切り合い、これより新しい。遺物は出土しなかった。

㊱SK47土坑（第37図、図版19）

LO55区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。確認調査時のトレンチにより南東側半分を削られているが、現状で長径152㎝、短径72㎝の長方形平面をなし、長軸方位は北から40°東へ偏する。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がり、確認面から底面までの深さは26㎝である。堆積土は暗褐色を基調として地山土粒と黒色土粒を含み、それらの混入程度により分層されたが層界は不明瞭で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㊲SK50土坑（第32図、図版11・19）

LP51区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。上部を確認調査時のトレンチによって削られているが、

現状で長径129㎝、短径49㎝の楕円形平面をなし、長軸方位は北から40°東へ偏する。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは12㎝である。堆積土は褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒と黒色土粒を含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。SB59を構成する柱穴と切り合ってこれより新しく、SK03と切り合ってこれより古い。遺物は出土しなかった。

㊳SK51土坑（第32図、図版20）

LO52、LP51・52区に位置し、基盤礫層上面で確認した。北東および南西側をSK26・36に切られるため全体の規模は不明であるが、現状で長径230㎝、短径84㎝を測り、長方形平面を呈していたと推測され、長軸方位は42°東へ偏する。底面は中央部に窪みをもつが他はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは12㎝、中央部窪みの最深部までの深さは27㎝である。堆積土は黒褐色を基調として全体的に灰色を帯び、全体を覆う１層には礫が混入し、中央部の窪みに堆積する２層には礫を含んでいない。人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㊴SK53土坑（第37図、図版20）

LN51区に位置し、基盤礫層上面で確認した。長径131㎝、短径91㎝の楕円形平面をなし、長軸方位は北から60°東へ偏する。底面は基盤礫層となるため多少の凹凸はあるがほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは26㎝である。堆積土は黒褐色を基調として全体的に灰色を帯び、黒色土と礫の混入程度で分層されるが層界は不明瞭で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㊵SK67土坑（第34図、図版19）

LM48区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。西側をSK13に切られるため全体の規模は不明であるが、現状で長径102㎝、短径78㎝の長方形平面をなし、長軸方位は北から58°東へ偏する。底面は平坦で、壁は長軸方向で緩やかに、短軸方向で急傾斜に立ち上がり、確認面から底面までの深さは32㎝である。堆積土は褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒を多量に含む単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㊶SK68土坑（第38図、図版20）

LM48区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。確認調査時のトレンチによって西側端部をわずかに削られているが、現状で長径192㎝、短径132㎝の長方形平面をなし、長軸方位は北から53°東へ偏する。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは34㎝である。堆積土は黄褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土粒と黒色土粒を混入する単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㊷SK76土坑（第38図、図版20・21）

LK53、LL53区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。暗渠と撹乱により全体の規模は不明であるが、現状で長径211㎝、短径は少なくとも122㎝を測り、方形平面をなすものと考えられ、長軸方位は北から34°西へ偏する。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは14㎝である。堆積土は黒色を基調とし、地山土の混入程度により分層されるが層界は不明瞭で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。東側でSK77と、西側で単独の柱穴３基と切り合い、これらより

古い。遺物は白磁底部破片１点(41－２)が出土した。本土坑は出土遺物から12世紀後半を上限とするが、帰属時期については明確でない。

㊸SK77土坑(第38図、図版20・21)

LK53区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。暗渠と確認調査時のトレンチによって一部削られているが、現状で長径100㎝、短径80㎝の丸みを帯びた方形平面をなし、長軸方位は北から48°東へ偏する。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がり、確認面から底面までの深さは18㎝である。堆積土は暗褐色を基調として地山土粒を多量に混入する単一層で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。西側でSK76と切り合い、これより新しく、また単独の柱穴１基より古い。遺物は出土しなかった。

㊹SK80土坑(第38図、図版21)

LJ51、LK51区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。東側が調査区外へと続くため、全体の規模・形状は不明であるが、現状で長軸を北から63°東へ偏する方位にとる長方形平面をなすと推測され、検出部位では少なくとも長辺約２ｍ、短辺約１ｍを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは32㎝である。なお、底面には直径約20㎝の柱穴状の窪みが確認され、その深さは７㎝である。堆積土は黒褐色を基調として全体的に灰色を帯び、地山土等を混入する単一層であり、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㊺SK87土坑(第38図、図版21)

LL50・51区に位置し、確認調査時のトレンチ底面である基盤礫層上面で確認した。現状で長径165㎝、短径151㎝の円形平面をなし、長軸方位は北から67°西へ偏する。底面は基盤礫層が露出して凹凸があるが全体的に平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは50㎝である。堆積土は黒褐色を基調として炭化物を多量に含み、炭化物等の混入程度により分層される。また底面中央部からまとまって出土した礫の表面には、被熱による赤化や炭化物の付着が認められ、堆積土とともに人為的に投入されたものと考えられる。遺物はこれらの礫集中部付近から須恵器系中世陶器甕の体部破片１点(45－10)が出土した。本土坑は何らかの熱加工作業に伴う礫製構造物の残骸やその作業により排出される炭化物等の廃棄に使用されたものと推測する。周辺には焼土遺構や工房跡と考えられる竪穴状遺構があり、炭化物や被熱礫等はこれらの遺構を由来とする可能性もあろう。

㊻SK98土坑(第38図、図版21)

LH57・58区に位置し、Ⅲ層上面で確認した。長径98㎝、短径52㎝の不整な楕円形平面をなし、長軸方位は北から59°東へ偏する。底面は丸く窪み、壁の立ち上がりは不明瞭で緩やかに開き、確認面から底面までの深さは26㎝である。堆積土は黒色を基調として地山土粒を少量含み、人為的な埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

㊼SK99土坑（第38図、図版21）

LL53、LM53区に位置し、基盤礫層上面で確認した。長径120㎝、短径114㎝の方形平面をなし、長軸方位は北から55°東へ偏する。底面は基盤礫層が露出して凹凸があるがほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは16㎝である。堆積土は黒褐色を基調として基盤層の砂礫を混入し、炭化物等の混入程度によって２層に分層されたが層界は不明瞭で、人為的な一括の埋め戻しによる堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

第５表　柱穴一覧（１）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LD63	SKP1	方形	21	21	24	127.855	Ab2・Ab3			
	SKP2	方形	18	15	18	127.870	Ab2			
LE58	SKP1	円形	(17)	(17)	(11)	128.085	Ab2			SD45より旧
LE63	SKP1	方形	20	17	36	127.745	Ab2・Ab1(Ab1・Ab2)			
	SKP2	方形	20	17	39	127.705	Ab1・Ab2			
LF58	SKP1	円形	(42)	(39)	(8)	127.957	A・Ab1			SD45より旧
	SKP2	円形	(94)	(82)	(19)	127.696	Ac1・Ab2			SD45より旧
	SKP3	円形	(19)	(17)	(14)	127.975	Ab3			SD45より旧
LF59	SKP1	円形	24	24	38	127.770	Ab2(Ab1・Ba2)			
LF60	SKP1	円形	16	16	14	128.052	Ab2			
	SKP2	円形	22	19	31	127.895	Ab1			
	SKP3	円形	70	47	22	127.966	Ab1			
	SKP4	円形	26	20	26	127.910	Ab1(Ab3)		SA105	
	SKP5	円形	22	21	42	127.776	Ab1(A)		SA105	
	SKP6	円形	(20)	(19)	(16)	128.015	Ab1		SA105	
LF61	SKP1	円形	(25)	(22)	42	127.697	Ab2(Ab1・Ad3)			
LF62	SKP1	円形	12	9	8	128.007	Ab1		SB95	
LF63	SKP1	方形	17	13	33	127.779	Ab1		SB95	
	SKP2	方形	15	12	22	128.837	Ab1		SB95	
LG55	SKP1	円形	39	36	42	127.825	Ba1・Ab1			
LG56	SKP1	円形	18	15	15	128.105	Ab1			
	SKP2	円形	23	18	32	127.925	Ab1(A)			
LG57	SKP1	円形	(61)	(54)	30	128.191	Ab2			SD45より新
LG58	SKP1	円形	26	23	63	127.560	Ab2			
	SKP2	円形	30	28	30	127.954	Ab3(Ab1)		SB88	
LG59	SKP1	円形	35	30	45	127.683	Ab3(Ab1)		SA105	
LG60	SKP1	円形	16	14	14	128.024	Ab1			
	SKP2	円形	27	24	39	127.757	Ba3(Ab1)		SA96	
	SKP3	円形	29	18	39	127.769	Ab1(A)		SA96	
	SKP4	円形	22	20	51	127.585	Ba2(Ab1)			
LG61	SKP1	円形	(24)	(23)	(11)	127.915	Ba1(Ab1)		SA96	
	SKP2	円形	(27)	(11)	(16)	127.868	Ab1			
LG62	SKP1	方形	22	18	25	127.859	Ba3(Ab1)		SB95	
	SKP2	方形	27	24	23	127.900	Ab2(Ab1)		SB95	
	SKP3	円形	15	14	13	127.905	Ab1		SB95	
	SKP4	円形	15	10	25	127.795	Ba1(Ab1)		SB95	
	SKP5	円形	19	17	23	127.837	Ab2(Ab1)		SB95	
LG63	SKP1	円形	15	13	9	127.920	Ab2		SB95	
	SKP2	円形	19	16	42	127.607	Ab2		SB95	
	SKP3	円形	16	14	22	127.796	Ab3(Ab1・Ab2)		SB95	
	SKP4	円形	16	13	16	127.917	Ab1・Ab2			
	SKP5	円形	(26)	(24)	27	127.765	Ab2			SD46より旧
LH54	SKP1	円形	35	34	-	-	Ab2(Ab1)			
LH55	SKP1	円形	15	11	8	127.981	Ab1			
	SKP2	円形	18	16	9	128.000	Ab3			
	SKP3	円形	39	37	32	127.785	Ba2・Ab2			
	SKP4	円形	23	21	36	127.720	Ab1	炭化物		
	SKP5	円形	26	22	20	127.960	A			
	SKP6	円形	26	19	27	127.909	Ba1・Ab1(A)			
	SKP7	円形	37	35	30	127.848	Ba2(Ab2・Ba1)			
LH56	SKP1	円形	(21)	(20)	-	-	Ba2(Ab1)			
	SKP2	円形	19	14	10	127.761	Ba1(Ab1)			
LH57	SKP1	円形	27	26	34	127.638	Ab2(Ab1)			
	SKP2	円形	(18)	(18)	(20)	127.627	Ab1(Ab2)		SB88	
	SKP3	円形	(27)	(24)	38	127.810	Ab2(Ab1)		SB88	LH57⑥より旧
	SKP4	円形	34	32	20	127.897	Ab1・Ab2			LH57⑦より新
	SKP5	円形	(25)	(23)	(33)	127.714	Ab1(A)	縄文土器１点	SB88	
	SKP6	円形	25	19	48	127.791	Ab1			LH57③より新
	SKP7	円形	-	-	21	127.870	Ab2			LH57④より旧
LH58	SKP4	円形	29	23	45	127.717	A・Ab2		SA90	
	SKP5	円形	27	27	17	128.027	Ab3(Ab1)		SB88	
	SKP6	円形	23	21	34	127.792	Ab2(Ab1)			
	SKP7	円形	23	21	40	127.750	Ab3(Ab1)		SB88	
	SKP8	円形	28	22	9	128.097	Ab2			
	SKP9	円形	19	17	45	127.678	Ab1(A)			
	SKP10	円形	38	30	56	127.581	Ab1(Ab1)		SA89	
	SKP11	円形	29	27	34	127.784	Ab2(Ab1)		SB88	
	SKP12	円形	24	19	55	127.525	Ba2(Ab1)			
	SKP13	円形	17	16	14	128.024	Ab1			
	SKP14	円形	(28)	(25)	26	127.897	Ab1(A)		SB88	SD102より旧

第６表　柱穴一覧（２）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LH58	SKP17	円形	38	36	44	127.676	Ab2(Ab2･A･Ab3)		SA89	
	SKP18	円形	(26)	(25)	(49)	127.667	Ab3(Ab1)		SA90	SD102より旧
LH59	SKP1	円形	24	22	30	127.767	A･Ab3(A)		SA91	
	SKP2	円形	28	25	20	127.963	Ab1(A)			
	SKP3	円形	21	21	50	127.612	Ab2(Ab1)		SA91	
LH60	SKP1	円形	29	25	42	127.715	Ab1(A)		SA96	
LH62	SKP1	円形	17	16	45	127.609	Ab2(Ab1･A･Ab1)		SB95	
	SKP2	円形	20	11	18	127.847	Ba3(Ab2)			
LH63	SKP1	方形	25	23	27	127.783	Ab1(Ab2)			
	SKP2	方形	20	17	55	127.482	Ab2･Ab3			
	SKP3	方形	23	21	71	127.306	Ab3･Ba1(Ab1)			
	SKP4	円形	28	24	41	127.678	Ab1･Ab3(A･Ab2)			
	SKP5	円形	16	16	26	127.799	Ab2			
	SKP6	円形	24	18	18	127.916	Ab2(Ab3)			
	SKP8	方形	27	23	31	127.775	Ab1･Ab3･Ba2(Ab2･A)			
	SKP9	円形	23	14	17	127.908	Ab1･Ba1			LH63⑩より新
	SKP10	方形	(26)	(18)	49	127.572	Ab2･Ab1･Ab2(Ab2･Ab1)			LH63⑨より旧
LH64	SKP1	方形	23	22	30	127.707	Ab3･Ab2			
LI57	SKP1	円形	(29)	(25)	(41)	127.397	Ba2(Ab1)			
LI58	SKP1	円形	(22)	(16)	(18)	127.791	Ba1(Ab1)			
	SKP2	円形	(30)	(26)	(27)	127.703	Ab1(A)		SB88	
	SKP3	円形	(19)	(14)	(17)	127.821	Ba1			
	SKP6	円形	(35)	(31)	(25)	127.733	Ab3			
	SKP7	円形	18	14	7	127.975	A･Ba1			
	SKP8	円形	(12)	(12)	(10)	127.951	Ab1			
	SKP10	円形	(27)	(25)	(54)	127.459	Ab3(Ab1)		SB88	
	SKP11	円形	(39)	(26)	(25)	127.645	Ab1(A)	炭化物		
	SKP12	方形	(15)	(14)	(23)	127.787	Ab1			
	SKP13	円形	(15)	(15)	(19)	127.827	Ba2(A)			
	SKP15	円形	(28)	(25)	(35)	127.659	Ab1(Ab1)			
	SKP16	円形	23	21	32	127.717	Ab1(Ab2)			
	SKP17	円形	27	26	25	127.831	A(Ab1)		SB88	
	SKP18	円形	(23)	(21)	(33)	127.448	Ba1(Ab1)			
	SKP19	円形	(25)	(23)	(15)	127.598	Ab1(Ba2･Ab1)	かわらけ１点		
	SKP21	円形	(26)	(23)	(43)	127.340	Ba2(Ab1)			
	SKP23	円形	(21)	(10)	(50)	127.160	Ab2			LI58㉑より旧
	SKP24	円形	25	20	(50)	127.153	Ab2			LI58㉓より新
LI59	SKP1	円形	20	17	39	127.598	Ab2(Ab1)			
	SKP2	円形	19	18	56	127.434	Ab2(Ab1)			
	SKP3	円形	28	25	54	127.540	Ab3(Ab1)			
	SKP4	円形	30	27	19	127.887	Ab2(Ab1)		SB88	
	SKP5	円形	(25)	(24)	44	127.593	A･Ab2			LI59⑥より旧
	SKP6	円形	21	15	23	127.802	Ab2			LI59⑤より新
	SKP7	円形	26	24	51	127.527	Ab2(Ab1)			
	SKP8	円形	30	27	43	127.578	Ab1･Ba3(Ab1)			
	SKP9	円形	26	25	25	127.786	Ab2(Ab1)			
	SKP10	円形	34	32	52	127.541	Ab2(Ab1)		SA89	
	SKP11	円形	21	19	72	127.304	Ab2			
	SKP12	円形	29	28	53	127.528	Ab1(A)		SA90	
	SKP13	円形	19	17	17	127.840	A･Ab2			
	SKP14	円形	32	32	56	127.444	Ab1(A)		SA89	
	SKP15	円形	26	19	35	127.645	Ab1(A)			
	SKP16	円形	(14)	(13)	19	127.795	Ba1･Ab2			LI59⑰より旧
	SKP17	円形	26	23	25	127.748	Ab1(A)		SA90	LI59⑯より新
	SKP18	円形	23	21	11	128.000	Ab3		SA91	
LI60	SKP1	円形	34	30	47	128.514	Ba2(Ab1)		SA91	
	SKP2	円形	25	22	51	128.485	Ab1(Ab1)		SA92	
LI62	SKP2	円形	(18)	(14)	(7)	127.665	Ab3			
	SKP5	方形	(23)	(18)	25	127.634	Ab3			
	SKP7	方形	25	18	46	127.523	Ab2･Ab1･Ab2			LI62⑳より新
	SKP8	円形	26	21	31	127.698	Ba3･Ab2･Ab3			
	SKP9	円形	27	24	11	127.654	Ab2･Ba2(Ab2･Ab1･Ba2)			LI62⑩より新
	SKP10	円形	(20)	(20)	23	127.635	Ab2･Ab1･Ab2			LI62⑨より旧
	SKP11	円形	14	11	6	127.794	Ab2			
	SKP12	方形	17	16	-	-	Ab2			
	SKP20	方形	(20)	(17)	28	127.717	Ab3			LI62⑦より旧
LI63	SKP2	円形	22	19	(4)	127.545	Ab2･Ab3･Ab2			
	SKP3	方形	17	16	(9)	127.537	Ab3･Ab2			
	SKP5	円形	14	12	6	127.850	Ab3			
LI64	SKP1	円形	15	15	25	127.567	Ab2･A(Ab2)			

第７表　柱穴一覧（３）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LI64	SKP2	円形	28	23	25	127.587	Ab2(Ab1･A)			
	SKP3	円形	17	13	9	127.733	Ab2			
	SKP4	円形	22	16	8	127.740	Ab2			
	SKP5	円形	18	17	23	127.649	Ab2(Ab1)			
LJ51	SKP1	円形	39	31	24	127.670	Ba2(Ab1)			
LJ52	SKP1	円形	25	21	32	127.575	Ba1(Ba2)			
LJ54	SKP1	円形	(28)	(25)	(7)	127.250	Ba1(Ba2)	炭化物		
LJ55	SKP1	円形	(16)	(14)	5	127.635	Ba2			LJ55④より旧
	SKP2	円形	22	17	16	127.482	Ab2(Ab2)			
	SKP3	円形	13	11	9	127.608	Ab1	焼土･炭化物		
	SKP4	円形	18	13	22	127.480	Ab2			LJ55①より新
	SKP6	円形	23	19	29	127.306	Ab2			
	SKP7	円形	28	26	13	127.504	Ca2	炭化物		
	SKP8	円形	33	30	17	127.492	Ca3	炭化物		
	SKP9	方形	28	27	17	127.467	Ba2(Ab2)			
LJ58	SKP1	円形	(21)	(19)	(37)	127.410	Ab1			
	SKP2	円形	(20)	(18)	(9)	127.398	Ab2			
	SKP3	円形	27	25	43	127.249	Ab2			LJ58④より新
	SKP4	円形	(24)	(23)	45	127.229	Ab1(Ab2)			LJ58③より旧
	SKP6	円形	23	21	27	127.592	A(Ab1)			
LJ59	SKP1	方形	(28)	(24)	(25)	127.454	Ba1･Ab2(Ab2)			
	SKP2	方形	24	22	12	127.701	Ab2･Ab3･Ba3			
	SKP3	方形	(20)	(11)	27	127.685	Ab3			
	SKP4	円形	29	26	29	127.674	Ab2･Ab3(Ab1･Ab2)			LJ59⑤より新
	SKP5	円形	(17)	(16)	16	127.794	Ab2･Ba3			LJ59④より旧
	SKP6	円形	(22)	(16)	34	127.595	Ab1(A)			
	SKP7	円形	9	6	7	127.841	Ab1			
	SKP8	円形	24	23	24	127.634	Ab3(Ab2･Ab1)			
	SKP9	円形	24	17	29	127.576	Ab2･Ab1			
	SKP10	円形	20	18	22	127.581	Ab1(Ab2･A)			
	SKP11	円形	(20)	(14)	(22)	127.500	Ab1			
	SKP12	円形	21	15	13	127.745	Ab3(Ab2)			
	SKP13	円形	29	21	20	127.668	Ab2(Ab3･Ab1)			
	SKP14	円形	17	16	27	127.612	Ab2(Ab1)			
	SKP15	円形	23	18	32	127.545	A･Ab1(Ab1･Ab3)			
	SKP16	円形	29	21	27	127.653	Ab1･Ab2(Ab1)			
	SKP19	円形	(20)	(20)	(30)	127.389	Ba1			
	SKP20	円形	(18)	(18)	(28)	127.417	Ba1			
LJ60	SKP1	円形	30	22	30	127.586	Ab3(Ab1)		SA92	
	SKP2	円形	29	28	26	127.595	Ab3･Ba1(Ab1)		SA91	
	SKP3	方形	22	20	19	127.704	Ab2(Ab1)			
	SKP4	円形	22	22	44	127.436	Ab2･Ab1(Ab1･Ab2･A)			
	SKP6	円形	23	20	20	127.701	Ab2			
LJ61	SKP1	方形	(31)	(30)	(38)	127.417	Ab3(Ab1･A)		SA91	
	SKP2	円形	(25)	(24)	(7)	127.756	Ab2(Ab1)		SA92	
LJ62	SKP1	円形	20	18	23	127.619	Ab3(Ab2)			
	SKP2	円形	16	13	64	127.204	Ab2･Ab3(Ab2･A)			
	SKP3	円形	20	19	22	127.550	Ab3･Ab1･Ba2(Ab2･A)			
	SKP4	円形	(17)	(16)	47	127.336	Ab1			LJ62⑤より旧
	SKP5	円形	24	23	50	127.286	Ab1･Ab2(Ab2)			LJ62④より新
LJ63	SKP1	不整形	34	29	34	127.496	Ba3･Ab2(Ab2･Ab1･Ab2)			
	SKP2	円形	14	11	14	127.735	Ab2			
	SKP3	円形	11	8	11	127.699	Ab3			
	SKP4	円形	20	17	20	127.677	Ab2･Ba1(Ab1)			
	SKP5	円形	17	12	17	127.766	Ab2			
	SKP6	円形	15	10	15	127.631	Ab1			
	SKP7	円形	25	18	25	127.591	Ab3			
	SKP8	円形	8	7	(8)	127.661	Ab1			
	SKP9	円形	28	17	(28)	127.461	Ab1			
	SKP10	円形	27	24	(27)	127.443	Ab1･Ba2･Ab2			
	SKP11	方形	20	20	20	127.514	Ab2･Ab1･Ab2			
	SKP12	方形	17	12	(17)	127.588	Ab2			
LJ64	SKP1	円形	27	25	27	127.524	Ab2･Ba2(Ab1)			
	SKP2	円形	33	26	33	127.721	Ab2(Ab1)			
LK50	SKP1	円形	(57)	(51)	5	127.916	Ca3			
LK51	SKP1	円形	(64)	(58)	22	127.651	Ab3(Ab1)	青磁1点		SN81より新
	SKP2	円形	55	50	7	127.802	Ba2(Ab1)		SB97	
	SKP4	円形	22	20	-	127.724	Ab3			
	SKP5	円形	48	48	17	127.772	Ab3･Ca3			
	SKP6	円形	(48)	(45)	20	127.718	Ab2(Ab1)		SB97	

第８表　柱穴一覧（４）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LK51	SKP7	円形	55	50	8	127.901	Ac2			
LK52	SKP1	円形	(16)	(14)	14	127.758	Ab3(Ab2)			
	SKP2	円形	37	32	11	127.810	-			
	SKP4	円形	25	21	31	127.599	Ab1	炭化物		
	SKP5	円形	19	17	31	127.588	Ab1	炭化物		
	SKP6	円形	(14)	(9)	4	127.790	Ab1			
	SKP9	円形	17	14	8	127.707	Ca1			
LK53	SKP1	円形	(38)	(22)	(15)	127.527	Ab2			LK53⑬より新
	SKP2	円形	(18)	(17)	(6)	127.551	Ab2			LK53④より新、⑭より旧
	SKP3	円形	(23)	(20)	(14)	127.545	Ab3			
	SKP4	円形	(25)	(20)	(8)	127.585	Ab3			LK53②より旧
	SKP5	円形	(24)	(18)	(30)	127.360	Ab2			LK53⑭より新
	SKP6	円形	(17)	(15)	(17)	127.450	D	鉄滓1点		
	SKP7	円形	(27)	(18)	(14)	127.708	Db3			LL52⑬・LL53⑧より旧
	SKP11	円形	(22)	(20)	(5)	127.690	Db2			LK53⑫より新
	SKP12	円形	(22)	(19)	(11)	127.640	D			LK53⑪より旧
	SKP13	円形	(41)	(33)	(37)	127.308	Db1			LK53①より旧
	SKP14	円形	(23)	(9)	(25)	127.363	Ab3			LK53②より新、⑤より旧
	SKP17	円形	(24)	(23)	(17)	127.490	D			SK77より新
	SKP18	円形	(15)	(13)	(8)	127.498	D			
LK54	SKP2	円形	(24)	(23)	(8)	127.441	Ab2			
LK55	SKP1	円形	26	22	17	127.496	Ab2(Ab1)	炭化物		
	SKP4	円形	39	38	35	127.365	Ab2(Ab2)			
	SKP5	円形	40	33	10	127.348	Ba1(Ab3)	焼土・炭化物		
	SKP6	円形	24	20	14	127.448	Ab2			
	SKP7	方形	41	37	16	127.455	Dc1	炭化物		
	SKP15	方形	(12)	(6)	9	127.611	Ab1			
LK56	SKP1	円形	32	28	38	127.308	Ab3(Ad2)			
	SKP3	円形	17	15	26	127.429	Ab2			
	SKP4	円形	12	11	8	127.623	Ab3			
	SKP5	円形	26	19	1	127.607	Ba2			
	SKP6	円形	20	20	9	127.550	Ab1	焼土・炭化物		
	SKP9	円形	17	14	7	127.600	Ba3			
	SKP10	円形	26	21	16	127.503	Ab1	炭化物		
	SKP11	円形	17	15	11	127.447	Ab2	焼土・炭化物		
	SKP12	円形	21	20	16	127.564	Ab2			
	SKP13	円形	13	12	6	127.626	Ab3			
	SKP14	円形	19	18	6	127.631	Ab2	炭化物		
LK57	SKP1	円形	18	17	2	127.414	Ab3(Ad2)			
LK59	SKP1	円形	(18)	(15)	(12)	127.587	Ab3(Ba3)			
	SKP2	円形	(16)	(15)	(18)	127.547	Ab2・Ab3(Ab1・Ab2)			
	SKP3	円形	(18)	(17)	13	127.601	Ab2(Ba3)			
	SKP4	円形	(24)	(12)	(15)	127.724	Ab2(Ab1)			
LK60	SKP1	円形	20	17	19	127.698	Ab2・Ab3			
LK61	SKP1	方形	22	18	20	127.671	Ab2(Ab1・A)			
	SKP2	円形	38	35	33	127.554	Ab1・A・Ab1		SA93	
	SKP3	円形	30	29	55	127.330	Ab3・Ab2(Ab1)		SA91	
	SKP4	円形	29	26	23	127.654	Ab2			
	SKP5	円形	16	16	18	127.715	Ab2・Ba2		SA92	
LK62	SKP1	方形	23	23	14	127.695	Ab1・Ab2			
	SKP2	方形	21	21	19	127.644	Ab1・Ab3			
	SKP3	円形	33	29	28	127.504	Ab1・Ba3(A)			
	SKP4	円形	14	12	14	127.647	Ab1			
	SKP5	円形	22	21	27	127.513	Ba3(Ab1・A)			
LK63	SKP1	円形	19	17	7	127.730	Ab3(Ab2)			
	SKP2	円形	18	14	16	127.682	Ab2・Ba2(Ab2)			
	SKP3	方形	8	8	6	127.743	Ab2			
	SKP4	円形	15	14	15	127.600	Ab2			
	SKP5	楕円形	34	22	(20)	127.416	Ab2			
LK64	SKP1	円形	16	13	12	127.623	Ab1			
	SKP2	円形	17	17	(33)	127.383	Ab2			
LL49	SKP1	円形	(37)	(26)	21	127.639	Ab1			
LL50	SKP1	円形	64	51	19	127.661	Ac2(Ac1)		SB97	
	SKP3	円形	37	36	12	127.861	Ac2			
LL51	SKP2	円形	24	20	29	127.561	Ac2			
	SKP3	円形	38	36	17	127.693	Ab1(Ab2)			
	SKP4	円形	27	24	27	127.597	Ac2			
	SKP5	円形	(39)	(38)	47	127.415	Ac2			
	SKP6	円形	19	18	11	127.800	Ac2			
	SKP7	円形	(52)	(34)	14	127.765	-			

第９表　柱穴一覧（５）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LL52	SKP1	円形	(25)	(17)	10	127.778	Ba1			LL52②より旧
	SKP2	円形	29	27	25	127.619	Ba1		SA106	LL52①より新
	SKP3	円形	18	12	20	127.681	Ba1			
	SKP4	円形	21	20	32	127.554	Ba2(Ab1)			
	SKP5	円形	18	15	13	127.739	Bd2			
	SKP6	円形	25	21	10	127.797	Ba1(Ab1)			
	SKP7	円形	45	36	9	127.739	Ac1		SB97	
	SKP8	円形	(28)	(27)	24	127.655	Ab2(Ab1)			LL52⑨より旧、⑫より新
	SKP9	円形	47	45	23	127.635	Ab2(Ba2)	炭化物	SB97	LL52⑧･⑫より新
	SKP10	方形	32	25	13	127.745	Bd1			
	SKP11	円形	24	22	25	127.514	Db2			
	SKP12	円形	(30)	(19)	29	127.624	-			LL52⑧･⑨より旧
	SKP13	方形	25	21	15	127.706	-			LK53⑦より新
	SKP15	円形	41	35	45	127.354	Bd2			
	SKP16	方形	25	23	17	127.698	Ba1(Db1)			
	SKP19	方形	28	23	16	127.667	Ac2･Ca2	焼土･炭化物		
	SKP20	方形	28	25	9	127.715	Da1			
	SKP21	円形	50	46	12	127.680	Ac2			
LL53	SKP1	円形	21	18	12	127.772	Ab2(Ab1)			
	SKP2	円形	25	23	12	127.715	Ac1			
	SKP3	円形	(63)	(55)	12	127.735	Ab1(Ba2)	炭化物	SB97	SK99より旧
	SKP5	円形	42	39	24	127.611	Ab1	焼土･炭化物		
	SKP7	円形	20	20	23	127.644	Da1		SA106	
	SKP8	円形	22	18	13	127.729	Ab2			LK53⑦より新
	SKP11	円形	18	18	16	127.688	Db1	炭化物		
	SKP13	円形	20	20	15	127.697	D	炭化物	SA106	
	SKP15	円形	22	18	8	127.744	Ab2	炭化物		
	SKP16	円形	25	23	22	127.618	D	炭化物	SA106	
	SKP17	円形	24	22	18	127.688	Cd3			
	SKP18	円形	14	12	27	127.575	Ba1(D)			
	SKP19	円形	25	24	21	127.555	Db1			SK76･LL53⑳より新
	SKP20	円形	(22)	(22)	(8)	127.702	Db1			SK76･LL53㉒より新、⑲より旧
	SKP21	円形	(30)	(29)	(10)	127.749	Db2			LL53㉒より旧
	SKP22	円形	(14)	(12)	(12)	127.743	Bd3			SK76･LL53㉑より新、⑳より旧
LL54	SKP1	円形	(25)	(22)	(14)	127.604	Ab2	炭化物		
	SKP2	円形	25	21	15	127.632	Ab3(Ab2)	炭化物		
	SKP3	円形	22	21	39	127.431	Ab2(Ab1)	焼土･炭化物		LL55⑧より新
	SKP6	円形	(27)	(23)	(26)	127.498	Cd3	炭化物		
	SKP7	円形	(23)	(21)	(21)	127.523	Cd3	炭化物		
LL55	SKP1	円形	31	30	17	127.495	Ba3(Ad2)	炭化物		
	SKP2	円形	(15)	(13)	(8)	127.396	Ab1			
	SKP3	円形	(58)	(34)	(51)	127.265	Ab3(Ab1)	炭化物		
	SKP5	円形	34	30	20	127.671	Ab3			LL55⑧より新
	SKP6	円形	23	17	44	127.401	Ab3			
	SKP7	円形	(26)	(23)	(12)	127.601	Ba2			
	SKP8	円形	(38)	(34)	8	127.737	Ab2			LL54③･LL55⑤より旧
	SKP9	円形	(14)	(9)	(15)	127.555	Ab3			
	SKP10	円形	30	15	18	127.525	Ba1(Ab2)			
	SKP11	円形	16	11	10	127.560	Ab3			
LL56	SKP1	円形	19	17	20	127.466	Ba3(Ab2)			
	SKP2	円形	29	27	33	127.336	Ba3(Ab2)			
	SKP3	円形	32	22	10	127.590	Ba2(Ab3)			
	SKP4	円形	32	29	18	127.522	Ba1(Ba2)			
	SKP5	円形	(12)	(12)	(15)	127.515	Ab2			
LL57	SKP1	円形	32	17	19	127.459	Ab2(Ab1)			
	SKP2	円形	25	22	26	127.414	Ab3	炭化物		
	SKP3	円形	21	18	24	127.361	Ab3			
	SKP4	方形	15	14	21	127.509	Ab1			
	SKP5	円形	28	16	14	127.525	Ab2			
	SKP6	方形	17	15	24	127.410	Ba3(Ab2)			
LL60	SKP1	円形	28	26	25	127.384	Ab2･Ba3(Ab1)		SA93	
	SKP2	円形	(25)	(22)	(21)	127.495	Ab3･Ba2(Ab2)		SA93	
LL61	SKP1	円形	(32)	(24)	(5)	127.680	Ab3(Ab1)			
	SKP2	円形	26	17	30	127.538	Ba2･Ab2(A)		SA93	
	SKP3	円形	24	23	13	127.784	Ba2(Ab1)			
	SKP4	方形	27	26	44	127.486	Ab2(Ab1･A)			
	SKP5	円形	18	16	17	127.693	Ba1(Ab2)			
	SKP6	円形	18	10	35	127.464	Ba2			
	SKP7	円形	(27)	(27)	31	127.528	Ab2･Ab3			LL61⑧より旧
	SKP8	円形	18	14	24	127.606	Ab1･Ab2			LL61⑦より新

第10表　柱穴一覧（６）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LL62	SKP1	楕円形	(28)	(26)	18	127.648	Ab3･Ba2			LL62②より旧
	SKP2	円形	20	19	35	127.487	Ab2(Ab1･A)			LL62①より新
	SKP4	円形	18	17	4	127.760	Ab3(Ab1)			
	SKP5	円形	18	14	19	127.628	Ba1(Ab2･A)			
	SKP6	円形	23	20	14	127.664	Ab2･Ba2(Ab1)			
LM48	SKP1	円形	21	21	10	127.500	Ba2(Ba3)			
	SKP2	円形	23	11	11	127.495	Ab2			
	SKP3	円形	15	15	15	127.498	Ab3			
	SKP4	方形	33	25	-	-	Ab2			
LM49	SKP3	楕円形	22	16	4	127.726	Ac3			
	SKP4	楕円形	28	21	18	127.525	Ac3			
	SKP5	楕円形	22	17	2	127.686	Ac3			
	SKP6	方形	21	20	5	127.691	Ac3			
LM50	SKP1	円形	39	37	7	127.715	Ab2(Ab1)			
	SKP3	円形	75	72	16	127.683	Ac2(Ac1･Ab1)			
	SKP4	不整形	23	13	12	127.795	Ac2			
	SKP6	円形	24	20	5	127.777	Ac2(Ac1)			
	SKP8	方形	18	17	14	127.646	Ac2			
	SKP9	円形	38	33	29	127.458	Ab1(Ab2)			
	SKP10	円形	24	20	14	127.623	Ac2			
LM51	SKP1	円形	32	30	12	127.670	Ab1(Ab2)			
	SKP2	円形	26	22	-	-	-			
	SKP3	円形	25	25	8	127.723	Ab1		SB97	
	SKP5	円形	63	59	28	127.590	Ab1	須恵器系中世陶器２点･炭化物	SB97	
	SKP6	円形	37	27	17	127.547	Ac1			
	SKP7	円形	33	31	9	127.749	Ac1			
	SKP8	円形	34	27	8	127.734	Ac1			
	SKP9	円形	33	30	8	127.750	-		SB100	
	SKP10	円形	(35)	(29)	7	127.758	Ac1		SB97	LM51⑪より旧
	SKP11	円形	33	30	7	127.719	Ac1			LM51⑩より新
	SKP13	円形	40	38	26	127.556	Ab1			
	SKP14	方形	22	15	26	127.549	Ac2			
	SKP16	円形	23	23	24	127.543	Ac2			
	SKP17	円形	46	37	33	127.413	Ab1(Ab2)			
	SKP19	円形	17	15	13	127.650	Ac2			
	SKP20	円形	14	12	6	127.790	Ab1			
	SKP22	円形	32	28	19	127.675	Ac2			
LM52	SKP1	楕円形	45	33	12	127.723	Ac2		SB97	
	SKP2	円形	(20)	(14)	8	127.628	Ac2			LM52③より旧
	SKP3	楕円形	40	28	7	127.736	Ac1			LM52②より新
	SKP6	円形	32	28	22	127.541	Ac1	炭化物		
	SKP7	円形	53	48	14	127.618	Ac1(Ad2)		SB97	
	SKP8	円形	18	17	11	127.659	Ac2			
	SKP9	円形	21	19	12	127.665	Ac2			
	SKP10	方形	24	23	8	127.720	Ac3			
	SKP13	円形	52	49	10	127.709	Ac2(Ac3)		SB97	
	SKP15	円形	12	11	45	127.350	Ac3			
	SKP17	不整形	32	26	10	127.694	Ac3			
LM53	SKP1	円形	49	48	11	127.606	Ac3(Ca3)	炭化物	SB97	
	SKP2	円形	(78)	(32)	12	127.684	-		SB97	SKI75より旧
	SKP6	円形	(34)	(19)	(5)	127.689	Ac1			SKI75より旧
	SKP7	円形	17	17	7	127.698	Ac1			
	SKP8	円形	65	59	16	127.680	Ab1(Ca3)		SB97	LM53⑨より新
	SKP9	円形	(30)	(15)	-	-	Ad1			LM53⑧より旧
	SKP12	円形	30	24	19	127.655	Cd1	炭化物		
	SKP13	円形	46	37	7	127.770	Ca2(Ca1)			
LM54	SKP1	円形	(29)	(26)	(29)	127.469	Ab2(Dc1)	炭化物		
	SKP2	円形	(20)	(17)	(21)	127.568	Ab2	炭化物		
	SKP3	円形	(18)	(14)	(17)	127.622	Ba3	炭化物		
	SKP5	円形	(20)	(18)	(19)	127.593	Ba2	炭化物		
	SKP6	円形	(23)	(22)	(15)	127.619	Ba2(Ab1)	炭化物		LM54⑧より新
	SKP7	円形	(33)	(30)	(25)	127.528	Ad1(Ab2)	炭化物		LM54⑧より新
	SKP8	円形	(35)	(27)	(9)	127.680	Ab3(Ab2)	炭化物		LM54⑥･⑦より旧
	SKP9	円形	65	57	23	127.588	Ad1	炭化物		
	SKP11	円形	63	52	8	127.681	Ad3(Da1)	炭化物	SB97	
	SKP12	円形	12	8	5	127.775	-			
	SKP13	円形	(36)	(34)	(20)	127.627	Ab2(Ab3)	炭化物		
	SKP14	円形	35	33	29	127.615	Ac1	炭化物		
LM55	SKP1	円形	(21)	(20)	(13)	127.671	Ab3(Ab1)	炭化物		

第11表　柱穴一覧（７）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LM55	SKP2	円形	(13)	(13)	(10)	127.786	Ab3			
	SKP3	円形	(32)	(23)	(14)	127.666	Ab2			LM55⑥より新
	SKP4	円形	27	25	13	127.694	Ba2			
	SKP5	円形	24	21	20	127.640	Ba2			
	SKP6	円形	(56)	(34)	(29)	127.538	Ba3			LM55③･⑫より旧
	SKP7	方形	(34)	(24)	(15)	127.679	Ab2			
	SKP8	円形	14	13	23	127.596	Db1(Ab2)			
	SKP9	円形	55	43	49	127.354	Ab2(Ab1)	炭化物		
	SKP10	円形	19	19	29	127.599	Ba1			
	SKP11	方形	28	26	31	127.502	Db1			
	SKP12	円形	(13)	(12)	16	127.668	Db1			LM55⑥より新
LM56	SKP1	円形	(40)	(29)	(13)	127.574	Ba3(Ab1)			
	SKP2	円形	40	38	47	127.156	Da1	炭化物		
	SKP3	円形	(21)	(17)	(8)	127.533	Da1(Ad2)			
	SKP4	方形	(22)	(22)	(26)	127.352	Ab1			
	SKP5	方形	(23)	(20)	(71)	126.942	Ab1			LM56⑨より新
	SKP6	円形	(22)	(21)	(74)	126.962	Ab2	炭化物		LM56⑧より新
	SKP7	円形	(25)	(24)	(20)	127.272	Ab2			
	SKP8	円形	(20)	(16)	(75)	126.960	Ab2	炭化物		LM56⑥より旧
	SKP9	円形	(28)	(22)	(8)	127.596	Ab3(Ab2)			LM56⑤より旧
	SKP10	円形	(30)	(29)	(10)	127.468	Ba1			
LM57	SKP1	方形	15	14	12	127.500	Ab2(Ab1)			
	SKP2	方形	22	20	12	127.537	Ab2			
	SKP3	楕円形	26	21	22	127.457	Ab2(Ab1)			
LM58	SKP1	円形	18	13	10	127.490	Ac2			
	SKP2	円形	26	19	8	127.515	Ac2			
	SKP3	円形	16	13	10	127.555	Ab2			
LM60	SKP1	円形	16	14	5	127.658	Ab3			
LM61	SKP1	円形	22	20	15	127.567	Ab3			
	SKP2	円形	26	20	11	127.645	Ab2			
	SKP3	円形	18	14	11	127.645	Ba3(Ab2)			
	SKP4	円形	33	32	17	127.574	Ba2(Ab2)			
	SKP6	円形	14	10	19	127.497	Ba2(Ab1)			
	SKP7	方形	12	12	17	127.506	Ab1			
LM62	SKP2	円形	20	18	18	127.663	Ab3･Ab1･Ab3			
	SKP3	方形	24	18	35	127.471	Ab2(Ab1)			
	SKP4	方形	14	13	15	127.629	Ab3			
	SKP5	方形	(36)	(30)	26	127.524	Ba2･Ab3(Ab1)			
	SKP6	方形	28	27	20	127.570	Ab3･Ba1(Ab3)			
	SKP7	円形	23	20	-	-	Ba2(Ab2)			
LM63	SKP1	円形	20	19	16	127.562	Ab3･Ab2(Ab1)			
LM64	SKP1	円形	25	24	26	127.432	Ab1(A)			
LN47	SKP1	円形	-	-	23	127.655	Ab2･Ab1･Ba2･Ba1			SK13より旧
	SKP2	円形	24	18	15	127.757	Ab2			
	SKP3	方形	58	55	11	127.794	Ab1			
LN48	SKP1	円形	18	17	27	127.548	Db2			
	SKP2	円形	14	12	17	127.678	Db3			
	SKP3	円形	22	16	17	127.670	Db2			
	SKP4	円形	13	12	4	127.775	Db1			
	SKP5	円形	38	20	40	127.432	Db1			
	SKP6	円形	(27)	(25)	(20)	127.229	Db2(Ab1)			
	SKP7	円形	(23)	(21)	(31)	127.149	Db2			
LN49	SKP1	円形	27	24	42	127.493	Db2			
	SKP2	円形	32	27	35	127.544	Ab1			
	SKP6	方形	(39)	(32)	33	127.533	Ab2			SK07より旧、LN49⑧より新
	SKP7	楕円形	(76)	(41)	29	127.492	Ab2		SB61	
	SKP8	円形	(37)	(15)	(7)	127.559	Ab2			SK07･LN49⑥より旧
LN50	SKP2	円形	23	19	4	127.695	Ab2(Ab1)			
	SKP3	円形	32	31	4	127.685	Ab1(Ab2)			
	SKP4	円形	26	24	14	127.586	Ab2(Ab1)			
	SKP5	円形	36	32	7	127.660	Ab2(Ab1)		SB100	
	SKP6	円形	24	23	8	127.665	Ab1(Ab2)			
	SKP8	円形	35	34	17	127.549	Ab1(Ab2)			
	SKP9	円形	58	55	22	127.555	Ab3		SB100	
	SKP10	円形	23	22	13	127.603	Ab2			
LN51	SKP1	円形	(53)	(49)	27	127.379	Ac2			LO51①より旧
	SKP2	円形	30	26	11	127.631	Ac2		SB100	
	SKP3	円形	65	56	7	127.646	Ab1(Ab2)		SB100	
	SKP4	円形	46	43	17	127.484	Ac2			
	SKP5	円形	(27)	(18)	25	127.450	Ac2			SK53より旧
LN52	SKP1	円形	50	38	11	127.616	Ac1		SB97	

第12表　柱穴一覧（８）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LN52	SKP2	円形	(41)	(40)	4	127.700	Ac2		SB97	LN52③より旧
	SKP3	円形	77	69	15	127.598	Ac2(Ac2)		SB100	LN52②より新
	SKP4	円形	19	17	9	127.640	Ac2			
	SKP5	円形	27	27	10	127.631	Ac2(Ac1)			
	SKP6	円形	33	33	9	127.674	Ac2(Ac1)			
	SKP7	円形	(47)	(44)	13	127.649	Ca3(Ab1)		SB97	LO52①より旧
	SKP8	円形	39	39	6	127.691	Ac2			
	SKP9	円形	46	33	11	127.637	Ac2			
	SKP10	円形	24	21	8	127.673	Ac2			
	SKP11	円形	48	39	17	127.619	Ac2			
	SKP12	円形	42	39	18	127.575	Ac2			
LN53	SKP1	方形	43	37	6	127.679	Ac2			
	SKP2	円形	44	38	9	127.656	-		SB97	
	SKP3	円形	42	32	10	127.691	Ac2	炭化物	SB97	
LN54	SKP1	円形	60	54	21	127.585	Ca3(Ac2)		SB65	
	SKP2	円形	29	25	9	127.711	(Ac2)		SB65	
	SKP3	円形	39	34	3	127.598	Ad2(Ad3)		SB97	LN54⑪より新
	SKP4	円形	32	28	14	127.744	Ad2(Ad1)	炭化物		
	SKP5	円形	21	19	9	127.767	Ad2	炭化物		
	SKP6	円形	38	34	13	127.651	Ca3(Ac2)		SB65	
	SKP7	円形	47	47	6	127.666	Ac2(Ac1)		SB65	
	SKP9	円形	47	46	15	127.667	Ac3(Ba3)		SB65	
	SKP10	円形	42	32	17	127.705	Ca3(Ac1)		SB66	LN55⑮より新
	SKP11	方形	(45)	45	2	127.667	Ad1(Ad2)	炭化物		LN54③より旧
	SKP12	円形	30	27	8	127.740	-		SB65	
	SKP13	円形	31	27	24	127.552	Bd1	炭化物		
LN55	SKP1	円形	47	42	24	127.605	Ab1(Ab1)		SB65	
	SKP2	円形	(36)	(32)	(30)	127.523	Ab1			
	SKP3	円形	(60)	(49)	22	127.645	Ab3(Ab1)	焼土･炭化物	SB65	LN55⑪より旧
	SKP4	円形	(36)	(30)	(19)	127.637	Ab2(Ab2)		SB66	
	SKP5	円形	(15)	(14)	(9)	127.716	Ab3			
	SKP6	円形	23	23	40	127.465	Ab3(Bd1)			
	SKP9	円形	34	24	34	127.525	Ab2(Ab2)			
	SKP10	円形	32	30	29	127.589	Ab2(Ab1)			LN55⑪･⑫より新
	SKP11	円形	(26)	(24)	16	127.708	Ab1		SB66	LN55③･⑫より新、⑩より旧
	SKP12	円形	(22)	(13)	25	127.618	Ab2			LN55⑩･⑪より旧
	SKP13	円形	30	26	14	127.755	Ab2(Ba1)	炭化物		
	SKP14	円形	20	18	13	127.744	AB2			
	SKP15	円形	(51)	(42)	20	127.686	Ab2(Ab1)		SB65	LN54⑩より旧
	SKP16	円形	37	37	38	127.476	Db1	炭化物		
LN56	SKP1	円形	27	22	(14)	127.641	Ba1(Ab2)			
	SKP2	円形	21	20	(30)	127.500	Ab2			LN56③より新
	SKP3	円形	(13)	(12)	(2)	127.718	Ab2			LN56②より旧
	SKP4	円形	22	20	14	127.662	Ba1(Ab2)	炭化物		
	SKP5	円形	34	30	35	127.407	Ab2(Ad2･Ab2)			
	SKP6	円形	22	19	35	127.530	Da1			LN56⑦より新
	SKP7	円形	(34)	(25)	41	127.489	Ab1(Da2)			LN56⑥より旧
LN57	SKP1	円形	34	32	37	127.459	Ab1(Ad1)			
LN62	SKP1	円形	22	20	14	127.729	Ab2			
LN63	SKP1	円形	21	17	12	127.664	Ab1			
LO47	SKP1	円形	22	19	17	127.600	Ba2			
	SKP2	方形	26	25	59	127.243	Db1			
LO48	SKP1	円形	22	20	33	127.414	Da1			
	SKP2	円形	21	19	18	127.570	Db1			
	SKP3	円形	-	-	26	127.478	Ab2			LO48④･⑯より旧、⑰より新
	SKP4	円形	46	42	39	127.347	Ab2(Ab1)		SB62	LO48③･⑯･⑰より新
	SKP5	円形	25	22	23	127.522	Db1			
	SKP6	円形	26	26	22	127.555	Da1			
	SKP7	円形	24	23	12	127.674	Db1			
	SKP8	円形	30	27	20	127.568	Ab2			
	SKP9	円形	16	13	16	127.605	Ab1			
	SKP10	円形	22	20	32	127.473	Bd1			
	SKP12	円形	16	16	15	127.618	Da1			
	SKP13	円形	(17)	(15)	8	127.685	Da1			SK08より旧
	SKP15	円形	35	32	36	127.373	Db1			SK11より旧
	SKP16	円形	-	-	36	127.373	Ab3		SB61	SK11･LO48③より新、④より旧
	SKP17	円形	(40)	(37)	33	127.375	Ab2･Ba2		SB59	LO48③･④より旧
LO49	SKP1	円形	39	33	27	127.546	Ab2		SB62	
	SKP2	円形	15	14	14	127.630	Ab2			LP49③より新
	SKP3	円形	19	19	16	127.595	Ab2			LP49③より新

第13表　柱穴一覧（９）

地区	番号	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LO49	SKP4	円形	66	58	22	127.566	Ab3(Ab2)		SB59	LO49⑤より新
	SKP5	円形	(28)	(23)	8	127.735	Ba1			LO49④より旧
	SKP6	円形	35	35	37	127.444	Ab3(Ab2)			LO49⑱より新
	SKP7	円形	47	41	26	127.547	Ba1(Ab1)	かわらけ1点		
	SKP8	円形	-	-	22	127.547	Ab1・Ab2(Ab3)		SB61	SK05・LO49⑨・⑪より旧
	SKP9	円形	(66)	(56)	36	127.434	Ab2・Ab3(Ab1)		SB62	LO49⑧より新、⑪より旧
	SKP11	円形	47	43	24	127.525	Ab2	かわらけ1点		LO49⑧・⑨・⑫より新
	SKP12	円形	(67)	(55)	33	127.474	Ab2(A・Ab1)		SB59	LO49⑪より旧
	SKP14	円形	44	41	(44)	127.220	Ab2(Ab1)		SB62	LO49⑮より新
	SKP15	円形	(57)	(56)	47	127.255	Ba2(Ab1)		SB61	LO49⑭より旧、⑰より新
	SKP17	円形	51	47	28	127.466	Ba2(Ab1)・Ba1		SB59	LO49⑮より旧
	SKP18	円形	-	-	37	127.426	Ba2			LO49⑥より旧
	SKP19	円形	34	34	20	127.585	Bd2			LP49②・⑮より新
	SKP20	円形	-	-	9	127.765	Ba1			LO49㉑より旧
	SKP21	円形	50	45	30	127.532	Ab3(Ab1)		SB59	LO49⑳より新
	SKP22	円形	26	26	32	127.455	Ba2(Ab2)			
	SKP23	円形	21	13	-	-	Db1			
	SKP25	円形	(59)	(24)	34	127.440	Ab1		SB59	SK05より旧
	SKP26	円形	9	8	5	127.744	Ba1			
	SKP29	円形	14	14	10	127.725	Ab1			
	SKP31	円形	30	27	30	127.424	Db1			
	SKP32	円形	-	-	8	127.634	Ab2		SB61	
LO50	SKP1	円形	(68)	(58)	18	127.623	Ab2(Ab1)		SB59	
	SKP2	円形	20	14	23	127.546	AB1			
	SKP3	円形	(58)	(26)	10	127.669	Ab1(Ab2)			SK14より旧
	SKP5	円形	18	15	9	127.709	Db2			
	SKP6	円形	22	21	16	127.516	Ac3		SB100	
	SKP7	円形	35	25	24	127.420	Ac2			
	SKP8	円形	(53)	(50)	(11)	127.497	Ac3		SB61	
	SKP9	円形	(41)	(29)	(13)	127.499	Ac3		SB61	
LO51	SKP1	円形	67	66	25	127.451	Ab2(Ac2・Ab1)		SB100	LN51①より新
	SKP2	円形	28	24	14	127.595	Ac2			
	SKP3	円形	33	29	35	127.426	Ac2			
	SKP5	円形	37	32	10	127.523	Ac2			
	SKP6	円形	35	30	14	127.568	Ac2		SB100	
	SKP7	円形	41	34	26	127.420	Ac1			
	SKP8	円形	35	33	16	127.516	Ac2(Ac1)			
	SKP9	円形	50	45	32	127.397	Ab2(Ac1)			
	SKP11	円形	51	35	17	127.531	Ac2			
	SKP12	円形	32	32	16	127.547	Ac2(Ac1)			
	SKP13	円形	48	32	24	127.440	Ac2			
LO52	SKP1	円形	52	45	12	127.607	Ab2(Ab1・Ab2)		SB100	LN52⑦より新
	SKP2	楕円形	67	58	35	127.448	Ab1(Ab2)			
	SKP3	円形	54	49	26	127.549	Ab2(Ab1)			
	SKP5	円形	50	42	10	127.684	Ac2(Ac1)		SB100	
	SKP6	不整形	26	23	4	127.712	Ac1(Ad1)			
	SKP10	不整形	20	19	18	127.598	Ac2			
	SKP11	楕円形	(44)	(36)	13	127.665	Ab2			LO52⑯より旧
	SKP12	円形	37	30	18	127.575	Ac2			
	SKP13	不整形	30	30	27	127.525	Ab2(Ab1)			
	SKP16	楕円形	66	61	9	127.667	Ab3(Ab2・Ab1)		SB100	LO52⑪より新
LO53	SKP1	円形	60	58	16	127.651	Ac2(Ac1)		SB65	
	SKP3	円形	40	36	32	127.417	Da1(Da2)			
	SKP4	楕円形	38	35	7	127.664	Ab2(Ab1)			LO53⑤より新
	SKP5	円形	47	40	13	127.649	Ac2(Ac3)		SB97	LO53④より旧
	SKP6	円形	46	35	8	127.754	Ad1(Ad2)			LO53⑦より新
	SKP7	円形	-	-	(3)	127.754	Ad1			LO53⑥より旧
	SKP8	円形	56	50	11	127.710	Ac2			
	SKP9	円形	45	29	19	127.670	Ac3			LO53⑯より新
	SKP10	円形	47	36	18	127.660	Ac2(Ac1)			
	SKP11	楕円形	59	44	15	127.643	Ac3			
	SKP12	楕円形	33	25	17	127.569	Bc3			
	SKP13	円形	54	48	17	127.547	Ab2(Ab1)			
	SKP14	円形	28	26	13	127.690	(Ab2)		SB65	
	SKP16	円形	(46)	(40)	20	127.660	Ab2(Ab1)		SB65	LO53⑨より旧
	SKP17	方形	42	42	12	127.620	Ac2(Ac1)		SB65	
LO54	SKP1	円形	52	46	14	127.687	Ab3(Ab1)		SB65	
	SKP2	円形	29	28	5	127.795	Ab3(Ad3)		SB66	
	SKP3	円形	(23)	(23)	(17)	127.705	Ab1			
	SKP4	円形	(22)	(19)	(3)	127.653	Ba3			LP54④より新

第14表　柱穴一覧(10)

地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LO54	SKP5	円形	(24)	(22)	(4)	127.661	Da3		SB66	
	SKP6	円形	25	24	9	127.627	Ad2	炭化物		LO54⑫より新
	SKP9	円形	(40)	(37)	(11)	127.575	Ab3(Ab1)		SB65	LO54⑩より旧
	SKP10	円形	(18)	(18)	(13)	127.548	Da1			LO54⑨より新
	SKP11	円形	35	29	9	127.693	Ad1(Ad2)		SB66	LO54⑫より新
	SKP12	円形	(50)	(44)	(15)	127.647	Ab2(Ab1)		SB65	LO54⑥･⑪より旧
	SKP13	円形	24	21	6	127.785	-		SB66	
LO55	SKP1	円形	45	30	11	127.665	Ab3			LO55③･⑤より新
	SKP3	円形	(27)	(24)	27	127.507	Ab3(Ab2)		SB72	LO55①より旧
	SKP4	円形	(20)	(20)	39	127.470	Ad1(Ad3)			LO55㉒より旧
	SKP5	円形	(60)	(50)	30	127.491	Ab2(Ab3)		SB65	LO55①より旧
	SKP6	円形	(21)	(12)	16	127.677	Ab1			LO55⑱より旧
	SKP8	円形	31	26	59	127.272	Ab2(Ab1)		SB72	
	SKP9	円形	24	22	24	127.652	Ab1(Ab2)			
	SKP10	円形	23	20	19	127.706	Ab2(Ab1)			
	SKP11	円形	(20)	(17)	-	-	Ba1(Ab2)			
	SKP12	円形	(36)	(32)	(11)	127.575	Bc1(Ab3)		SB66	
	SKP13	円形	(18)	(15)	-	-	Ad1(Da2)			LO55⑭より新
	SKP14	円形	(19)	(17)	(13)	127.556	Ad1			LO55⑬より旧
	SKP15	円形	(27)	(22)	(12)	127.585	Ab1(Ab3)	焼土･炭化物		
	SKP16	円形	(54)	(47)	(15)	127.599	(Ba3)		SB65	
	SKP18	円形	22	16	21	127.638	Ad1			LO55⑥より新
	SKP19	円形	26	21	10	127.805	Ad1			
	SKP20	円形	(39)	(38)	37	127.465	Ab1(Ad1)		SB66	LO55㉑･㉒より旧
	SKP21	円形	17	16	36	127.498	Ad1(Ad3)			LO55⑳･㉒より新
	SKP22	円形	(23)	(22)	23	127.641	Ab1			LO55④より新、㉑より旧
LO56	SKP1	円形	(30)	(27)	(30)	127.436	Ab2(Ab3)		SB73	
	SKP2	円形	(52)	(45)	(24)	127.486	Ab3(Ab2)		SB65	LO56③より旧
	SKP3	円形	(54)	(50)	(12)	127.000	Ab3(Ab1)		SB66	LO56②より新
	SKP4	円形	(36)	(33)	(31)	127.431	Ab1(A)		SB66	
	SKP5	円形	(22)	(22)	(25)	127.515	Ab2(Ca2)			
	SKP6	円形	(22)	(21)	(15)	127.602	Ab2	炭化物		
	SKP7	円形	(28)	(27)	(26)	127.478	Ab2(Ca2)	焼土･炭化物		
	SKP8	円形	38	35	37	127.357	A(Ab3)	焼土･炭化物	SB66	LO56⑨より新
	SKP9	円形	(57)	(52)	14	127.613	Ab1(Ab2)		SB65	LO56⑧より旧、LP56⑮より新
	SKP10	円形	(28)	(25)	49	127.244	Ab2(Ad3)	炭化物	SB72	LO56⑪より旧
	SKP11	円形	44	43	13	127.572	Ab2(Ab1)			LO56⑩より新
	SKP13	円形	46	42	34	127.384	Ab1(Ad1)		SB66	
	SKP14	円形	22	17	19	127.529	Ab2			
	SKP15	円形	26	20	31	127.436	Ab1			
	SKP16	円形	(21)	(20)	(15)	127.599	Ba1(Ab1)		SB73	
	SKP17	円形	(50)	(49)	(35)	127.476	Ba2(Ab2)		SB65	
	SKP19	円形	20	17	16	127.606	Ab2			LO56㉑より新
	SKP20	円形	42	34	31	127.510	Ac2(Ad3)		SB66	
	SKP21	円形	(29)	(29)	22	127.612	Ab3(Ab2)			LO56⑲より旧
LO58	SKP1	円形	20	16	24	127.412	Ab1			
	SKP2	円形	20	18	35	127.332	Ab1			
LO63	SKP1	円形	27	22	28	127.510	Ab2(A)			
	SKP2	円形	24	23	28	127.510	Ab3(Ab2)			
	SKP3	円形	16	12	10	127.686	Ba2			
	SKP4	円形	20	20	13	127.687	Ba1(Ab1)			
	SKP6	円形	20	13	11	127.695	Ab1			
	SKP7	円形	21	18	17	127.656	Ba2(Ab1)			
	SKP8	円形	26	22	19	127.546	Ba3(Ab1)			
LO64	SKP1	方形	31	29	17	127.696	Ab3			LO64②･④より新
	SKP2	円形	-	-	18	127.681	Ab2			LO64④より新、①･⑤より旧
	SKP4	方形	(40)	(32)	34	127.527	Ab1･Ba2	焼土		LO64①･②より旧
	SKP5	方形	23	20	31	127.562	Ab3			LO64②より新
	SKP6	円形	22	17	3	127.807	Ab2(Ab1)			
	SKP7	円形	16	14	10	127.659	Ab1			
	SKP9	円形	(44)	(44)	7	127.750	Ab1			LO64⑩･⑪より旧
	SKP10	円形	29	25	31	127.526	Ab2(Ab1)			LO64⑨より新
	SKP11	円形	35	22	36	127.460	Ba2			LO64⑨より新、⑫より旧
	SKP12	方形	23	20	18	127.639	Ab1			LO64⑪より新
	SKP13	円形	25	22	35	127.490	Ab2(Ab1)			
	SKP14	方形	26	23	20	127.618	Ab2･Ba2(Ab1)			
	SKP15	円形	14	12	12	127.696	Ab1			
	SKP16	円形	17	16	14	127.679	Ab1			
	SKP18	方形	(25)	(18)	43	127.405	Ba2			LO64⑲より旧
	SKP19	円形	27	22	27	127.559	Ab1			LO64⑱より新

第15表　柱穴一覧(11)

地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LO64	SKP20	方形	23	23	40	127.380	Ab1(A)			
LO65	SKP1	円形	(18)	(11)	13	127.631	Ab1			
LP47	SKP1	円形	60	50	48	127.244	Ab2(Ab1)			
	SKP2	円形	20	17	13	127.576	Ad2(Ab1)		SA82	
	SKP3	方形	24	23	14	127.654	Ba1			
LP48	SKP1	円形	30	26	43	127.307	Ab2(Ab1)		SB62	LP48⑯より新
	SKP2	円形	24	23	8	127.610	Ab2			
	SKP3	円形	42	35	38	127.374	Ab2(Ab1)		SB62	LP48④･⑤より新
	SKP4	円形	(59)	(58)	30	127.439	Ab3		SB61	LP48⑤より新、③より旧
	SKP5	円形	(29)	(29)	19	127.575	Ab2		SB59	LP48③･④より旧
	SKP6	円形	23	19	17	127.575	Ad1			
	SKP8	方形	(48)	(45)	27	127.459	Ab1(Ab2)		SB59	LP48⑨より旧
	SKP9	円形	(53)	(42)	41	127.305	Ab2			LP48⑧･⑩より新、⑰より旧
	SKP10	円形	-	-	46	127.255	Ab2		SB61	LP48⑨･⑰より旧
	SKP11	円形	(64)	(52)	56	127.106	Ab2･Ab1･A		SB63	SK21より旧
	SKP12	方形	26	25	11	127.617	Ba2			
	SKP13	円形	18	18	22	127.504	Db2			
	SKP14	円形	18	14	20	127.544	Db1			
	SKP15	円形	23	21	21	127.516	Da1			LP49①より新
	SKP16	円形	(62)	(56)	43	127.317	Ab1(Ab2)		SB61	LP48①より旧
	SKP17	円形	52	39	61	127.110	Ab2(Ab1)･Ba2		SB62	LP48⑨･⑩より新
LP49	SKP1	円形	(65)	(58)	26	127.440	Ab3･Ab2･Ab1(Ab1)		SB59	LP48⑮･LP49②･⑮より旧
	SKP2	円形	(54)	(52)	(13)	127.617	Ba2		SB61	LP49①より新、 LO49⑲･LP49⑮より旧
	SKP3	円形	(62)	(57)	43	127.330	Ab1･Ab2	須恵器系中世陶器１点	SB63	LO49②･③より旧
	SKP4	円形	66	61	22	127.467	A･Ab1		SB63	
	SKP5	方形	48	46	31	127.400	Ab3(Ab1)		SB59	
	SKP6	円形	63	59	28	127.417	Ab1(Ab2)		SB63	
	SKP7	円形	65	62	36	127.347	Ab2(Ab1)		SB59	
	SKP8	円形	60	57	21	127.528	Ab2･Ab3		SB63	
	SKP9	円形	68	62	20	127.497	Ab2(Ab1･A)		SB59	
	SKP11	円形	70	66	27	127.365	Ab3･Ab1(Ab2)		SB63	
	SKP13	円形	47	45	45	127.305	AB2(Db1)		SB62	LO50⑤より新
	SKP15	円形	(54)	(47)	53	127.233	Ab1･Ab3(Ab2)･Ab1		SB62	LP49①･②より新、 LO49⑲より旧
	SKP19	円形	23	21	11	127.615	Db2			
LP50	SKP1	方形	53	49	32	127.432	Ab2(Ab1)		SB62	LP50②より新
	SKP2	方形	(53)	(44)	21	127.528	Ab2(Ab1)		SB61	LP50①より旧
	SKP3	円形	-	-	17	128.538	Ba1(Ab3)		SB63	SK05より旧
	SKP4	円形	(67)	(53)	14	127.560	Ba2[Ab1]		SB61	LP50⑪･⑫より旧
	SKP5	円形	(59)	(56)	31	127.439	Ba2[Ab1]		SB61	LP49⑬より旧
	SKP6	方形	27	25	22	127.504	Ba2			
	SKP7	円形	68	57	18	127.568	Ba1(Ab3)		SB63	
	SKP9	円形	(62)	(48)	29	127.474	Ab2(Ab1)		SB62	SK15より旧、LP50⑭より新
	SKP11	円形	40	38	25	127.567	Ab2(Ab1)		SB62	LP50④より新
	SKP12	円形	33	22	18	127.620	Ab2			LP50④より新
	SKP13	円形	(32)	(25)	(3)	127.601	Ab1		SB59	
	SKP14	円形	(65)	(49)	(11)	127.605	Ab3[Ab2]		SB61	SK15･LP50⑨より旧
LP51	SKP1	円形	(73)	(66)	(30)	127.335	Ac1			
	SKP2	円形	(72)	(51)	(19)	127.425	Ab3(Ab1)		SB59	SK50より旧
	SKP3	円形	(89)	(65)	(29)	127.333	Ab3(Ab1)		SB60	SK03より旧、LP51④より新
	SKP4	方形	(46)	(30)	(35)	127.314	Ab2(Ab1)		SB59	LP51③より旧
	SKP5	円形	(28)	(28)	23	127.589	Ba2(Ab2)			SK26より旧
	SKP6	円形	72	72	38	127.389	Ab3(Ab1･Ab2)		SB100	
	SKP7	方形	(72)	(56)	36	127.410	Ab1	かわらけ２点		
LP52	SKP1	方形	(54)	(49)	47	127.344	Ab2･Ab3(Ab1･Ab2)			
	SKP3	円形	(28)	(27)	(18)	127.475	Ba2			SK26･51より旧
	SKP4	円形	39	35	15	127.681	Ba2			
	SKP5	円形	79	64	27	127.435	Ab2[Ba1]			
	SKP6	円形	45	42	25	127.480	Ba1(Ba1)			
	SKP7	方形	23	23	11	127.725	Ab2(Ab1)			
	SKP8	円形	27	23	11	127.650	Ad2(Ab1)			
	SKP9	方形	26	20	17	127.555	Bc2(Ab1)			
LP53	SKP1	円形	32	23	15	127.659	Ab2			
	SKP2	円形	28	14	18	127.692	Ab1			
	SKP4	円形	(78)	(69)	48	127.360	Ab2(Ca1)		SA69	
LP54	SKP1	円形	(30)	(25)	(11)	127.644	Ab1(Ab2)		SB66	
	SKP2	円形	(46)	(43)	(19)	127.692	Ba3(Ab3)		SB65	LP54③より旧
	SKP3	円形	(39)	(18)	(19)	127.700	Ab1(Ab2)			LP54④より旧、②より新
	SKP4	円形	(40)	(40)	(33)	127.564	Ab1(Ab2)			LP54③より新、LO54④より旧

第16表　柱穴一覧(12)

地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LP54	SKP5	円形	40	39	(61)	127.280	Ab3(Ab2)		SB66	
	SKP6	円形	43	36	(37)	127.502	Ab2(Ab1)			
	SKP8	円形	56	50	38	127.518	Ab2(Ab1)・A		SB65	
	SKP9	円形	24	18	12	127.783	Ba1			
	SKP10	円形	14	13	16	127.742	Ab1			
	SKP12	円形	25	20	36	127.554	Ab2(Ab3)			
	SKP13	円形	17	13	20	127.697	Ab1			
	SKP14	円形	20	18	18	127.717	Ab2			
	SKP15	円形	20	18	12	127.761	Ab2			
	SKP16	円形	(15)	(15)	(12)	127.801	Ab1			
	SKP17	円形	24	22	19	127.732	Ab2(Ab3)			
	SKP18	円形	39	36	19	127.704	Ab3(Ab2)			LP54⑲より新
	SKP19	円形	(80)	(77)	(45)	127.450	Ab2(Ab2)		SA69	LP54⑱より旧
	SKP20	円形	16	15	23	127.647	Ab2			
	SKP21	円形	(22)	19	(40)	127.412	Ba2			SK35より旧
LP55	SKP1	円形	(38)	(36)	45	127.359	Ab2(Ab3)		SB65	LP55②・③より旧
	SKP2	円形	(23)	(14)	12	127.688	Ab1	炭化物		LP55①より新、③より旧
	SKP3	円形	60	50	17	127.701	D			LP55①・②より新
	SKP6	円形	34	32	42	127.298	Ad1(Ad2)	炭化物	SB66	
	SKP7	円形	23	23	22	127.494	Ab2(Ab1)			
	SKP8	円形	(22)	(22)	17	127.550	Ab2(Ad1)	炭化物		LQ55③より新
	SKP9	円形	42	40	33	127.385	Ab1(Ad1)		SB66	
	SKP10	円形	(44)	(40)	41	127.269	Ab1・Ba1(Ab1)	焼土・炭化物	SB65	LP55⑪より旧
	SKP11	円形	43	42	36	127.316	Ab2(Ad2)		SB66	LP55⑩より新
	SKP12	円形	20	18	7	127.613	Ba2(Ab2)			
	SKP13	円形	33	28	37	127.490	Ab1(Ad2)		SB72	
	SKP14	円形	15	12	17	127.706	Ab2			
	SKP15	円形	32	31	43	127.316	Ab2(Ad2)		SB66	
	SKP16	円形	24	23	24	127.440	Ab1(Ab2)		SB72	
	SKP17	円形	36	32	25	127.446	Ab1(Ab2)		SB66	
	SKP18	円形	(20)	(18)	28	127.571	Ab3			LP55⑲より旧
	SKP19	円形	(40)	(34)	(43)	127.413	Ab2(Ab3)		SB66	LP55⑱より新、⑳より旧
	SKP20	円形	(36)	(34)	55	127.264	Ab3(Ab2)	炭化物		SK34より旧、LP55⑲より新
	SKP21	円形	(24)	(24)	-	-	Ab2			SK34より旧
	SKP22	円形	(64)	(56)	24	127.380	Ba3(Ab3)		SB65	SK34より旧
LP56	SKP1	円形	52	42	46	127.280	Ab1(Ad3)		SB66	
	SKP2	円形	25	23	30	127.400	Ab2(Ab1)		SB72	
	SKP3	円形	54	42	26	127.471	Ba3(Ab3)		SB65	LP56④より旧
	SKP4	円形	(20)	(20)	10	127.635	Ab1			LP56③より新
	SKP5	円形	25	25	15	127.589	Ab2(Ad1)			
	SKP6	円形	30	28	29	127.454	Ab2(Ab1)・Ba3		SB72	
	SKP7	円形	(22)	(20)	(23)	127.476	Ab1(Ca1)			
	SKP8	円形	35	34	31	127.379	Ab3(Ab1)		SB73	LP56㉑より新
	SKP9	円形	(58)	(52)	14	127.613	Ba1(Ab3)			LP56⑭より新
	SKP10	円形	23	22	8	127.673	Ab2(Ad1)		SB73	
	SKP11	円形	20	19	20	127.545	Ab3(Ab2)		SB72	
	SKP12	円形	10	10	13	127.632	Ab1			
	SKP13	円形	20	19	38	127.364	Ab3(Ab1)			
	SKP14	円形	(24)	(20)	27	127.452	Ad3			LP56⑨より旧
	SKP15	円形	(18)	(17)	40	127.340	Ab2			LO56⑨より旧
	SKP16	円形	27	25	32	127.395	Ab1(Ab2)			
	SKP17	円形	(20)	(18)	27	127.433	Ac2(Ca2)	炭化物		LP56⑱より旧
	SKP18	円形	30	30	36	127.356	Ba3(Ab2)	炭化物	SB73	LP56⑰より新
	SKP19	円形	25	25	49	127.234	Ab2(Ab1)			
	SKP20	円形	24	24	19	127.538	Ab1(Ad1)	焼土・炭化物		
	SKP21	円形	-	-	(31)	127.379	Ab1			LP56⑧より旧
LP57	SKP1	円形	17	14	22	127.547	Ab3(Ab2)			
	SKP2	円形	57	45	31	127.452	Ab3(Ab2・Ba1)		SB65	
	SKP3	円形	26	21	23	127.543	Ad2(Ad1)			
	SKP4	円形	16	15	26	127.488	Ab3			
	SKP5	円形	35	30	49	127.262	Ab3(Ab1)		SB72	
	SKP6	円形	17	13	21	127.527	Ab3			
	SKP7	円形	(18)	(14)	25	127.512	Ab2			LP57⑫より旧
	SKP8	円形	40	39	34	127.422	Ab3(Ab2)		SB73	LP57⑨より新
	SKP9	円形	(45)	(40)	24	127.510	Ab2(Ab1)		SB65	LP57⑧より旧
	SKP10	円形	(22)	(22)	39	127.356	Ba1(Ab3)		SB73	SK30より旧
	SKP11	円形	22	21	21	127.555	Ba1(Ba2)		SB73	
	SKP12	円形	16	14	24	127.517	Ab2			LP57⑦より新
	SKP13	円形	22	20	30	127.442	Ab3			
	SKP15	円形	(54)	(47)	(26)	127.408	Ba2(Ab3)		SB65	LP57⑱より旧

第17表　柱穴一覧(13)

地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LP57	SKP16	円形	(28)	(26)	(30)	127.414	Ab3(Ab2)		SB73	
	SKP17	円形	(29)	(25)	(19)	127.520	Ba1(Ab1)		SB73	
	SKP18	円形	(26)	(18)	(27)	127.336	Ab1			LP57⑮より新
LP58	SKP1	円形	47	45	28	127.376	Ba2(Ab1)		SB65	
	SKP2	円形	23	20	12	127.596	Ba1(Ba2)		SB73	
LP59	SKP1	円形	20	20	17	127.426	Ab2			
	SKP2	円形	18	18	16	127.468	Ab2			
LP63	SKP1	円形	19	15	26	127.541	Ba2(Ab1)	焼土		
	SKP2	円形	(25)	(21)	(17)	127.627	Ab1	焼土		
	SKP3	円形	(35)	(23)	(28)	127.527	Ab1	炭化物		
	SKP4	円形	(31)	(26)	41	127.426	Ab2			LP63⑥･⑦より旧
	SKP6	円形	24	23	32	127.495	Ab1(A)			LP63④より新
	SKP7	円形	16	14	23	127.606	Ab2			LP63④より新
	SKP8	円形	(18)	(15)	33	127.371	Ab3			LP63⑨より旧
	SKP9	円形	22	20	26	127.525	Ab2(Ab1)			LP63⑧より新
	SKP10	円形	25	20	31	127.472	Ab2(Ab1)			
LP64	SKP1	円形	21	18	14	127.707	Ba1(Ab1)			
	SKP2	円形	(24)	(23)	26	127.575	Ab1	焼土		LP64③より旧
	SKP3	円形	23	19	36	127.444	Ab2(Ab1)	焼土		LP64②より新
	SKP4	円形	14	12	7	127.641	Ab1	焼土		
	SKP5	円形	32	30	26	127.494	Ba2(Ab3･Ab1)			
LP65	SKP1	円形	(28)	(26)	33	127.504	Ab1(Ab2)			LP65②より旧
	SKP2	円形	38	32	24	127.471	Ab1			LP65①より新
LQ47	SKP1	方形	(62)	(56)	33	127.342	Ba3(Ab1)		SB61	LQ47⑨より旧
	SKP2	円形	65	58	49	127.230	Ba3(Ab2)		SB61	
	SKP3	方形	40	35	40	127.268	Ab2(Ab1)		SA86	LQ47⑧より新
	SKP4	方形	49	49	49	127.166	Ab3(Ab2)		SB62	
	SKP5	円形	41	40	46	127.215	Ab3･Ab1(Ab2)		SB62	
	SKP6	円形	22	22	7	127.600	Ab3(Ab2)		SA82	
	SKP7	方形	21	19	17	127.577	Ab1		SA82	
	SKP8	円形	(58)	(47)	29	127.387	Ab2(Ab1)		SB61	LQ47③より旧
	SKP9	方形	33	29	40	127.257	Ab2(Ab1)		SB62	LQ47①より新
LQ48	SKP1	円形	58	45	51	127.204	Ab2･Ab3		SB62	LQ48②より新
	SKP2	円形	58	42	18	127.510	Ab3		SB61	SK21･LQ48①より旧
	SKP3	円形	59	56	33	127.367	Ad2･Bd2		SB63	
	SKP4	方形	(48)	(16)	47	127.234	Ba2		SB61	LQ48⑧より旧
	SKP5	円形	79	74	31	127.365	Ba2[Ab1]		SB63	
	SKP7	方形	50	44	21	127.500	Ba1(Ab3)		SB61	
	SKP8	方形	50	49	54	127.176	Ab2(Ab1)		SB62	LQ48④より新
	SKP9	円形	53	46	17	127.524	Ab2(Ab1)		SB62	
	SKP11	円形	48	37	35	127.365	Ab2(Ab1)		SB58	
	SKP12	方形	38	37	25	127.428	B･Ab2(Ab1)			
	SKP14	円形	69	67	38	127.340	Ab1[Ab2]		SB63	
LQ49	SKP1	円形	62	61	19	127.501	Ab2(Ab3)		SB63	LQ49②より新
	SKP2	円形	(40)	(37)	38	127.321	Ab2(Ab1)･Ab3		SB58	LQ49①より旧
	SKP3	方形	50	43	48	127.213	Ab1･Ba1 (Ab2･Ab1)		SB62	LQ49㉒より新
	SKP4	方形	23	20	13	127.594	Ba1			
	SKP5	方形	(57)	(55)	29	127.435	Ab2(Ab1)		SB61	LQ49⑥より旧
	SKP6	方形	38	35	40	127.307	Ab1･Ad2(A)		SB62	LQ49⑤より新
	SKP7	方形	70	65	35	127.367	Ab3(Ab1)		SB63	LQ49⑧より新
	SKP8	円形	(38)	(36)	35	127.353	Ab2(Ab1)			LQ49⑦より旧、⑨より新
	SKP9	方形	(35)	(25)	33	127.355	Ab3(Ab2)		SB58	LQ49⑧より旧
	SKP10	円形	(56)	(50)	16	127.579	Ba2[Ab2]		SB61	LQ49⑪より旧
	SKP11	方形	40	35	36	127.371	Ab1(Ab2)		SB62	LQ49⑩より新
	SKP12	円形	(63)	(62)	26	127.488	[Ab2]Ba1(Ba2)		SB61	LQ49⑬より旧
	SKP13	円形	54	52	60	127.156	Ab2(Ab1)	鉄製品１点	SB62	LQ49⑫より新
	SKP14	方形	51	44	55	127.228	Ab2･Ab3(Ab1)	青磁１点･瀬戸産陶器１点 須恵器系中世陶器１点	SB59	
	SKP16	円形	45	41	55	127.162	Ab2･Ab3(Ab1)		SB59	
	SKP17	円形	19	18	15	127.566	Da1			
	SKP19	方形	36	32	12	127.594	Ba1(Ab3)			
	SKP20	円形	31	19	24	127.504	Ba2			LQ49㉒より新
	SKP21	方形	(26)	(22)	22	127.480	[Ab2]		SB61	LQ49③より旧
	SKP22	円形	(37)	(28)	37	127.385	Ba1(Ba2)			LQ49⑳より旧
LQ50	SKP1	円形	61	(28)	33	127.420	Ab3(Ab1)		SB59	
	SKP3	円形	69	63	24	127.466	Ba1[Ab2]		SB63	
	SKP4	円形	62	60	37	127.357	Ab2(Ab1)		SB63	
	SKP5	方形	(57)	(37)	13	127.591	Ab2(Ab1)		SB63	SK04･05より旧
	SKP7	円形	-	-	(21)	127.459	Ab2		SB59	SK01より旧
	SKP10	円形	(60)	-	33	127.367	Ab3(Ab1)		SB63	SK01･02より旧

第18表　柱穴一覧(14)

地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LQ50	SKP11	円形	64	(58)	26	127.404	Ab3(Ab1)		SB59	SK02より旧
LQ51	SKP1	方形	(51)	(35)	16	127.726	Ab3			
	SKP2	方形	96	73	51	127.271	Ab3(Ab2)		SB60	LQ51③より新
	SKP3	円形	(49)	(42)	35	127.464	Ba2・Ba1(Ab2)		SB59	LQ51②より旧
	SKP4	方形	(50)	(50)	19	127.594	Ab3(Ab1)		SB59	LQ51⑤より旧
	SKP5	方形	78	67	49	127.289	Ab3(Ab2)		SB60	LQ51④より新
	SKP6	方形	19	15	19	127.607	Ba1			
	SKP7	円形	72	70	19	127.665	Ab3		SB60	LQ51⑨より新、⑪より旧
	SKP8	方形	(44)	(24)	22	127.560	Ab3(Ab2)		SB59	LR51①より旧
	SKP9	方形	(40)	(25)	48	127.312	Ab3(Ab2)		SB59	LQ51⑦より旧
	SKP11	円形	(21)	(15)	(19)	127.680	Da1			
LQ52	SKP1	円形	(84)	(80)	(51)	127.144	Ba3(Ab1)		SB60	LQ51⑦より新
	SKP2	円形	44	32	29	127.497	Ab1			
	SKP3	円形	23	21	18	127.607	Ba2			
	SKP4	円形	14	14	23	127.426	Ab1			LQ52⑪より新
	SKP6	円形	(91)	(85)	(32)	127.329	Ab1	かわらけ１点		
	SKP8	円形	(61)	(45)	40	127.396	Ab2・Bc3		SB60	SK23より旧
	SKP9	円形	(69)	(63)	(29)	127.374	Ab1			
	SKP10	円形	(22)	(15)	(20)	127.456	Ab1			LQ52⑪より新
	SKP11	円形	(59)	(51)	(24)	127.404	Ac2(Ab1)			LQ52④・⑩より旧
	SKP12	円形	(73)	(56)	(5)	127.508	Ab3(Ab1)			LQ52⑬より新
	SKP13	円形	(72)	(60)	(29)	127.258	Ac3		SB60	SK23・LQ52⑫より旧
LQ53	SKP1	円形	62	55	20	127.565	Ac2(Ad1)			
LQ54	SKP1	円形	17	15	19	127.683	Ab2			
	SKP2	円形	20	19	15	127.715	Ab2			
LQ55	SKP1	円形	21	16	22	127.471	Ab1			
	SKP2	方形	14	14	16	127.506	Ab1			
	SKP3	円形	56	40	18	127.549	Ab2(Ab1)		SB65	LP55⑧より旧
LQ56	SKP1	円形	26	20	32	127.348	Ab2(Ab1)	炭化物		
	SKP2	円形	57	52	37	127.346	Ab3(Ab2)		SB65	
	SKP3	円形	24	19	15	127.579	ba3			
	SKP4	円形	(50)	(48)	18	127.557	Ab1(Ba2)			LQ56㉒より旧
	SKP5	円形	42	37	21	127.464	Ab2(Ab1)	炭化物	SB65	
	SKP6	円形	24	23	23	127.408	Ab1(A)			
	SKP7	円形	(24)	(22)	37	127.288	Ab1(Ad2)			LQ56⑯より旧
	SKP8	円形	26	25	33	127.320	Ab1(Ad2)			
	SKP9	円形	40	40	23	127.454	Ab1・Ba1(Ab2)	炭化物	SB65	
	SKP10	円形	20	17	32	127.373	Ab2	炭化物		
	SKP11	円形	29	21	63	127.096	Ab2(Ab1)		SB72	LQ56㉒より新
	SKP14	円形	16	14	24	127.497	Ba3			
	SKP15	円形	34	30	26	127.456	Ab2(Ad2)		SB73	
	SKP16	円形	20	13	13	127.525	Ab1			LQ56⑦より新
	SKP18	円形	20	14	11	127.530	Ba1			
	SKP19	円形	(30)	(29)	35	127.558	Ab1(Ad2)	炉壁１点		SK33より旧
	SKP20	円形	(42)	(40)	17	127.529	Ab1(Ba2)		SB65	SK33より旧
	SKP21	円形	(24)	(22)	43	127.298	Ab2(Ad2)			SK33より旧
	SKP22	円形	(34)	(28)	58	127.153	Ab2			LQ56④より新、⑪より旧
LQ57	SKP1	円形	53	46	18	127.582	Ba3(Ba2)		SB65	
	SKP2	円形	33	30	6	127.672	Bd1(Ba2)			
	SKP3	円形	55	45	55	127.190	Ab2(Da2)		SB65	
	SKP4	円形	24	23	16	127.566	Ab2(Da2)			
	SKP5	円形	48	43	28	127.449	Ab2		SB65	
	SKP6	円形	51	48	25	127.504	Ba3(Ab2)		SB65	
	SKP7	円形	25	21	20	127.572	Ab2(Da2)	炭化物		
	SKP8	円形	25	25	27	127.476	Ba2(Ab1)		SB73	
LQ58	SKP1	円形	49	46	9	127.636	Ba2(Ab3)		SB65	
	SKP2	円形	58	54	25	127.465	Ab2(Ab1)			
	SKP3	円形	56	52	18	127.514	Ab2(Ab3)		SA70	
	SKP5	円形	39	38	10	127.611	Ba1		SB65	
LQ60	SKP1	円形	30	26	13	127.219	Ba1(Ab2)			
	SKP2	円形	23	17	9	127.285	Ba3			
	SKP3	方形	21	19	27	127.298	Ab3(Ab1)			
	SKP4	円形	16	14	9	127.486	Ab3			
	SKP5	円形	33	30	14	127.470	Ab3			LQ60⑥より新
	SKP6	円形	(22)	(12)	13	127.480	Ab2			LQ60⑤より旧
LQ61	SKP2	方形	16	15	31	127.592	A			
	SKP3	円形	30	28	24	127.716	Ba3(Ab1)	焼土		
	SKP4	円形	30	28	41	127.539	Ba2(Ab2)	焼土		
	SKP5	円形	27	24	34	127.589	Ba2(Ab2)	焼土		
LR41	SKP1	方形	16	13	27	127.773	Ab2			

第19表　柱穴一覧(15)

地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LR42	SKP2	円形	15	13	13	127.904	Ab2			
LR43	SKP1	円形	17	17	21	127.834	Ab2			
LR44	SKP1	円形	(28)	(27)	21	127.855	Bc3・Ab2・Bc3			
	SKP2	円形	18	17	14	127.874	Ab1			
LR46	SKP1	方形	21	19	12	127.520	-		SA82	
LR47	SKP1	円形	38	37	51	127.020	Ab2(A)		SB62	
	SKP2	円形	57	51	48	127.033	Ab3・Ab2(Ab1)・Ba1	かわらけ１点	SB62	
	SKP3	円形	79	74	35	127.327	Ba2(Ba2)・Bd2		SB63	
	SKP5	方形	18	18	6	127.552	Ba1		SA83	
	SKP6	方形	18	14	18	127.465	Ab1		SA83	
	SKP7	方形	22	20	6	127.557	Ba1		SA83	
	SKP8	円形	(43)	(33)	(11)	126.997	Ab2(Ab1)・Ba1		SB62	
LR48	SKP1	方形	74	71	45	127.223	Ab2・Db2(Db1)		SB63	
	SKP3	円形	23	18	5	127.650	Ba1(Ab3)			
	SKP4	円形	(74)	(73)	30	127.417	Ab2(Da2)		SB63	LR48㉑より旧
	SKP5	方形	(54)	(54)	37	127.350	Ab3(Ab1)		SB61	LR48㉑より旧
	SKP6	円形	44	32	40	127.315	Ab2(Db2)		SB58	
	SKP7	円形	55	53	67	127.050	Ab3・Ab2[Ab1]		SB62	LR49①より新
	SKP8	円形	(68)	(60)	35	127.383	Ba2(Da2)Da1		SB63	LR48⑨より旧
	SKP9	円形	46	32	50	127.249	Ab3・Ab2(Ab1)		SA86	LR48⑧・⑪より新
	SKP11	円形	(64)	(58)	35	127.416	Ab2(Ab3)		SB61	LR48⑨より旧
	SKP12	不整形	57	48	63	127.128	Ab2・Ab3(Ab1)		SB62	
	SKP13	円形	47	41	43	127.257	Ab2(Ab1)・Da1		SB58	
	SKP14	円形	64	60	34	127.349	Ab1・Ab3(Ab2)		SB63	
	SKP15	方形	21	19	29	127.437	Ab2			
	SKP18	方形	(22)	(13)	14	127.600	Ba2			LR48⑳より旧
	SKP19	円形	29	25	15	127.577	Ba2			
	SKP20	円形	51	43	53	127.216	Ad3(Ad2)		SB62	LR48⑱より新
	SKP21	楕円形	66	37	39	127.329	Ab3・Ab2(Ab1)		SA86	LR48④・⑤より新
LR49	SKP1	円形	(70)	(58)	27	127.440	[Ab1]・Ab3(Ab2)		SB61	LR48⑦より旧
	SKP2	方形	(62)	(55)	51	127.239	Ab3(Ab2)		SB61	LR49③・⑱より旧
	SKP3	円形	(58)	(57)	56	127.155	Ab3・Ab1・Da2(Ab1)		SB63	LR49②より新、⑱より旧
	SKP4	方形	26	25	11	127.634	Ba1・Ab3			
	SKP5	方形	45	37	51	127.216	Ab1(A)		SB62	LR48⑥より新
	SKP6	方形	(67)	(56)	28	127.464	Ab2・Ba1[Ba2]		SB61	LR48⑤より旧
	SKP9	方形	24	20	24	127.494	Ab3			
	SKP10	方形	70	52	54	127.221	Ab3(Ab2)・Ba2		SB63	
	SKP11	円形	42	39	66	127.085	Ab2・Ba3(Ab1・Ba1)		SB58	
	SKP12	方形	29	22	23	127.509	Ab3・Ab1			
	SKP13	円形	55	53	34	127.403	Ab1・Ab3(Ab2)		SB63	
	SKP14	円形	(57)	(50)	36	127.387	Ab2・Ba1(Ab1)		SB63	LR49⑮より新、⑰より旧
	SKP15	円形	(38)	(31)	49	127.240	Ab1・Ba1(Ab2)		SB58	LR49⑭より旧
	SKP16	方形	23	16	32	127.404	Ab3(Ab2)			
	SKP17	方形	39	32	35	127.387	Ab2・Ba2(Ab1)			LR49⑭より新
	SKP18	円形	27	27	20	127.540	Ab1			LR49②・③より新
LR50	SKP1	方形	39	31	45	127.711	Ab1・Ab2(Ab3)・D		SB58	
	SKP2	円形	58	51	50	127.241	Ab1・Ba3(Ab2)		SB59	
	SKP3	円形	40	36	23	127.525	Ba1(Ab2)			
	SKP4	円形	32	24	19	127.537	Ab1			
	SKP5	円形	(34)	(13)	19	127.570	Ba1[Ab2]		SB59	
LR51	SKP1	円形	(84)	(65)	(71)	127.067	Ab3(Ab2)		SB60	LQ51⑧より新
	SKP2	円形	(69)	(50)	(5)	127.118	Ca2		SB60	
LR52	SKP1	円形	(29)	(26)	(18)	127.523	Ab2	須恵器系中世陶器１点		
	SKP2	円形	(58)	(56)	(11)	127.566	Ab1			
	SKP3	円形	(59)	58	25	127.542	Ab3(Ba2)			LR52⑤より旧
	SKP5	方形	83	76	63	127.159	Ab2(Ba2)			LR52③・⑥より新
	SKP6	楕円形	(79)	(63)	60	127.175	Ba2(Ba3)		SB60	LR52⑤より旧
LR53	SKP1	円形	81	74	85	127.007	Ab2(Ad1)		SB60	
	SKP2	楕円形	97	65	68	127.168	Ba2(Ad2)	須恵器系中世陶器１点	SB60	
	SKP3	円形	18	14	18	127.646	Ba2			
	SKP4	円形	18	16	13	127.824	Ba2			
LR54	SKP1	円形	21	19	7	127.770	Ab2			
LR55	SKP1	円形	17	16	9	127.607	Ab2(Ab1)			
LR56	SKP1	円形	51	45	40	127.311	Ab2(Ab3)		SB65	LR56②より新
	SKP2	円形	-	-	(18)	127.510	Ab1			LR56①より旧
	SKP4	円形	23	21	44	127.249	Ba3(Ab3)			
LR57	SKP1	円形	(48)	(24)	29	127.391	Ba3(Ab3)		SB65	SK29より旧
LR58	SKP1	円形	74	66	45	127.294	Ab3(Ab2)		SA70	
LR60	SKP1	円形	14	11	12	127.180	Ab3			
	SKP2	円形	18	18	18	127.177	Ab3(Ab1)			

第20表　柱穴一覧(16)

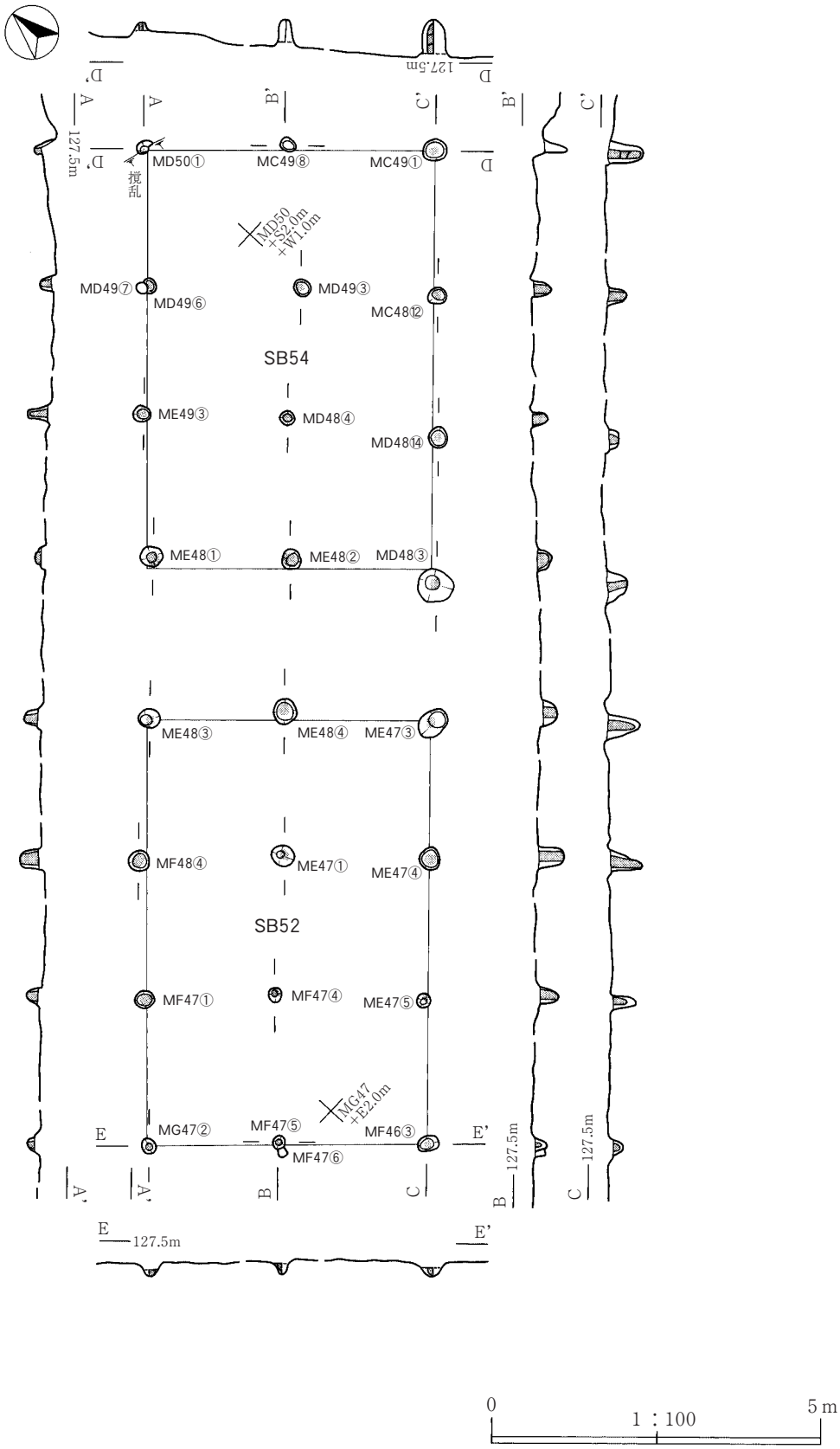
地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
LR61	SKP1	円形	16	16	8	127.570	Ab2			
	SKP2	円形	23	22	15	127.507	Ba2(Ab1)			
	SKP3	円形	14	14	12	127.528	Ab2			
	SKP4	円形	14	13	13	127.521	Ab1			
LS42	SKP1	円形	28	27	34	127.665	Ab2			
LS45	SKP1	円形	35	31	23	127.660	Ab3(Ab2)			
LS47	SKP1	円形	(53)	(43)	(37)	126.964	Ab3(Ab2)			LS47②より旧
	SKP2	円形	41	38	26	127.361	Ab2(Ab1)		SB62	LS47①より新
	SKP3	円形	(31)	(26)	33	127.307	Ab3(Ab1)		SB57	
	SKP4	方形	65	46	62	127.010	Ba3(Ab1)		SB62	
	SKP5	円形	(40)	(34)	(13)	127.208	Ab3(Ab3・Ba2)		SB57	
	SKP6	円形	(32)	(30)	(31)	127.023	Ab3(Ab2)		SB57	
	SKP7	円形	(24)	(22)	(9)	127.323	Ab2(Ab1)			
LS48	SKP1	円形	35	32	-	-	Ba1(Ab2)			
	SKP3	円形	40	37	53	127.107	Ba2・Ab2(Ab1)		SB62	LS48④より新
	SKP4	方形	(26)	(24)	42	127.220	Ba3			LS48③より旧
	SKP5	円形	32	27	45	127.175	Ab2(A・Ab1)		SB57	
	SKP6	円形	59	50	48	127.166	Ab2(Ab1)	かわらけ１点	SB62	
	SKP7	方形	21	20	7	127.577	Ba1		SA83	
	SKP8	方形	49	41	48	127.232	Ab3(Ab1)	かわらけ１点	SB62	
	SKP9	円形	35	30	31	127.412	Ab2(Db1)			
	SKP10	方形	24	23	30	127.387	Ba1(Ab2)			
	SKP11	円形	27	23	46	127.228	Bd2(Ad1)			
	SKP12	円形	36	33	13	127.609	Ab2			LS48⑬より新
	SKP13	方形	(37)	(33)	59	127.160	Ab2・Ab3(Ab2)・Ab2		SB58	LS48⑫より旧
	SKP14	方形	69	69	63	127.101	Ab2・Ab1(Ab1)		SB63	LS48⑳より新
	SKP16	円形	25	25	12	127.610	Ab2			
	SKP19	方形	24	21	19	127.537	Ab1			LS48⑳より新
	SKP20	円形	(23)	(22)	14	127.596	Ab2			LS48⑭・⑲より旧
LS49	SKP1	円形	34	32	58	127.153	Ab3・Ab2(Ab1・Ab2)		SB58	
	SKP2	円形	31	27	19	127.527	Ba1			
	SKP3	方形	28	27	30	127.407	Ba2(Ab2)			
	SKP5	方形	(65)	(48)	62	127.110	Db2・Db3(Db1)		SB63	LS49⑥より旧、⑦より新
	SKP6	円形	64	56	51	127.200	Ad2・D・Ab2			LS49⑤・⑦より新
	SKP7	円形	-	-	(23)	127.494	Ba1			LS49⑤・⑥より旧
	SKP8	円形	28	26	13	127.599	Ba1			
	SKP9	方形	22	21	20	127.529	Da1			
LS50	SKP1	方形	15	12	7	127.594	Ab1(Ab1)			
	SKP2	円形	20	18	32	127.367	Ab1(Ab1)			
LS51	SKP1	楕円形	22	15	19	127.531	Ab2			LS51⑪より新
	SKP2	円形	21	16	22	127.490	Ab2			
	SKP3	楕円形	50	38	42	127.296	Ab3(Ab1)			
	SKP4	方形	(60)	(44)	30	127.406	Ba1(Ab1)			
	SKP7	方形	(53)	(50)	26	127.417	Ab2(Ab1)			
	SKP8	楕円形	54	32	44	127.333	Ab2・Ab3(Ab1)			LS51⑨より新
	SKP9	円形	(25)	(10)	(19)	127.588	Ab3			LS51⑧より旧
LS52	SKP1	方形	82	71	66	127.098	Da1・Da3(Da2)		SB60	
LS53	SKP1	方形	(71)	(65)	(62)	127.072	Ad2[Ac2]	須恵器系中世陶器１点	SB60	
	SKP2	方形	(86)	(75)	(45)	126.999	Da2(Da1)		SB60	
LS60	SKP1	円形	25	21	30	127.018	Ab2			
LT45	SKP1	円形	83	59	36	127.471	Ba2・Ab3・Ba1			
LT46	SKP2	方形	32	28	36	127.427	Ab3(Ab2)		SB57	
	SKP3	方形	36	35	30	127.478	Ab2(Ab1)			
LT47	SKP1	円形	34	31	32	127.445	Ab3(Ab1・Ab2)			
LT48	SKP1	円形	(34)	(30)	(32)	127.110	Ab3(Ab2)		SB57	
	SKP3	円形	(23)	(22)	(24)	127.151	Ba3(Ab2)			
LT50	SKP1	円形	(24)	(20)	34	127.080	Ab1			LT50②より旧
	SKP2	円形	34	20	24	127.175	Ab2(Ab1)			LT50①より新
LT51	SKP1	円形	31	26	30	127.096	Ba1(Ba3)Ab2・Ba1			
	SKP2	円形	21	21	25	127.180	Ab2			
	SKP3	方形	38	33	20	127.193	Ba3(Ab2)		SB55	
	SKP4	円形	40	33	28	127.137	Ba3			
LT52	SKP1	円形	(40)	(34)	23	127.148	Ab1(A・Ab1)			LT52②より旧
	SKP2	円形	36	34	29	127.101	Ab3(Ab2・Ab1)			LT52①より新
	SKP3	円形	35	34	33	127.066	Ab2(Ab3)		SB104	
LT58	SKP1	円形	15	14	8	127.269	Ad1			
MA46	SKP1	円形	31	24	33	127.288	Ba3(Ab1)			
	SKP2	円形	35	31	24	127.318	Ab1			
MA47	SKP1	円形	24	16	21	127.387	Ab2		SB57	MA47②より新
	SKP2	円形	(31)	(31)	23	127.378	Ab3			MA47①より旧

第21表　柱穴一覧(17)

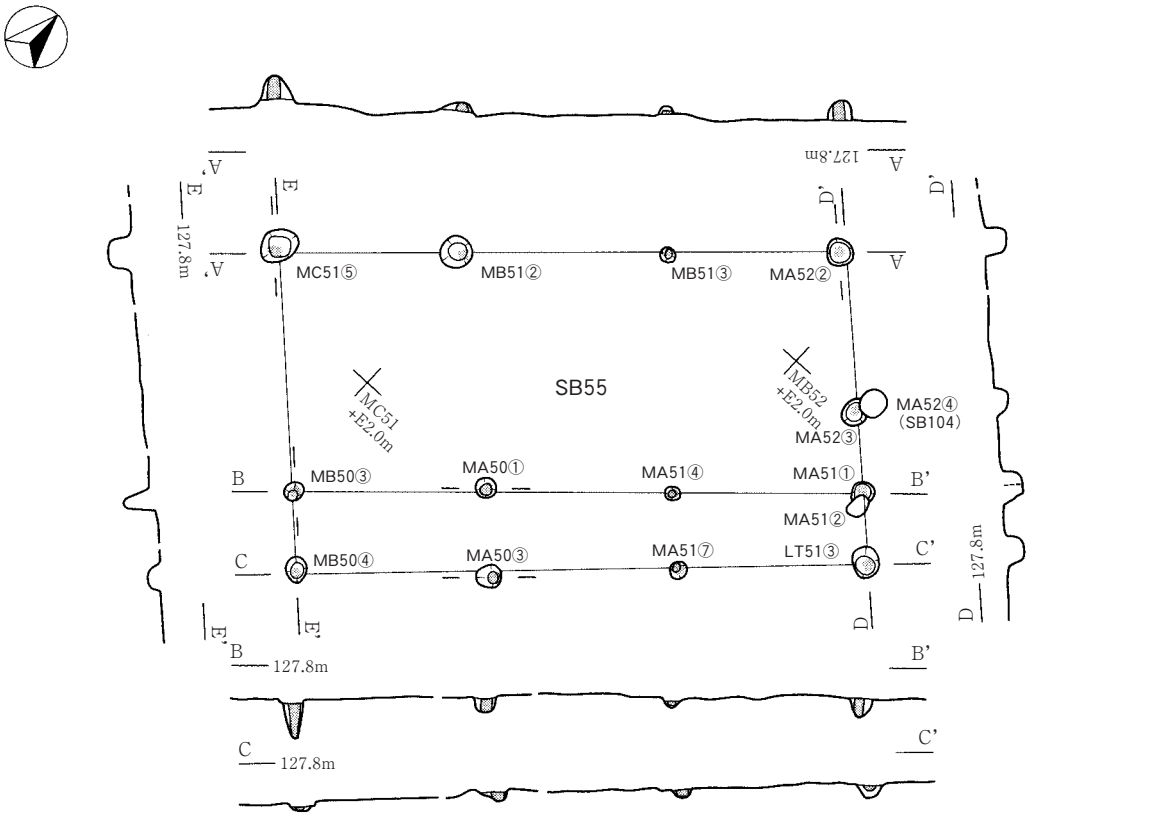
地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
MA47	SKP4	円形	28	24	33	127.116	Ab2(Ab2)			
MA49	SKP1	円形	19	17	10	127.254	Ab2			
MA50	SKP1	円形	29	25	34	127.990	Ab3(Ab2)		SB55	
	SKP2	円形	21	20	37	127.975	Ab2(Ab1)			
	SKP3	円形	34	32	15	127.344	Ba3(Ab1)		SB55	
	SKP4	円形	20	19	7	127.368	Ab3			
	SKP5	円形	24	22	7	127.293	Ab1			
MA51	SKP1	方形	(32)	(30)	26	127.155	Ab1(A)		SB55	MA51②より旧
	SKP2	方形	32	22	38	127.035	Ab2(A)			MA51①より新
	SKP4	方形	19	16	19	127.168	Ab3(Ab1・Ba2)		SB55	
	SKP5	円形	17	17	19	127.191	Ab2(Ba2)			
	SKP7	円形	25	22	21	127.200	Ab2(Ab1・Ab2)		SB55	
MA52	SKP1	円形	40	36	15	127.209	Ab2	炭化物	SB104	
	SKP2	円形	36	33	29	127.125	Ab2(Ab2・Ab1)		SB55	
	SKP3	円形	(37)	(32)	16	127.259	Ab3(Ab2)		SB55	MA52④より旧
	SKP4	円形	37	34	35	127.075	Ab1・Ab3(Ab2)		SB104	MA52③より新
MA53	SKP1	方形	20	18	14	127.205	Ab2・Ab1		SB104	
MB47	SKP1	円形	24	23	23	127.158	Ba2			
	SKP2	円形	28	27	28	127.185	Ab1			
	SKP3	円形	25	22	41	127.096	Ab1(Ab2)			
MB48	SKP1	円形	26	24	29	127.209	Ba2(Ab2)			
	SKP3	円形	26	12	9	127.438	Ab2		SA56	
MB50	SKP1	円形	26	21	12	127.133	Ab3(Ab2)			
	SKP2	円形	15	14	6	127.014	Ab2			
	SKP3	円形	27	24	41	127.834	Ba2(Ab2)		SB55	
	SKP4	円形	35	28	15	127.107	Ab2(Ab3)		SB55	
	SKP5	円形	40	34	10	127.188	Ab3			
MB51	SKP1	円形	(31)	(27)	36	126.927	Ab3(Ab1)			
	SKP2	円形	44	41	13	127.074	Ab2(Ab3)		SB55	
	SKP3	円形	20	19	11	127.287	Ab1(Ab3)		SB55	
MB52	SKP1	円形	37	31	36	126.770	Ab2・Ba1(Ab2)		SB104	
MC46	SKP1	円形	31	28	16	127.393	Ab3(Ab2)			
	SKP2	円形	40	32	18	127.366	Ab3(Ab2)			
	SKP3	円形	35	31	17	127.342	Ab1・Ba1(Ab2)			
	SKP4	円形	24	23	23	127.287	Ab3(Ab2)			
MC47	SKP1	円形	27	22	24	127.269	Ab1・Ba2		SA56	
	SKP2	円形	26	25	10	127.434	Ab3		SA56	
MC48	SKP1	円形	21	20	22	127.253	Ab2			
	SKP3	円形	16	16	21	127.280	Ab3			
	SKP9	円形	16	13	15	127.249	Ab1			
	SKP10	円形	14	11	16	127.329	Ab2			
	SKP12	円形	28	25	25	127.225	Ab3(Ab2)		SB54	
	SKP13	円形	15	13	24	127.256	Ab2			
MC49	SKP1	円形	36	33	54	126.879	Ab2(Ad1・D・A)		SB54	
	SKP2	円形	23	17	28	126.989	Ab2			
	SKP3	円形	25	16	39	127.038	Ad1			
	SKP6	円形	21	18	18	127.140	Ab2			
	SKP7	円形	24	23	25	127.059	Ab2・Ab1			
	SKP8	円形	25	16	36	127.848	A		SB54	
	SKP9	円形	17	16	12	127.021	Ab1			
	SKP10	方形	19	19	6	127.063	Ab1			
	SKP11	円形	21	20	24	126.972	Ab2			
MC51	SKP5	円形	48	41	29	127.039	Ab2(Ab1)		SB55	
MD45	SKP1	円形	42	32	45	126.990	Ab2(Ab1)			
MD46	SKP1	円形	33	30	23	127.165	Ab3(Ab2)		SA56	
MD47	SKP4	円形	13	10	6	127.371	Ab1			
MD48	SKP1	円形	15	14	13	127.356	Ab3	須恵器系中世陶器１点		MD48②より新
	SKP2	円形	(16)	(12)	11	127.344	Ab2			MD48①より旧
	SKP3	円形	56	50	38	127.043	Ab2(Ab3)		SB54	
	SKP4	円形	21	21	30	127.145	Ba3(Ba3・Ab1)		SB54	
	SKP5	方形	16	16	25	127.248	Ab1			
	SKP9	方形	17	16	10	127.379	Ab2			
	SKP14	円形	32	28	22	127.238	Ab3(Ab2)		SB54	
MD49	SKP1	方形	17	14	31	127.045	Ab2			
	SKP3	円形	27	24	38	127.083	Ab1(Ab2)		SB54	
	SKP6	円形	(23)	(15)	24	127.060	A(Ab1)		SB54	MD49⑦より旧
	SKP7	円形	23	22	20	127.101	Ab2			MD49⑥より新
	SKP9	円形	26	21	3	127.365	Ab3			
MD50	SKP1	円形	27	18	(29)	126.829	Ab1(A)		SB54	
	SKP8	円形	22	14	20	127.070	Ab2・Ba1・Ba2			

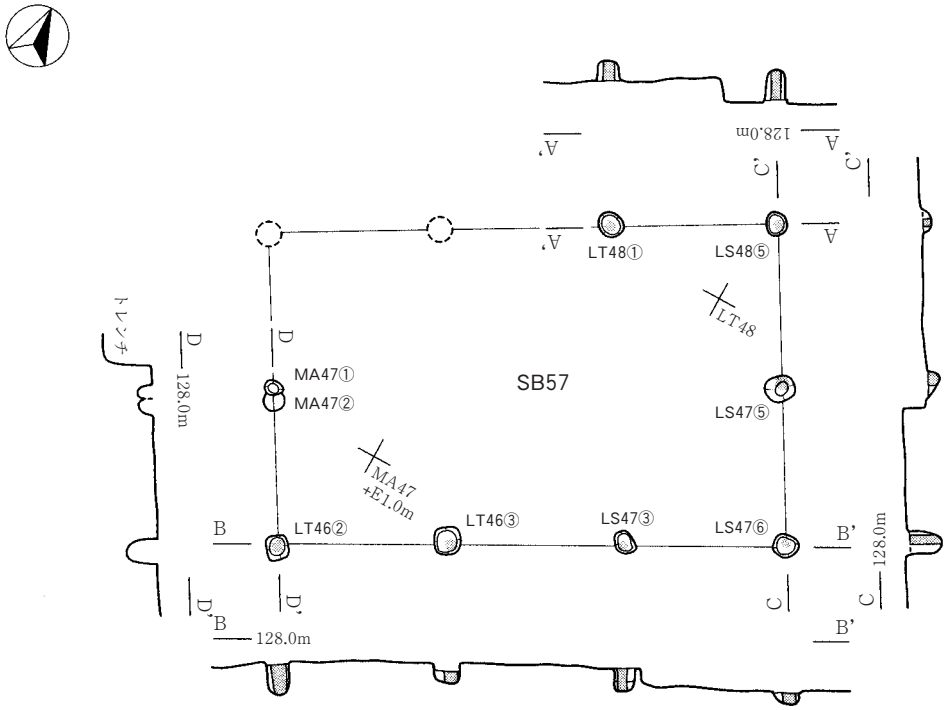
第22表　柱穴一覧(18)

地区	番号	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	堆積土類型	遺物・混入物	帰属建物跡等	新旧関係
ME33	SKP4	円形	21	18	18	127.170	Ab2			
ME34	SKP1	円形	23	21	30	127.066	Ab1			
ME46	SKP1	円形	32	20	6	127.268	Ab2(Ab2)			
	SKP2	円形	34	28	29	127.241	Ab1(A)・B		SA56	
ME47	SKP1	円形	37	30	48	126.823	Ab2(Ab3)		SB52	
	SKP3	円形	50	38	49	126.823	Ab2(Ab3)		SB52	
	SKP4	円形	35	32	55	126.797	Ab1(Ab2)		SB52	
	SKP5	円形	22	20	49	126.816	Ab1(Ab3)		SB52	
ME48	SKP1	円形	34	29	33	126.919	Ab2・Ba2(Ab2)		SB54	
	SKP2	円形	30	29	28	127.055	Ab2・Ba2(Ab2)		SB54	
	SKP3	円形	32	27	43	126.707	A(Ab1)		SB52	
	SKP4	円形	38	33	42	126.844	Ab3(Ab3)		SB52	
ME49	SKP3	円形	26	25	58	126.703	Ab3(Ab2)		SB54	
	SKP4	円形	24	21	23	127.035	Ab2(Ab1)			ME49⑪より新
	SKP11	円形	(17)	(14)	40	126.855	Ab1			ME49④より旧
MF31	SKP1	円形	24	20	25	127.137	Ab1			
MF34	SKP1	円形	27	24	28	127.008	Ab1			
	SKP2	円形	23	23	13	127.214	Ab1			
	SKP3	円形	27	25	40	126.996	Ab1			
	SKP8	円形	26	22	15	127.196	Ab2			
MF35	SKP1	円形	22	21	19	127.138	Ab1			
MF46	SKP3	円形	33	23	29	127.005	Ab3(Ab2)		SB52	
MF47	SKP1	円形	30	27	32	126.935	Ba3(Ab2・Ba2)		SB52	
	SKP2	円形	19	18	6	127.240	Ab3			
	SKP3	円形	16	14	18	127.106	Ab2			
	SKP4	円形	24	21	35	126.885	Ab3(Ab2)		SB52	
	SKP5	円形	19	19	29	127.038	Ab3(Ab2)		SB52	MF47⑥より新
	SKP6	方形	(13)	12	24	127.075	Ab2			MF47⑤より旧
MF48	SKP4	円形	32	30	39	127.089	Ab1(Ab2)		SB52	
MG35	SKP3	円形	24	(20)	32	127.013	Ab2			
	SKP7	不整形	23	18	15	127.240	Ab2			
MG47	SKP2	円形	25	21	23	127.057	Ab3(Ab3)		SB52	
MH36	SKP4	円形	21	16	15	127.214	Ab3			
	SKP7	円形	16	14	23	127.090	Ab3			
MI30	SKP1	円形	16	10	16	127.231	Ab2			
	SKP2	円形	12	11	13	127.207	Ab1			
MI37	SKP1	円形	15	15	17	127.072	Ab2			
	SKP2	方形	23	15	23	127.085	Ab1			
	SKP3	円形	19	18	9	127.180	Ba3			
MJ38	SKP1	円形	22	18	22	126.886	Ab1			
MJ39	SKP1	円形	28	24	30	126.725	Ab1			
	SKP2	円形	24	20	20	126.880	Ab2			
	SKP3	円形	25	20	22	126.868	Ab2			
MK33	SKP1	円形	10	9	13	127.060	Ab1			
	SKP2	方形	26	18	8	127.050	Ab1			
	SKP4	円形	(22)	18	17	127.065	Ab3			MK34①より旧
MK34	SKP1	円形	14	12	16	127.075	Ab1			MK33④より新
ML32	SKP2	方形	(30)	24	35	126.828	Ab2・Ba2(Ab1・Ab3・Ab1)			ML32③より旧
	SKP3	円形	16	13	28	126.895	Ab3・A(Ab1)			ML32②より新
	SKP4	円形	16	14	32	126.859	Ab1			
	SKP5	円形	17	16	31	126.878	Ab1			



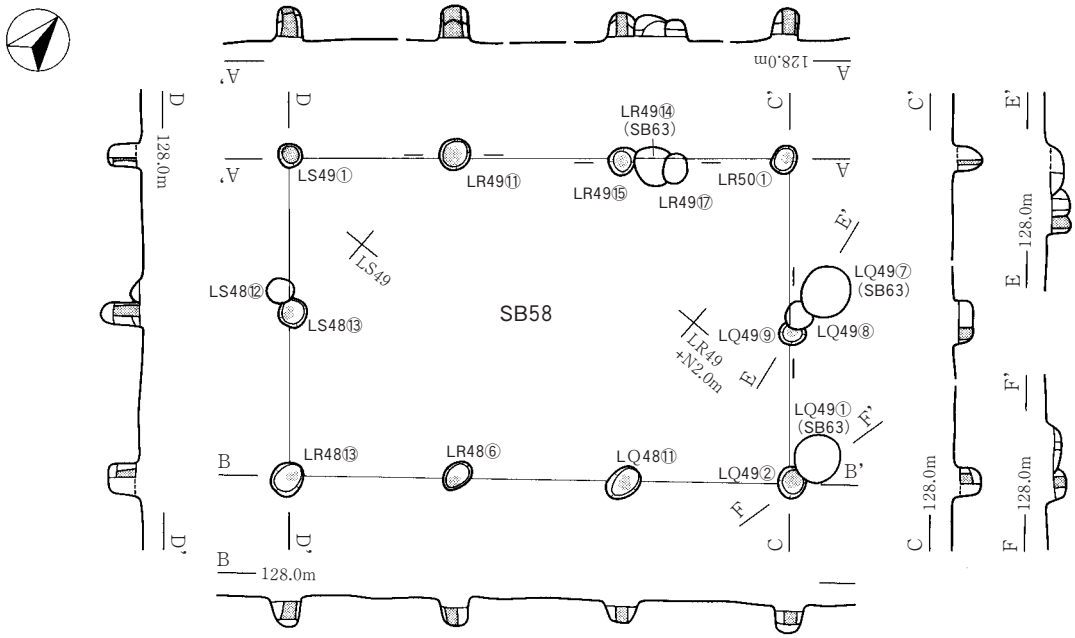
第10図　掘立柱建物跡（１）　SB52・54

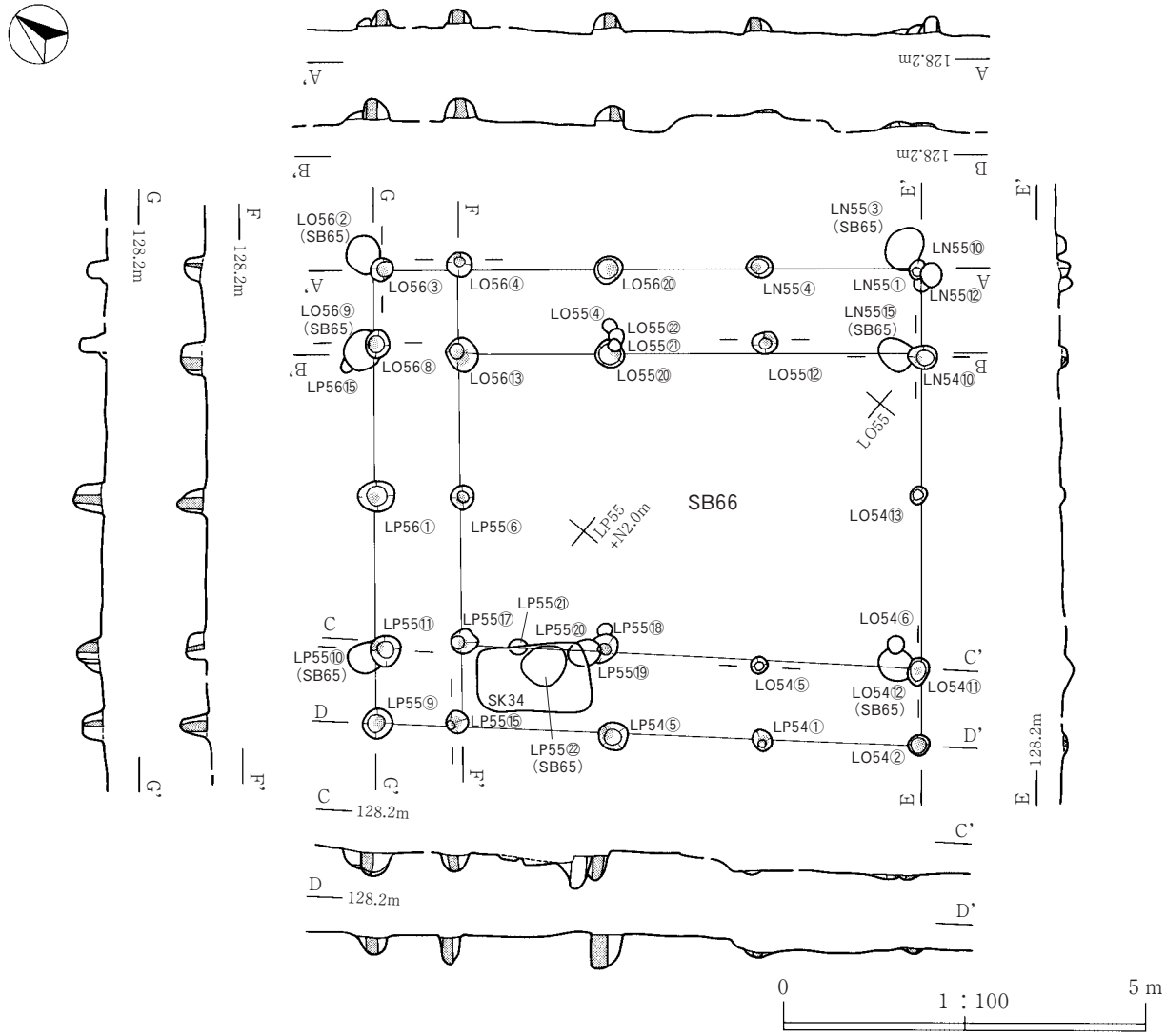




0　1：100　5 m

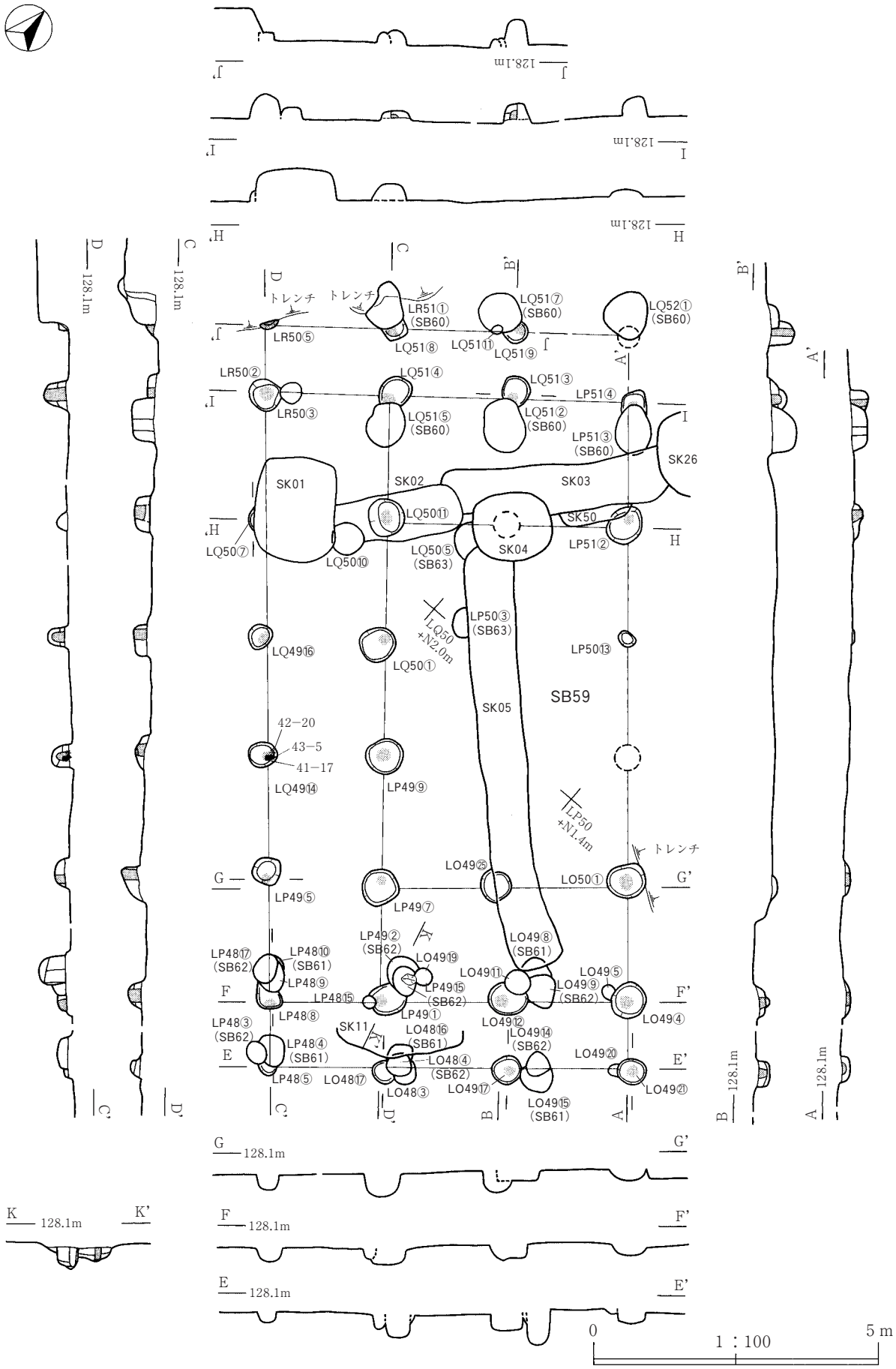
第11図　掘立柱建物跡（２）　SB55・57



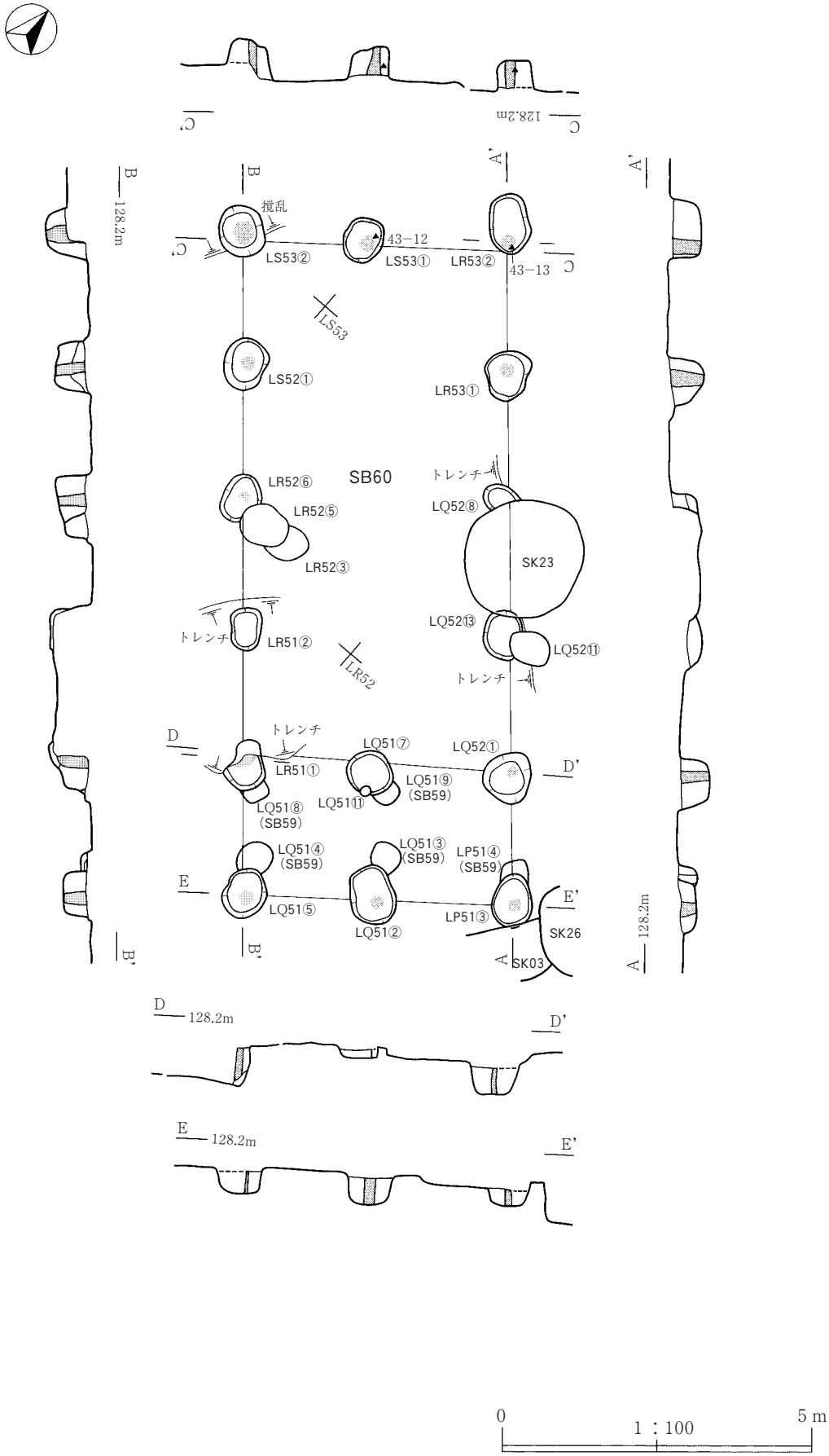


0　1：100　5 m

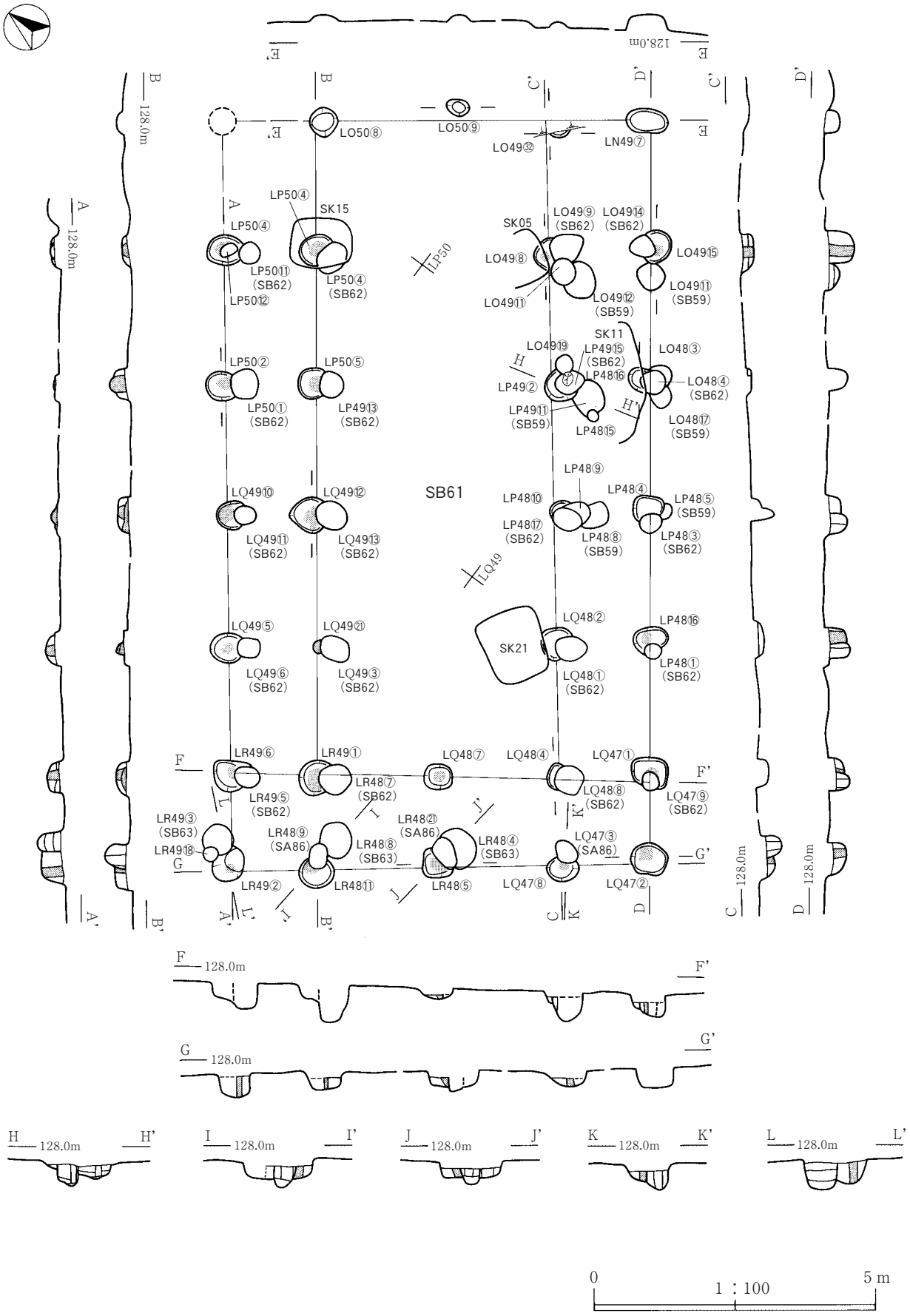
第12図　掘立柱建物跡（３）　SB58・66



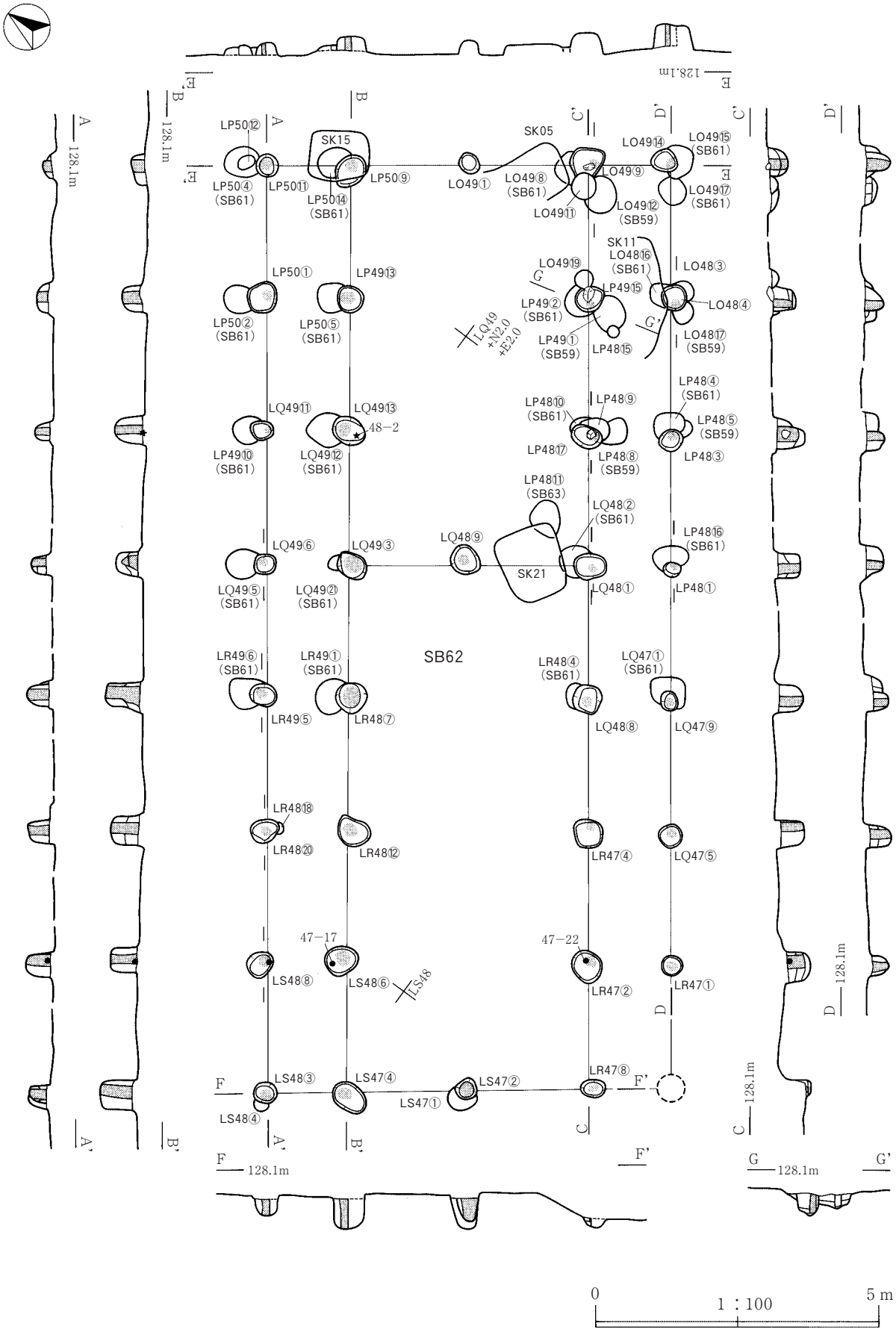
第13図　掘立柱建物跡（４）　SB59



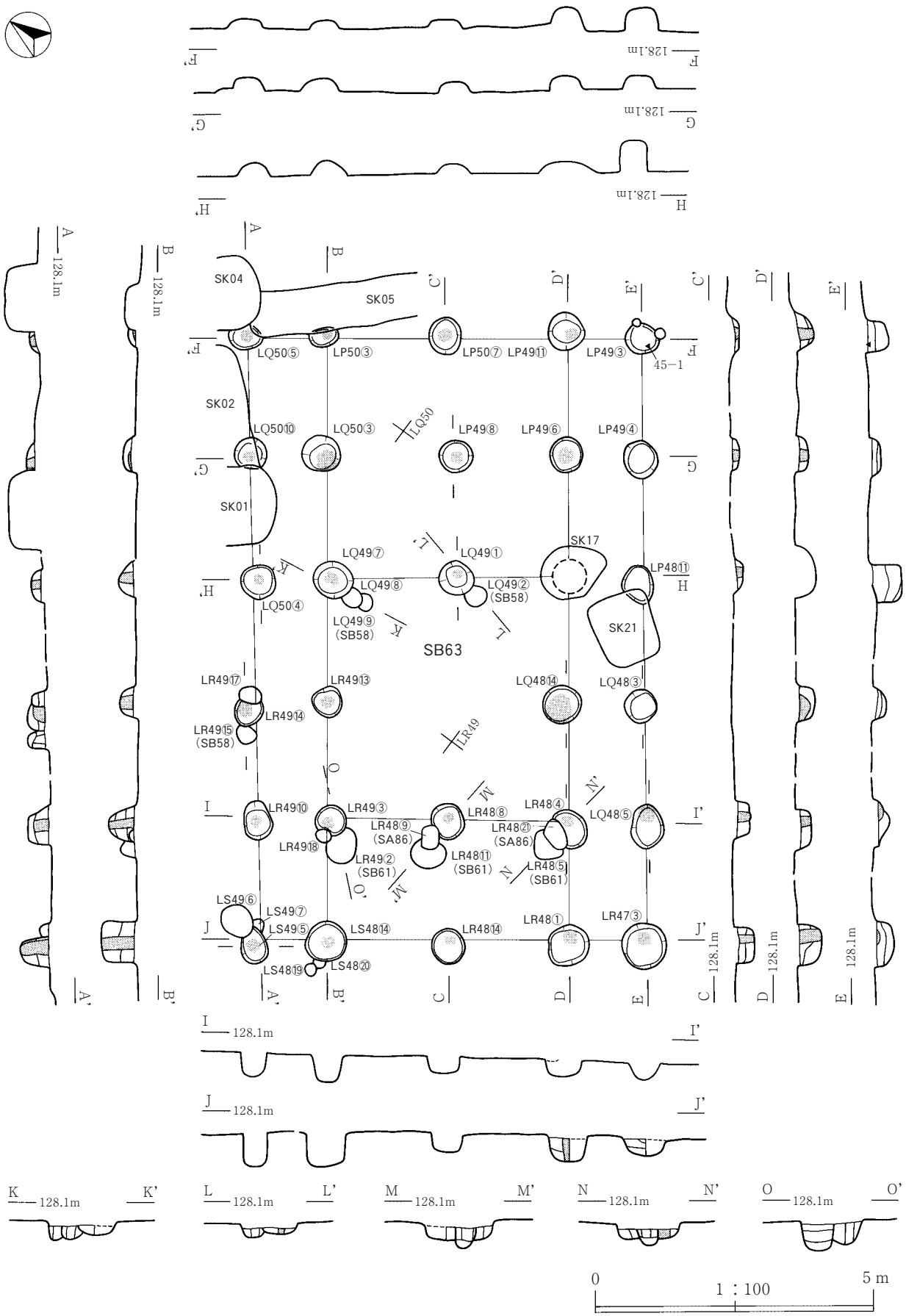
第14図　掘立柱建物跡（５）　SB60



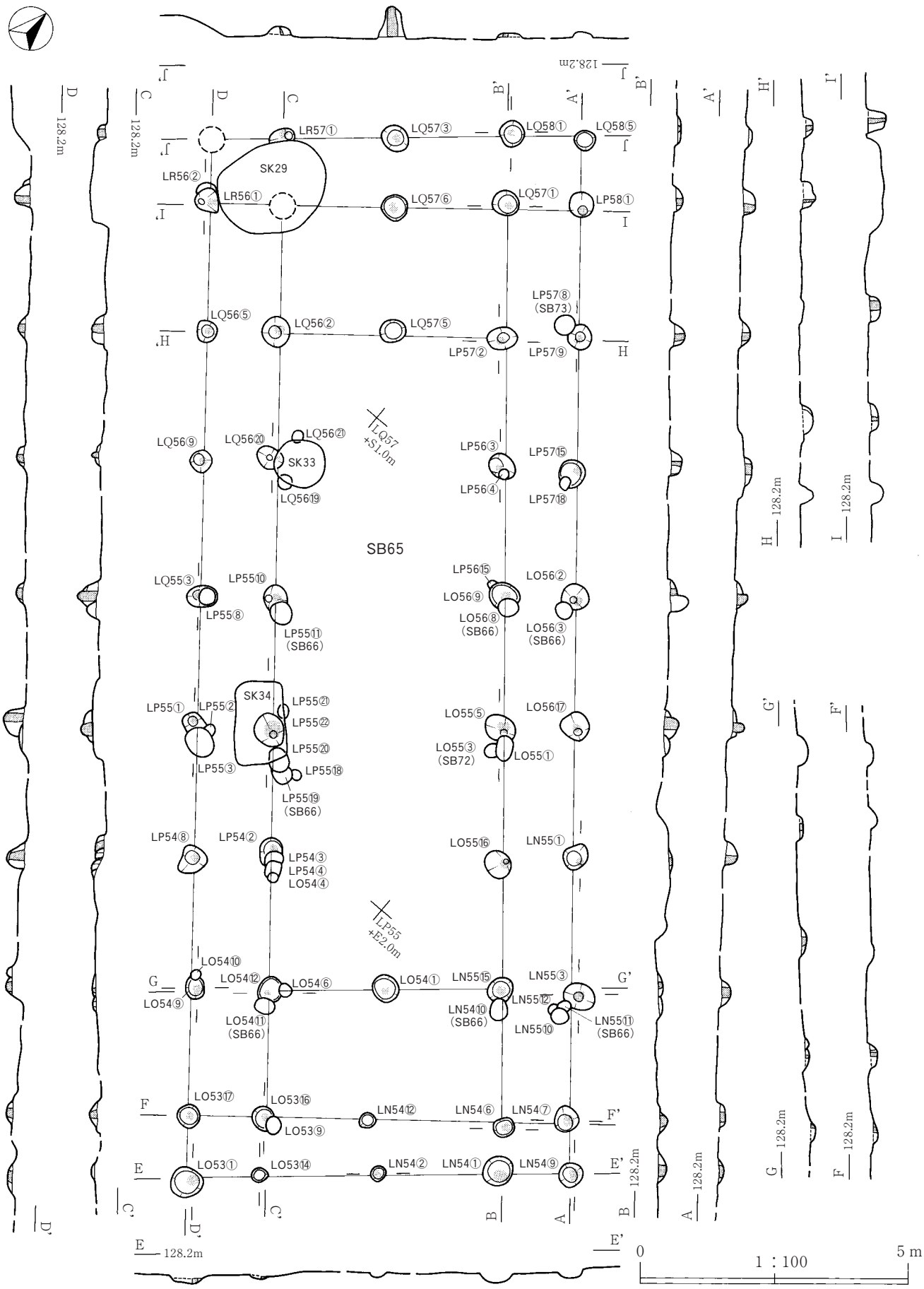
第15図　掘立柱建物跡（６）　SB61



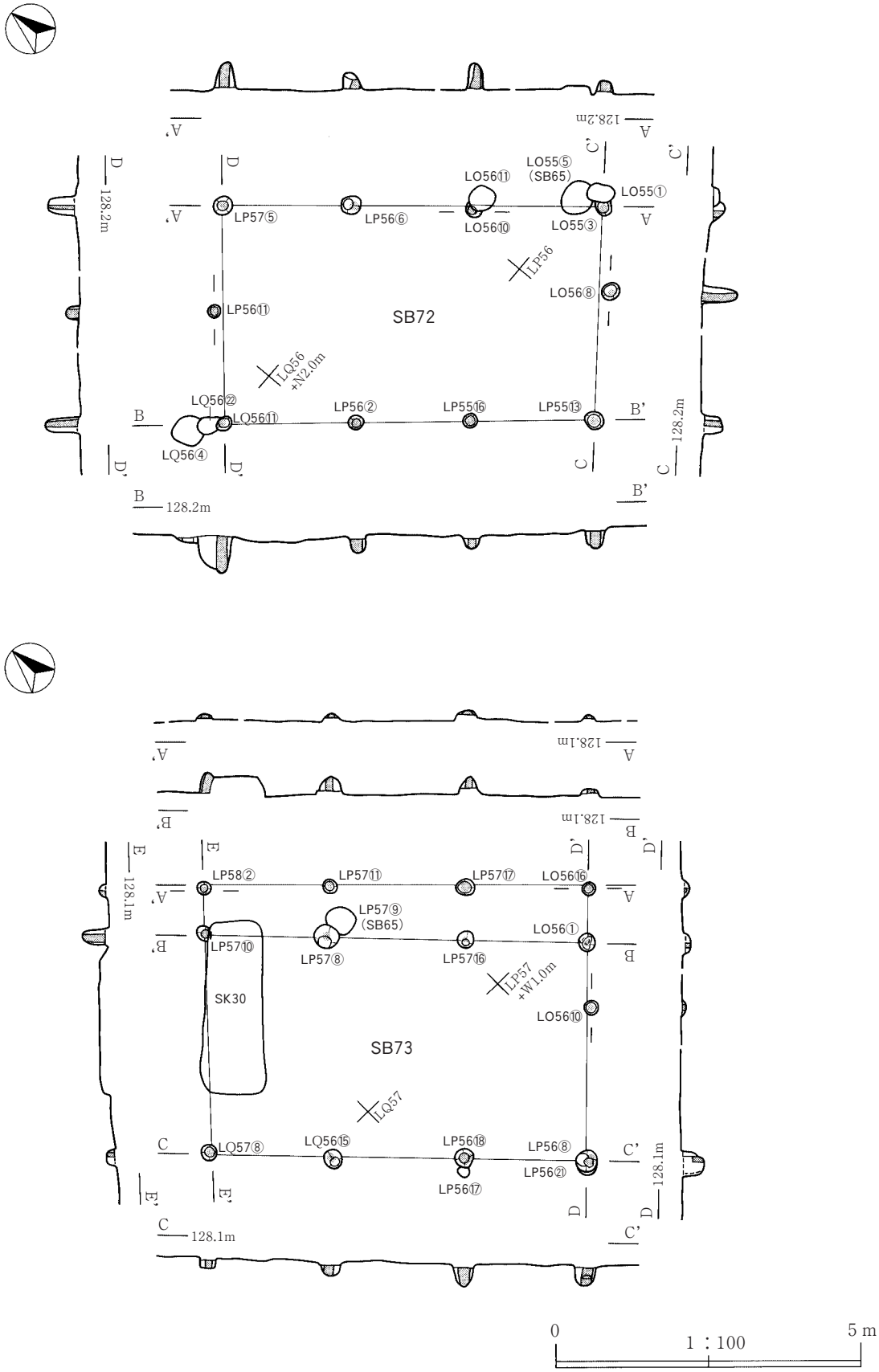
第16図　掘立柱建物跡（７）　SB62



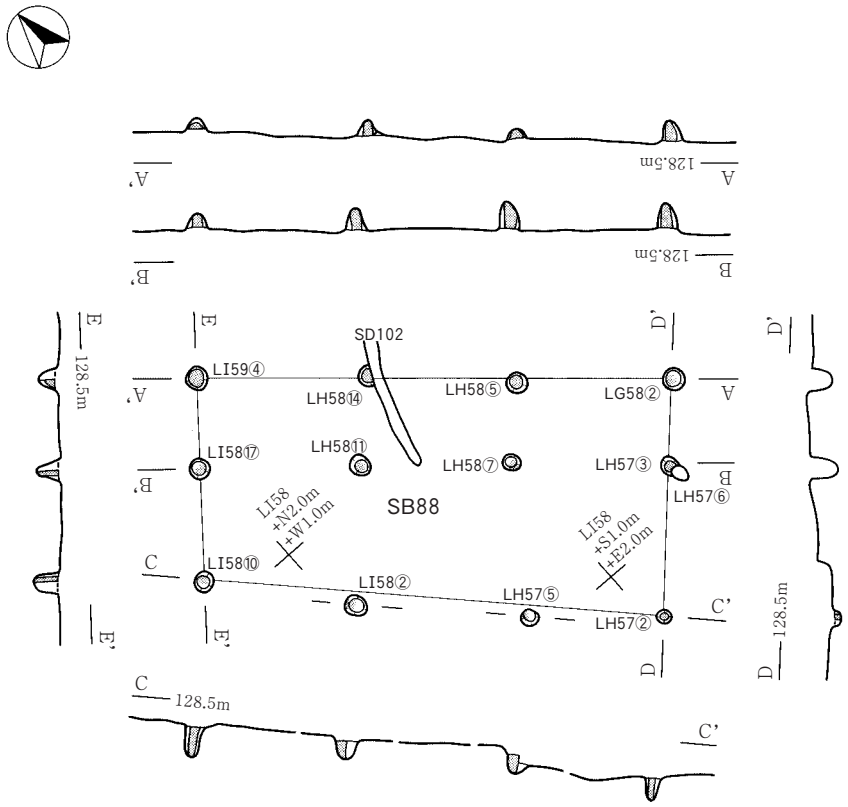
第17図　掘立柱建物跡（８）　SB63

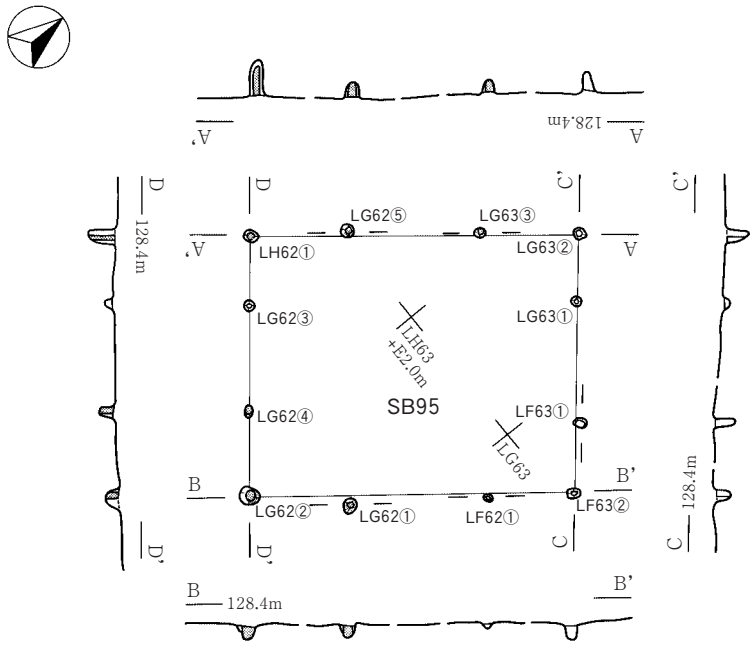


第18図　掘立柱建物跡（９）　SB65



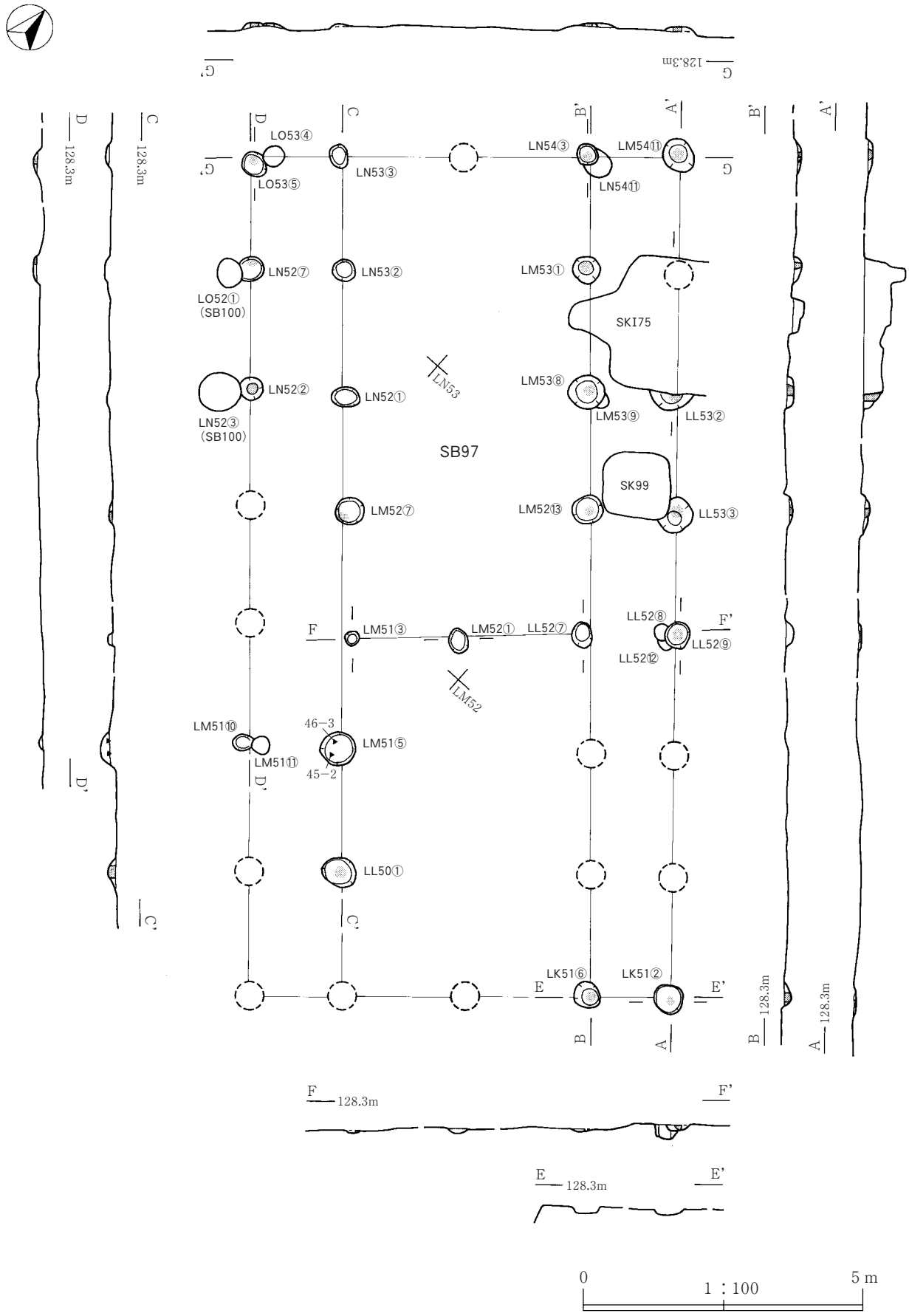
第19図　掘立柱建物跡(10)　SB72・73



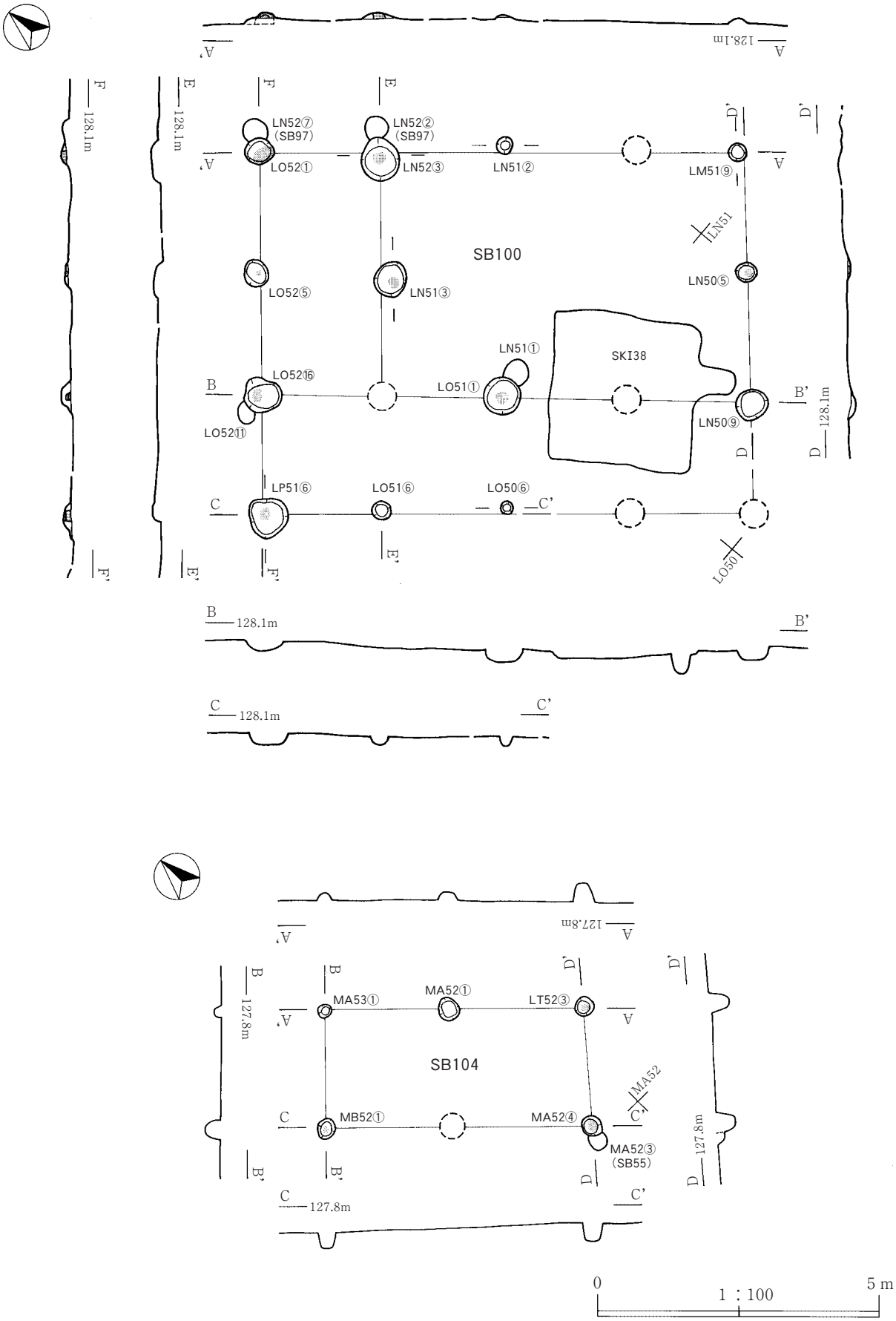


0　1：100　5 m

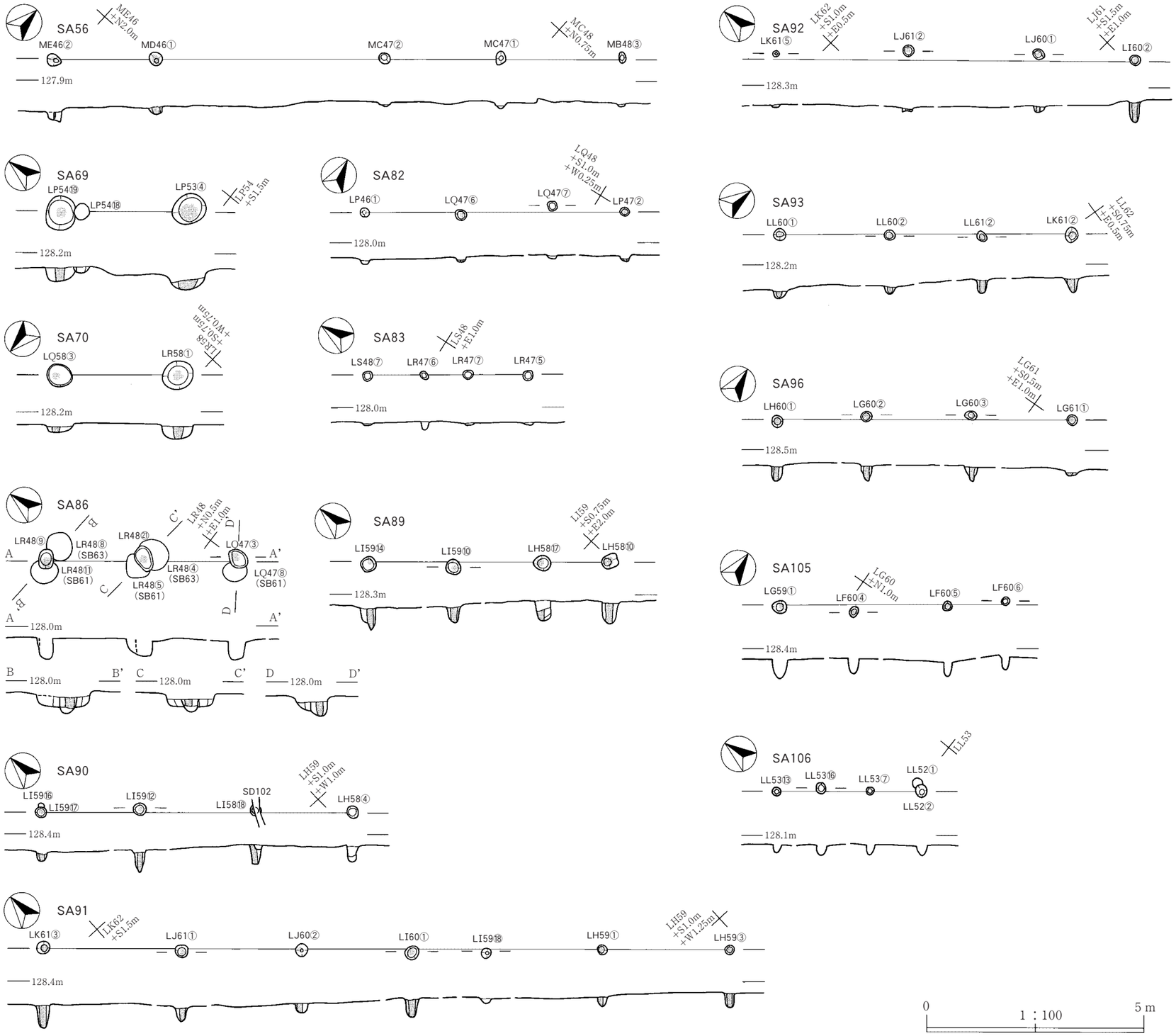
第20図　掘立柱建物跡(11)　SB88・95



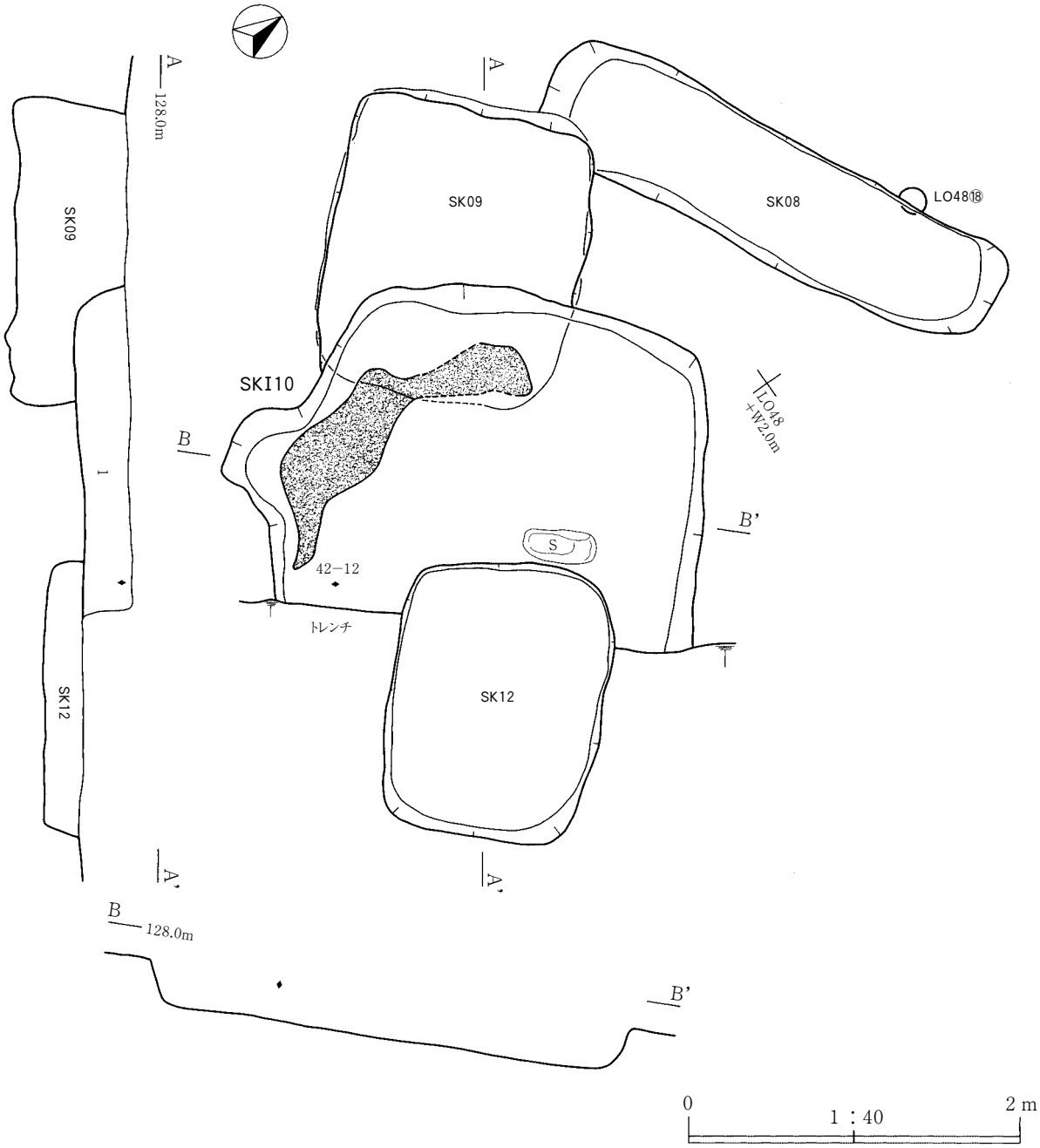
第21図　掘立柱建物跡(12)　SB97



第22図　掘立柱建物跡(13)　SB100・104



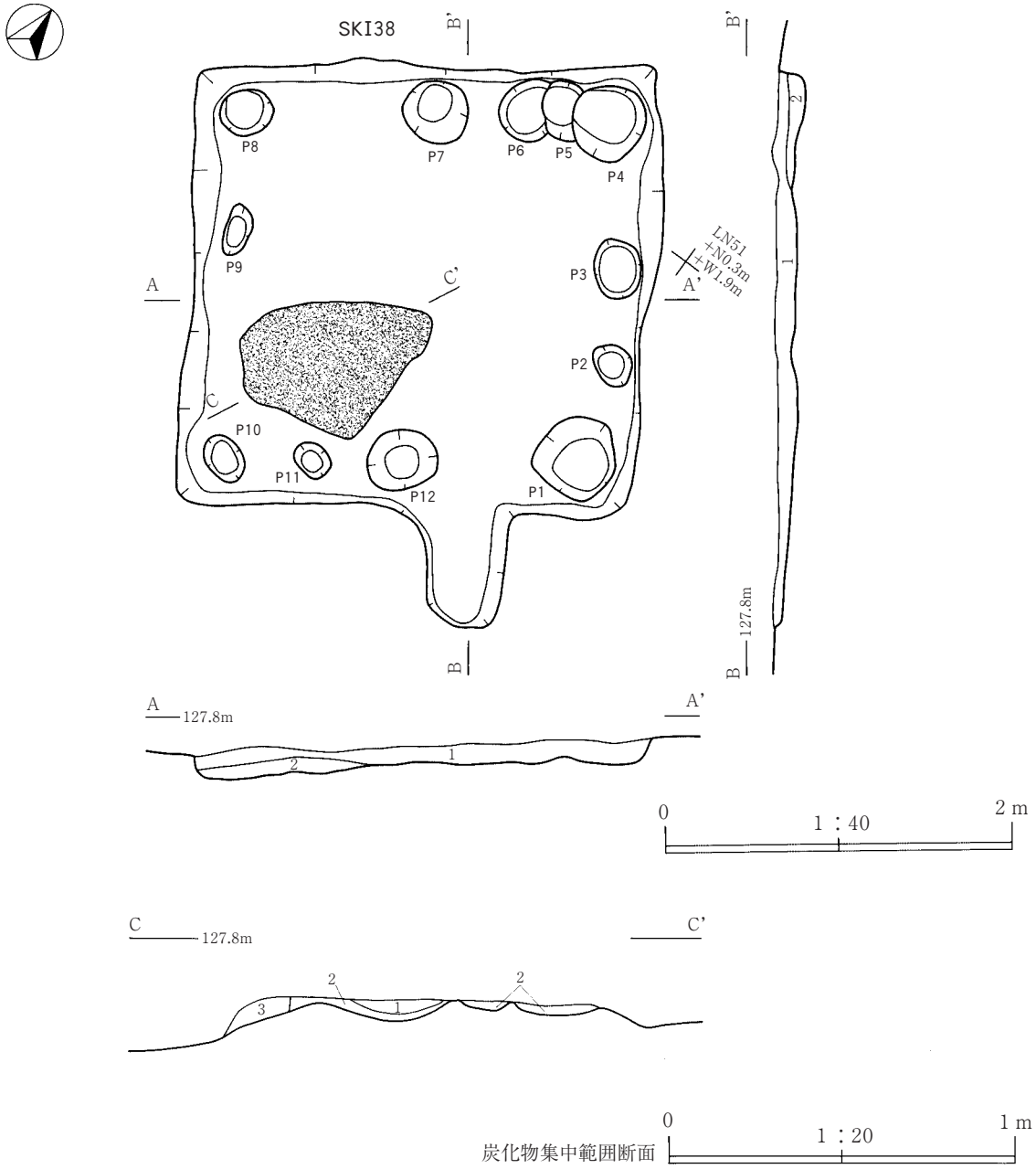
第23図　柱穴列　SA56・69・70・82・83・86・89・90・91・92・93・96・105・106



SKI10土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	＋＋	φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒10%

第24図　竪穴状遺構（１）　SKI10



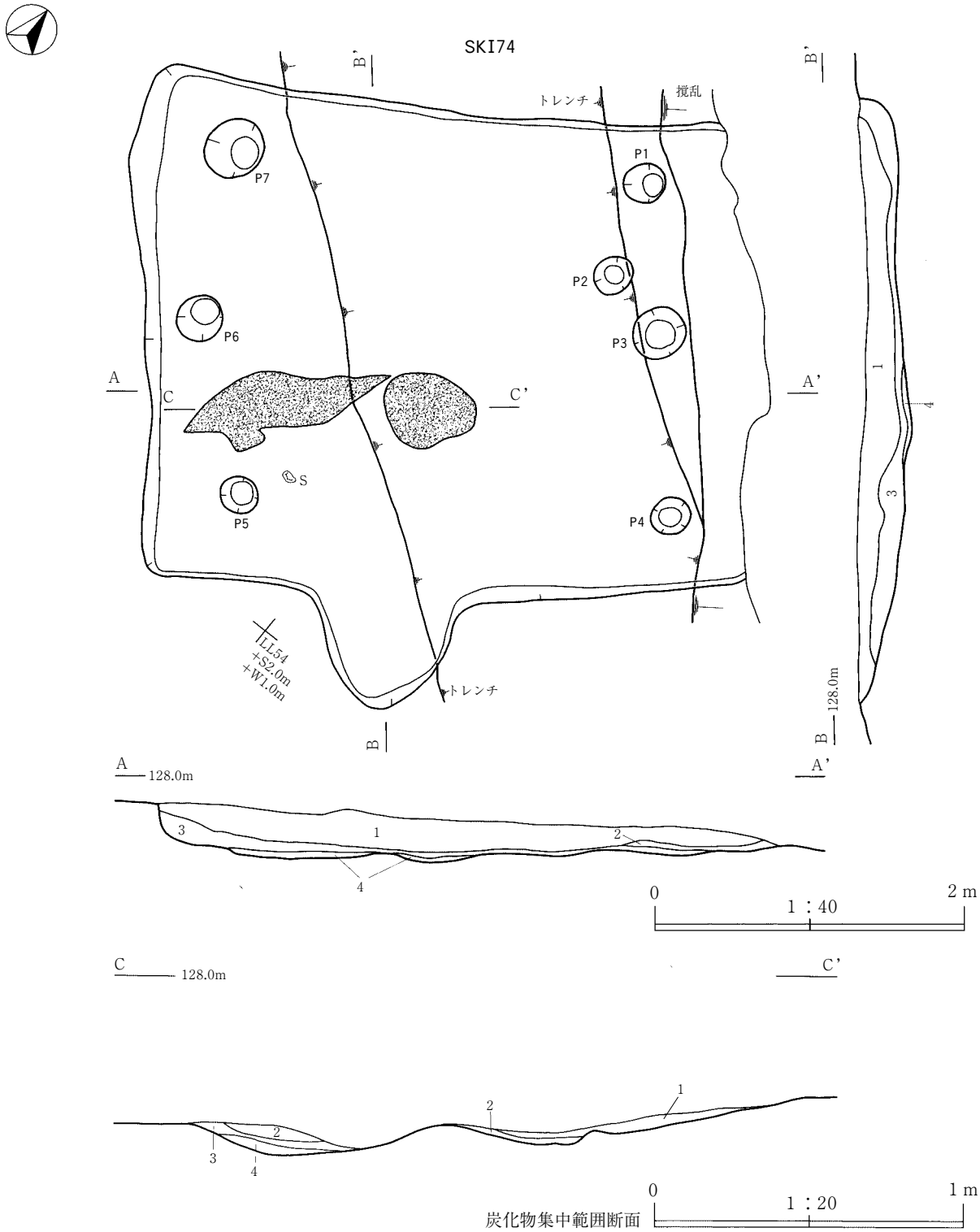
SKI38土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/3(黒褐色)	シルト	±	＋＋	φ1～2㎜炭化物粒2% φ20～250㎜礫15%
2	10YR3/4(暗褐色)	シルト	±	＋＋	φ20～200㎜礫15%

SKI38(炭化物集中範囲)土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR7/1(灰白色)	シルト	±	＋	φ2～5㎜焼土粒10% φ20～30㎜礫3%
2	10YR2/1(黒色)	シルト	±	＋	φ2～5㎜焼土粒7% φ20～100㎜礫15%
3	10YR2/3(黒褐色)	シルト	＋	±	φ1～2㎜焼土粒7% φ5～20㎜礫15%

第25図　竪穴状遺構（２）　SKI38



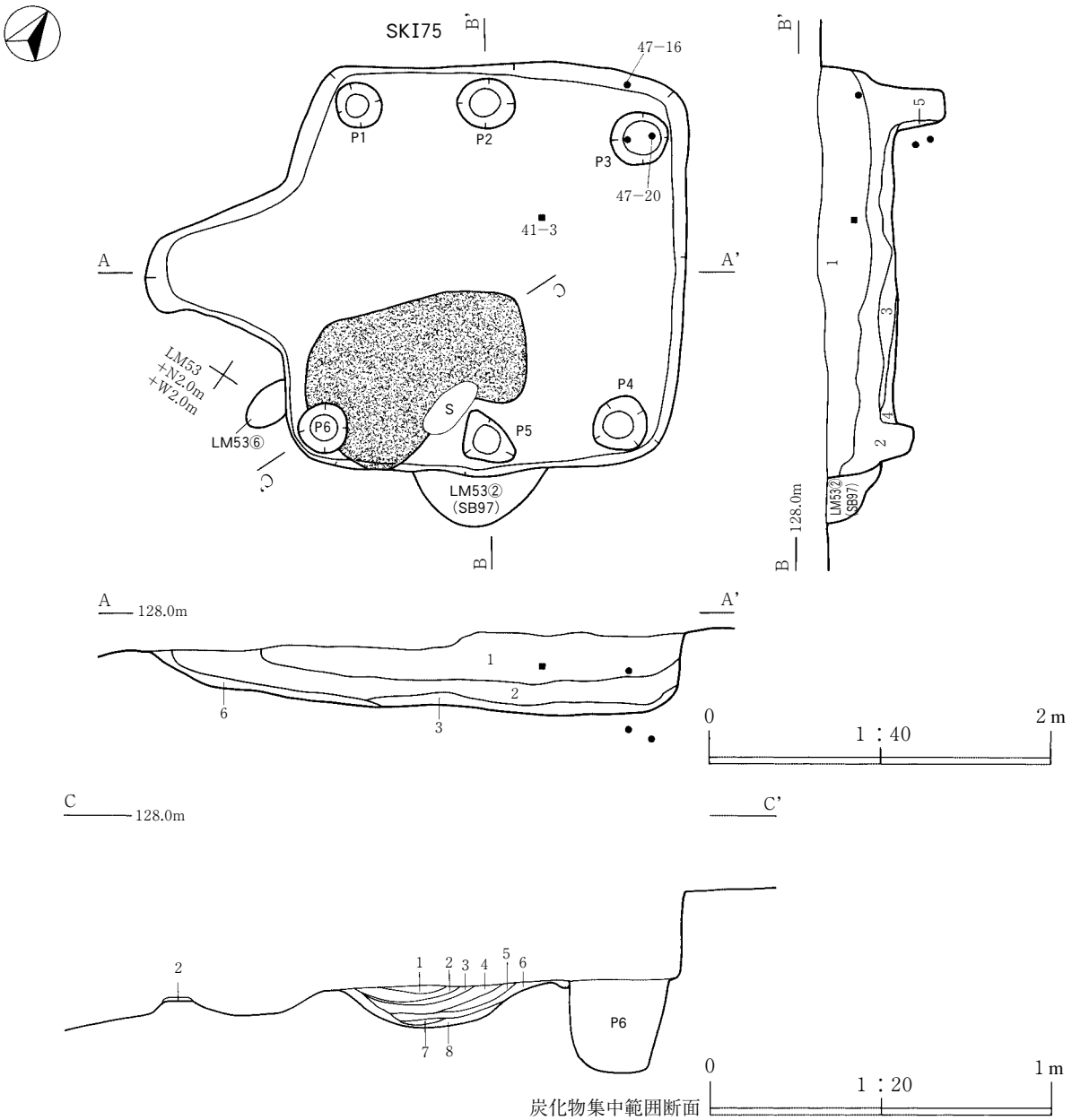
SKI74土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/2(灰黄褐色)	粘土～シルト～細砂	＋＋	＋＋～＋＋＋	φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～15㎜炭化物粒3% φ1～15㎜焼土粒1%
2	10YR4/2(灰黄褐色)	粘土～シルト～細砂	＋＋～＋＋＋	＋＋～＋＋＋	φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～10㎜炭化物粒5% φ5～10㎜暗褐色砂塊3%
3	10YR3/3(暗褐色)	シルト～細砂	＋	＋	φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～15㎜炭化物粒5% φ1～3㎜焼土粒1%
4	10YR2/2(黒褐色)	シルト～細砂	＋＋	－	φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒2% φ1～20㎜炭化物粒45%

SKI74(炭化物集中範囲)土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	シルト	－	－	φ1～20㎜炭化物塊10%
2	10YR3/4(暗褐色)	シルト	±	±	φ1～5㎜炭化物粒30%
3	10YR2/1(黒色)	シルト	＋	＋＋	φ1～50㎜地山土(Ⅲ層)塊3% φ1～5㎜炭化物粒30%
4	10YR1.7/1(黒色)	シルト	＋＋	＋	φ1～5㎜炭化物粒40%

第26図　竪穴状遺構(３)　SKI74



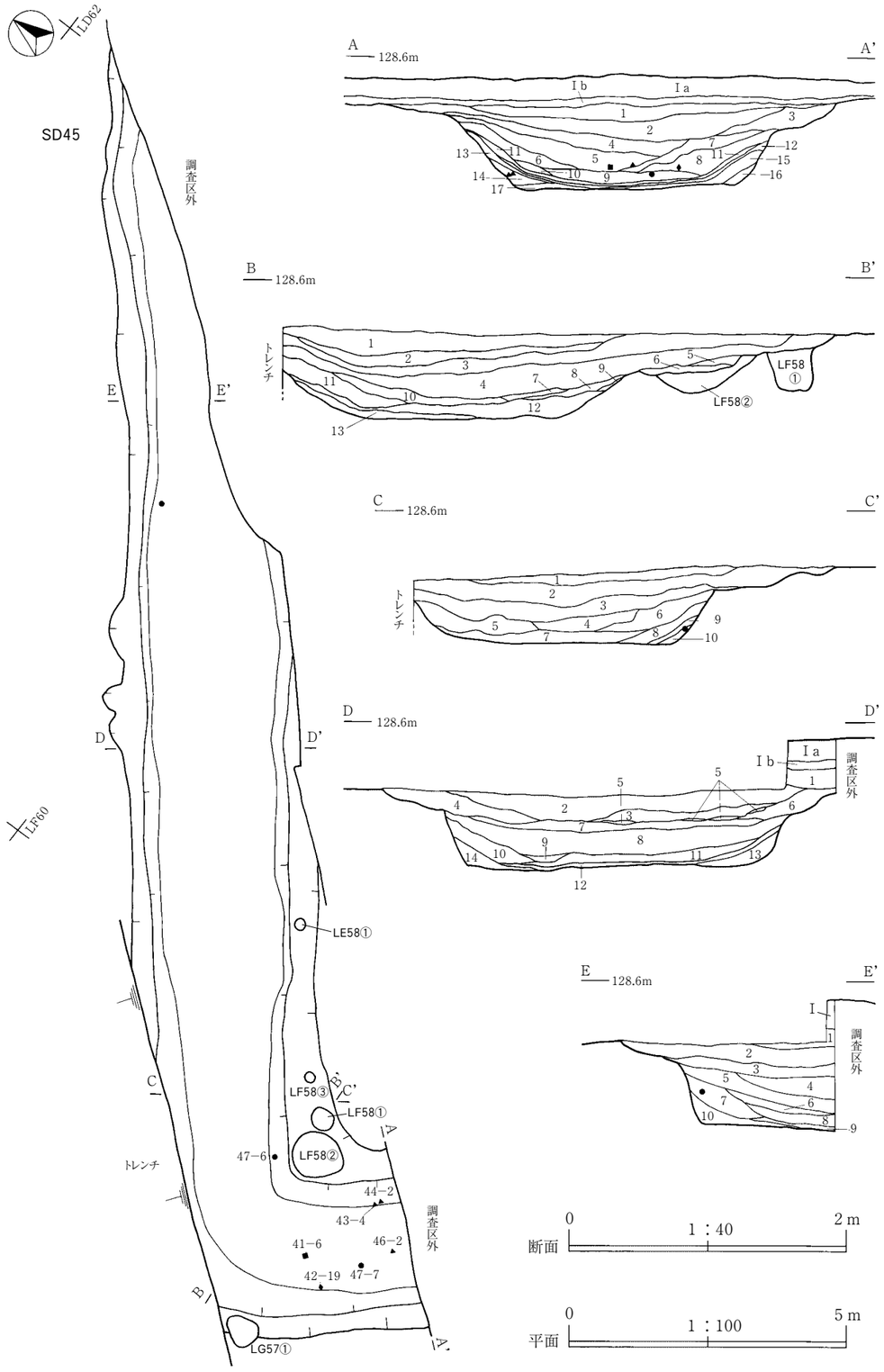
SKI75土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/3(暗褐色)	シルト～粗砂	±	＋＋	φ10～30㎜地山土(Ⅲ層)塊5%
					φ1～5㎜炭化物粒1%
					φ1～5㎜焼土粒1%
2	10YR2/3(黒褐色)	シルト～粗砂	±	＋	φ10～30㎜地山土(Ⅲ層)塊5%
					φ1～5㎜炭化物粒1%
					φ1～5㎜焼土粒1%
3	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	－	φ1～15㎜炭化物粒30%
					φ5～30㎜焼土塊5%
4	10YR2/3(黒褐色)	シルト～粗砂	±	±	φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒2%
					φ2～5㎜炭化物粒3%
5	10YR2/3(黒褐色)	シルト～粗砂～粘土	±	±	－
6	10YR2/2(黒褐色)	シルト～粗砂	＋	＋	φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)塊10%
					φ1～5㎜炭化物粒5%
					φ1～5㎜焼土粒1%

SKI75(炭化物集中範囲)土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/6(褐色)	シルト	＋＋	±	φ1～20㎜焼土粒30%
2	10YR2/1(黒色)	シルト	±	＋	φ1～20㎜炭化物塊30%
					φ1～5㎜焼土粒5%
3	10YR3/3(暗褐色)	シルト～細砂	＋	±	φ1～3㎜炭化物粒3%
					φ1～3㎜焼土粒10%
4	10YR2/3(黒褐色)	シルト～細砂	＋	±	φ5～20㎜炭化物塊5%
5	10YR5/3(にぶい黄褐色)	シルト～細砂	＋＋	－	φ1～3㎜炭化物粒2%
6	10YR2/2(黒褐色)	シルト～細砂	＋	－	φ1～10㎜炭化物粒40%
7	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	±	－
8	10YR2/2(黒褐色)	シルト～細砂	－	＋	φ1～15㎜炭化物粒45%

第27図　竪穴状遺構(４)　SKI75



第28図　溝跡（１）　SD45

SD45（A-A'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト～粘土	＋～＋＋	＋＋	φ10～30㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～3㎜炭化物粒1%
2	10YR2/3(黒褐色)	シルト	±	＋～±	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～3㎜炭化物粒1%
3	10YR2/2(黒褐色) ～10YR2/3(黒色)	シルト～粘土	＋～＋＋	＋	φ10～30㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒3%
4	10YR2/3(黒褐色)	シルト～粘土	＋	±～＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊5% φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
5	10YR2/3(黒褐色)	シルト	＋～±	±	φ5～30㎜黒色土(Ⅱ層)塊10% φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒10% φ1～3㎜炭化物粒1%
6	10YR2/3(黒褐色) ～10YR3/3(暗褐色)	シルト～粘土	＋＋	±	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊5% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
7	10YR2/3(黒褐色)	シルト～粘土	＋＋	＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
8	10YR3/3(暗褐色)	シルト	＋	±	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～3㎜炭化物粒1%
9	10YR3/2(黒褐色)	粘土	＋＋＋	－	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～5㎜炭化物粒1%
10	10YR2/2(黒褐色)	シルト	＋＋	±	φ10～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒10% φ1～3㎜炭化物粒1%
11	10YR3/3(暗褐色)	シルト～粘土	＋＋～＋＋＋	－	φ10～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
12	10YR3/2(黒褐色)	シルト～粘土	＋＋～＋＋＋	－	φ10～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
13	10YR3/4(暗褐色)	シルト～細砂	±	＋	φ10～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
14	10YR3/3(暗褐色)	シルト～粘土	＋＋	±	φ10～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
15	10YR3/3(暗褐色)	シルト～粘土	＋＋	±	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
16	10YR4/4(褐色)	シルト	＋	±～＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)塊1% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒20%
17	10YR4/4～4/3(褐色)	細砂	－	±～＋	－

SD45（B-B'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/1(黒色) ～10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	＋＋＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊10% φ3～10㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～5㎜炭化物粒1%
2	10YR2/3(黒褐色)	シルト	±	＋＋～＋＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊10% φ3～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～5㎜炭化物粒3%
3	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	＋～＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊5% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～5㎜炭化物粒1%
4	10YR2/3(黒褐色)	シルト	±	＋～＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊10% φ1～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～5㎜炭化物粒3%
5	10YR2/3(黒褐色) ～10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～5㎜炭化物粒3%
6	10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊10% φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒10% φ1～3㎜炭化物粒1%
7	10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	±～＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒20% φ1～3㎜炭化物粒1%
8	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊5% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～5㎜炭化物粒1%
9	10YR5/4(にぶい黄褐色)	シルト～粘土	＋	±	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊5% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒40% φ1～5㎜炭化物粒1%
10	10YR3/1(黒褐色)	シルト～粘土	＋～＋＋	±	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊5% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～10㎜炭化物粒3%
11	10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	±～＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ5～30㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～5㎜炭化物粒1%
12	10YR3/2(黒褐色) ～10YR4/2(灰黄褐色)	粘土	＋＋＋	－～±	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～5㎜炭化物粒1%
13	10YR3/2(黒褐色)	粘土	＋＋～＋＋＋	－	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)塊3% φ5～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～5㎜炭化物粒3%

SD45（C-C'ライン）土層

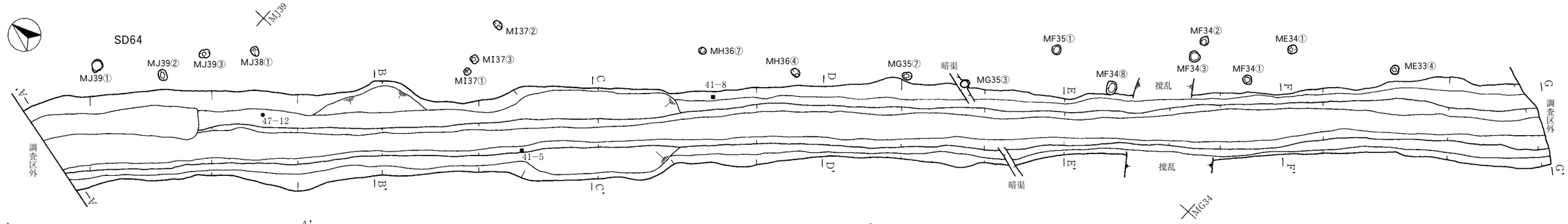
層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	＋＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒10% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
2	10YR2/1(黒色) ～10YR2/3(黒褐色)	シルト	±～＋	＋	φ1～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～3㎜炭化物粒1%
3	10YR2/1(黒色) ～10YR2/2(黒褐色)	シルト	±～＋	±～＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒10% φ1～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
4	10YR2/1(黒色)	シルト	±	±～＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～3㎜炭化物粒1%
5	10YR4/1(褐灰色)	シルト	±	＋	φ1～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～5㎜炭化物粒3%
6	10YR3/1～3/2(黒褐色)	シルト	±	±～＋	φ1～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒5% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～5㎜炭化物粒1%
7	10YR3/2(黒褐色)	粘土	＋＋	±	φ1～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒1% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～5㎜炭化物粒1%
8	10YR3/1～3/2(黒褐色)	シルト	±	±～＋	φ1～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～5㎜炭化物粒1%
9	10YR2/1(黒色)	シルト	＋	±～＋	φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
10	10YR3/2～2/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒3%

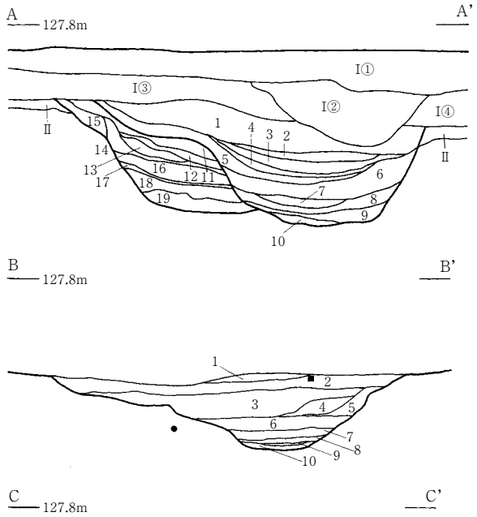
SD45（D-D'ライン）土層

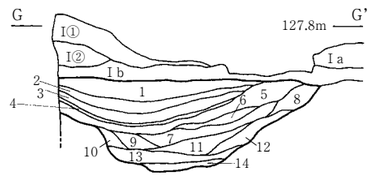
層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/1(黒褐色)	シルト	±	＋＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒5% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～3㎜炭化物粒1%
2	10YR2/2～3/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ3～20㎜黒色土(Ⅱ層)塊10% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～5㎜炭化物粒1%
3	10YR2/3(黒褐色)	シルト	±	±～＋	φ1～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～5㎜炭化物粒1%
4	10YR2/2～3/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ1～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～10㎜炭化物粒1%
5	10YR2/1(黒色)	シルト	＋	±	φ1～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
6	10YR2/2～2/3(黒褐色)	シルト	±	±	φ10～50㎜黒色土(Ⅱ層)塊10% φ1～20㎜地山土(Ⅲ層)粒10%
7	10YR2/3(黒褐色) ～10YR3/3(暗褐色)	シルト	±～＋	±	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～3㎜炭化物粒1%
8	10YR2/3(黒褐色)	シルト	±	±	φ1～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～5㎜炭化物粒1%
9	10YR3/3(暗褐色)	粘土	＋＋	－～±	－
10	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	±	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒1% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～3㎜炭化物粒1%
11	10YR3/1～3/2(黒褐色)	粘土	＋＋＋	－	－
12	10YR3/2(黒褐色)	粘土	＋＋＋	－	φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒3%
13	10YR2/2(黒褐色)	シルト～粘土	＋	－～±	φ10～30㎜黒色土(Ⅱ層)塊20% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒3%
14	10YR2/1(黒色) ～10YR2/2(黒褐色)	シルト	±～＋	－～±	φ10～30㎜黒色土(Ⅱ層)塊10% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5%

SD45（E-E'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/1(黒色)	シルト	±	＋＋＋	φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
2	10YR2/1(黒色) ～10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	＋＋	φ1～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒5% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～3㎜炭化物粒1%
3	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ1～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒1% φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～3㎜炭化物粒1%
4	10YR2/2～3/2(黒褐色)	シルト	±	±～＋	φ1～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～20㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
5	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	±～＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒5% φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～5㎜炭化物粒1%
6	10YR2/2～3/2(黒褐色)	シルト	±	±～＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒20% φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～5㎜炭化物粒1%
7	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ1～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～3㎜炭化物粒1%
8	10YR3/1(黒褐色)	粘土	＋＋＋	－～±	φ1～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
9	10YR3/2(黒褐色)	粘土	＋＋	－～±	φ1～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒10%
10	10YR2/2～3/2(黒褐色)	シルト	±	－～±	φ10～50㎜黒色土(Ⅱ層)塊30% φ1～3㎜地山土(Ⅲ層)粒1%

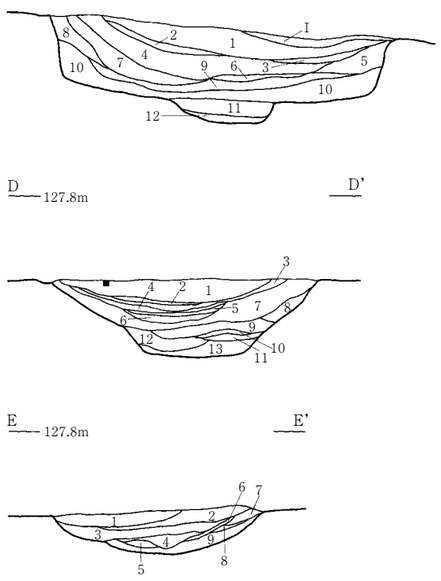






平面　0　1：100　5 m

断面　0　1：40　2 m



SD64（A-A'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	++	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒7% φ～1mmにぶい黄褐色土粒1% φ1～2mm炭化物粒1%
2	10YR3/1(黒褐色)	シルト	++	+	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒15% φ～1mmにぶい黄褐色土粒1%
3	10YR2/2(黒褐色)	粘土	+++	+	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒15% φ2～5mm褐色土粒3%
4	10YR3/1(黒褐色)	粘土	+++	++	φ5～10mm地山土(Ⅲ層)粒30% φ2～5mm炭化物粒1%
5	10YR2/1(黒色)	粘土	+++	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒2% φ2～5mm炭化物粒1%
6	10YR2/1(黒色)	粘土	+++	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒7% φ2～5mm炭化物粒7%
7	10YR3/1(黒褐色)	粘土	+++	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒2% φ2～5mm灰黄褐色土粒15%
8	10YR2/1(黒色)	粘土	+++	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒3% φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒5%
9	10YR2/1(黒色)	粘土	+++	++	φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒10%
10	10YR5/4(にぶい黄褐色)	シルト	+	++	φ5～10mm灰黄褐色土粒10% φ2～5mm炭化物粒1%
11	10YR3/4(暗褐色)	シルト	+	++	φ10mm～黒褐色粘土粒30% φ5～10mmにぶい黄褐色土粒5% φ2～5mm炭化物粒1%
12	10YR4/4(褐色)	砂	+	+	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒3% φ5～10mm黒褐色粗砂粒7%
13	10YR3/3(暗褐色)	シルト	++	++	φ5～10mm黒褐色粘土粒15% φ1～2mmにぶい黄褐色土粒3%
14	10YR3/3(暗褐色)	粘土	+++	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒20% φ2～5mm黒褐色土粒7%
15	10YR2/2(黒褐色)	シルト	++	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒7% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒10%
16	10YR3/4(暗褐色) ～10YR4/2(灰黄褐色)	シルト～粗砂	−	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粘土粒3%
17	10YR4/2(灰黄褐色)	粘土	+++	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒7%
18	10YR2/2(黒褐色)	粘土	+++	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粘土粒7% φ2～5mm褐色砂粒10% φ2～5mmにぶい黄褐色土粒1%
19	10YR4/4(褐色)	粗砂	±	+++	φ1～2mm黒褐色土粘土粒2%

SD64（B-B'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	細砂	±	+++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒20% φ2～5mmにぶい黄褐色土粒7%
2	10YR3/1(黒褐色)	シルト	+	+++	φ～1mm黒色土(Ⅱ層)粒1% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒3%
3	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒5% φ2～5mmにぶい黄褐色土粒7% φ1～2mm炭化物粒1%
4	10YR2/1(黒色)	粘土	+++	++	φ～1mm地山土(Ⅲ層)粒1%
5	10YR3/1(黒褐色)	シルト	++	+++	φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒40% φ2～5mm褐色粗砂粒5%
6	10YR4/1(褐灰色)	シルト	++	+++	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒20% φ5～10mmにぶい黄褐色土粒30% φ10～20mm円礫1%
7	10YR5/3(にぶい黄褐色) ～10YR3/1(黒褐色)	細砂～砂	+	++	φ5～10mm黒褐色土粘土粒7%
8	10YR3/2(黒褐色)	粘土	++	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒10% φ2～5mm灰黄褐色砂粒20%
9	10YR4/4(褐色)	粗砂	−	+	−
10	10YR5/2(灰黄褐色)	粘土	+++	++	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒3%

SD64（C-C'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	+++	φ～1mm黒色土(Ⅱ層)粒10% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒3%
2	10YR3/1(黒褐色)	シルト	+	+++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒3% φ1～2mm灰褐色土粒5%
3	10YR3/2(黒褐色)	細砂	+	+++	φ～1mm黒色土(Ⅱ層)粒2%
4	10YR3/1(黒褐色)	シルト	+	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒30% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒7%
5	10YR3/2(黒褐色)	シルト	+	+++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～2mm炭化物粒1%
6	10YR3/2(黒褐色)	シルト	+	+++	φ2～5mm褐色土粒30% φ～1mm炭化物粒1%
7	10YR3/1(黒褐色)	シルト	+	++	φ10mm～黒色土(Ⅱ層)粒40% φ5～10mm灰黄褐色土粒7%
8	10YR3/1(黒褐色)	シルト	+	+++	φ10～20mm黒色土(Ⅱ層)塊3% φ2～5mm灰黄褐色土粒7%
9	10YR2/1(黒褐色)	細砂	+	++	φ1～2mm褐灰色土粒1%
10	10YR3/1(黒褐色)	細砂	+	+++	φ2～5mm褐灰色土粒3%
11	10YR4/4(褐色) ～10YR5/3(にぶい黄褐色)	砂～粗砂	−	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒3% φ2～5mm褐灰色粘土粒7%
12	10YR3/1(黒褐色)	粘土	+++	+	φ～1mm黒色土(Ⅱ層)粒1%

SD64（D-D'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	+++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒2%
2	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒5% φ5～10mm黒褐色土粒20%
3	10YR3/1(黒褐色)	粘土	++	+++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒2%
4	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	++	φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒20%
5	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒5%
6	10YR3/2(黒褐色)	シルト	+	++	φ10～mm地山土(Ⅲ層)粒40%
7	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	+++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒2% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒2%
8	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	++	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒7% φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒10%
9	10YR4/1(褐灰色)	粗砂	−	+	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒2% φ5～10mm黒褐色土粒7%
10	10YR3/2(黒褐色) ～10YR4/3(にぶい黄褐色)	砂	±～++	+	−
11	10YR3/2(黒褐色) ～10YR4/1(褐灰色)	シルト～細砂	++	+	φ2～5mm灰黄褐色土粒2%
12	10YR3/1(黒褐色)	シルト	++	+	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒10%
13	10YR4/3(にぶい黄褐色)	砂	±	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒1% φ5～10mm灰黄褐色土粒3%

SD64（E-E'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/1(黒褐色)	シルト	+	+++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒3%
2	10YR3/2(黒褐色)	シルト	+	+++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒2% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒2%
3	10YR3/2(黒褐色)	細砂	+	+++	φ～1mm黒色土(Ⅱ層)粒1% φ1～5mm地山土(Ⅲ層)粒40%
4	10YR5/3(にぶい黄褐色)	砂	+	+++	φ～5mm地山土(Ⅲ層)砂粒30%
5	10YR3/2(黒褐色) ～10YR4/3(にぶい黄褐色)	細砂～砂	+	+++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒3%
6	10YR3/2(黒褐色)	細砂	+	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒5%
7	10YR4/2(灰黄褐色)	細砂	+	+++	φ～1mm黒色土(Ⅱ層)粒5% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒15%
8	10YR3/2(黒褐色)	シルト	+	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒20% φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒20%
9	10YR3/2(黒褐色)	シルト	++	++	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒20% φ5～10mmにぶい黄褐色砂粒20% φ5～10mm褐色砂粒30%

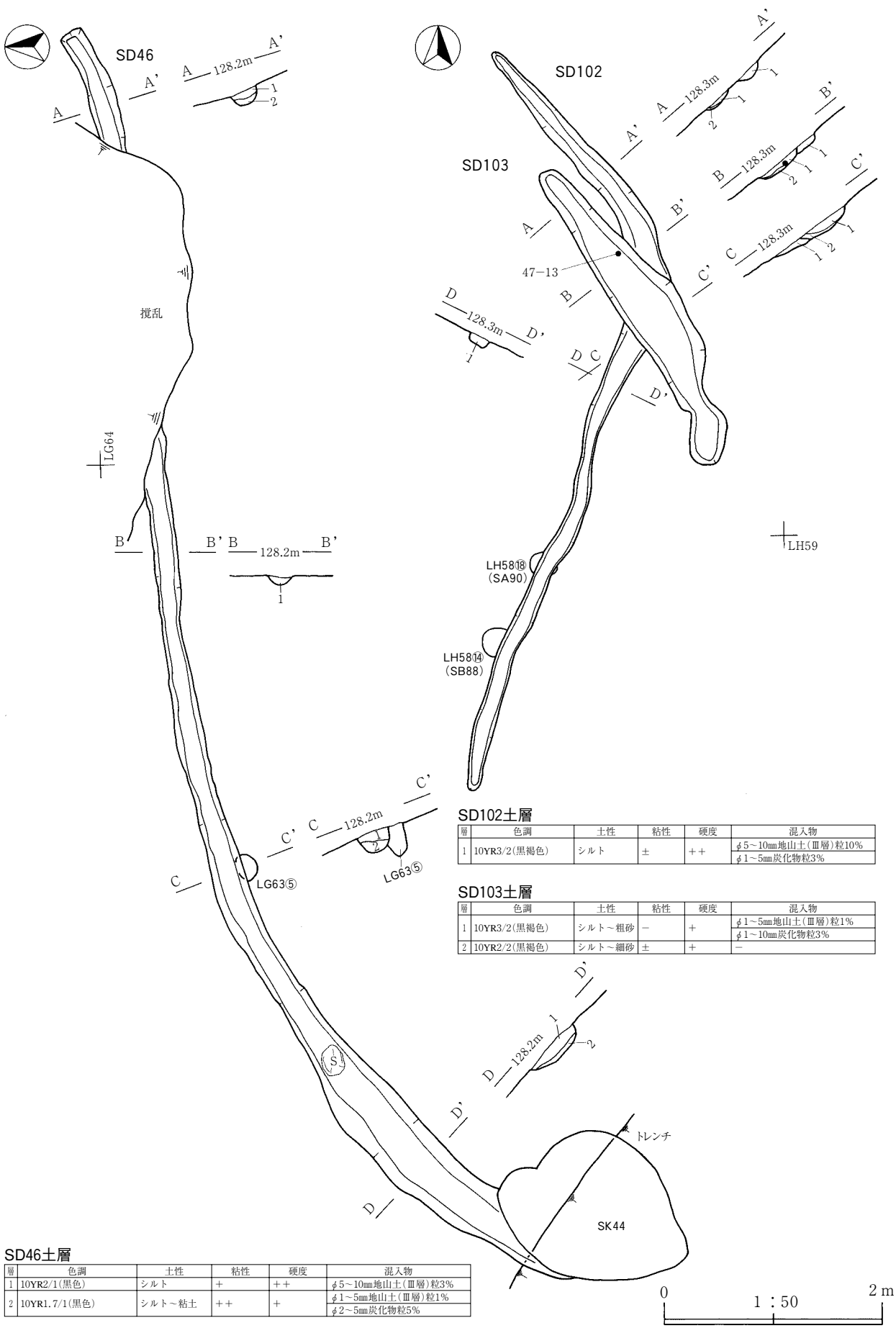
SD64（F-F'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	+++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒1%
2	10YR2/2(黒褐色)	シルト	++	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒1%
3	10YR3/2(黒褐色) ～10YR4/3(にぶい黄褐色)	細砂～砂	±～++	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒3%
4	10YR3/2(黒褐色) ～10YR4/3(にぶい黄褐色)	細砂～砂	±～++	+	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒5%
5	10YR3/1(黒褐色)	細砂	++	+	φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒30%
6	10YR4/3(にぶい黄褐色)	砂	+	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒5% φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒20%
7	10YR4/1(褐灰色)	細砂	+	++	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒5% φ5～10mm褐色砂粒10%
8	10YR4/1(褐灰色)	細砂	+	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒1% φ5～10mmにぶい黄褐色砂粒5%
9	10YR3/1(黒褐色) ～10YR4/3(にぶい黄褐色)	砂	±	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒2%
10	10YR4/1(褐灰色) ～10YR4/3(にぶい黄褐色)	細砂～砂	−～±	++	φ10～30mmにぶい黄褐色粗砂塊5%
11	10YR4/1(褐灰色)	粗砂	−	+	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒3%
12	10YR3/2(黒褐色) ～10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト～粗砂	−～++	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒5%
13	10YR3/1(黒褐色)	シルト	++	+	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒5% φ5～10mm灰黄褐色砂粒15%
14	10YR4/3(にぶい黄褐色)	砂	±	++	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒10% φ5～10mm灰黄褐色粘土粒3%

SD64（G-G'ライン）土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/1(黒褐色)	シルト	++	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒10% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒3%
2	10YR3/1(黒褐色)	シルト	++	++	φ～1mm地山土(Ⅲ層)粒1% φ2～5mm黒褐色粘土粒20%
3	10YR2/1(黒色)	粘土	+++	++	φ2～5mmにぶい黄褐色砂粒3% φ2～5mm黒褐色粘土粒25%
4	10YR3/2(黒褐色)	粘土	+++	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒15% φ2～5mm黒色粘土粒15%
5	10YR3/1(黒褐色)	シルト	+	+++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒7%
6	10YR4/3(にぶい黄褐色)	粗砂	±	++	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒10% φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒5% φ5～10mm黒褐色土粒10%
7	10YR3/2(黒褐色)	シルト	++	++	φ～1mm黒色土(Ⅱ層)粒1% φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒20%
8	10YR3/3(暗褐色)	シルト	+	++	φ1～2mm黒色粘土粒5% φ2～5mm褐色砂粒15%
9	10YR3/1(黒褐色)	シルト	+++	++	φ1～2mm黒色土(Ⅱ層)粒1% φ5～10mm暗褐色砂粒40%
10	10YR3/2(黒褐色)	シルト	++	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒7% φ1～2mm暗褐色砂粒5%
11	10YR4/4(褐色) ～10YR3/2(黒褐色)	シルト～粗砂	±～++	++	φ5～10mm黒色土(Ⅱ層)粒10% φ1～5mm炭化物粒1%
12	10YR3/2(黒褐色) ～10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト～細砂	+～++	++	φ10mm～黒色土(Ⅱ層)粒3%
13	10YR4/3(にぶい黄褐色)	細砂	±	++	φ2～5mm黒色土(Ⅱ層)粒5% φ5～10mm褐色土粒10%
14	10YR3/4(暗褐色)	粗砂	±	+	φ10mm～黒色土(Ⅱ層)粒20% φ5～10mm褐灰色土粒7%

第29図　溝跡（２）　SD64



SD102土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	＋＋	φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒10% φ1～5㎜炭化物粒3%

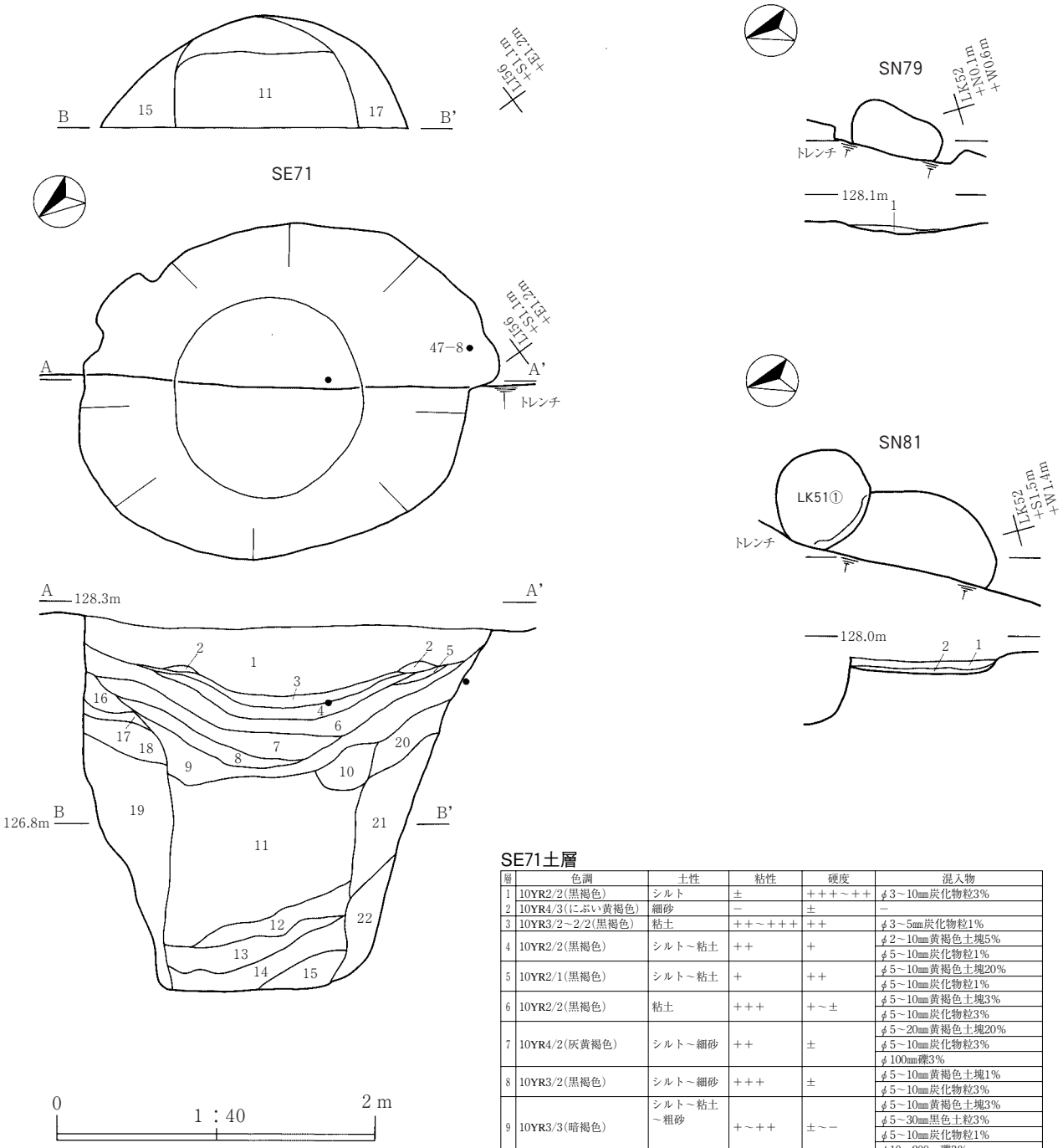
SD103土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	シルト～粗砂	－	＋	φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ1～10㎜炭化物粒3%
2	10YR2/2(黒褐色)	シルト～細砂	±	＋	－

SD46土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/1(黒色)	シルト	＋	＋＋	φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒3%
2	10YR1.7/1(黒色)	シルト～粘土	＋＋	＋	φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1% φ2～5㎜炭化物粒5%

第30図　溝跡(３)　SD46・102・103



SE71土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	＋＋＋～＋＋	φ3～10㎜炭化物粒3%
2	10YR4/3(にぶい黄褐色)	細砂	－	±	－
3	10YR3/2～2/2(黒褐色)	粘土	＋＋～＋＋＋	＋＋	φ3～5㎜炭化物粒1%
4	10YR2/2(黒褐色)	シルト～粘土	＋＋	＋	φ2～10㎜黄褐色土塊5% φ5～10㎜炭化物粒1%
5	10YR2/1(黒褐色)	シルト～粘土	＋	＋＋	φ5～10㎜黄褐色土塊20% φ5～10㎜炭化物粒1%
6	10YR2/2(黒褐色)	粘土	＋＋＋	＋～±	φ5～10㎜黄褐色土塊3% φ5～10㎜炭化物粒3%
7	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト～細砂	＋＋	±	φ5～20㎜黄褐色土塊20% φ5～10㎜炭化物粒3% φ100㎜礫3%
8	10YR3/2(黒褐色)	シルト～細砂	＋＋＋	±	φ5～10㎜黄褐色土塊1% φ5～10㎜炭化物粒3%
9	10YR3/3(暗褐色)	シルト～粘土～粗砂	＋～＋＋	±～－	φ5～10㎜黄褐色土塊3% φ5～30㎜黒色土粒3% φ5～10㎜炭化物粒1% φ10～200㎜礫3%
10	2.5Y3/2(黒褐色)	シルト～粘土～粗砂	＋＋	±～－	φ5～10㎜黄褐色土塊1% φ50～200㎜礫10%
11	5Y2/1(黒色)	粗砂～粘土	＋	±～－	φ10～50㎜青色粘土塊10%
12	5Y3/1(オリーブ黒色)	粘土	＋＋＋	－	φ5～20㎜青色粘土塊10% φ30～50㎜黒色土(Ⅱ層)塊20%
13	7.5Y3/1(オリーブ黒色)	粘土～砂	＋	±	φ5～20㎜青色粘土塊20% φ10～30㎜黒色土(Ⅱ層)塊5%
14	7.5Y4/1(灰色)	粘土～砂	＋＋	±～－	φ10～30㎜青色粘土塊30%
15	10Y4/1(灰色)	粘土～砂	＋＋	－	φ10～30㎜青色粘土塊40%
16	10YR2/2(黒褐色)	シルト	＋	＋＋	φ2～5㎜黄褐色土塊1% φ5～10㎜炭化物粒1%
17	10YR3/3(暗褐色)	シルト～粘土	＋＋	＋	φ5～20㎜黄褐色土塊10% φ5～10㎜炭化物粒1%
18	10YR2/1(黒色)	シルト	＋＋	±～－	φ10～30㎜黄褐色土塊5% φ5～10㎜炭化物粒1% φ50～200㎜礫10%
19	2.5Y2/1(黒色)	粘土	＋＋＋	－	φ10～50㎜青色粘土塊5%
20	2.5Y2/1(黒色)	粘土	＋＋＋	－	φ10～50㎜青色粘土塊5% φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒3%
21	10Y4/1(灰色)	粘土～砂	＋	±	φ10～50㎜青色粘土塊30% φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒1%
22	10Y5/1(灰色)	粘土～砂	±	±～－	φ5～30㎜青色粘土塊20%

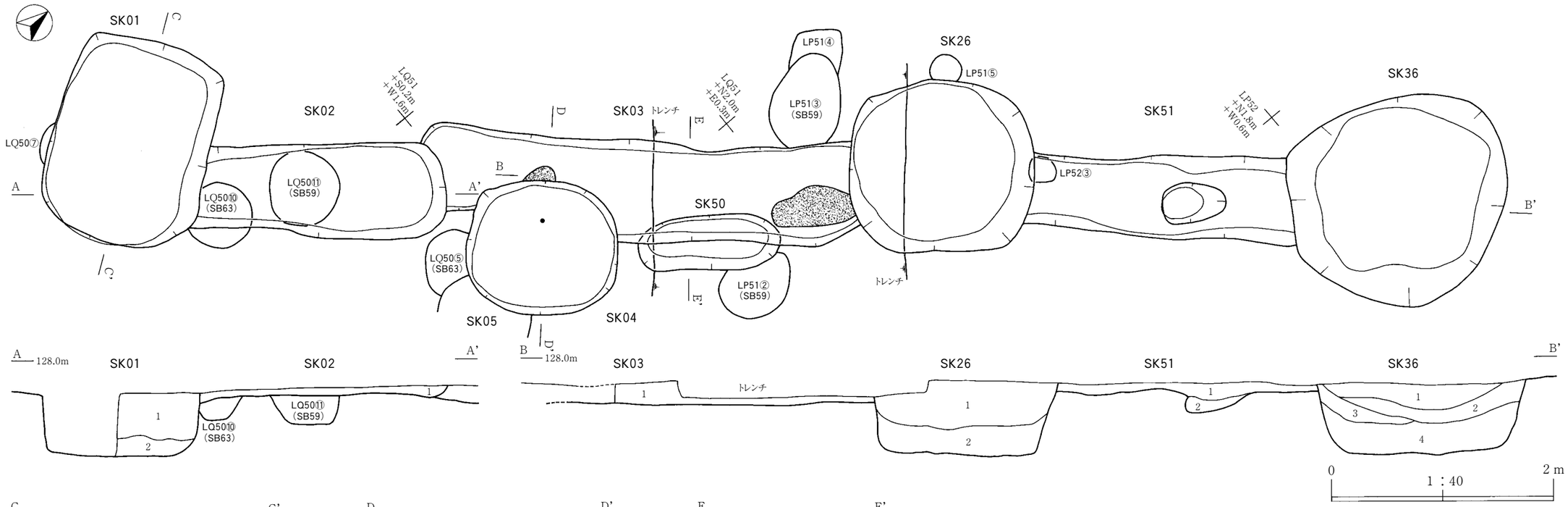
SN79土層

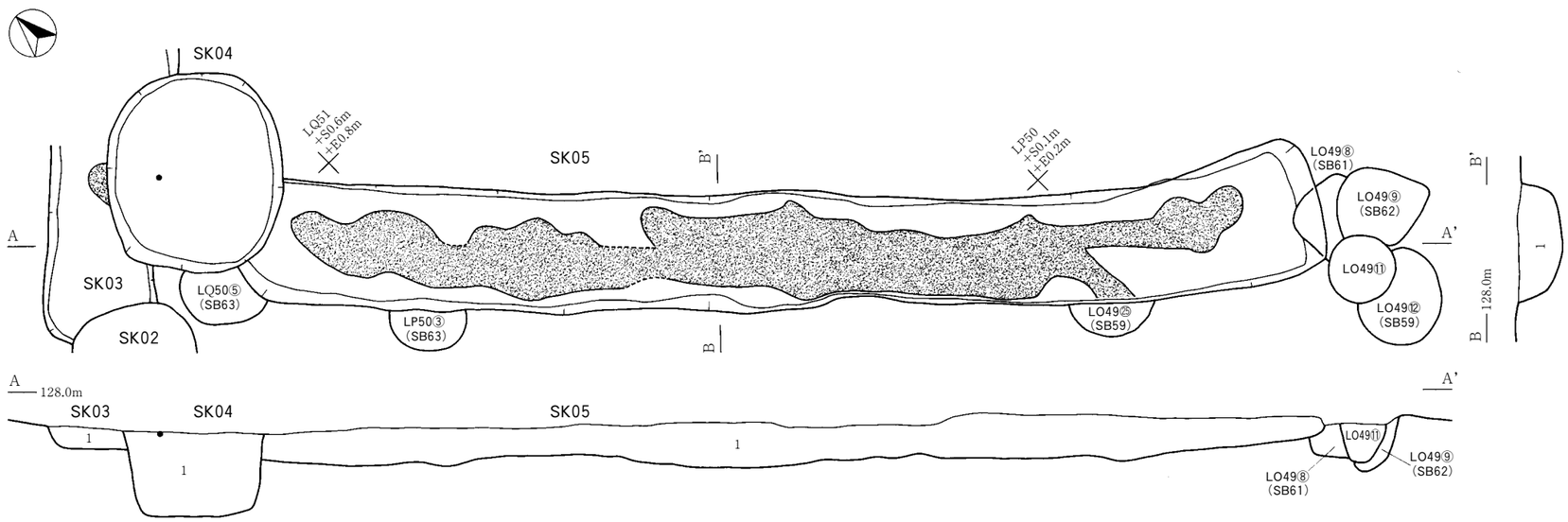
層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	シルト	＋	＋	φ3～20㎜炭化物塊10% φ3～7㎜焼土粒8%

SN81土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/3(黒褐色)	シルト	＋	±	φ1～20㎜炭化物塊5% φ10～30㎜焼土塊20% φ5～15㎜黄褐色砂粒3%
2	10YR2/3(黒褐色)	シルト	＋	±	φ1～200㎜炭化物塊30% φ5～20㎜焼土塊5%

第31図　井戸跡、焼土遺構　SE71、SN79・81





SK01土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	++	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒10%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒15%
					φ100～150㎜礫7%
2	10YR4/4(褐色)	シルト	+	+	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒7%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒10%
					φ10～50㎜礫7%

SK02土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	±	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒7%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒7%

SK03土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/4(褐色)	シルト	±	+	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒10%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒15%

SK04土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	シルト	±	++	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒7%
					φ1～2㎜地山土(Ⅲ層)粒15%
					φ100～200㎜礫15%

SK05土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	++	φ1～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒7%
					φ1～2㎜地山土(Ⅲ層)粒10%
					φ2～5㎜灰黄褐色土粒15%

SK26土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	++	φ10～100㎜礫10%
2	10YR3/3(暗褐色)	シルト	+	++	φ10～20㎜地山土(Ⅲ層)塊 5%
					φ10～250㎜礫40%

SK36土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	シルト	±	+	φ10～100㎜礫10%
2	10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	+	φ10～100㎜礫15%
3	10YR2/3(黒褐色)	シルト	±	+	φ10～100㎜礫7%
4	10YR3/3(暗褐色)	シルト	+	+	φ10～150㎜礫20%

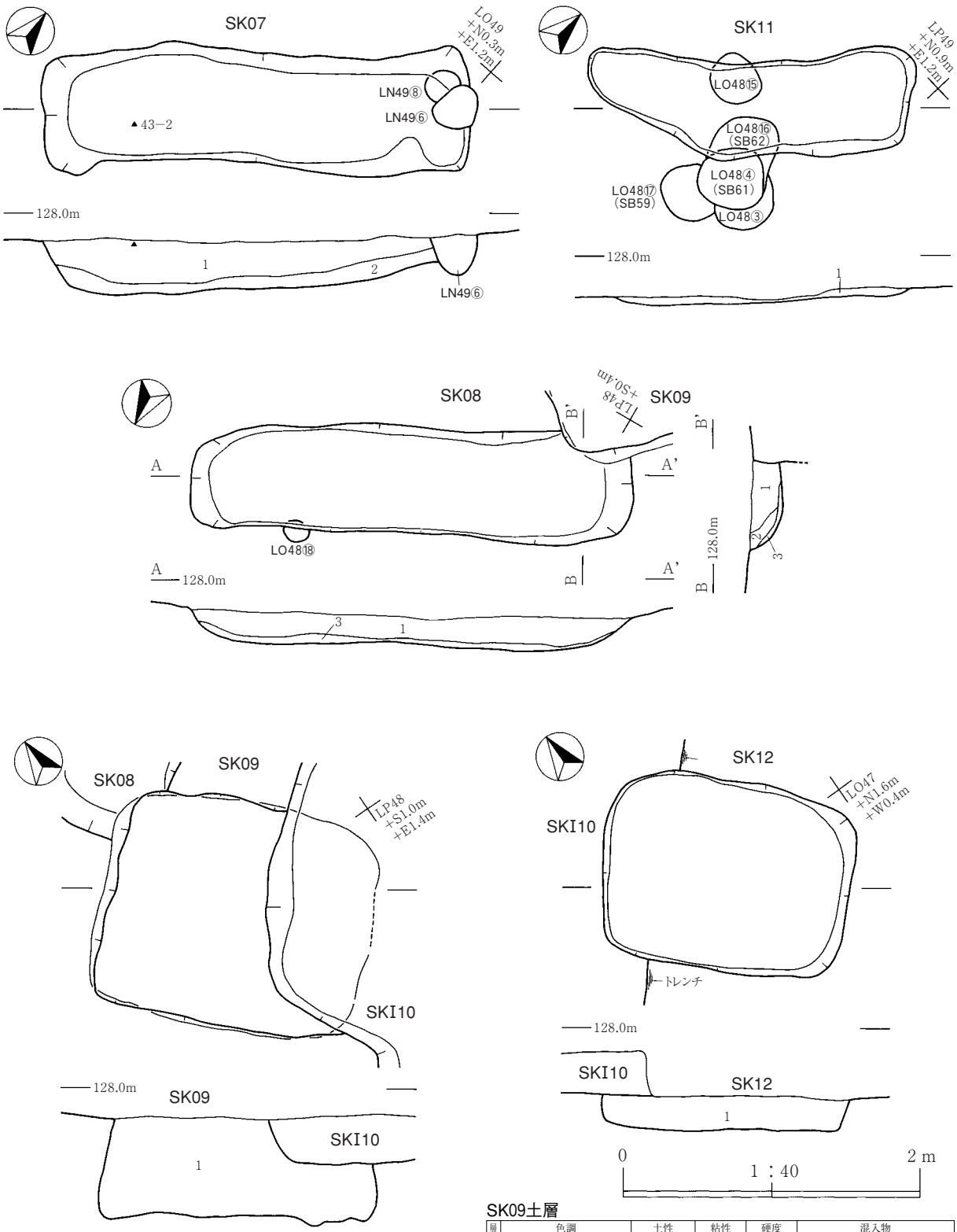
SK50土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/4(褐色)	シルト	±	++	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒10%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒25%

SK51土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	++	φ20～100㎜礫15%
2	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	++	－

第32図　土坑（１）　SK01・02・03・04・05・26・36・50・51



SK07土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/4(褐色)	シルト	±	＋	φ1～2㎜黒色土(Ⅱ層)粒5% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒10%
2	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	＋	＋＋	φ1～2㎜地山土(Ⅲ層)粒5%

SK08土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	＋＋	φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒10%
2	10YR4/6(褐色)	シルト	±	＋＋	φ1～2㎜暗褐色土粒3%
3	10YR4/4(褐色)	シルト	±	＋	φ1～2㎜地山土(Ⅲ層)粒5%

SK09土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	シルト	±	＋＋＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒7% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒20%

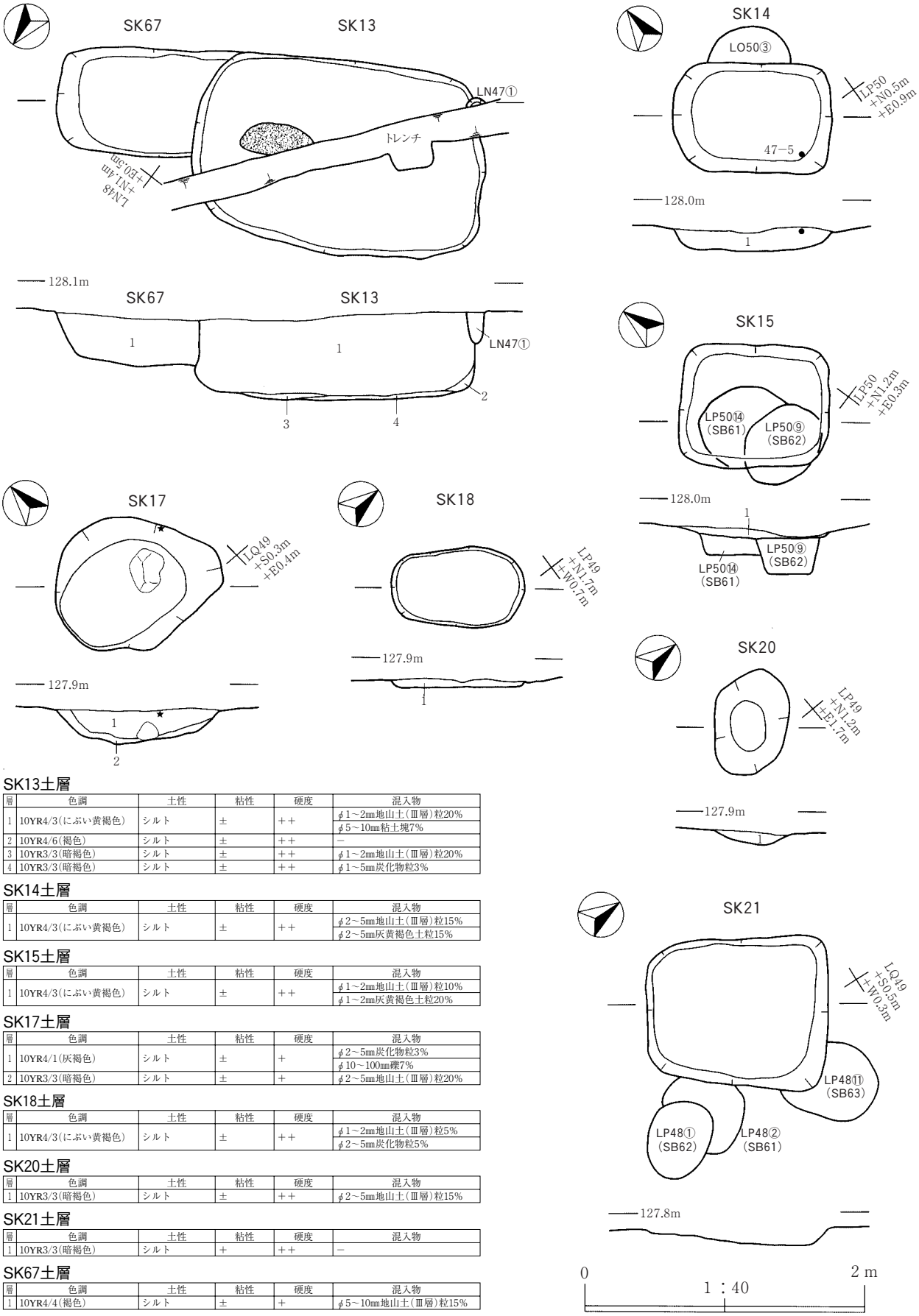
SK11土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	シルト	±	＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒10%

SK12土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	＋＋	φ1～2㎜地山土(Ⅲ層)粒20%

第33図　土坑（２）　SK07・08・09・11・12



SK13土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒20% φ5～10mm粘土塊7%
2	10YR4/6(褐色)	シルト	±	++	−
3	10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒20%
4	10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	++	φ1～5mm炭化物粒3%

SK14土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	++	φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒15% φ2～5mm灰黄褐色土粒15%

SK15土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒10% φ1～2mm灰黄褐色土粒20%

SK17土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/1(灰褐色)	シルト	±	+	φ2～5mm炭化物粒3% φ10～100mm礫7%
2	10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	+	φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒20%

SK18土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	++	φ1～2mm地山土(Ⅲ層)粒5% φ2～5mm炭化物粒5%

SK20土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/3(暗褐色)	シルト	±	++	φ2～5mm地山土(Ⅲ層)粒15%

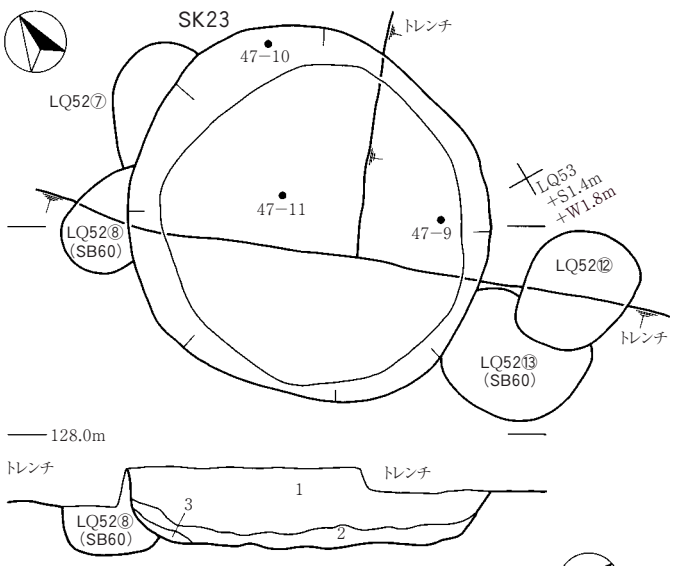
SK21土層

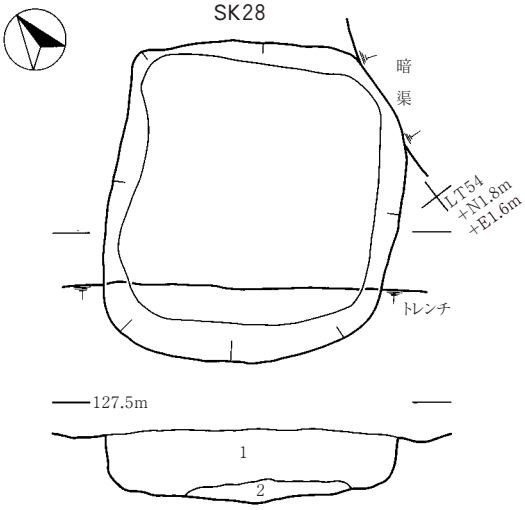
層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/3(暗褐色)	シルト	+	++	−

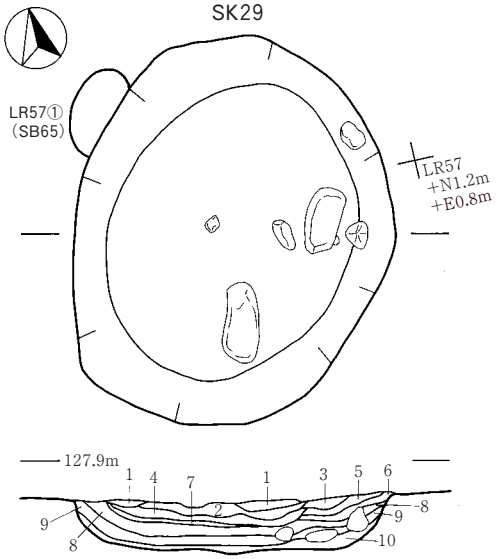
SK67土層

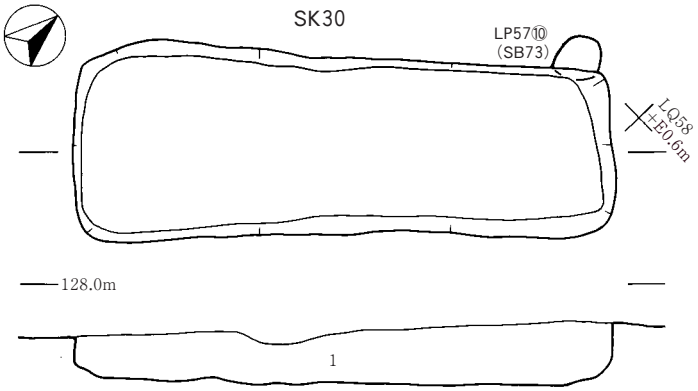
層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/4(褐色)	シルト	±	+	φ5～10mm地山土(Ⅲ層)粒15%

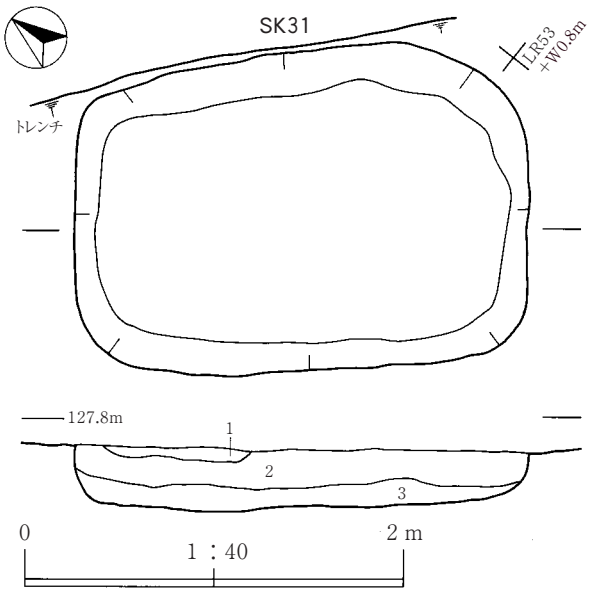
第34図　土坑（３）　SK13・14・15・17・18・20・21・67











SK23土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	細砂	＋	＋＋	φ5～50㎜黒色土(Ⅱ層)塊15% φ2～5㎜地山土(Ⅴ層)粒1% φ2～5㎜炭化物粒1% φ20～50㎜円礫7%
2	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	＋	＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒5% φ1～20㎜地山土(Ⅴ層)塊3% φ1～2㎜炭化物粒1%
3	10YR3/2(黒褐色)	細砂	＋	＋	φ2～5㎜地山土(Ⅴ層)粒7% φ1～2㎜炭化物粒1%

SK28土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	シルト	＋	＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ5～10㎜粘土粒7%
2	10YR3/4(暗褐色)	シルト	＋＋	＋＋	φ10㎜～黒色土(Ⅱ層)粒10% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒7% φ5～10㎜粘土粒20%

SK29土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/3(黒褐色)	細砂	±	＋＋	黒色土(Ⅱ層)粒5% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒10% φ2～3㎜炭化物粒3%
2	10YR5/6(黄褐色) ～10YR3/3(暗褐色)	砂～細砂	±	＋＋	－
3	10YR2/3(黒褐色)	細砂	±	＋＋	黒色土(Ⅱ層)粒5% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒10% φ2～3㎜炭化物粒3%
4	10YR4/6(黄褐色) ～10YR3/3(暗褐色)	細砂	±	＋＋	φ1～2㎜炭化物粒1%
5	10YR4/2(灰黄褐色)	細砂	＋	＋＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒5% φ1～2㎜炭化物粒1%
6	10YR4/2(灰黄褐色)	粘土	＋＋	＋＋	－
7	10YR3/3(暗褐色)	細砂	＋	＋＋	φ2～5㎜炭化物粒1%
8	10YR3/3(暗褐色)	細砂	＋	＋＋	φ2～5㎜炭化物粒1%
9	10YR3/1(黒褐色)	粘土	＋＋＋	＋＋	φ5～10㎜炭化物粒1%
10	10YR3/2(黒褐色)	細砂	＋＋	＋＋＋	－

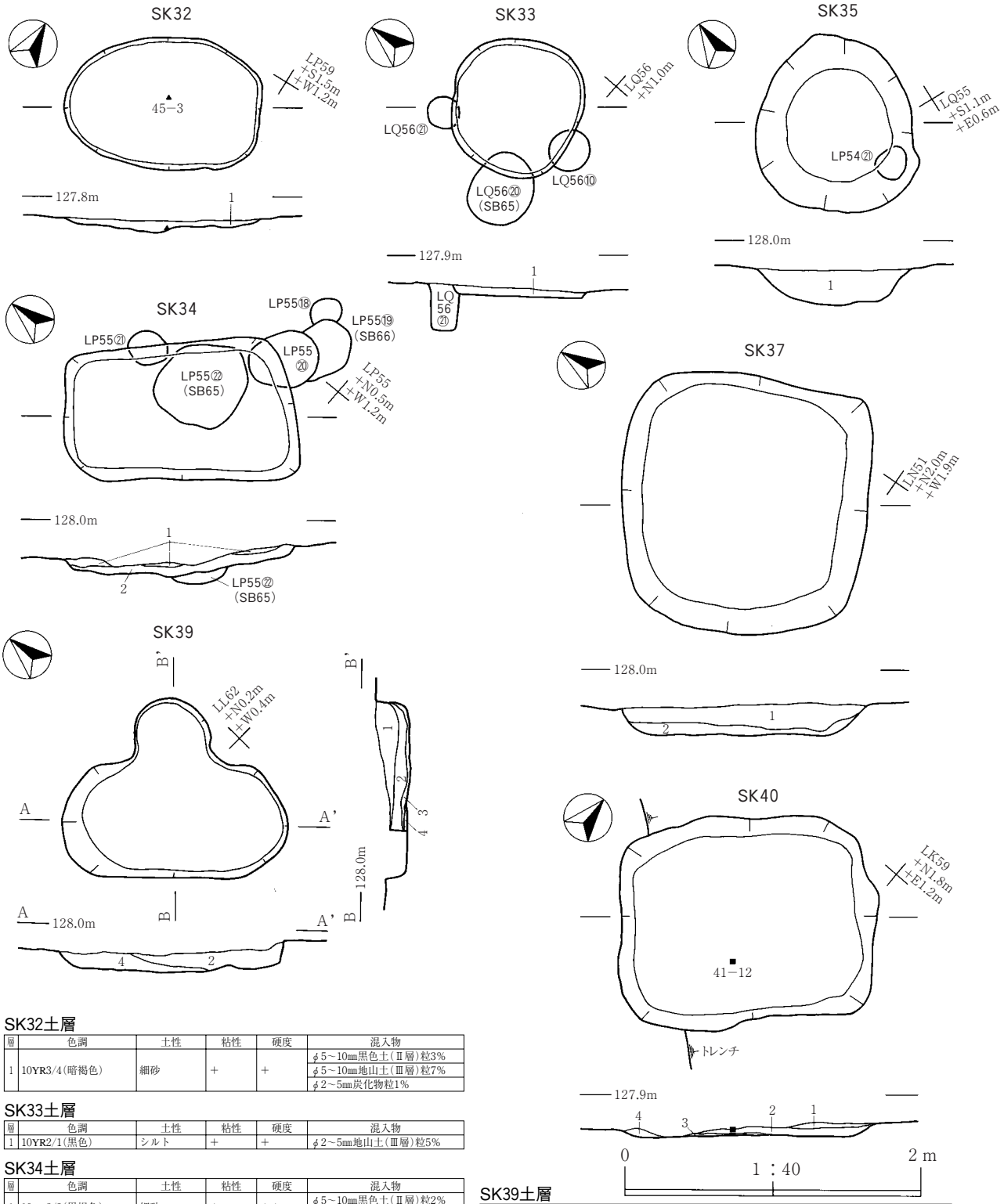
SK30土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	シルト	＋	＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒5% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒3%

SK31土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/3(黒褐色)	細砂	＋	＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒7% φ5～10㎜地山土(Ⅴ層)粒10%
2	10YR3/3(暗褐色)	細砂	＋	＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒10% φ10～20㎜地山土(Ⅲ層)塊10% φ2～5㎜地山土(Ⅴ層)粒7% φ20～100㎜礫7%
3	10YR3/4(暗褐色)	細砂	＋	＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒18% φ5～10㎜地山土(Ⅴ層)粒7%

第35図　土坑(４)　SK23・28・29・30・31



SK32土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	細砂	＋	＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒7% φ2～5㎜炭化物粒1%

SK33土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/1(黒色)	シルト	＋	＋	φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒5%

SK34土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/3(黒褐色)	細砂	±	＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒2% φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒5%
2	10YR2/1(黒色)	シルト	＋	±	φ5～10㎜黒褐色土粒10%

SK35土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	細砂	＋	＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒2% φ1～2㎜炭化物粒1%

SK37土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒10% φ100～250㎜礫25%
2	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	±	＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒7% φ100～200㎜礫15%

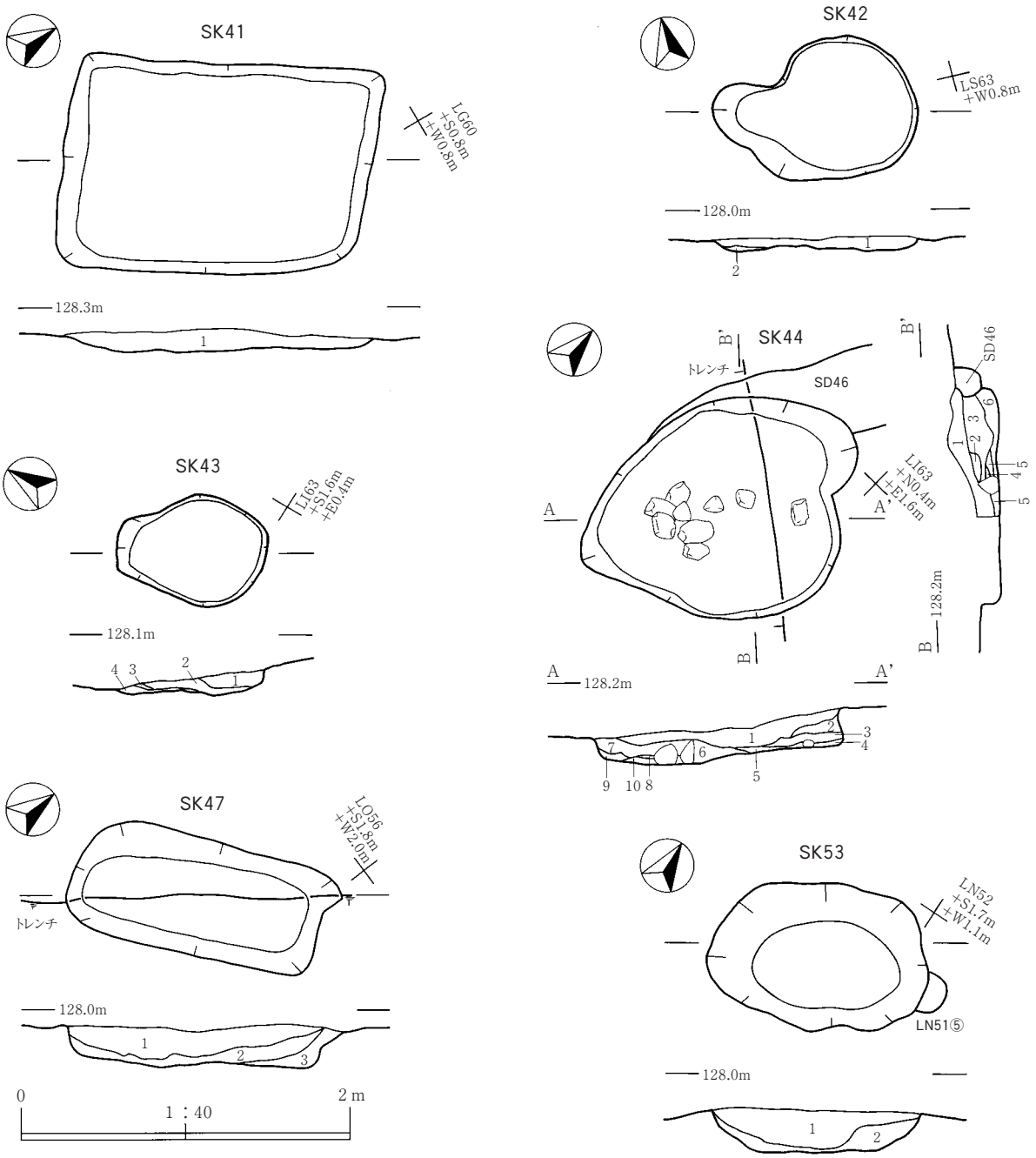
SK39土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	＋	＋＋	φ1～2㎜黒色土(Ⅱ層)粒3%
2	10YR2/2(黒褐色)	シルト	＋	＋＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒2% φ10㎜～地山土(Ⅲ層)粒30% φ2～5㎜暗褐色砂粒10%
3	10YR2/2(黒褐色) ～10YR4/1(褐色)	シルト	＋	＋＋	φ1～2㎜地山土(Ⅲ層)粒5% φ1～2㎜炭化物粒3%
4	10YR3/2(黒褐色)	シルト	＋	＋＋	φ1～2㎜地山土(Ⅲ層)粒40%

SK40土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	＋	＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒3% φ10～30㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
2	10YR3/4(暗褐色) ～10YR5/4(にぶい黄褐色)	シルト	＋	＋＋	φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒5%
3	10YR3/3(暗褐色)	シルト	＋	＋＋	φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
4	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	＋	＋＋	φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒10%

第36図　土坑(５)　SK32・33・34・35・37・39・40



SK41土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒7%

SK42土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	＋	＋	φ1～2㎜黒色土(Ⅱ層)粒3%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒20%
2	10YR2/1(黒色)	シルト	＋	＋	φ1～2㎜炭化物粒20%

SK43土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	＋＋	＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒40%
2	10YR2/1(黒色)	シルト	＋＋	＋	φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒5%
3	10YR4/3(にぶい黄褐色)	細砂	±	＋	φ1～2㎜黒色土(Ⅱ層)粒5%
4	10YR1.7/1(黒色)～10YR3/2(黒褐色)	シルト	＋～±	±	φ1～2㎜炭化物粒2%

SK47土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	細砂	＋	＋＋	φ5～10㎜黒色土(Ⅱ層)粒10%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒7%
					φ1～2㎜炭化物粒1%
2	10YR3/3(暗褐色)	細砂	＋	＋	φ10㎜～黒色土(Ⅱ層)粒30%
					φ10㎜～地山土(Ⅲ層)粒40%
3	10YR4/4(褐色)	細砂	＋	＋＋	φ5～10㎜黒褐色土(Ⅱ層)粒7%

SK53土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	シルト	±	＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒7%
					φ10～250㎜礫20%
2	10YR4/4(褐色)	粗砂～シルト	－	±	φ10～250㎜礫15%

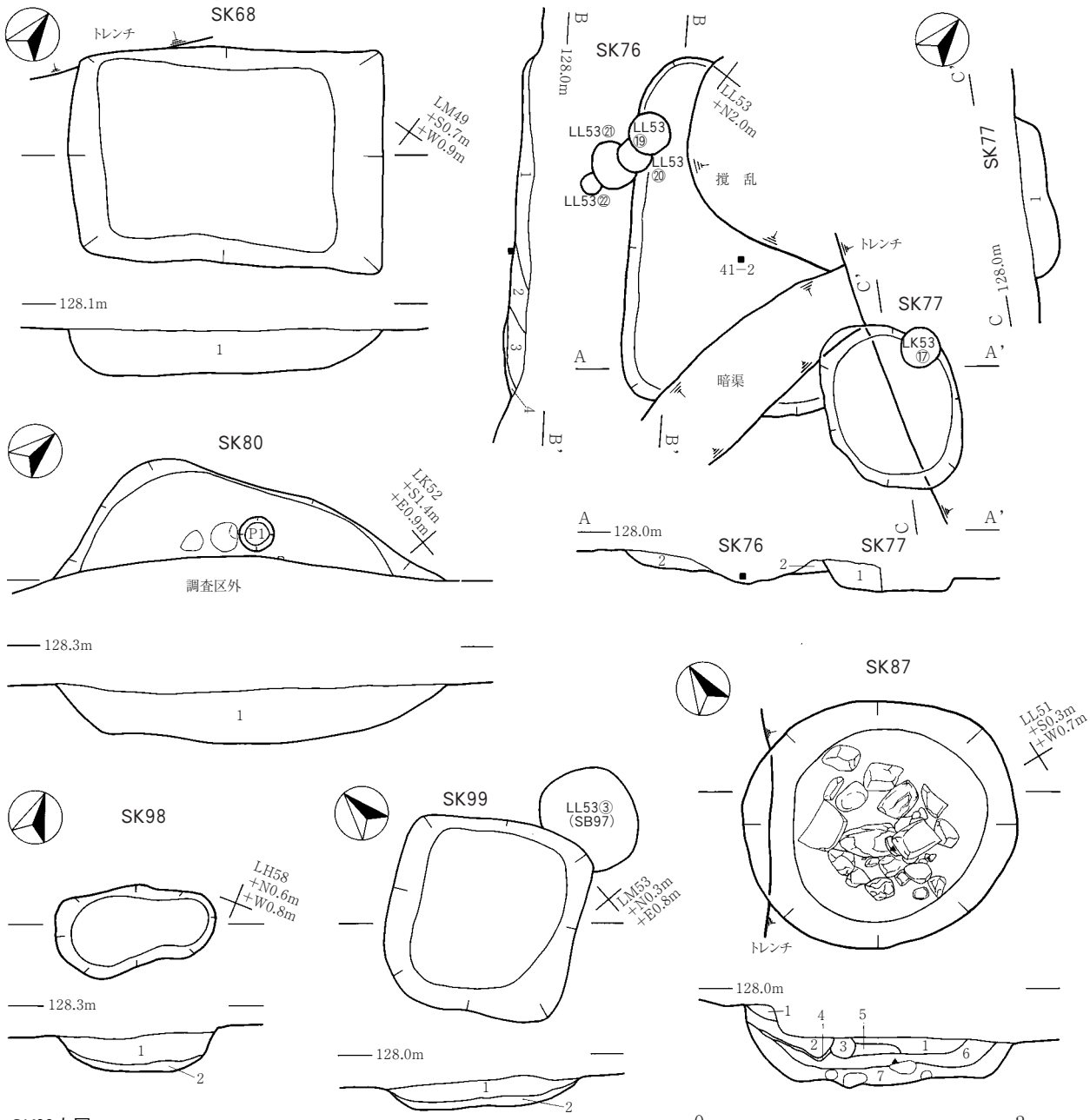
SK44(A-A'ライン)土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/3(黒褐色)	シルト	±	＋＋	φ1～2㎜黒色土(Ⅱ層)粒3%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒3%
					φ2～5㎜炭化物粒1%
2	10YR2/1(黒色)	シルト	＋＋	＋＋	φ～1㎜黒色土(Ⅱ層)粒2%
					φ10㎜褐色砂粒40%
3	10YR4/4(褐色)	細砂	±	＋＋	φ～1㎜黒色土(Ⅱ層)粒2%
					φ5～10㎜黒褐色土粒10%
4	10YR3/2(黒褐色)	シルト	＋＋	＋	φ1～2㎜褐色細砂粒20%
					φ～1㎜炭化物粒1%
5	10YR4/4(褐色)	細砂	±	＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒30%
					φ2～5㎜炭化物粒2%
6	10YR2/1(黒色)	シルト	＋＋	＋	φ2～5㎜にぶい黄褐色砂粒7%
7	10YR2/2(黒褐色)	シルト	＋＋	＋	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒3%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒40%
8	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	＋＋	＋	φ2～5㎜炭化物粒50%
9	10YR2/2(黒褐色)	シルト	＋＋	＋＋	φ1～2㎜にぶい黄褐色細砂粒5%
10	10YR3/2(黒褐色)	シルト	＋＋	＋＋	φ2～5㎜黒色粘土粒5%
					φ5～10㎜にぶい黄褐色細砂粒30%

SK44(B-B'ライン)土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/1(黒色)	シルト	±	＋＋～＋＋＋	φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒3%
					φ1～3㎜炭化物粒1%
2	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	±～＋	＋＋	φ5～20㎜黒色土(Ⅱ層)粒5%
					φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒3%
3	10YR3/1(黒褐色)	シルト	＋	＋	φ20～100㎜地山土(Ⅲ層)塊10%
					φ1～5㎜炭化物粒1%
4	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	±	＋＋	φ1～3㎜炭化物粒1%
5	10YR4/4(褐色)	砂	－	＋	φ1～5㎜炭化物粒1%
6	10YR3/2(黒褐色)	シルト～粘土	＋＋	±	φ3～10㎜地山土(Ⅲ層)粒5%
					φ1～5㎜炭化物粒3%

第37図　土坑(６)　SK41・42・43・44・47・53



SK68土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR4/3(にぶい黄褐色)	シルト	±	++	φ2～5㎜黒色土(Ⅱ層)粒10%
					φ2～5㎜地山土(Ⅲ層)粒15%

SK76土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR1.7/1(黒色)	シルト	±	+	φ5～200㎜地山土(Ⅲ層)塊5%
					φ5～15㎜炭化物粒20%
					φ5～20㎜焼土塊2%
2	10YR4/4(褐色)	シルト～細砂	−	±	φ5～50㎜地山土(Ⅲ層)塊20%
3	10YR2/1(黒色)	シルト～細砂	++	+	−
4	10YR3/3(暗褐色)	シルト～粗砂	+	±	−

SK77土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/4(暗褐色)	細砂～シルト	±	±	φ10～70㎜褐灰色土10%
					φ20～50㎜黄褐色砂塊2%
					φ3～10㎜炭化物粒3%
					φ5～12㎜焼土粒1%

SK80土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR3/2(黒褐色)	シルト～細砂	+	+	φ1～10㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
					φ1～10㎜炭化物粒3%
					φ1～10㎜焼土粒3%

SK87土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR6/4(にぶい黄橙色)	粘土	+++	+++	φ1～10㎜炭化物粒5%
2	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	+	φ10～50㎜炭化物粒35%
3	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	±	φ1～5㎜炭化物粒3%
4	10YR2/2(黒褐色)	シルト～粗砂	±	++	φ10～50㎜炭化物塊35%
5	10YR2/2(黒褐色)	シルト～粘土	+	+	φ1～5㎜炭化物粒25%
6	10YR2/2(黒褐色)	シルト～細砂	±	++	φ1～7㎜炭化物粒3%
7	10YR3/3(暗褐色)	シルト～細砂	+	++	φ1～10㎜炭化物粒20%

SK98土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/2(黒褐色)	シルト	±	+	φ5～10㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
					φ1～5㎜炭化物粒1%
2	10YR2/2(黒褐色)	シルト	+	±	φ1～5㎜地山土(Ⅲ層)粒1%
					φ1～5㎜炭化物粒3%

SK99土層

層	色調	土性	粘性	硬度	混入物
1	10YR2/3(黒褐色)	細砂～シルト	±	+	φ3～30㎜黄褐色砂粒塊10%
					φ1～7㎜炭化物粒3%
2	10YR2/3(黒褐色)	細砂～シルト	+	±	φ1～7㎜炭化物粒1%

第38図　土坑（７）　SK68・76・77・80・87・98・99

第３節　出土遺物

１　概要

遺物は縄文時代の土器・石器、中世の中国産磁器・常滑産陶器・瀬戸産陶器・須恵器系中世陶器・瓦質土器・かわらけ・鉄製品・砥石、近世・近代の陶器・磁器・銭貨が遺構内外から出土した。時代別に大きく分けて総点数(総重量)を単純に比較すると、縄文時代の遺物が47点(5146.4ｇ)、中世の遺物が185点(10019.5ｇ)、近世・近代の遺物が156点(1684.3ｇ)で、中世の遺物が最も多く、本遺跡での主体をなしている。本章第１節でも述べた通り、縄文時代の遺物は基本的にⅣ層に含まれている。中世の遺物は大部分がⅠ層及び河川跡内の堆積土中にあるが、本来Ⅱ層に含まれていたものと考えられる。なお、近世以降の遺物は遺構内からの出土例が無く、銭貨を除いて挿図・図版への掲載を省略した。

２　遺物各説

(１)縄文土器(第39図、図版22)

縄文土器は遺構内で１点(56.2ｇ)、遺構外で41点(3596ｇ)出土した。全て破片資料で、縄文のみ施された例、あるいは器面調整のみ施された例が殆どであり、詳細な時期判定は困難であるが、本遺跡南西に所在する長戸呂遺跡出土品等との比較により、後期初頭・後期中葉・晩期の資料が含まれているものと考えられる。

①後期初頭(39－１・２・10・11)

１は平口縁をなす深鉢形土器の口縁部破片で、口縁は若干内湾気味に、口唇部は平坦な作りとなっている。外面全体に単節ＬＲの縄が縦位回転施文される。２は深鉢形土器の体部破片で、外面には単節ＬＲの縄が斜位回転施文される。10・11は深鉢形土器の底部破片で、10の底面には葉脈痕が、11には網代痕が認められ、ともに成形時の敷物痕跡と考えられる。これら後期初頭に属する土器の胎土には、粒径の粗い砂粒が多く混入している。

②後期中葉(39－３～６・12)

３は波状口縁をなす深鉢形土器の口縁部破片で、口縁下に単節ＲＬの縄を縦位回転施文して地文とし、並行する沈線４条を水平に巡らせている。４・５は平口縁をなす鉢もしくは深鉢の口縁部破片で、施文は無く内外面が丁寧にナデ調整されている。６も４・５と同様の器形・大きさとなる底部破片で、底面は丸く窪んで揚げ底状となり、底部外面には幅３㎜ほどのミガキ状調整が横位に施され、全体で３～４㎝ほどの幅で帯状に巡っている。12は深鉢形土器の底部破片で、外面・底面ともに丁寧なミガキ調整が施されるが、底面には敷物痕跡がわずかに磨り消されずに残っている。これら後期中葉に属する土器の胎土は比較的精良で、粒径の細かい砂粒を若干含む。

③晩期(39－７～９)

７は平口縁をなす深鉢形土器の口縁部破片で、外面には単節ＬＲの縄が横位回転施文される。８は深鉢形土器の体部破片で、節の小さな単節ＬＲの縄が横位回転施文される。９は台付鉢の台部破片で、外面及び底面には軽くナデ調整が施されている。これら晩期に属する土器の胎土は概ね精良で、砂粒を少量混入する程度である。

（２）石器（第40図、図版22）

石器は遺構外で剥片１点（3.9ｇ）、打製石斧１点（586.8ｇ）、磨製石斧２点（285.4ｇ）、石皿の可能性ある湾曲した礫１点（618.3ｇ）が出土した。これら石器石材の詳細は未確認であり、また帰属時期に関しても不明である。なお、剥片と石皿状の礫については掲載を省略した。

①打製石斧（40－１）

打製石斧は１点のみの出土で、礫皮面を残す大形の横長剥片を素材とし、両面調整を施して全体の形状を撥形に仕上げている。基部側では折れ面からの調整剥離を頻繁に行って鋭角な部分を除去しているが、刃部側は調整剥離が軽微で、全体的に薄く鋭角となっている。刃部は直線的で、器体長軸に対して直交せず片減りのように見えるが、使用による顕著な摩滅や破損は認められない。

②磨製石斧（40－２・３）

２は比較的大きな磨製石斧の頭部破片で、刃部側を折損している。頭部の側面観は非対称であり、傾きをもっている。表面に見られる剥離痕の稜線が研磨整形により摩滅しているため、剥離によって全体形状を整えた後に磨き整形を行うという製作工程を経たものと考えられる。３は小形の磨製石斧で、刃部は緩やかに湾曲し側縁は直線的で頭部は窄まり、正面観・側面観ともに対称となる。研磨整形は非常に丁寧で、初期段階の成形が剥離によるのか擦り切りによるのかは不明である。

（３）中国産磁器（第41・42図、巻頭図版９）

中国産磁器は遺構内で７点（72.7ｇ）、遺構外で20点（163.7ｇ）出土した。ここでは白磁・青白磁・青磁に大別し、さらに青磁は同安窯系青磁と龍泉窯系青磁とに区別して、記述・掲載を行うことにする。これら中国産磁器の帰属時期は12世紀末から15世紀までの幅があり、13世紀が最も多い。

①白磁（41－１・２）

白磁は２点（27.6ｇ）出土した。１は皿の口縁部破片で、口径は約9.2㎝と推定され、口縁はやや内湾気味に立ち上がり、口唇部へと薄く引き上げられる。内面底部に篦描文が施されるが、部分的であり文様モチーフ等の詳細は不明である。胎土には微細な黒色粒を含み、釉は薄く灰白色を呈する。２は碗の底部破片で、底径は約5.6㎝と推定され、内面底部にわずかな段を有し、高台内部の削り出しはやや浅く、露胎している。胎土は孔隙を有して微細な黒色粒を含み、釉は薄くやや黄色を帯びた白色を呈する。これらは12世紀後半に帰属するものと考えられる。

②青白磁（41－３～５）

青白磁は３点（11.6ｇ）出土した。３は小皿の口縁部破片で、口径は約6.3㎝と推定され、器壁は薄く口唇部へと直線的に至り、内面には型押しによる花文が施される。４は合子身の破片で、外面には蓮弁文が施され、施釉は一部内面にも及ぶ。５は梅瓶蓋の破片で、高さは２㎝を測り、直径は約６㎝と推定される。上面には花文が施され、内面には釉が及んでいない。これらは概ね13世紀に帰属するものと考えられる。胎土は共通して精良で、釉は透明感のある青色を帯びた白色を呈する。

③同安窯系青磁（41－６～８）

同安窯系青磁は３点（21.4ｇ）出土した。６は碗の口縁部破片で、口径は約14.8㎝と推定され、口縁は内側に屈曲する。内面には屈曲部に沈線が巡り、この沈線より内側に櫛先端部を押したジグザグ状の点描文が施され、外面には細かい縦の櫛目文が施される。７は皿の口縁部破片で、口径は約11.3㎝

と推定され、口縁は内側に強く屈曲する。８は皿の体部破片で、内面は無文である。これらは12世紀末から13世紀初頭までの時期に帰属するものと考えられる。胎土は灰色を基調とし、釉は黄色もしくは青色を帯びた緑色を呈する。

④龍泉窯系青磁(41－９～17、42－１～10)

龍泉窯系青磁は19点(175.8ｇ)出土した。龍泉窯系青磁はさらに以下の１～４類に細別した。

１類：内面に劃花文を有するもの(41－９～13)。器種は全て碗である。９は口縁部破片で、口径は約13.3㎝と推定され、口縁は直線的に開く。内面の口縁直下には２条の沈線が平行に巡っている。10も口縁部破片で、口径は約16㎝と推定され、口縁は外湾気味に開く。11～13は体部の破片である。これらは12世紀後半から13世紀初頭までの時期に帰属するものと考えられる。胎土は灰色を基調とし、釉は黄色もしくは緑色を帯びた青色を呈する。

２類：内面の劃花文が縦位に区切られるもの(41－14～17)。器種は全て碗である。14は口縁部破片で、口径は約15㎝と推定され、口縁は直線的に開く。内面の口縁直下には１条の太く浅い沈線が巡り、そこから細い沈線が垂下している。15～17は同一個体である可能性が高い。15は口縁部破片で、口径は約15.5㎝と推定され、口縁部は内湾気味に立ち上がる。内面の口縁直下には３条の細い沈線が並行して巡り、縦方向にも同様の沈線が蛇行しながら内面底部まで垂下している。17は底部破片で、底径は約７㎝と推定され、高台内部の削り出しは浅く、畳付きと高台内部まで施釉が及んでいる。これらは12世紀末から13世紀中頃までの時期に帰属するものと考えられる。胎土は灰色を基調とし、釉は黄色もしくは青色を帯びた緑色を呈する。

３類：外面に蓮弁文を有するもの(42－１～６)。器種は全て碗である。１は口縁部破片で、その他は体部破片である。２～４は鎬蓮弁文で弁の中心線は稜をなしている。これらは13世紀中頃から後半までの時期に帰属するものと考えられる。胎土は灰色もしくは白色を基調とし、釉は黄色もしくは緑色を帯びた青色を呈する。

４類：無文で口縁部が端反となるもの(42－７～10)。７・８・10は碗の口縁部破片で、７の口径は約13.6㎝、８の口径は約15㎝と推定される。９は盤の口縁部破片で、口径は約16.5㎝と推定される。これらは14世紀から15世紀までの時期に帰属するものと考えられる。胎土は灰色を基調とし、釉は緑色を帯びた青色を呈する。

(４)常滑産陶器(第42図、巻頭図版９)

常滑産陶器は遺構内で２点(102.4ｇ)、遺構外で７点(303.4ｇ)出土した。器種は全て甕である。胎土・釉の色調等から２個体に相当する可能性もあるが、明確ではない。11～18は体部破片で、外面は褐色もしくは黒色を呈し、茶色を帯びた緑色の自然釉がかかり、内面にはやや粗い調整痕が残る。17は外面のみ摩滅しており、破片の状態で研磨使用されたものと推測される。19は底部破片で、底径は約15㎝と推定され、外面には縦方向の軽微な調整痕が観察され、内面にはわずかに自然釉がかかり、底面には砂粒が付着している。これらは赤羽・中野編年のⅡ～Ⅲ期に相当し、12世紀後葉から12世紀末の時期に帰属するものと考えられる。胎土は灰白色を基調として黒色粒を含み、緻密である。

（５）瀬戸産陶器（第42図、巻頭図版９）

瀬戸産陶器は遺構内で１点（2.7ｇ）、遺構外で３点（76.6ｇ）出土した。20・21は器種不明の体部破片で、21の外面には黒みがかった茶色の鉄釉がかかる。22は碗の底部破片で、内面底部には緑色を帯びた黄色の灰釉がかかり、周辺を打ち欠くことによって円盤状に整形されている。藤澤編年の古瀬戸後期様式Ⅳ期に相当し、15世紀中頃の時期に帰属するものと考えられる。23は尊式花瓶の底部破片で、底径は約7.2㎝と推定され、外面には濃緑色の釉がかかり、底面には糸切り痕が残存している。これは古瀬戸後期様式Ⅲ期に相当し、15世紀中頃の時期に帰属するものと考えられる。これら陶器の胎土は共通して灰白色を基調とし、緻密である。

（６）須恵器系中世陶器（第43～46図、図版23～25）

須恵器系中世陶器は遺構内で16点（1051.6ｇ）、遺構外で71点（6634.7ｇ）出土した。大きく甕類と鉢類に大別される。甕類には、いわゆる「壺Ｒ種」は確認されず、また「壺Ｔ種」も認定し難いことから、一括して「甕」と呼称し、鉢類については明確な片口鉢は無く、また卸目の付かない資料が存在することから、一括して「鉢」と呼称する。これら須恵器系中世陶器の破片資料は、胎土や色調の類似性などから、ある程度の個体別分類が可能であり、甕・鉢ともに全点の観察を行って同一個体の把握に努めた。これら須恵器系中世陶器の帰属時期は12世紀後半から13世紀に及び、13世紀のものが主体をなす。

①甕（第43～45図）

甕は遺構内で13点（984.1ｇ）、遺構外で65点（5368.5ｇ）出土した。胎土・色調・叩き目の様相などから、以下の８個体を同一個体として抽出した。また、破片５点については個体別資料と類似性が認められず、他個体に帰属する可能性があるため、それぞれ単独個体として扱った。

個体１（43－１～７）：口縁部破片２点、体部破片11点、底部破片１点で構成される。１は口縁部破片で、口縁は強く屈曲して頸部は短く、口唇部には段が付く。２～６は体部破片で、叩き目は深くて条線の間隔は粗く、内面の押圧痕は浅く不明瞭である。７は底部破片で、轆轤成形され底面には砂粒が付着している。底径は約15㎝と推定される。胎土は緻密で微細な白色粒子が少量混入し、色調は表面が灰色、内部が赤褐色を呈する。本個体は12世紀後半に帰属するものと考えられる。

個体２（43－８）：口縁部破片１点のみで構成される。口縁は緩やかに外反して、内面に弱く段が付き、口唇は丸みをもつ。口径は約21.2㎝と推定される。胎土は緻密で大径の白色粒子が多量に混入し、色調は表面が赤褐色、内部が灰色を呈する。本個体は12世紀後半から13世紀初頭までの時期に帰属するものと考えられる。

個体３（43－９～16）：口縁部破片２点、体部破片18点で構成される。９は口縁部破片で、口縁はゆるく外反し、口唇は面をなして端部が鋭角をなす。10～16は体部破片で、叩き目は浅く条線の間隔は細密で、内面の押圧痕は深く明瞭である。胎土はやや緻密で大径の白色粒子と黒色粒子を多量に含み、色調は表面・内部ともに灰色を呈する。なお、14は割れ面の一部が研磨使用されている。本個体は12世紀末から13世紀前半までの時期に帰属するものと考えられる。

個体４（44－１）：体部破片１点のみで構成される。叩き目は深く条線の間隔はやや密で、内面には不明瞭ながら平行条線をなす押圧痕が認められる。胎土は緻密で混入物は少なく、色調は灰色を基調

とし、外面は濃く内部から内面にかけては薄い。本個体は12世紀末に帰属するものと考えられる。

個体５(44－２～５)：体部破片９点、底部破片１点で構成される。２～４は体部破片で、叩き目は浅く条線の間隔は細密で、内面の押圧痕は深く明瞭である。５は底部破片で、轆轤成形され底面中央部には砂の付着が著しく、周縁部には板目状の圧痕が認められる。底径は約17㎝と推定される。胎土はやや緻密で小径の白色粒子を少量含み、色調は灰色を基調として表面は濃く内部は薄い。本個体は12世紀末から13世紀初頭までの時期に帰属するものと考えられる。

個体６(45－１)：口縁部破片１点のみで構成される。口縁は緩やかに外反して、内面に段が付き、口唇は丸みを帯び端部は垂れ下がる。胎土はやや粗く大径の白色粒子をわずかに含み、色調は表面・内部共に灰色を基調とし、一部褐色を呈する。本個体は13世紀に帰属するものと考えられる。

個体７(45－２～７)：体部破片12点、底部破片１点で構成される。２～６は体部破片で、叩き目は浅くて条線の間隔は粗くいわゆる二筋平行線をなし、内面の押圧痕は深く明瞭である。７は底部破片で、轆轤成形され底面には切り離し時の回転糸切り痕が残り、付着物が認められる。この付着物と底面の間隙には粒度の粗い砂が多く挟まれており、焼成時に設置した焼台の一部が融着したものと考えられる。底径は約10㎝と推定される。胎土はやや緻密で小径の白色粒子を多く含み、色調は表面が褐色を基調として一部黄灰色を帯び、内部は灰色を呈する。二筋平行線をなす特徴的な叩き目の様相から、本個体は大畑・桧山腰窯産の可能性があり、13世紀前半に帰属するものと考えられる。

個体８(45－８～11)：口縁部破片１点、体部破片11点で構成される。８は口縁部破片で、口縁は強く屈曲して外反し頸部は短く、口唇部は丸みを帯びる。９～11は体部破片で、叩き目は深くて条線の間隔は粗く、内面の押圧痕は不明瞭である。なお、11は割れ面の一部が研磨使用されている。胎土はやや緻密で大径の白色粒子を少量混入し、色調は表面・内部ともに灰色を呈する。本個体は13世紀後半に帰属するものと考えられる。

②鉢(第46図)

鉢は遺構内で３点(67.5ｇ)、遺構外で８点(1266.2ｇ)出土した。胎土・色調・卸目の様相などから、以下のものを同一個体として抽出した。

個体１(46－１)：口縁部破片２点で構成される。口縁は緩やかに立ち上がって口唇は丸みを帯び、外面底部にはわずかに段をもつ。口径は約27.6㎝、底径は約8.6㎝、器高は約10㎝と推定される。卸目は伴わないが､内面底部は若干摩滅している。底面は残存部が少なく切り離し方法は不明であるが、わずかに板目状の圧痕が確認される。胎土はやや緻密で大径の白色粒子を多量に含み、色調は表面が褐色、内部が赤褐色を呈する。本個体は12世紀末に帰属するものと考えられる。

個体２(46－２)：口縁部破片１点のみで構成される。口縁は急傾斜に立ち上がり、口唇頂部は鋭く、外縁端部は丸く突き出ている。口径は約19.2㎝と推定される。内面に卸目は伴わない。胎土は緻密で混入物は少なく、色調は表面・内部ともに灰白色を呈する。本個体は12世紀末に帰属するものと考えられる。

個体３(46－３)：口縁部破片１点のみで構成される。口縁は緩やかに開き、口唇は丸みを帯びている。残存部が少ないため、内面の卸目の有無は確認できない。胎土はやや緻密で大径の白色粒子を多量に混入し、色調は表面が黒色、内部が暗灰色を呈する。本個体は12世紀末～13世紀前半の時期に帰属するものと考えられる。

個体４(46－４)：口縁部破片１点、体部破片１点、底部破片１点で構成される。口縁部は緩やかに開き、口唇部は平坦で内側がわずかに尖る。底面は残存部が少ないが静止糸切りによる切り離しと考えられ、周縁部は平坦に調整され板目状の圧痕も観察された。内面の卸目は１単位９条の細密な櫛歯原体により、直線もしくは緩やかに蛇行して内面底部まで施される。内面底部はよく摩滅している。また、内面中位には直径約2.8㎝の三つ巴文が刻印されている。胎土は緻密で混入物は少なく、色調は灰色を基調として表面は濃く、内部は薄い。本個体は13世紀初頭に帰属するものと考えられる。

個体５(46－５・６)：体部破片２点で構成される。全体形状は不明であるが薄手の作りである。内面に卸目の有無は確認できないが、よく摩滅している。なお、６の割れ口には漆が付着している。胎土は緻密で白色粒子を多量に混入しており、色調は灰色を基調として表面は濃く、内部は薄い。本個体の帰属時期は不明である。

個体６(46－７・８)：体部破片２点で構成される。全体形状は不明で、内面には１単位17条の細密な櫛歯原体による卸目が施される。体部中位に相当する破片と考えられ、内面底部の摩滅状況は確認できない。なお、８の割れ口には漆が付着している。胎土は緻密で混入物は少なく、色調は表面・内部ともに灰色を呈する。本個体は13世紀前半に帰属するものと考えられる。

(７)瓦質土器(第46図、図版25)

瓦質土器は遺構外で１点のみ(56ｇ)出土した。９は火鉢の口縁部破片と考えられ、口径は約22㎝と推定される。口縁は緩やかに開き、口唇は面をなして外側へ傾斜している。胎土は緻密で混入物は少なく、色調は表面が黒色、内部が白色を呈する。15世紀以降のものと考えられるが、詳細な時期は明確でない。

(８)かわらけ(第47図、巻頭図版10、図版26)

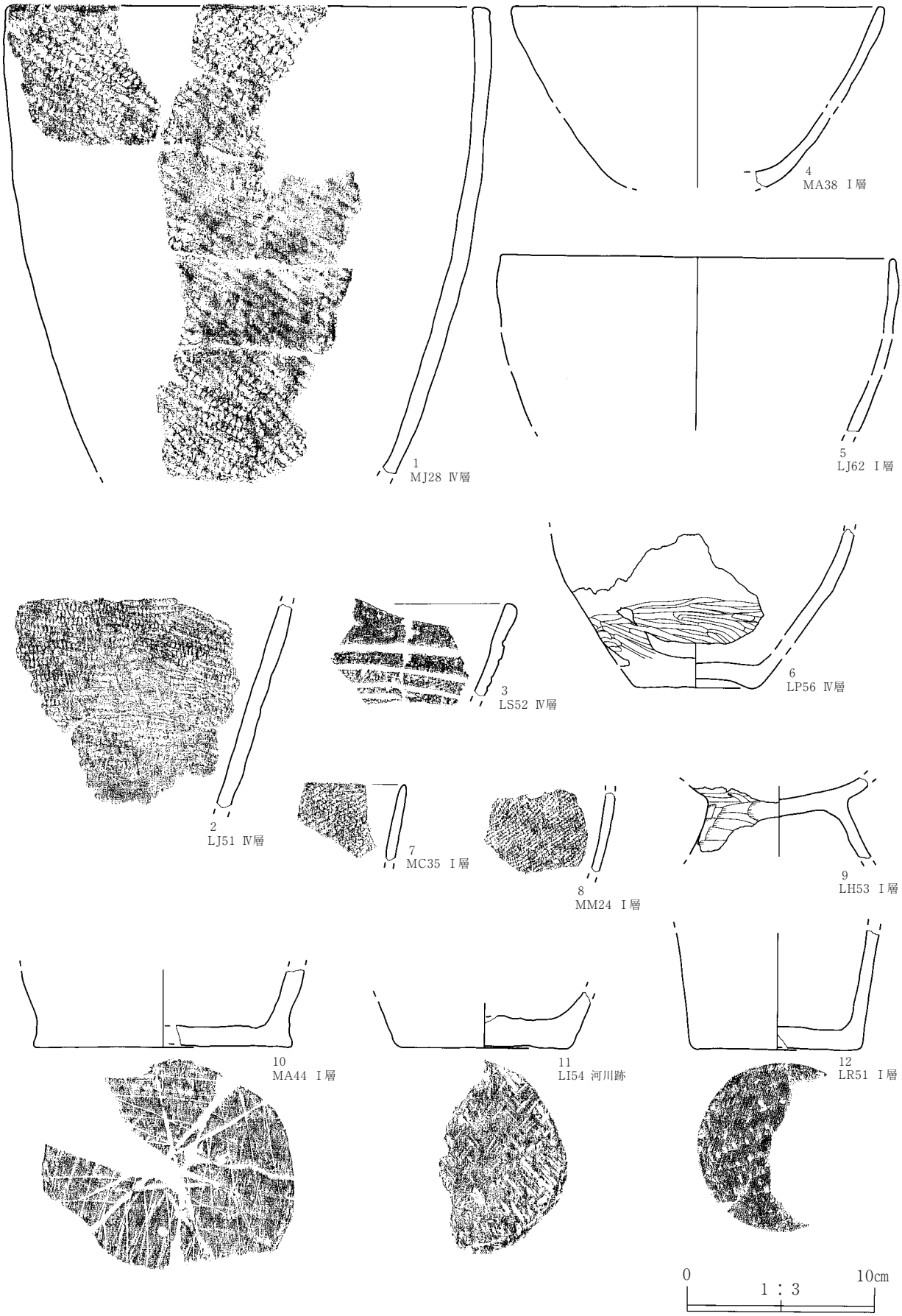
かわらけは遺構内で26点(716.4ｇ)、遺構外で28点(806.5ｇ)出土した。すべて轆轤成形によるもので、底部切り離しは回転糸切りであり、観察可能なものは全て右回転による。手づくねかわらけは全く確認されていない。器形から杯と皿に大別され、全54点のうち19点を杯に、12点を皿に分類することができた。これらのかわらけは概ね13世紀中頃から後半までの時期に帰属するものと考えられる。

①杯(47－１～14)

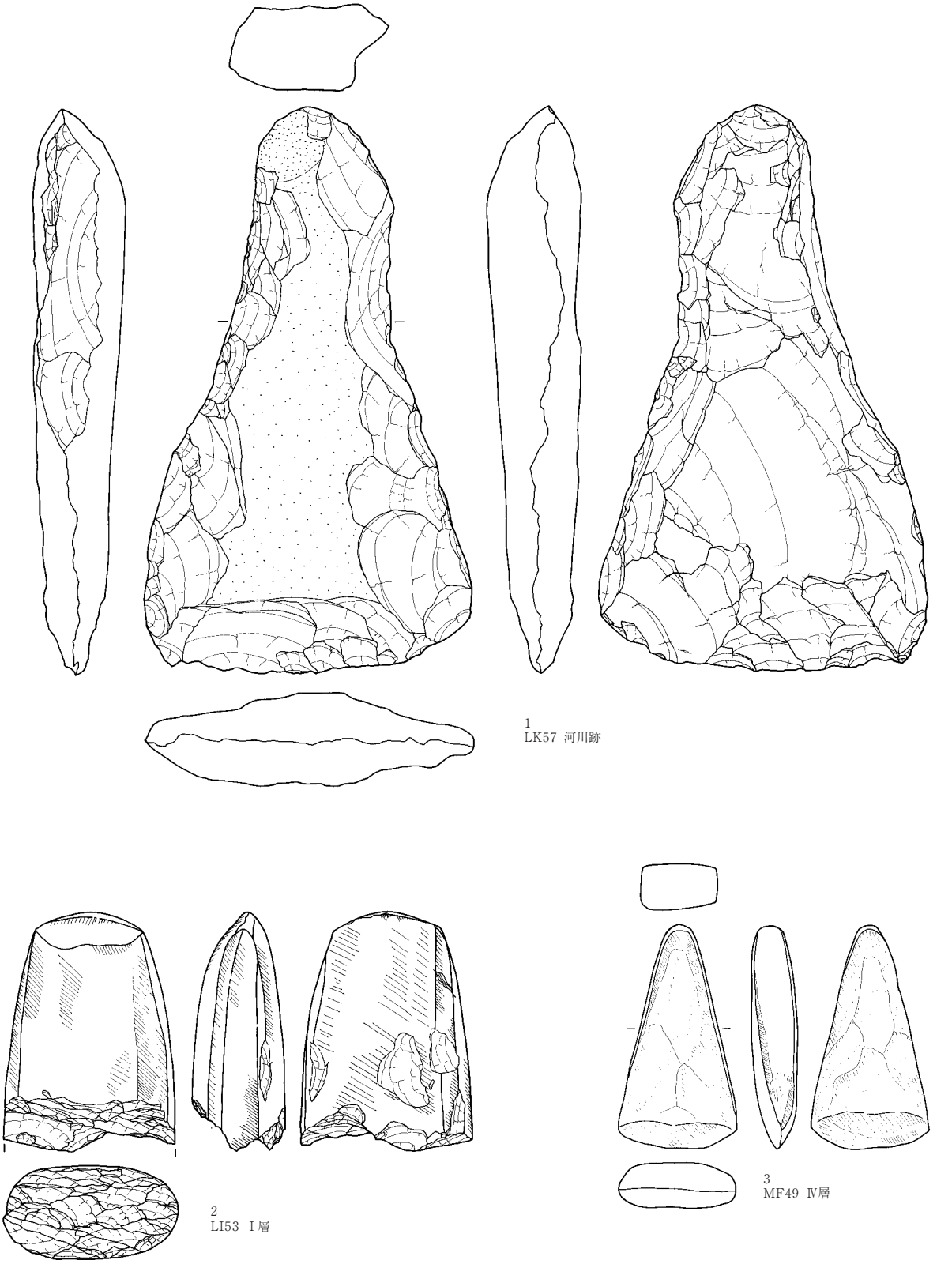
遺構内で９点(474.1ｇ)、遺構外で10点(583.5ｇ)出土した。全体形状が復元できるものは限られるが、口径と底径の差が少なく直線的に立ち上がるもの(１・８)、口径に対し底径が小さいもの(３・４)が認められる。底径で比較すると、直径６㎝前後、８～９㎝程度の二つに分かれ、後者の方が多い。１・２には内面底部にナデ調整が認められ、１の底面には板状圧痕が確認された。

②皿(47－15～23)

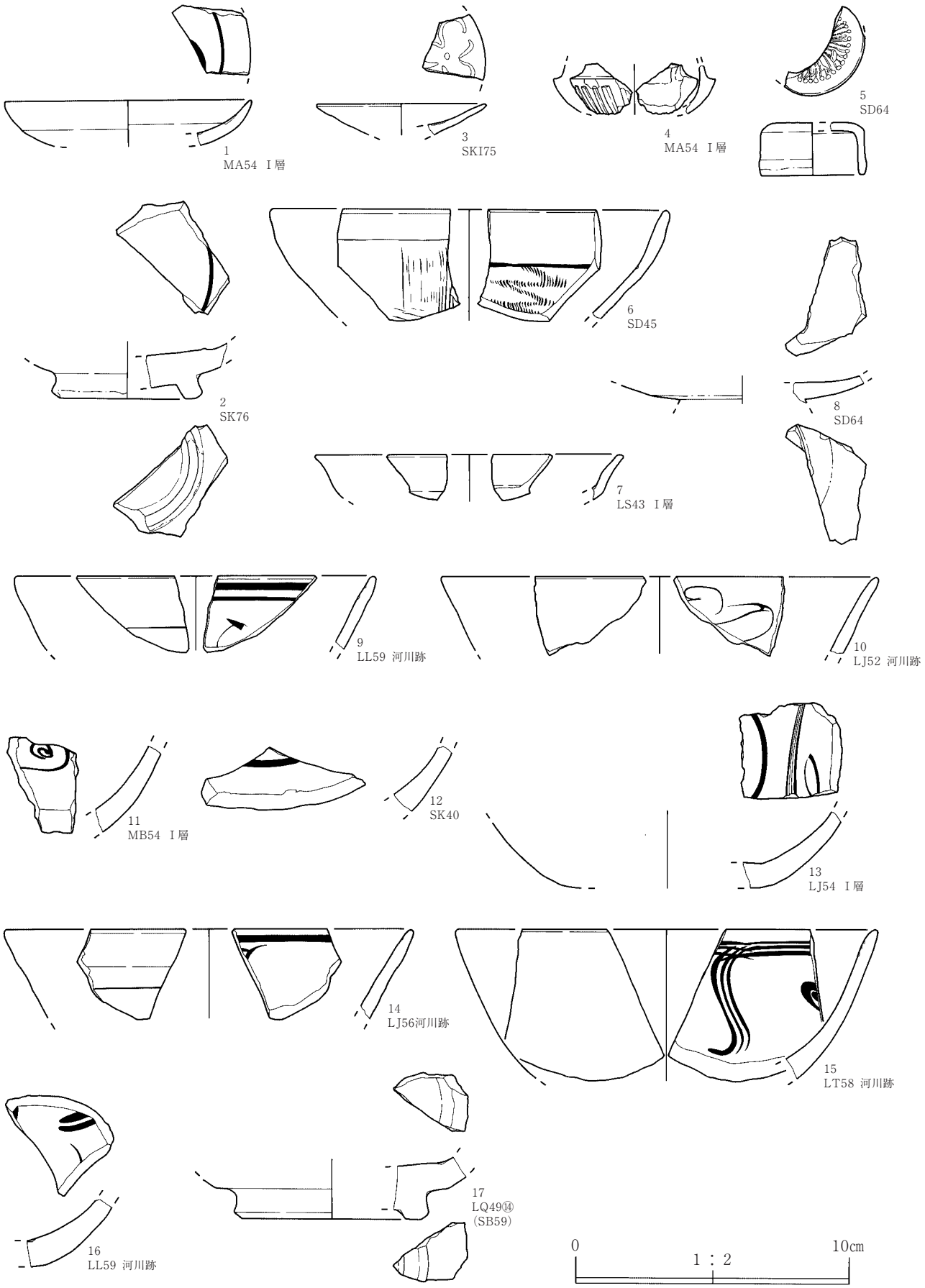
遺構内で６点(198.5ｇ)、遺構外で６点(138.4ｇ)出土した。全体形状が復元できるものは限られるが、内面中央が盛り上がるもの(15・17・18)と、平坦なもの(21・22)がある。底径は６～７㎝程度に比較的良くまとまっている。15・16の内面底部にはナデ調整が認められ、15の底面には板状圧痕が確認された。かわらけの胎土は杯･皿ともに、緻密で混入物が少なく軟質で白色の色調を呈するものと、砂粒を含み硬質で褐色の色調を呈するものの２種類が認められる。


1
MJ28 Ⅳ層
4
MA38 Ⅰ層
5
LJ62 Ⅰ層
2
LJ51 Ⅳ層
3
LS52 Ⅳ層
6
LP56 Ⅳ層
7
MC35 Ⅰ層
8
MM24 Ⅰ層
9
LH53 Ⅰ層
10
MA44 Ⅰ層
11
LI54 河川跡
12
LR51 Ⅰ層
0
10cm
1：3

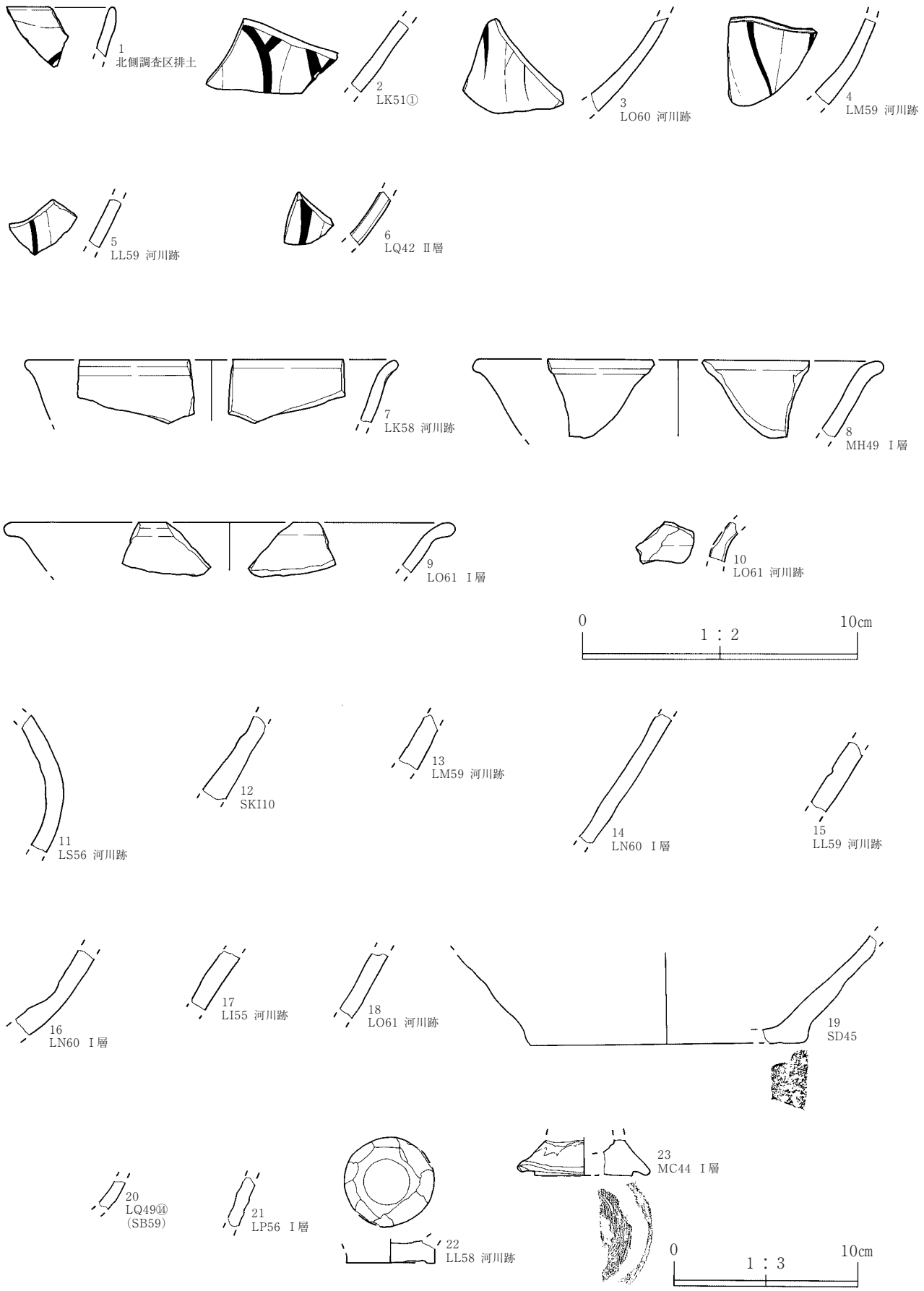
第39図　縄文土器



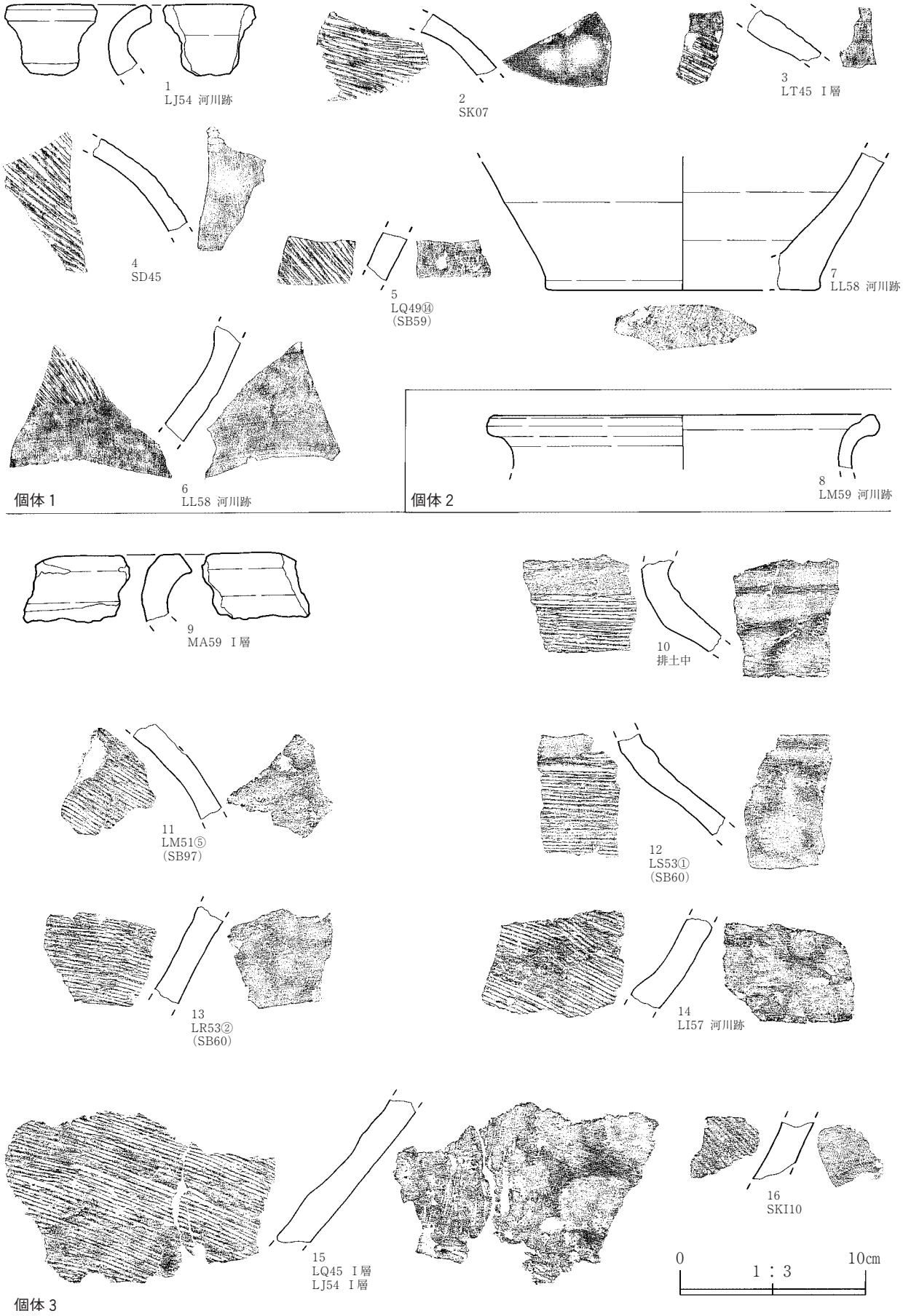
第40図　石器


1
MA54 Ⅰ層
3
SKI75
4
MA54 Ⅰ層
5
SD64
6
SD45
2
SK76
8
SD64
7
LS43 Ⅰ層
9
LL59 河川跡
10
LJ52 河川跡
11
MB54 Ⅰ層
12
SK40
13
LJ54 Ⅰ層
14
LJ56河川跡
15
LT58 河川跡
16
LL59 河川跡
17
LQ49⑭
(SB59)
0
1：2
10cm

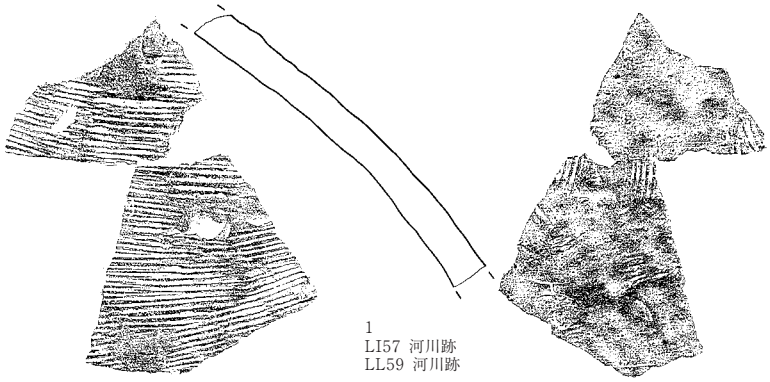
第41図　中国産磁器（１）



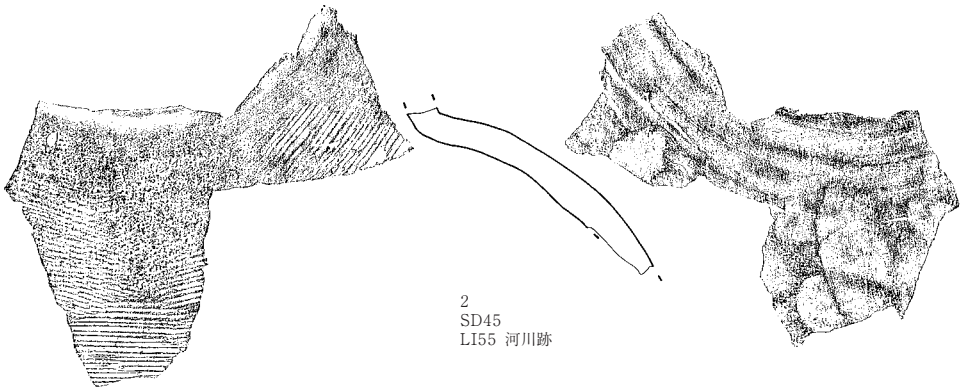
第42図　中国産磁器（２）・常滑産陶器・瀬戸産陶器

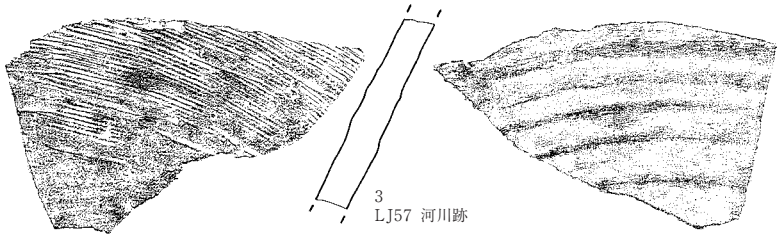


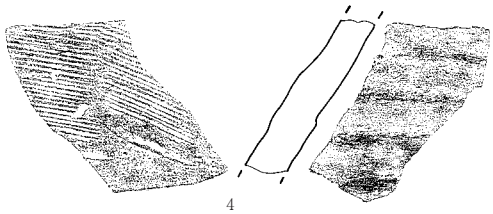
第43図　須恵器系中世陶器（１）

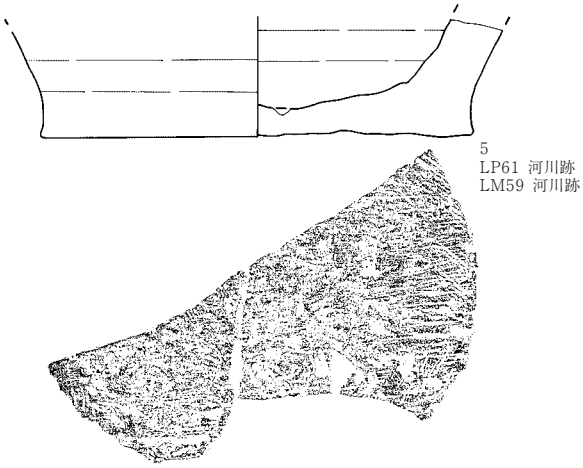


個体４





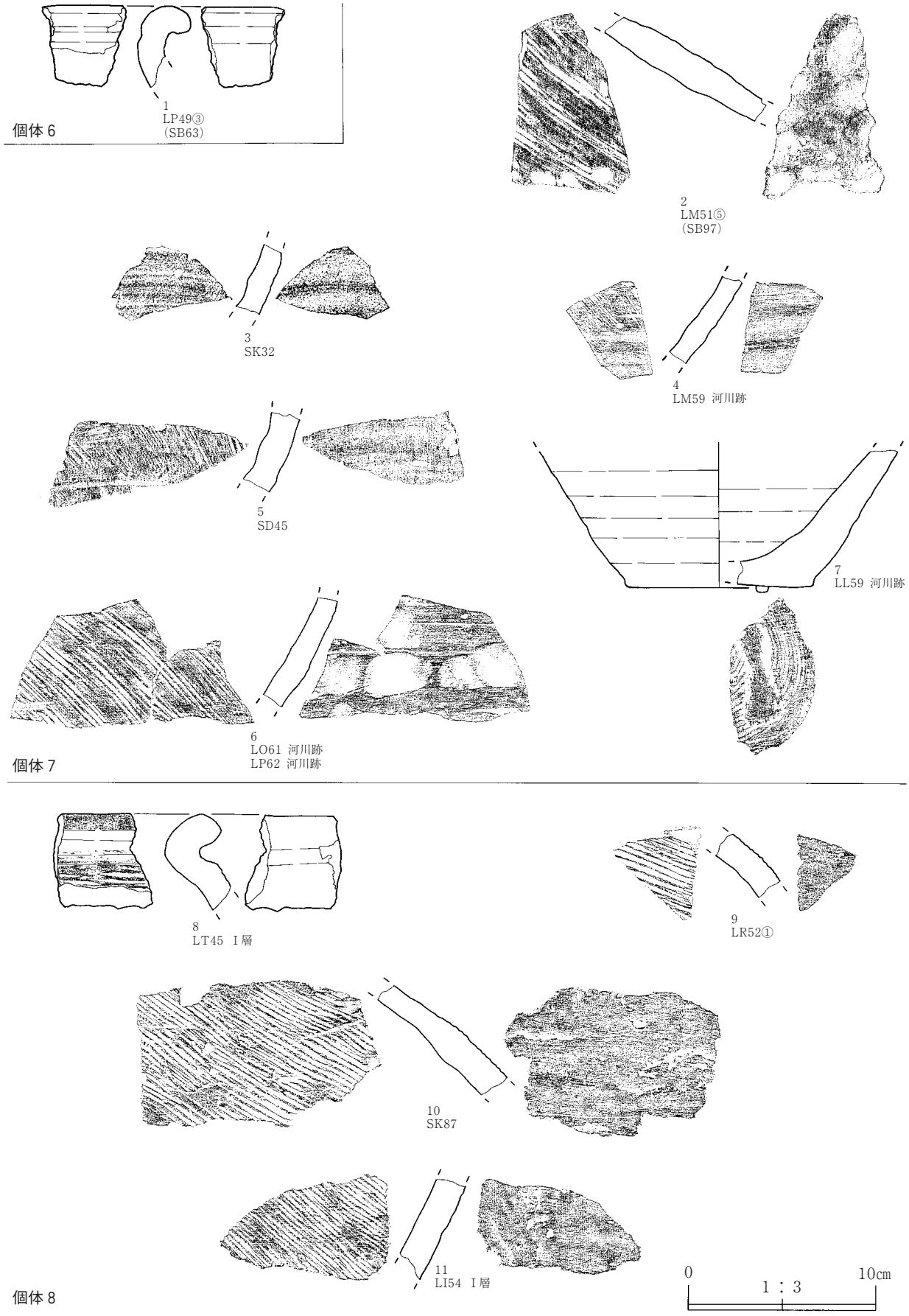




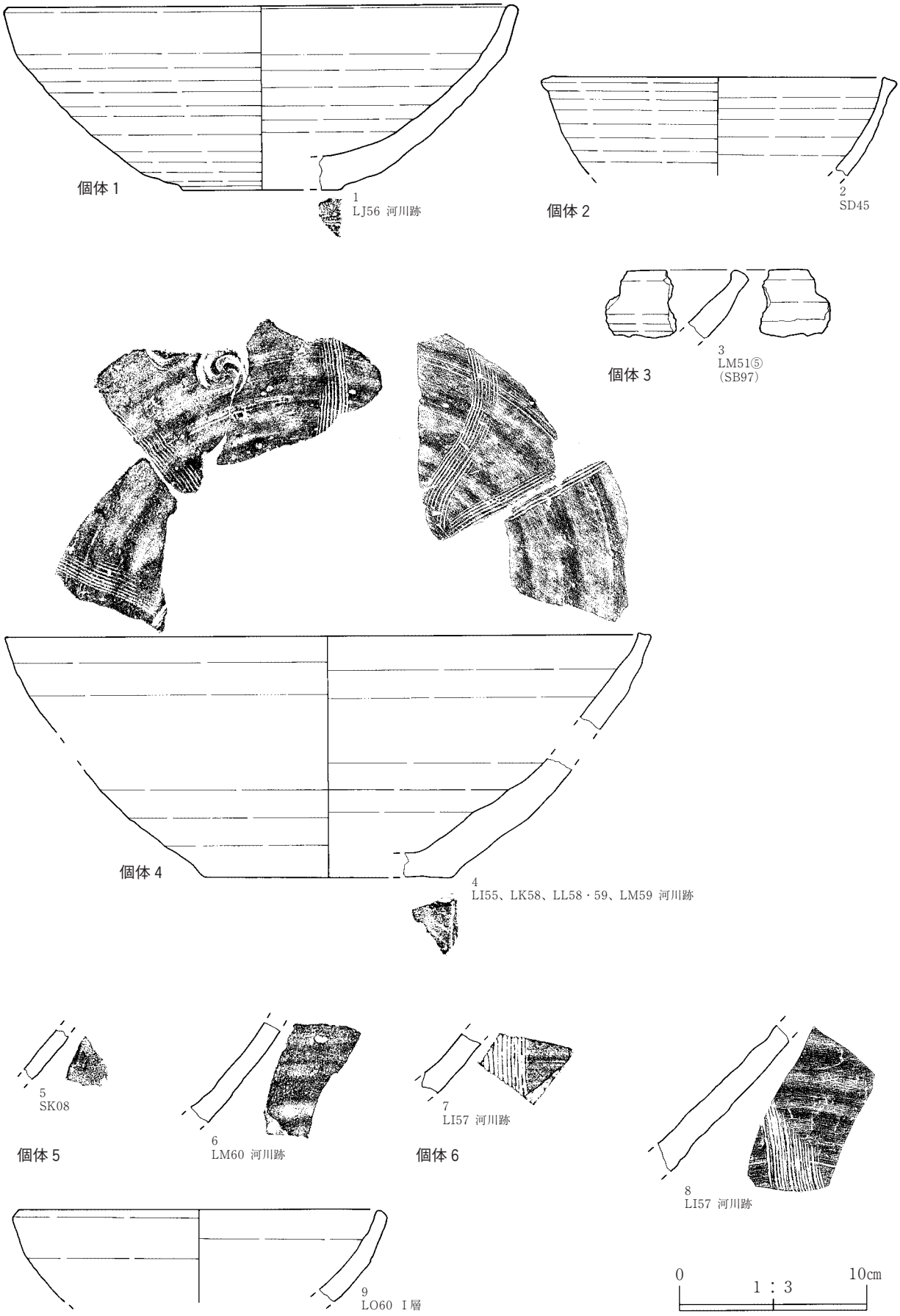
個体５

0　1：3　10cm

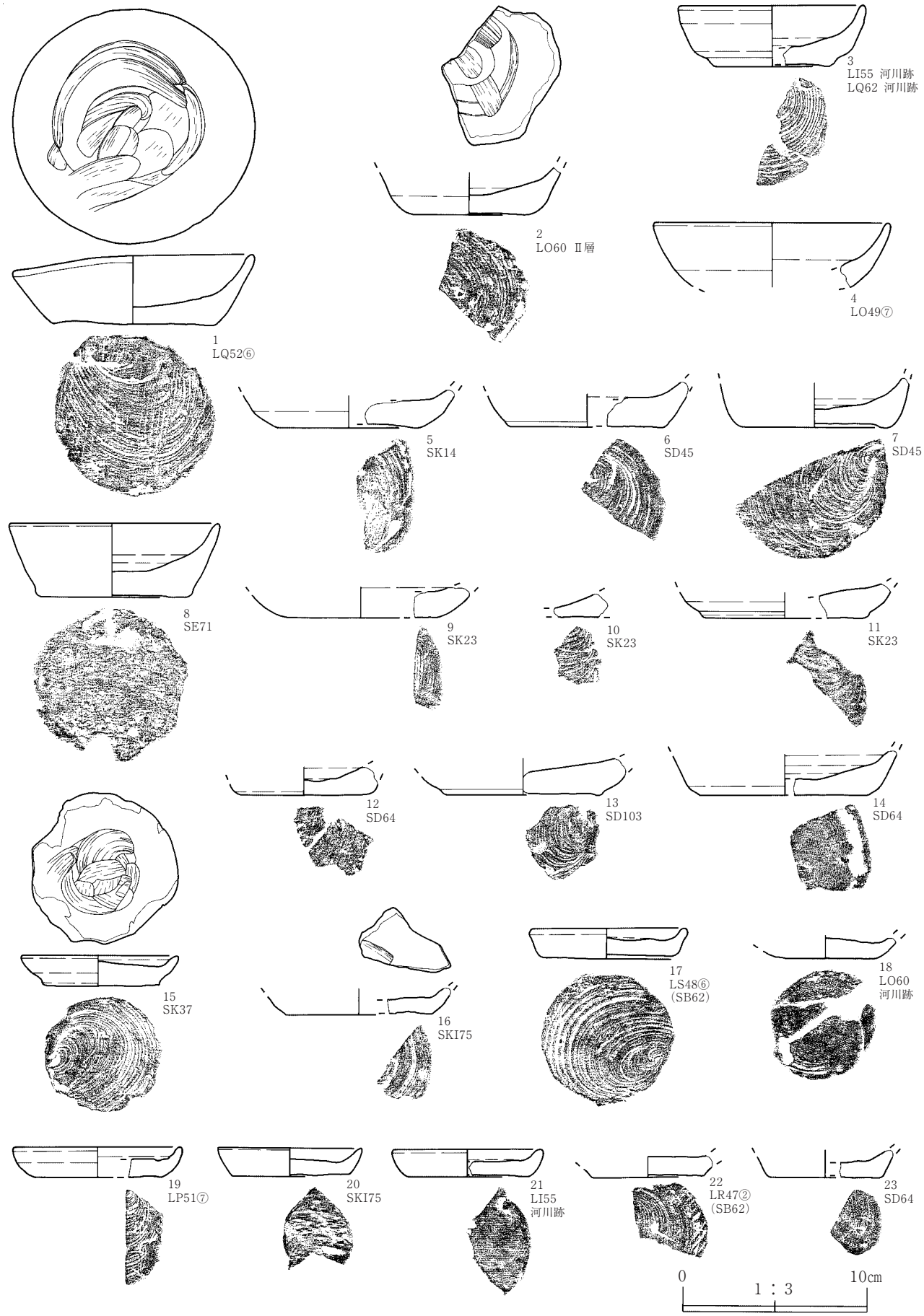
第44図　須恵器系中世陶器（２）



第45図　須恵器系中世陶器（３）



第46図　須恵器系中世陶器（４）・瓦質土器


1
LQ52⑥
2
LO60 Ⅱ層
3
LI55 河川跡
LQ62 河川跡
4
LO49⑦
5
SK14
6
SD45
7
SD45
8
SE71
9
SK23
10
SK23
11
SK23
12
SD64
13
SD103
14
SD64
15
SK37
16
SKI75
17
LS48⑥
(SB62)
18
LO60
河川跡
19
LP51⑦
20
SKI75
21
LI55
河川跡
22
LR47②
(SB62)
23
SD64
0
10cm
1：3

第47図　かわらけ

（９）鉄製品（第48図、図版26）

鉄製品は遺構内で２点（9.4ｇ）が出土した。１は釣り針状を呈し、２は棒状を呈するが、本来の形状・器種等については全く不明である。

なお、遺構内外では鉄滓・炉壁・鍛造剥片など、鉄製産関連の遺物が少量出土しているが、本章では記述・掲載を省略している。第５章第１節を参照されたい。

（10）銭貨（第48図、図版26）

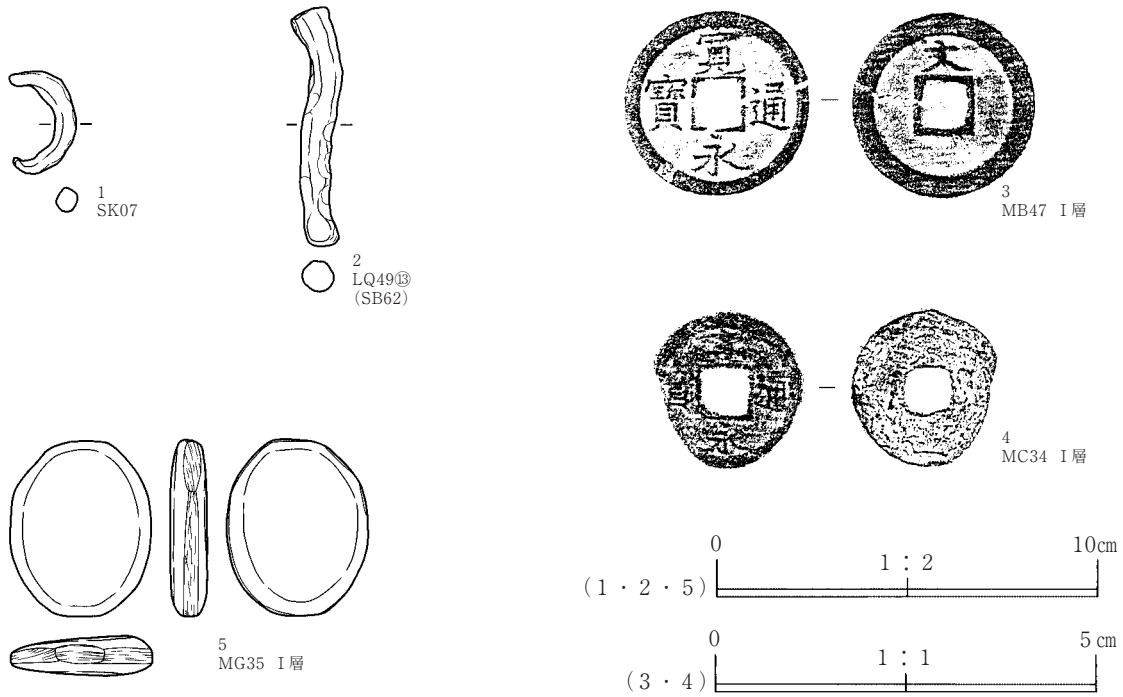
銭貨は遺構内で１点（0.8ｇ）、遺構外で２点（3.8ｇ）が出土した。遺構内から出土したものは著しく破砕しているため、銭銘・時期等は不明であり、掲載を省略している。３・４は寛永通宝で、３は文銭である。４は摩滅しており詳細は不明である。

（11）砥石（第48図、図版26）

砥石は遺構外で１点（23.4ｇ）が出土した。直径５㎝ほどの扁平な円礫の周縁を研磨使用している。詳細な帰属時期は不明であるが、出土地点は中世の溝跡（SD64）上にあり、本来この溝跡堆積土中に含まれていたと推測できるため、ここでは中世の所産としておく。

参考文献

太宰府市教育委員会　『太宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集　2000（平成12）年
中世土器研究会編　『概説　中世の土器・陶磁器』　真陽社　1995（平成７）年
東北中世考古学会編　『中世奥羽の土器・陶磁器』　高志書院　2003（平成15）年
吉岡康暢　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館　1994（平成６）年



第48図　鉄製品・銭貨・砥石

第５章　自然科学的分析

第１節　新屋敷遺跡出土鉄関連資料の金属考古学的調査

岩手県立博物館　　赤沼　英男

１　はじめに

秋田県雄勝郡雄勝町に所在する新屋敷遺跡は、平成15年一般国道13号湯沢横手道路建設事業に伴い発掘調査された遺跡である。調査の結果、中世の遺構から、鉄器、炉壁片、鉄滓、および台石として使用されたとみることができる石製資料をはじめとする鉄関連資料が検出された[1)]。鉄滓は塊状を呈するものと剥片状を呈するものとに分類され、さらに台石と推定される資料が出土したことから、遺跡内では固体鉄を加熱・鍛打する操作が実施されていたものと推定された[1)]。

鉄滓の成因を解明し生産活動内容を推定する方法の一つに、出土資料の金属考古学的調査がある。新屋敷遺跡から出土した鉄器、炉壁片、鉄滓、および赤褐色を呈する石製資料を金属考古学的方法で調査した結果、遺跡内では加熱・鍛打による鋼の純化と、純化された鋼を素材とする鋼製鉄器の製作が行われていた可能性が高いことが判明した。以下に金属考古学的調査結果を報告する。

２　調査資料

金属考古学的調査を行った資料は、鉄器２点、炉壁片１点、鉄滓６点、石製資料３点の合計12資料である。鉄滓は外観形状上、塊状滓、剥片状物質、および砂状物質(表１No.7には剥片状物質と砂状物質が混在する)に分類される。石製資料は板状を呈するものと柱状を呈するものの２種類があり、前者の表面には局所的に赤褐色を呈する領域がみられる。後者は全域が赤褐色を呈し、局所的に黒褐色を呈する領域が固着する。調査資料の概要(調査資料番号、検出遺構、資料の残存状況)は表１に示すとおりである。

表１　調査資料の概要

No.	資料名	検出遺構	残存状況
1	釣り針状鉄製品	SK07土坑	錆化が進み土砂が固着。全量4.6ｇ
2	棒状資料	LQ49SKP13柱穴	錆化が進み土砂が固着。全量17.76ｇ
3	炉壁片	LQ56SKP19柱穴	植物繊維が混在した土砂を素材とする。全量19.9ｇ
4	鉄滓	LK53SKP６柱穴	塊状滓
5	剥片状資料	SKI38竪穴状遺構	粒状を呈する
6	剥片状資料	SKI74竪穴状遺構	板状を呈する
7	剥片状資料	SKI75竪穴状遺構	粒状を呈する
8	剥片状資料	SK87土坑	板状を呈する
9	剥片状資料	SN81焼土遺構	粒状を呈する
10	石製資料	SKI74竪穴状遺構	板状。表面は赤褐色を呈し、ところどころに黒褐色領域が混在。
11	石製資料	SKI75竪穴状遺構	柱状。表面には赤褐色領域が残存。
12	石製資料	SKI10竪穴状遺構	柱状。表面には赤褐色領域が残存。

注１）　No.は分析試料番号。資料名および検出遺構は秋田県埋蔵文化財センター・加藤　竜氏による。

３　調査試料の摘出

鉄器についてはＸ線透過写真撮影後、他に比べ残存状態が良好で試料摘出による資料本体の破損が少ないと判断される部位から、ダイヤモンドカッターを装着したハンドドリル(以下、ハンドドリルという)を使って、約0.1ｇの試料を摘出した。炉壁片、塊状滓、および板状石製品についてはハンドドリルでＶ字形に深さ１～２cmの切り込みを入れ、一方の切り込み面から約１ｇの試料を切り取った。各資料から摘出した試料をさらに２分し大きい方を組織観察に、小さい方を化学成分分析に供した。No.３炉壁片については内面および外面から、No.10板状石製品については内面および外面からそれぞれ別に試料を摘出し、化学成分分析に供した。

No.11およびNo.12柱状石製品については表面の赤褐色部分からハンドドリルを使って微小試料を摘出し、酸化鉄の固着を調べるため、組織観察に供した。剥片状物質または砂状物質についてはマイクロスコープで表面形状を確認し、資料量の合計が0.05ｇ以上あるNo.５の砂状物質については化学成分分析と組織観察に、資料量の合計が0.05ｇ未満のNo.６剥片状物質、No.７の砂状物質については組織観察に、No.７の剥片状物質については化学分析に、No.８の剥片状物質、No.９およびNo.10の砂状物質については組織観察に供した。

４　鉄器の保存処理

Ｘ線透過写真像に基づき、資料の外観形状を著しく損ねていると判断される錆、および資料表面に付着する土砂をハンドドリルで慎重に削り落とした。このようにして整形した資料を0.2％水酸化リチウム－エチルアルコール溶液に浸して脱塩処理した後、99.9％エチルアルコールに浸して超音波洗浄し、減圧乾燥した。減圧下でアクリル樹脂を含浸し、欠損部および試料摘出部位にエポキシパテを充填し整形した後、再び減圧下でアクリル樹脂を含浸し減圧乾燥した。資料を最終整形し、岩絵の具を使って古色した。

５　調査方法

組織観察用試料はエポキシ樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを使って研磨した。研磨面を金属顕微鏡で観察し、成因を推定するうえで重要と判断された鉄器に残存する非金属介在物および鉄滓中の鉱物相を、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー(EPMA)で分析した。No.11およびNo.12についてはEPMAで含有元素濃度分布を調べた。化学成分分析用試料は外表面に付着する土砂を除去するため、エチルアルコール、アセトンで超音波洗浄し、130℃で２時間以上乾燥した。乾燥した試料をテフロン分解容器に直接秤量し、塩酸、硝酸、フッ化水素酸、および蒸留水を加え密栓し、マイクロウエーブ分解装置を使って溶解した。溶液中のフッ化物イオンをホウ酸水溶液でマスクし、蒸留水で定溶とした後、溶液中に含有されるT.Fe(全鉄)、Cu(銅)、ニッケル(Ni)、コバルト(Co)、マンガン(Mn)、リン(P)、チタン(Ti)、ケイ素(Si)、カルシウム(Ca)、アルミニウム(Al)、マグネシウム(Mg)、バナジウム(V)の12元素を誘導結合プラズマ発光分光分析法(ICP-AES法)で分析した。

６　調査結果

６－１　鉄器の組織観察結果

No. １は湾曲し一方の端部は先細となっている（図１）。釣り針の一部、頭部が欠損した釘が曲がったもの、または装飾品として使用された資料の一部と推定される。本稿では釣り針状鉄製品と呼ぶことにする。No. ２（図１）は断面が角状を呈する棒状資料でややＳ字状に湾曲している。加工途中の可能性があり、本稿では棒状資料と呼ぶ。

No. １、No. ２から摘出した試料はともにその全域が錆によって構成されている。メタルはみられない。試料表面および中心部の錆化は著しく、中心部分は空隙化している。錆化前の地金の組織を推定できる領域を見出すことはできなかったが、外観形状を考慮するといずれも鋼製鉄器であったと判断される。

６－２　鉄器の化学組成

表２にNo. １およびNo. ２鉄器から摘出した試料の化学成分分析結果を示す。No. １のT.Feは52.15％、No. ２のT.Feは42.45％で、相当に錆化が進んでいる。No. １からは0.014％のNi、0.020％のCo、および0.40％のＰが検出されている。錆化が進んだ試料に含有される微量元素を検討する場合、埋蔵環境下からの富化を吟味する必要がある[2)]。

表２　鉄器の分析結果

No.	化学成分（mass％）												Cu、Ni、Co三成分比			
	T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	Co* (Co/Ni)	Cu* (Cu/Ni)	Ni** (Ni/Co)	Cu** (Cu/Co)
1	52.15	0.009	0.014	0.020	0.011	0.40	0.043	4.01	0.097	0.963	0.074	＜0.001	1.43	0.64	0.70	0.45
2	42.45	0.001	0.006	0.009	0.027	0.08	0.092	7.22	0.232	2.41	0.145	＜0.001	1.50	0.17	0.67	0.11

注１）　No.は表１に対応。化学成分分析はICP-AES法による。

後述するように、炉壁片に含有されるCu、NiおよびCoは0.002％以下であり（表３No. ３）、No.１から検出された左記３成分が埋蔵環境下から富化された可能性は乏しいと判断される。一方、Ｐについては埋蔵環境下から富化される場合があることが報告されている[3)]。錆化した試料におけるＰの分析値を評価する場合、遺物を包み込んでいた土壌中のＰ含有量、およびほぼ同じ埋蔵環境下にあったとみなすことのできる他の鉄器のＰ含有量を調べ、それらの結果を比較して埋蔵環境からの富化の有無を検討する必要がある。炉壁片には0.10％のＰが含有されている。ただし、No. １にはその４倍のＰが含まれている。No. １のメタルには相当量のＰが含まれていたものと推定される。

６－３　炉壁片の組織観察結果

No. ３の一方の面は茶褐色を呈し、植物繊維を混和した粘土状物質を素材とする。もう一方の面は黒褐色を呈し、溶融または部分溶融している（図$2a_{1-1}$、$2a_{1-2}$）。摘出した試料にはいたるところに空隙がみられる（図$2b_1$）。マクロ組織領域R_1内部は、酸化ケイ素（SiO_2）を主成分とするガラス化した領域の中に灰色を呈するFe-Ti-Al-Mg-O系化合物（XT）と暗灰色を呈するFe-Al-Si-K-O系領域が観

察される。マクロ組織領域R_2内部は、酸化ケイ素(SiO_2)および酸化アルミニウム(Al_2O_3)を主成分とするガラス化した領域の中に、灰色のFe-Ti-Al-Mg-O系化合物(XT)、およびFe-Ca-Si-O系の暗灰色領域が点在する組織によって構成される。

６－４　塊状滓の組織観察結果

No. 4から摘出した試料には、大小多数の空隙が残存する(図$3a_1$、図$3b_1$)。マクロ組織領域R_1内、領域R_2内部のEPMAによる組成像(COMP)には、灰色の粒状領域(Wus)、やや暗灰色を呈する柱状領域(Fa)、および微細粒子を内包する黒色領域(Ma)がみられ、領域Wusはウスタイト(化学理論組成FeO)、領域FaはFeO-MgO-SiO_2系[マグネシウムを固溶した鉄かんらん石：2(Fe,Mg)O・SiO_2と推定される]であることがわかった(図$3c_{1-1\cdot1-2}$、$d_{1-1\cdot1-2}$)。

６－５　鉄滓・炉壁片の化学組成

表３左欄はNo. 3炉壁片およびNo. 4鉄滓の化学成分分析結果である。No. 3については溶融または部分溶融した内面(Sa_1)および茶褐色を呈する外面(Sa_2)から化学成分分析用試料を摘出し、分析に供した。Sa_1のT.Feは6.99%、Sa_2のT.Feは3.00%で、Sa_1のT.Fe濃度がSa_2に比べ高レベルにある。Siはそれぞれ22.6%、25.9%、Alはそれぞれ7.83%、10.6%で粘土を主成分とする。検出された炉壁片は炉内反応から離れた位置にあった資料で、わずかに酸化鉄が固着していたと推定される。

No. 4のT.Feは64.15%、Siは4.50%、Alは1.03%である。酸化鉄と粘土状物質が反応し生成した試料と推定される。この結果は５－４で述べる組織観察結果ともよく整合する。

表３　炉壁片・鉄滓の分析結果

No.	試料摘出位置	化学成分（mass%）												鉱物組成
		T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	
3	Sa_1	6.99	0.003	0.002	0.001	0.130	0.10	0.491	22.6	2.73	7.83	0.796	<0.001	XT、Ma
	Sa_2	3.00	0.001	0.002	0.001	0.028	0.04	0.557	25.9	0.306	10.6	0.614	<0.001	XT、Ma
4	－	64.15	0.001	<0.001	0.001	0.060	0.15	0.071	4.50	0.636	1.03	0.318	0.008	Wus、Fa、Ma

注１）　No.は表１に対応。化学成分分析はICP-AES法による。
注２）　WusはウスタイトFaはFeO-MgO-SiO_2系化合物、XTはFe-Al-Ti-Mg-O系化合物、Maはマトリックス。

６－６　砂状または剥片状試料の組織観察結果

図４および図５の上段はマイクロスコープを用いて撮影した資料の外観である。No. 6およびNo. 8は剥片状物質、No. 5およびNo. 9は砂状物質で、No. 7には砂状物質と剥片状物質が混在する。

図４および図５の下段には上記５資料の断面マクロおよびミクロ組織を示してある。No. 6は全域が灰色および暗灰色領域によって構成され、灰色領域はウスタイト、暗灰色領域はヘマタイト(酸化第二鉄)と判定される(図４)。No. 8のマクロ組織は灰色の粒状領域(IO)とガラス化した領域(Gl)からなり、EPMAによって前者は酸化鉄、後者はFeO-CaO-SiO_2-Al_2O_3-MgO-K_2O系であることが確認された(図４)。No. 5、No. 7、およびNo. 9砂状物質はいずれも灰色の柱状領域、暗灰色領域、および黒色領域からなる。灰色の柱状領域はFe-Ti-Al-Mg-O系化合物(XT)、暗灰色領域(XTo)はT

i-O系（主として酸化チタンからなる）で、黒色領域はSi、Al、Ca、Kを主成分とする（図５）。

６－７　剥片状試料の化学組成

No.５砂状物質のT.Feは19.55％、No.７剥片状物質は54.24％である（表４）。No.５には17.0％のSi、5.80％のAlが含有され、他に2.70％のTiを含む。No.５は酸化ケイ素、酸化アルミニウムを主成分とする。検出されたFe、Tiは主として５－６で述べた化合物XT、化合物XToに起因すると推定される。No.７剥片状物質のSi、Alはそれぞれ4.60％、1.99％で、この試料は酸化鉄を主成分とし、他に0.006％のNi、0.009％のCoを含有する。

表４　剥片状資料の分析結果

No.	化学成分（mass%）												Ni,Co,Cu三成分比		Ni,Co,Cu三成分比		鉱物組成
	T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	Ni** (Co/Ni)	Co** (Cu/Ni)	Ni** (Ni/Co)	Cu** (Cu/Co)	
5	19.55	<0.001	0.001	0.009	0.424	0.15	2.70	17.0	0.517	5.80	5.39	0.018	－	－	0.11	<0.001	XT, Xto, Ma
7	54.24	0.010	0.006	0.016	0.049	0.22	0.463	4.60	0.092	1.99	0.393	0.013	2.67	1.67	0.38	0.63	Wus, Hem, IO, Ma

注１）　No.は表１に対応。化学成分分析はICP-AES法による。
注２）　No.5は砂状物質、No.7は鍛造剥片である。
注２）　WusはウスタイトHemはヘマタイト、XTはFe-Al-Ti-Mg-O系化合物、XToはFe-Ti-O系化合物、IOはFe-O系、Maはマトリックス。

６－８　石製資料の組織観察結果

No.10から摘出した試料は緻密で内部は赤褐色を呈する。酸化雰囲気下にさらされたものと推定される。EPMAによる含有元素濃度のカラーマッピングによって、表面は酸化鉄の薄層で覆われていることがわかる（図６）。別途行われた岩石・鉱物学的調査によって、斑晶として斜長石と輝石仮像を含む安山岩～デイサイト、石基は斜長石・ガラス・シリカ鉱物・不透明鉱物からなり、ガラス基流晶質組織を示すことが指摘されている[4)]。No.11およびNo.12の赤褐色部分から摘出した試料も、表面には酸化鉄の薄層が残存する（図７）。

６－９　No.10板状石製品の化学組成

表面から摘出した試料（Sa_1）のT.Feは内面から摘出した試料（Sa_2）のT.Feよりもわずかに高レベルにあるが、含有量に顕著な差異はみられない。Siはそれぞれ25.2％、26.2％、Alはそれぞれ7.01％、6.80％で酸化ケイ素、酸化アルミニウムを主成分とする（表５）。

表５　No.10石製試料の分析結果

試料摘出位置	化学成分（mass%）											
	T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V
Sa_1	3.67	<0.001	0.001	<0.001	0.079	0.12	0.520	25.2	1.79	7.01	0.563	<0.001
Sa_2	3.25	0.001	0.001	<0.001	0.085	0.14	0.599	26.2	1.67	6.80	0.273	<0.001

注１）　No.は表１に対応。化学成分分析はICP-AES法による。

７　考察

７－１　組成に基づく調査資料の分類

金属考古学的調査を行ったNo.１およびNo.２はいずれも錆化が進んでいて、摘出した試料にメタル組織を推定できる領域を見出すことはできなかった。器形を考慮すると鋼製鉄器と推定される。No.２はＳ字に湾曲しており、加工途上の資料とみることができる。No.６およびNo.８は剥片状物質で、No.７には剥片状物質と砂状物質が混在する。No.６およびNo.７の剥片状物質はミクロ組織および化学組成から純化された鋼を加熱した後、鍛打した際に鋼表面から剥離する鍛造剥片と判定される。粒状物質は少量の鉄チタン酸化物および主として酸化チタンからなる鉱物を含有する風化火成岩である。No.５およびNo.９も同様に解釈される。柱状の石製資料No.11およびNo.12の表面には赤褐色領域があり、酸化鉄の薄層が残存していることが確認された。固体鉄を加熱・鍛打する際の台石として使用された資料であり、遺跡内では鋼を加熱・鍛打して、目的とする鋼製鉄器の製作が行われていた可能性が高い。

中世には複数の鋼製造法があった可能性がある[5)－7)]。いずれの方法が用いられたとしても、多段階の工程を経て目的とする鋼が製造されたことは確実である。出発物質として同一の製鉄原料が使用されたとしても、製造方法や製造条件に応じ、最終的に得られる鋼の組成にはばらつきが生じる。従って、表２、表４の分析結果を単純に比較し、その結果に基づき資料を分類するという解析方法では、実態を反映した資料の分類結果を得ることは難しい。

表２、表４の中で、Ni、Co、およびCuの三成分は鉄よりも錆にくい金属のため、一度メタルに取り込まれた後はそのほとんどが鉄中にとどまる。従って、合金添加処理が行われていなかったとすると、その組成比は鋼製造法の如何に係わらず製鉄原料の組成比に近似すると推定される。図８a、図８bは表２、表４に示すNo.１、No.２、No.５砂状物質、およびNo.７剥片状物質の(mass％Co)/(mass％Ni)と(mass％Cu)/(mass％Ni)、(mass％Ni)/(mass％Co)と(mass％Cu)/(mass％Co)を求め、その値をプロットしたものである。通常、錆化が進んだ試料の場合、埋蔵環境下からの富化を考慮してNi、Coが0.01％以上含有される試料を選別する。本稿では炉壁片に含有されるNi、Coが0.002％以下であり、それを大きく上回るNi、Coが含まれているNo.２、No.７剥片状試料については図８ａ、図８ｂに、Coが含まれているNo.５砂状試料については図８ｂにプロットした。図８ａ、図８ｂではNo.１、No.２、およびNo.７は近接して分布する。No.５は図８ｂでは右方下に単独で分布し、Niが他の３試料に比べ低レベルにあるため、図８ａにはプロットされない。

以上の結果は、No.１およびNo.２は遺跡内で同じ鋼を加熱・鍛打して製作された資料であり、その操作の過程でNo.７剥片状物質が生成し、鍛造剥片として排出された可能性が高いことを示している。加熱・鍛打のための台石にNo.11およびNo.12が使用され、板状を呈するNo.10は加熱・鍛打を実施する際に使用された火窪炉を築炉する際の材料の一部に用いられた資料と考えられる。最後に問題となるのがNo.３炉壁片、No.４塊状滓、およびNo.６剥片状物質の成因である。

No.３炉壁片は粘土状物質に植物繊維を混和した材料で構築された炉の一部で、内面は黒褐色を呈し、溶融または部分溶融している。内面には約７％の酸化鉄が含有されるに過ぎず、反応サイトから離れた位置に設置された資料である。鋼を加熱･鍛打する際に使用する火窪炉は開放形の炉で、通常、側壁はもたない。遺跡内には火窪炉以外の設備が構築されていた可能性がある。この場合、原料鉱石を還元して鉄を得る製錬、銑鉄を溶解して鋳型に注ぎ、鋳造鉄器を製作する鋳造、および銑鉄を脱炭して鋼を製造する精錬などが考えられる。No.４およびNo.６は酸化鉄と粘土状物質とが反応し、ほ

ぼ溶融状態を経た後生成した試料とみることができる。No. 6は剥片状であることから、鋼表面に固着する鉄滓を過熱・鍛打して破砕、除去する際に排出された試料、No. 4はそれが火窪炉の中に入り溶融または部分溶融して炉材粘土と反応し固化した資料とみることができる。No. 4は、銑鉄を空気酸化によって脱炭して鋼を製造する際に、銑鉄の一部が再酸化されそれが粘土状物質と反応することによって生成した資料の可能性もある。この操作によって得られた鋼表面にも酸化鉄に富んだ鉄滓が固着していたと考えられる。それを火窪炉で加熱して鍛打して、清純な鋼にする際に、鋼表面に固着する鉄滓が破砕され除去される。No. 6はその過程で排出された資料としても、調査結果を説明することができる。

No. 4およびNo. 6は、鋼を加熱・鍛打して造形し、目的とする鋼製鉄器を製作するという小鍛冶操作のみならず、遺跡内で鋼の製造までもが行われていた可能性があることを示している。この点については鉄関連炉跡の検出と復元、羽口をはじめとする道具類の形状確認を通し、解明すべき課題である。

註

1）遺跡を発掘調査された秋田県埋蔵文化財センター・加藤　竜氏からのご教授による。

2）佐々木稔、村田朋美「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」季刊考古学、８、1984、pp.27－33。

3）佐々木稔、伊藤薫「川合遺跡出土の鉄斧、鉄鎌ならびに鋤先の金属学的調査」『静岡県埋蔵文化財調査研究所　研究紀要Ⅱ』静岡県埋蔵文化財調査研究所、1987、pp.63－73。

4）岩手大学教育学部土谷信高博士からのご教授による。

5）福田豊彦「近世における『和鉄』とその技術－中世の『和鉄』解明のために」『製鉄史論文集　たたら研究会創立四十周年記念』たたら研究会、2000、pp.195－228。

6）赤沼英男、佐々木稔、伊藤薫「出土遺物からみた中世の原料鉄とその流通」『製鉄史論文集』たたら研究会編、2000、pp.553－576。

7）　中世の鋼製造法については幾つかの方法が提案されており、見解の一致をみるにいたってはいない。その主因は、原料鉱石(砂鉄もしくは鉄鉱石[8])を製錬して得られる主生成物の組成についての見解の相違にある。製錬産物である鉄は炭素量に応じ、鋼と銑鉄の２つに分類される。製錬炉で得られた鉄から極力鋼部分を摘出し、含有される不純物を除去するとともに、炭素量の増減を行って目的とする鋼を製造する。そのようにして製造された鋼を使って、製品鉄器が製作されたとする見方がある[10]。製錬炉で直接に鋼がつくり出されるという意味で、この方法は近世たたら吹製鉄における鍋押法[11]によって生産された鉄塊を純化する操作に近似する。また、この方法によって得られた鉄〔炭素量が不均一で鉄滓が混在した鉄(主に鋼からなるが銑鉄も混在すると考えられている)〕を精製し目的とする鋼に変える操作は、精錬鍛冶[10]と呼ばれている。古代に鋼を溶融する技術は未確立であったと考えられるので(溶融温度は炭素量によって異なるが、炭素量0.1～0.2％の鋼を溶融するためには炉内温度を1550℃以上に保つ必要がある[12])、主として鋼から成る鉄から鉄滓を分離・除去する際の基本操作は加熱・鍛打によったと推定される。組成が不均一な鉄から純化された鋼を得る操作に精錬鍛冶という用語が用いられたのは、上述によるものと推察される。

　一方、夥しい数の鉄仏や鉄鍋、鉄釜をはじめとする鋳造鉄器の普及が示すように[13][14]、遅くとも９世紀には銑鉄を生産する技術、すなわち銑鉄を炉外に流し出す製錬法が確立されていたとする見方が出されている[15]。得られた銑鉄を溶解し鋳型に注ぎ込むことによって鋳造鉄器が製作される。また､生産された銑鉄を脱炭することにより鋼の製造も可能となる。この方法による鋼製造は銑鉄を経由して鋼が製造されるという意味で、間接製鋼(鉄)法[16]に位置づけられる。

8）　各種の岩石、とりわけ火成岩中の主として磁鉄鉱と含チタン磁鉄鉱を構成鉱物とする粒子が、岩石の風化に伴って分離し、現地残留や風および水などの淘汰集積作用などで濃縮したものが砂鉄鉱床である[9]。従って、砂鉄を構成する主要鉱物は磁鉄鉱であり、鉄鉱石と区別して使用することには岩石鉱物学上誤解を招く恐れがあるが、ここでは上述によって生成した鉱床から採取された磁鉄鉱および含チタン磁鉄鉱を主成分とする粒子を砂鉄、他の成因によって生成した鉄鉱床から採掘されたものを鉄鉱石と呼ぶことにする。

9）『鉄鋼便覧』日本鉄鋼協会編、1981。

10）大澤正己「古墳供献鉄滓からみた製鉄の開始時期」季刊考古学、８、1984、pp.36－40。

11）河瀬正利「中国地方におけるたたら製鉄の展開」『たたらから近代製鉄へ』平凡社、1990、p.11。

12）『鉄鋼の顕微鏡写真と解説』丸善株式会社、1968。

13）五十川伸矢「古代・中世の鋳鉄鋳物」国立歴史民俗博物館研究報告第46集、1992、pp.1－79。

14）五十川伸矢「古代から中世前半における鋳鉄鋳物生産」季刊考古学、57、1996、pp.57－60。

15）関清「古代末の北陸－富山湾岸部の遺跡群－」季刊考古学、57、1996、pp.30－32。

16）　空気酸化により銑鉄中の炭素を脱炭した場合、操作方法によってはただちにαFeに近い組成の鉄が得られた可能性もある。古代の鋼製鉄器によく使用される亜共析鋼が銑鉄を精錬してただちに得られたかどうか不明なため、本論では間接製鋼(鉄)法という表現をとった。

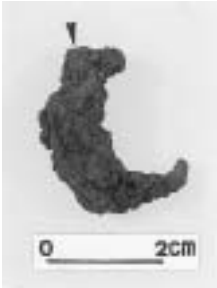
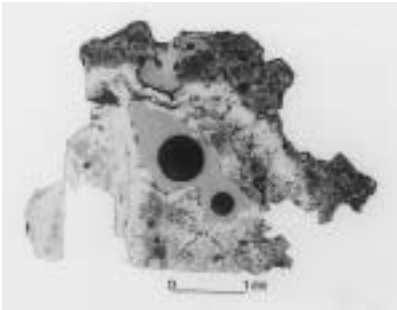
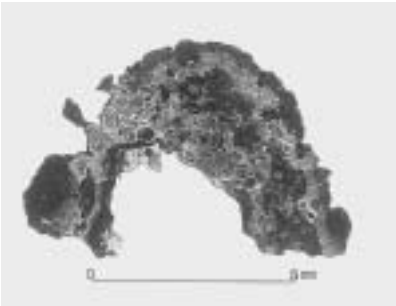
	No. 1	No. 2
外観（処理前）		
外観（処理後）		
X線透過写真		
マクロ組織		

図１　No.1およびNo.2の外観と摘出した試料の組織観察結果
外観の矢印は試料摘出位置。X線透過写真像によって、No.1は釣り針状鉄製品、No.2は加工途中の棒状資料と推定された。

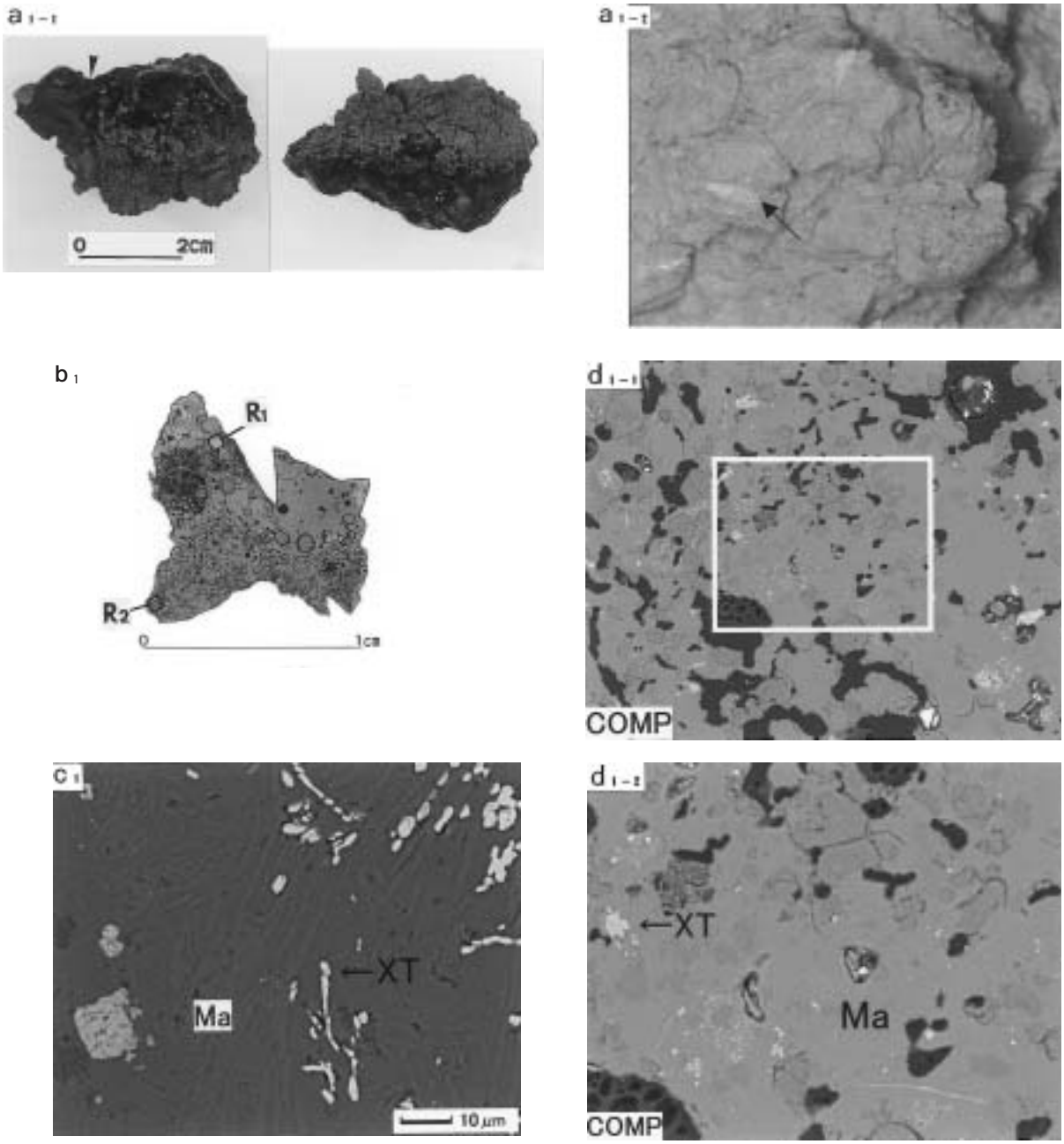


図２　No.3の外観と摘出した試料の組織観察結果

$a_{1\text{-}1}$は外観、矢印は試料摘出位置。$a_{1\text{-}2}$は赤褐色表面の拡大写真。植物繊維（矢印）が混在する様子が観察される。b_1はマクロ組織。c_1はb_1領域R_1内部のEPMAによる組成像（COMP）。$d_{1\text{-}1}$、$d_{1\text{-}2}$は領域R_2内部のEPMAによる組成像。$d_{1\text{-}2}$は$d_{1\text{-}1}$枠内部を拡大。XTはFe-Ti-Al-Mg-O系化合物。Maはマトリックス。

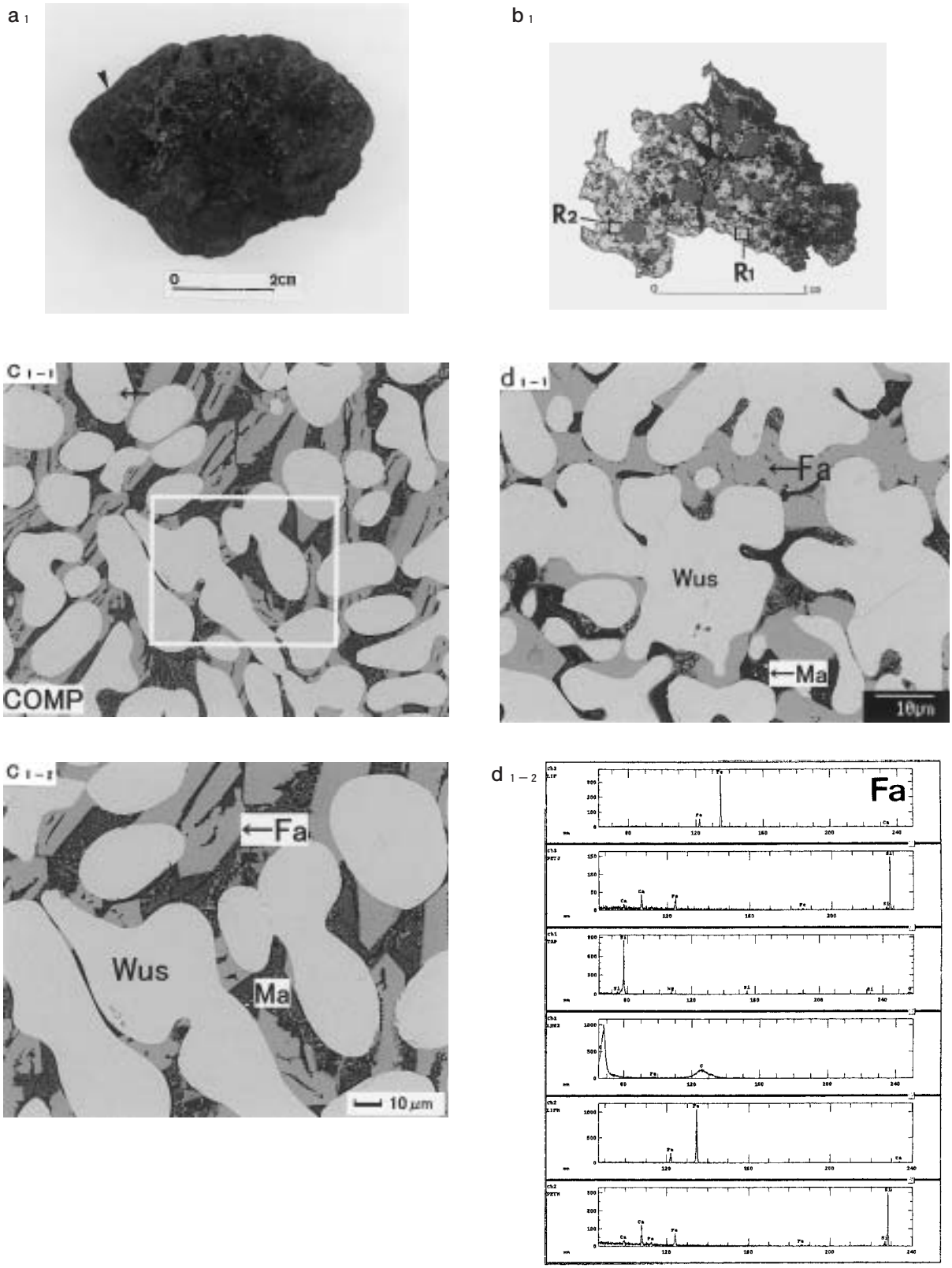


図３　No.4の外観と摘出した試料の組織観察結果
a_1は外観、矢印は試料摘出位置。b_1はマクロ組織。c_{1-1}、c_{1-2}はb_1領域R_1内部、d_{1-1}、d_{1-2}はb1領域R2内部のEPMAによる組成像（COMP）と定性分析結果。d_{1-2}はd_{1-1}枠内部を拡大観察したもの。Wusはウスタイト（化学理論組成FeO）、FaはFeO-MgO-SiO_2系化合物、Maはマトリックス。

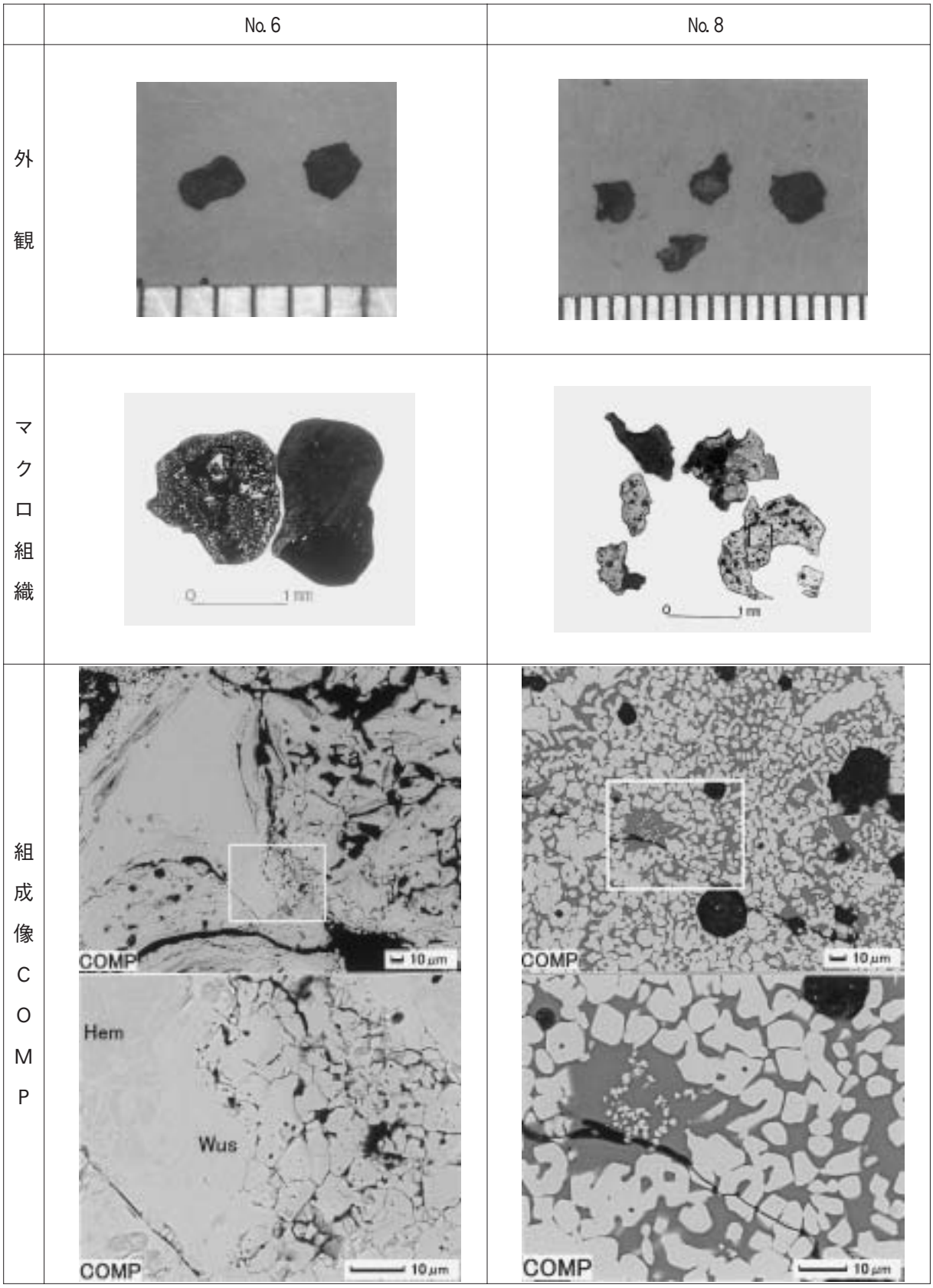


図４　No.6・No.8の外観と摘出した試料の組織観察結果
EPMAによる組成像（COMP）はマクロ組織の枠内部。下の組成像は上の組成像の枠内部を拡大観察したもの。Wusはウスタイト（化学理論組成FeO）、Hemはヘマタイト、IOはFe-O系領域、Glはガラス質ケイ酸塩、Maはマトリックス。

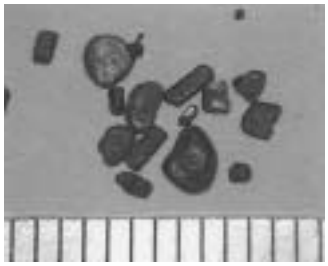
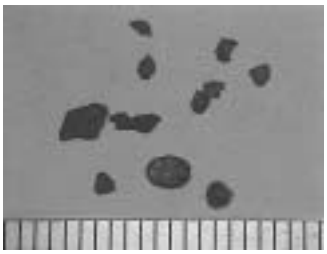
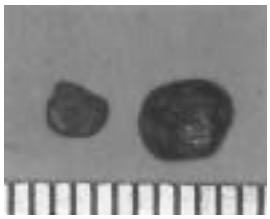
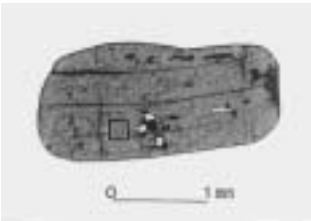
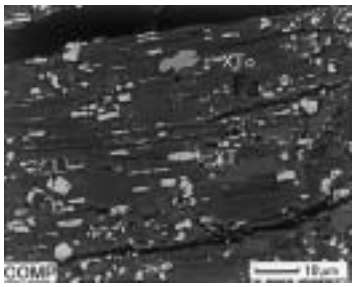
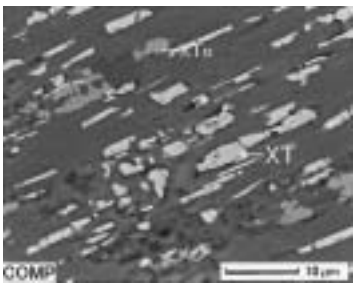
	No. 5	No. 7	No. 9
外観			
マクロ組織			
組成像COMP			

図５　No.5・No.7・No.9の外観と摘出した試料の組織観察結果
EPMAによる組成像（COMP）はマクロ組織の枠内部。XTはFe-Ti-Al-Mg-O系化合物、XToはTi-O系化合物。

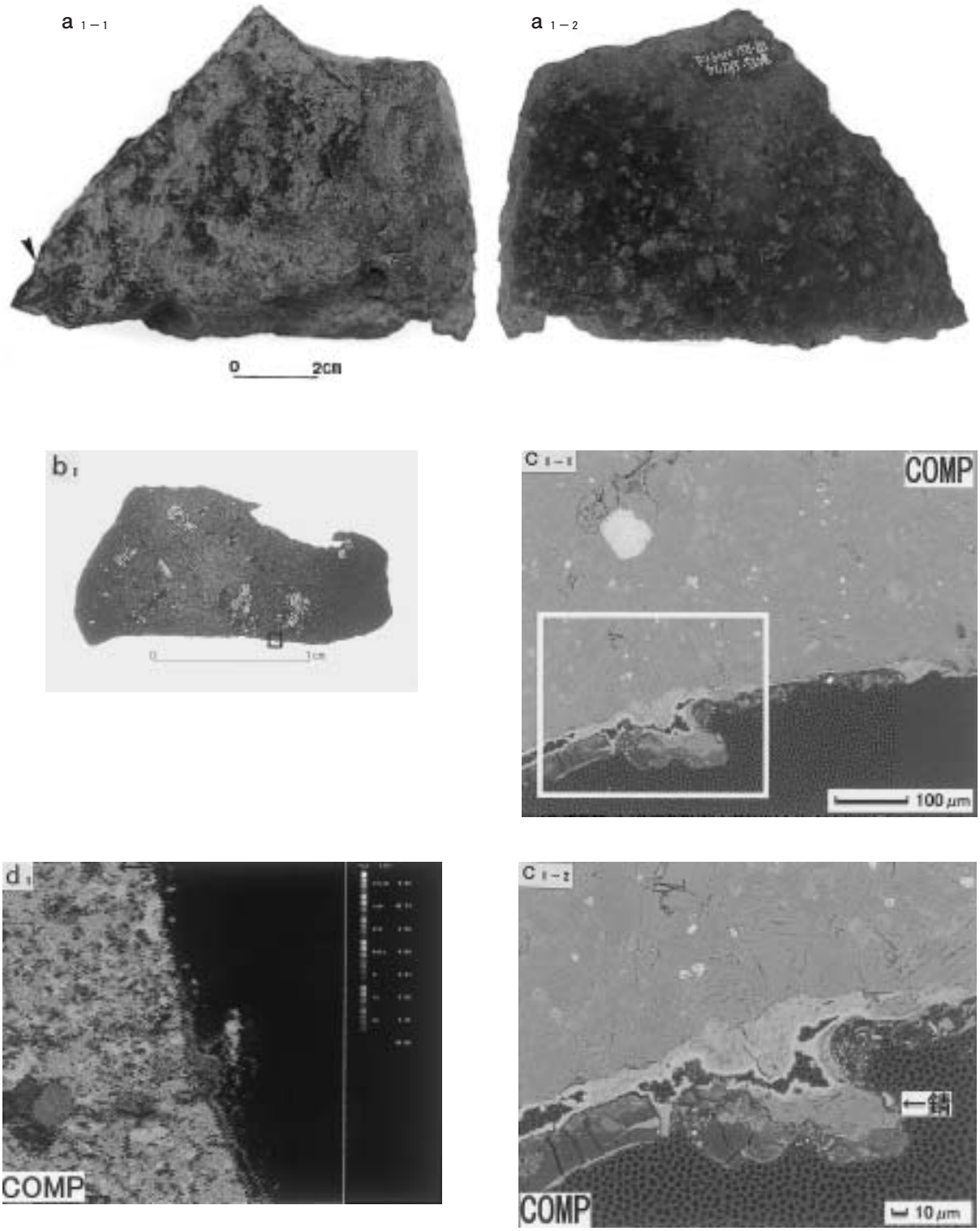


図６　No.10の外観と摘出した試料の組織観察結果
$a_{1\text{-}1}$、$a_{1\text{-}2}$は外観、矢印は試料摘出位置。b_1はマクロ組織。$c_{1\text{-}1}$はb_1領域R_1内部のEPMAによる組成像（COMP）。$c_{1\text{-}2}$、は$c_{1\text{-}1}$枠内部を拡大観察したもの。d_1は$c_{1\text{-}2}$枠に含有される元素濃度のカラーマッピング。

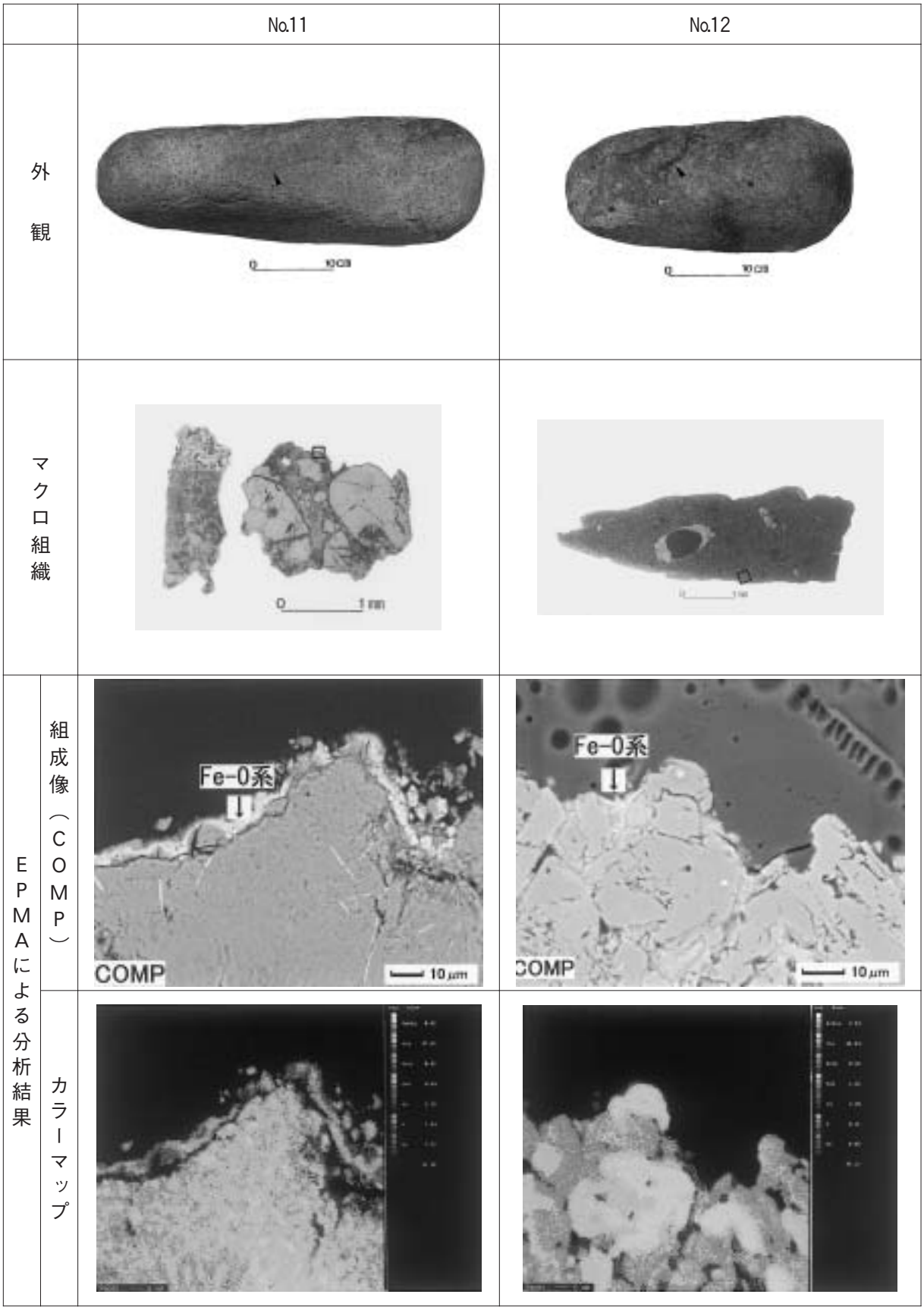


図７　No.11・No.12の外観と摘出した試料の組織観察結果
外観の矢印は試料摘出位置。マクロ組織枠内部をEPMAにより分析。カラーマッピングは組成像内部。

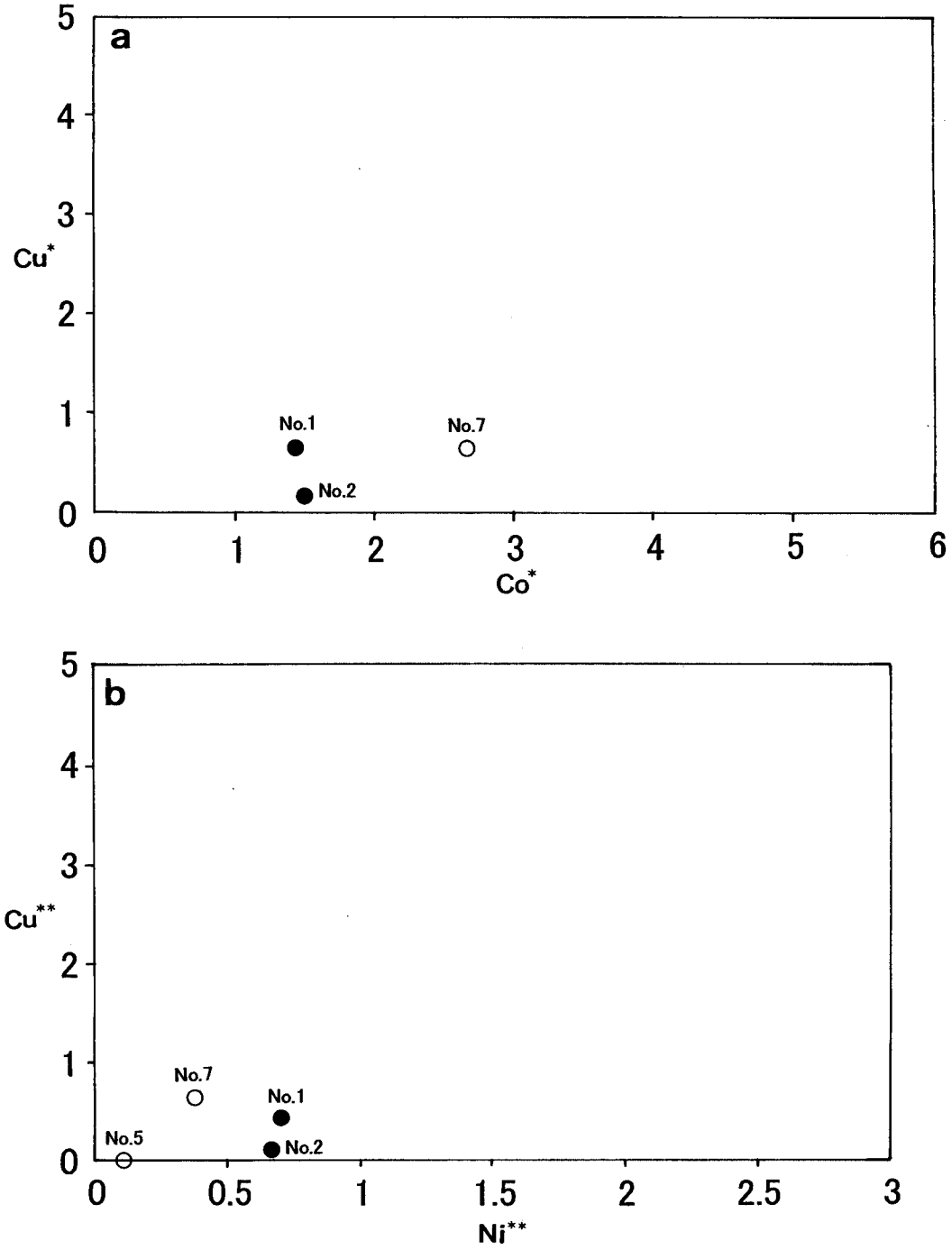


図８　No.1・No.2・No.5・No.7に含有されるCu・Ni・Co三成分比
Co*：(mass％Co) / (mass％Ni)、Cu*：(mass％Cu) / (mass％Ni)。
Ni**：(mass％Ni) / (mass％Co)、Cu**：(mass％Cu) / (mass％Co)。
黒丸(●)は鋼製鉄器。白丸(○)は剥片状資料。No.は表1に対応。

第２節　新屋敷遺跡出土炭化材の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１　はじめに

秋田県雄勝郡雄勝町に所在する新屋敷遺跡は、鎌倉時代における本地域の有力者の一人が構えた居館跡と想定されている。今回の発掘調査により掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡等の遺構が検出され、陶磁器等の遺物が出土している。

今回の分析調査では、出土した炭化材の放射性炭素年代測定（AMS法）と樹種同定を実施し、年代や用材選択に関する情報を得る。

２　試料

試料は、８基の遺構（SKI10・SKI38・SKI74・SKI75・SN79・SK39・LP49 SKP８・LS48 SKP６）から出土した炭化材である。SK39を除く各遺構では、３－16点の試料があった。この中から、各遺構につき１点合計８点を選択した（試料番号１～８）。これら８点を分割して、加速器による放射性炭素年代測定（AMS法）と樹種同定を実施する。ただし、SKI75出土炭化材（試料番号４）については年代測定で試料を全て使用したため、同名の別試料を使用した。試料の詳細は結果と共に表１～３に示す。

３　分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4（Copyright 1986－2002 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。

（２）樹種同定

試料を自然乾燥させ、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

４　結果

（１）放射性炭素年代測定

結果を表１・２に示す。試料の測定年代（補正年代）は、SKI10・SKI38・SKI74・SKI75出土炭化材（試料番号１～４）が約490年前～650年前の14世紀～15世紀頃、SN79出土炭化材（試料番号５）が約760年前の12世紀末頃、SK39が約680年前の13世紀頃、LP49 SKP８（SB63）・LS48 SKP６（SB62）出土炭化材が約680～860年前の11～13世紀頃の値を示す。これらの年代値は、居館が存在したと想定される鎌倉時代に相当する年代が含まれており、概ね発掘調査所見と調和的である。

今後は、同一遺構・同一層準から出土した炭化材・炭化物等の測定点数を増やすことにより、更に詳細な年代資料が得られると思われる。

表１　放射性炭素年代測定結果

試料番号	試料の質	遺構	採取位置	試料名	補正年代 ＢＰ	δ13C (‰)	測定年代 ＢＰ	Code. No.
1	炭化材	SKI10	床面	炭化物サンプル３	530±40	−24.94±0.68	520±30	IAAA−31825
2	炭化材	SKI38	床面	南東１層上	570±40	−28.19±0.73	620±30	IAAA−31826
3	炭化材	SKI74	床面	炭化物	490±40	−24.79±0.68	490±30	IAAA−31827
4	炭化材	SKI75	床面	炭化物	650±30	−30.42±0.80	740±30	IAAA−31828
5	炭化材	SN79	焼土内	焼土	760±40	−28.90±0.68	820±40	IAAA−31829
6	炭化材	SK39	土坑内	３層	680±40	−30.13±0.79	770±30	IAAA−31830
7	炭化材	LP49 SKP８(SB63)	柱穴内	ＲＣ１	860±40	−27.82±0.80	910±30	IAAA−31831
8	炭化材	LS48 SKP６(SB62)	柱穴内	ＲＣ１	680±40	−27.30±0.67	710±30	IAAA−31832

１）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
２）ＢＰ年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
３）付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68％が入る範囲)を年代値に換算した値。

表２　暦年較正結果

試料番号	補正年代 (ＢＰ)	暦年較正年代 (cal)		相対比	Code No.
1	525±35	cal AD 1,334 − cal AD 1,336	cal BP 616 − 614	0.037	IAAA−31825
		cal AD 1,401 − cal AD 1,434	cal BP 549 − 516	0.963	
2	565±35	cal AD 1,322 − cal AD 1,350	cal BP 628 − 600	0.509	IAAA−31826
		cal AD 1,390 − cal AD 1,417	cal BP 560 − 533	0.491	
3	489±35	cal AD 1,414 − cal AD 1,440	cal BP 536 − 510	1.000	IAAA−31827
4	653±33	cal AD 1,295 − cal AD 1,315	cal BP 655 − 635	0.364	IAAA−31828
		cal AD 1,353 − cal AD 1,387	cal BP 597 − 563	0.636	
5	760±36	cal AD 1,243 − cal AD 1,285	cal BP 707 − 665	1.000	IAAA−31829
6	683±34	cal AD 1,281 − cal AD 1,304	cal BP 669 − 646	0.619	IAAA−31830
		cal AD 1,366 − cal AD 1,385	cal BP 584 − 565	0.381	
7	860±36	cal AD 1,071 − cal AD 1,079	cal BP 879 − 871	0.054	IAAA−31831
		cal AD 1,127 − cal AD 1,136	cal BP 823 − 814	0.052	
		cal AD 1,158 − cal AD 1,224	cal BP 792 − 726	0.829	
		cal AD 1,230 − cal AD 1,240	cal BP 720 − 710	0.065	
8	676±35	cal AD 1,282 − cal AD 1,305	cal BP 668 − 645	0.510	IAAA−31832
		cal AD 1,355 − cal AD 1,360	cal BP 595 − 590	0.057	
		cal AD 1,365 − cal AD 1,386	cal BP 585 − 564	0.432	

１）計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を使用
２）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
３）付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68％が入る範囲)を年代値に換算した値。

(２)樹種同定

樹種同定結果を表３に示す。SKI10の炭化材は、散孔材の道管配列を有する広葉樹材であるが、保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。一方、SKI38とSKI74の試料には２種類、SN79の試料には４種類が認められた。これらの炭化材は、全て広葉樹材で、７種類(ヤナギ属・ハンノキ属ハンノキ亜属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・カエデ属・トネリコ属)に同定された。

各種類の解剖学的特徴等を記す。

・ヤナギ属(*Salix*)　　ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または２-３個が複合して年輪全体にほぼ一様に分布し、年輪界に向かって形を漸減させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、１-15細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属（*Alnus subgen. Alnus*）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または２-４個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、１-30細胞高のものと集合放射組織とがある。

・ブナ属（*Fagus*）　　ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に２－３個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*）　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１-２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は２-４列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１-15細胞高。

・カエデ属（*Acer*）　　カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および２-３個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１-５細胞幅、１-30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

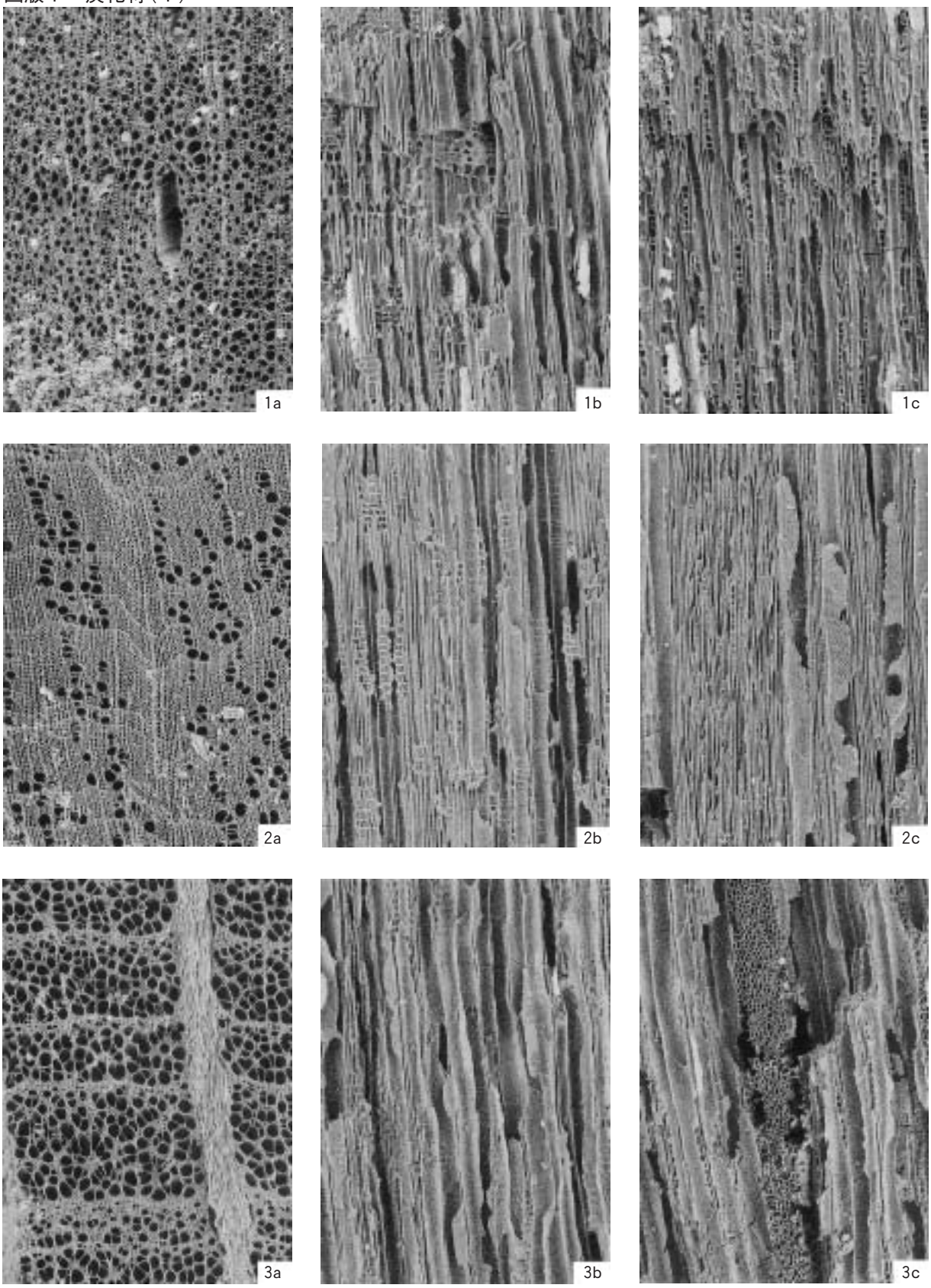
・トネリコ属（*Fraxinus*）　　モクセイ科

環孔材で、孔圏部はやや疎な１列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または２個が放射方向に複合し、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、１-３細胞幅、１-20細胞高。

表３　樹種同定結果

試料番号	遺構	試料名	採取位置等	樹種
1	SKI10	炭化物サンプル３	床面	広葉樹（散孔材）
2	SKI38	南東１層上	床面	クリ
				カエデ属
3	SKI74	炭化物	床面	ハンノキ属ハンノキ亜属
				クリ
4	SKI75	炭化物	床面	クリ
5	SN79	焼土	焼土内	ヤナギ属
				コナラ属コナラ亜属コナラ節
				クリ
				トネリコ属
6	SK39	３層	土坑内	カエデ属
7	LP49 SKP８(SB63)	RC１	柱穴内	ハンノキ属ハンノキ亜属
8	LS48 SKP６(SB62)	RC１	柱穴内	ブナ属

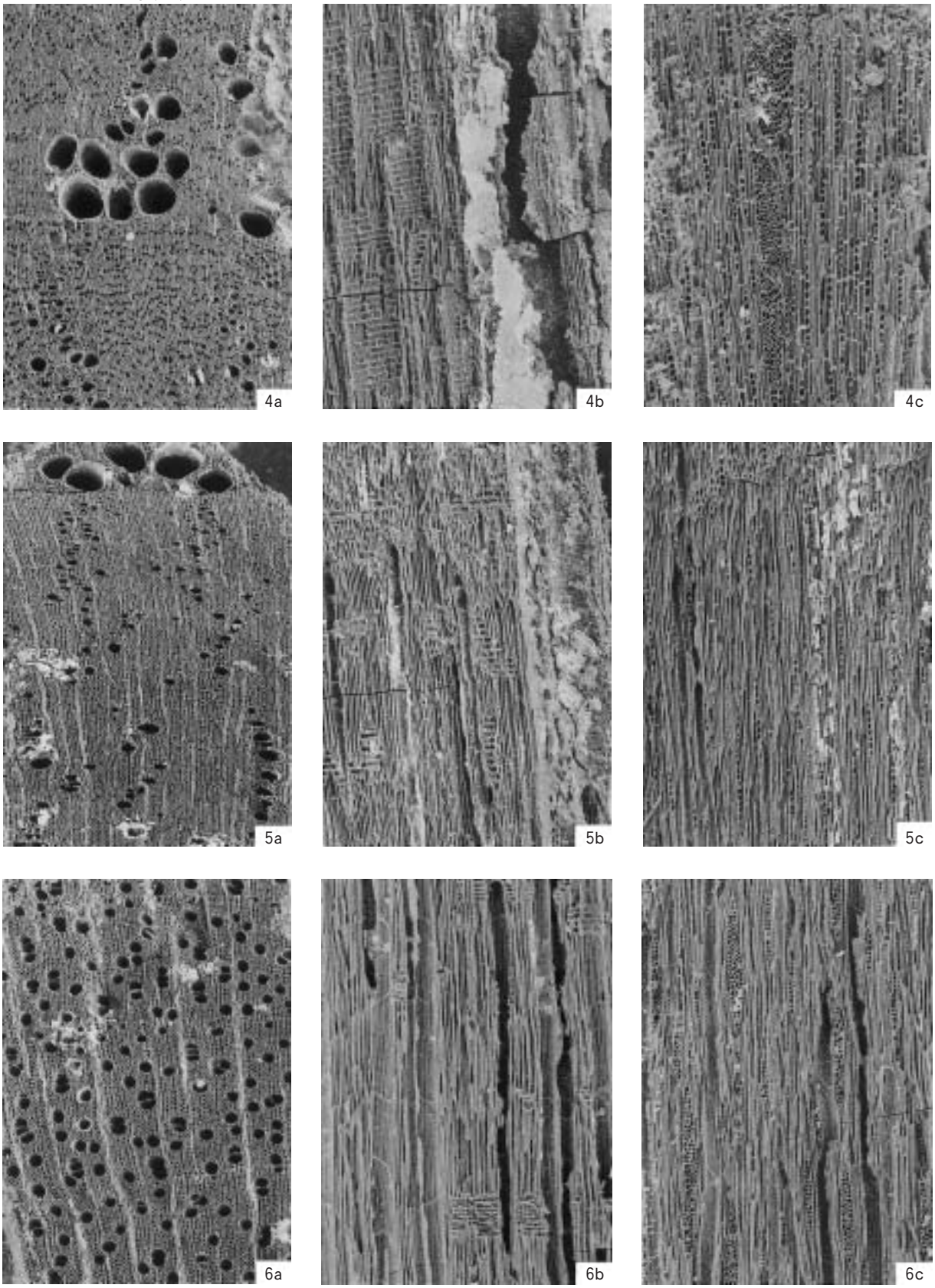
図版１　炭化材（１）



1. ヤナギ属（SN79 焼土）
2. ハンノキ属ハンノキ亜属（LP49SKP8 RC1）
3. ブナ属（SB62 LS48SKP6 RC1）
　a:木口, b:柾目, c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

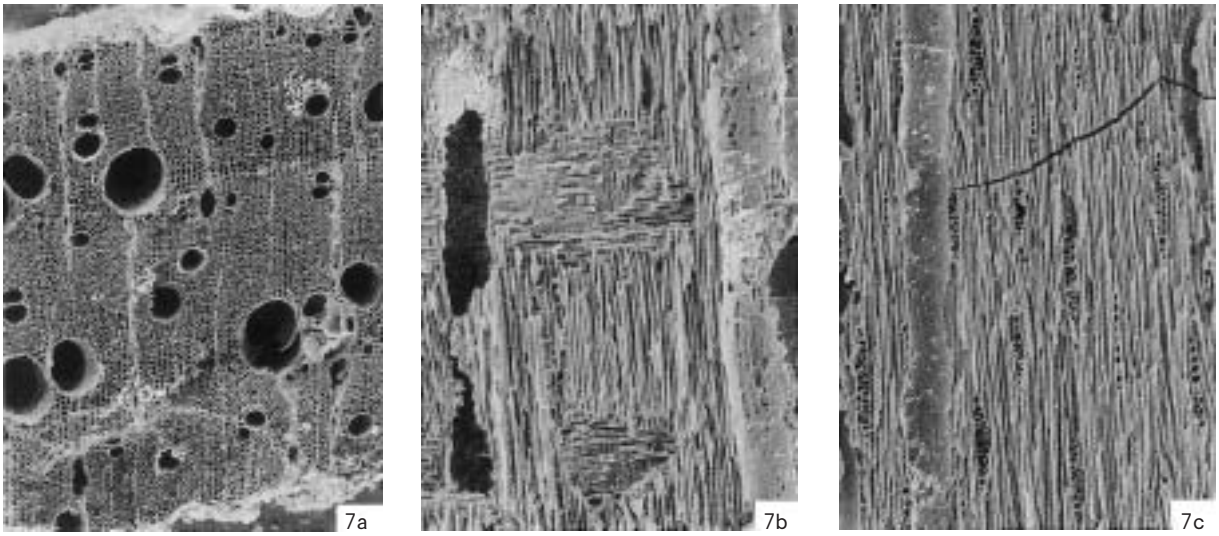
図版２　炭化材（２）



4. コナラ属コナラ亜属コナラ節（SN79 焼土）
5. クリ（SKI38 南東1層）
6. カエデ属（SKI38 南東1層）
　a:木口, b:柾目, c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

図版３　炭化材（３）



7. トリネコ属（SN79 焼土）
a:木口, b:柾目, c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

５　考察

SKI10,38,74,75の炭化材は、構築材の一部、SB62,63の炭化材は柱材がそれぞれ炭化・残存した可能性がある。一方、SN79とSK39の炭化材は、燃料材の可能性がある。

SKI10,38,74,75の炭化材は、SKI10を除く各遺構からクリが確認され、SKI38ではカエデ属、SKI74ではハンノキ亜属も同時に認められた。クリは、強度や耐朽性に優れた材質を有することから、構築材としても有用であり、利用されていたことが推定される。また、ハンノキ亜属やカエデ属も比較的強度が高い材質を有することから、共に利用されていた可能性がある。なお、SKI10の炭化材は、種類不明であるが、散孔材であることから少なくともクリではない。しかし、これが遺構による木材利用の違いを示すものかは、試料数が少ないため判断できない。

SB62の炭化材はブナ属、SB63の炭化材はハンノキ亜属であった。SB63におけるハンノキ亜属の利用は、SKI74にハンノキ亜属が利用されている結果と調和的であり、同様に強度の高い材質を利用したことが推定される。しかし、年代測定結果では、SB63とSKI74では時期が異なる可能性もある。SB63に認められたブナ属は、強度や保存性はやや劣るが、秋田県内の山林に普通に見られる種類であり、大径木にもなる。入手が容易であることや大径木が得られること等が利用された背景に考えられるが、柱材にブナ属が認められた例が少ないため、柱材以外の部材が混入した可能性も残る。

燃料材と考えられる炭化材は、SN79では４種類（ヤナギ属・コナラ節・クリ・トネリコ属）、SK39では１種類（カエデ属）が認められ、合計５種類が少なくとも利用されていたことが推定される。これらの種類は、本地域の落葉広葉樹林に普通に見られる種類であり、周囲に生育している樹木を燃料材として利用したことが推定される。

各遺構では、今回分析対象とした以外にも炭化材が出土している。今後これらの炭化材についても樹種同定を行うことで、各遺構の種類構成を把握し、遺構間の比較なども行うことがのぞまれる。

第６章　新屋敷遺跡の掘立柱建物跡

八戸工業大学　髙島成侑

はじめに

2003年秋に秋田県内の中世遺跡を巡る機会があった。その時に見せていただいた多くの遺跡のなかで、興味を引かれたものの一つに、この新屋敷遺跡が挙げられた。

現在、秋田県内では中世遺跡の発掘調査が目白押しであり、毎年次々と調査が行われており、秋田県埋蔵文化財センターの諸君が活気を呈している様子が、2003年の巡回やその後の打合せでも強く感じられて感銘していたところであり、今回この小稿を求められて喜んでお引き受けした次第である。

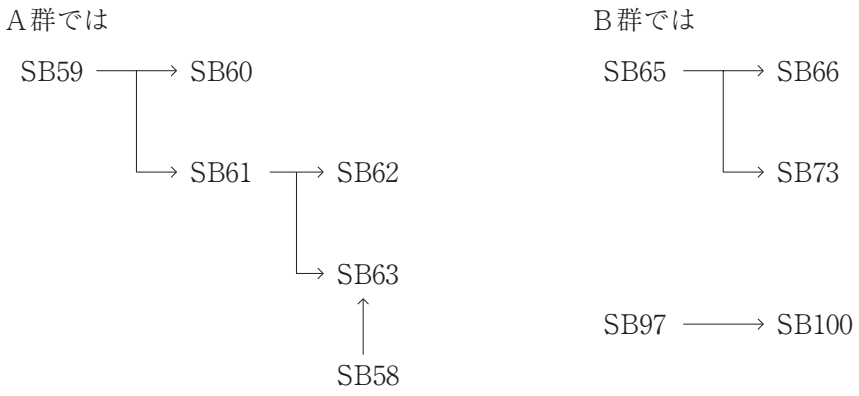
この小稿では、検出された掘立柱建物跡の個々について述べることだけではなく、それらの造られた年代や配置に関わることにも論及して、この遺跡の性格のようなものを、建築史学的に捉えたいと考えて試みたのであるが、よく纏めえたかどうかは、不明である。

秋田県埋蔵文化財センター南調査課の担当者の方々には、多くの資料を提供していただき、また、大部分の掘立柱建物跡の検出、柱穴の切合い関係から見た掘立柱建物跡の新旧問題まで、お送り下された。また、八戸市教育委員会の佐々木浩一氏からは、掘立柱建物跡の線引きについて貴重なご指示をいただいた。ここに記して深い謝意を表したい。

１．掘立柱建物跡の配置と年代

新屋敷遺跡における掘立柱建物跡の配置は、大きくみると、ほぼ二つの群れによって構成されている。一つはSB58、SB59、SB60、SB61、SB62、SB63などという５～６棟の掘立柱建物跡が重複するところであり（A群）、いま一つはSB65、SB66、SB72、SB73という群れ（B群）である。その他の掘立柱建物跡はこれらの群れの間にあって、それぞれが北東あるいは南東の棟を示しながら造られているのである。

それぞれの群れのなかでの柱穴の切合いによる新旧関係は、



のようになる。すなわち、

A群ではSB59がもっとも古くて、ついでSB60およびSB61がきて、SB62およびSB63はSB61よりは新しいものとなり、さらにSB63はSB58よりは新しい、ということである。

B群では、SB65が古く、これよりSB66およびSB73が新しくなる。さらにSB97はSB100よりは古いもの、ということである。

また、この遺跡での井戸跡は、北側のSB88の南東にあるSE71だけであり、焼土跡もSB97の北側に２ヵ所あるだけで、建物跡には関連がないようである。

この遺跡の時期としては、その出土遺物の調査から、12世紀末から14世紀初頭のものとされている。柱間寸法に8.0尺あるいは8.5尺が使われている建物跡が若干あり、これらを13世紀前半ころにしてもよいであろう。すなわちSB65がそうであり、SB55もそうであろう。逆に6.5尺あるいは6.0尺という短い寸法を使っているものは14世紀初頭まで下りてきてもいいだろう。それらはSB72、SB88、SB66などである。

こうしたことを考えながら、その配置計画と時期とを示すと、５期に分けて考えることができる。（第49～51図）

１期とされるのは、SB55、SB59、SB65の３棟である。これらは、それぞれの重複群のなかで最古のものであり、柱間寸法に8.0尺が使われていることに注目した。13世紀前半のものとして考えている。

２期目にくるのは、SB61、SB66の２棟である。これは二番手に来るものたちであり、その柱間寸法には8.0尺もあり、6.5尺も入ってはいるが、7.0尺という寸法が多用されており、ここに置くことにした。13世紀半ばころのもと考える。

３期のものとしては、SB52、SB54、SB60、SB62、SB97の５棟である。それぞれ３番手と見られ、柱間寸法は桁行も梁間もすべて7.0尺と揃っていることが挙げられる。これらは、13世紀末から14世紀始めころと考えている。

４期目は、SB58、SB72、SB100が来るのではないかと見る。一つだけ桁行４間に梁間３間というのがあるが、他は桁行３間に梁間２間という小規模なものである。柱間寸法には6.5尺や5.0尺があるが、多くは7.0尺が用いられており、５期としたものよりは古いものであろう。14世紀初頭を過ぎたころの時期が考えられる。

５期目としたものは、SB63、SB73の２棟である。小さなものが並ぶなかでSB63が大型のものであるが、ここには柱穴の切合い関係で、SB58よりは新しいものという根拠があった。柱間寸法は7.0尺を基準としながらも3.0尺や4.0尺などが混じりこみ、また、7.5尺というのも使われている。14世紀前半ころのものと考えられる。

この配置を考えていて感じることは、13世紀前半から14世紀まで、纏綿として続いていた遺跡であり、この辺りで大きな権力を持っていた者の居館跡ではないか、ということである。１時期に２棟というときもあるが、多いときでは３期目で４棟を数え、この有力者の周辺に居た人の数の多さを示している。あるいは１期、２期のように３棟のときもあり、４期から５期には最低の２棟になる。そしてこれらは固まっていて、同じようなところに何回もの建替えがなされている。すべて北西棟か北東棟である。

この遺跡から、溝跡が２条検出されている。うち北東隅で検出されたもの（SD45）は、別の区画を仕切る溝跡のようであり、もう１条（SD64）は遠く離れた南西側で検出され、これからさらに南東方向に

伸びるものであることが確認された。これらの掘立柱建物跡群を仕切る溝跡かもしれないが、四角に囲むという痕跡は見付かっていない。

広大で掘立柱建物跡も多いこの居館跡のなかで、先にも述べたように井戸跡(SE71)が１ヵ所しかなかった。それも北側のSB97よりは20.0mも離れたところであり、どのような使われ方をしたのかは不明である。井戸跡の周囲には、その覆屋となるような掘立柱建物跡は検出されなかった。また、SB97の南東隅の辺りで、焼土跡(SN79、SN81)が検出されている。ここで煮炊きをしたものか、あるいは野鍛冶場跡とでも考えられるのかは不明である。

２．掘立柱建物跡の各説（第52・53図）

SB52掘立柱建物跡：一番南西隅から検出されたもので、桁行３間に梁間２間の総柱建築で、北東棟を示している。柱間寸法は桁行では北東側から7.0尺＋7.0尺＋7.0尺となり、梁間では２間ともに7.0尺である。総柱の掘立柱建物跡であり、倉庫跡などが考えられる。

SB54掘立柱建物跡：先のSB52と続いて検出されており、その間隔はわずか8.0尺離れているに過ぎない。桁行３間に梁間２間で北東棟である。柱間寸法は桁行で北東側から7.0尺＋7.0尺＋7.0尺となり、梁間は7.0尺＋7.0尺となって、先のものとまったく同じ寸法を示している。同様に総柱の掘立柱建物跡であり、倉庫跡などであろう。

SB55掘立柱建物跡：SB54に続いてその北東側で検出されたもので、規模は桁行３間に梁間３間のものとしておく。北東棟である。身舎の梁間がはっきりとせずに、その柱間寸法が8.0尺＋3.0尺となるか、南側では柱穴が見当たらずに11.0尺の梁間となるかは不明である。それの東側に出が3.5尺の庇が付いている。柱間寸法は、桁行では北西側から7.5尺＋8.5尺＋8.0尺と大き目の寸法がみられる。

SB57掘立柱建物跡：先のSB55の南東側で検出されたもので、桁行３間に梁間２間の規模で、北東棟である。柱間寸法は桁行では北東側から7.0尺＋8.0尺＋7.0尺となり、梁間では２間ともに7.0尺である。

SB58掘立柱建物跡：SB57の北東側で、以下に述べるSB59、SB61、SB62、SB63などと重複する形で検出された。桁行３間に梁間２間の規模で、北東棟である。柱間寸法は桁行では３間ともに7.0尺で、梁間も２間とも7.0尺である。

SB59掘立柱建物跡：先の５棟ほどが重複しているところで検出された１棟である。桁行７間に梁間３間の規模で、北西棟を示している。柱間寸法は桁行では北西側から4.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋4.0尺ときれいに並び、梁間では7.0尺＋7.0尺＋7.0尺となる。

この建築は、梁間２間で桁行３間の室を中央に取り、その両端に１間に２間の小室を持ち、その南西側に１面の庇が付き、さらにそれらの両妻側に、出が4.0尺の下屋が付いたものとみることができる。

SB60掘立柱建物跡：さきのSB59と重複する形で検出された。桁行５間に梁間２間という規模で、北西棟を示している。柱間寸法は桁行も梁間も、すべて7.0尺にしており、きちんと揃っている。身舎梁間を２間として、西側に長大な部屋を取り、東側に１間に２間の小部屋を取っている。

SB61掘立柱建物跡：先の５棟ほど重複するなかで検出されたもので、桁行６間に梁間４間の規模で、北東棟を示す。その柱間寸法は北東側から7.0尺＋8.0尺＋8.0尺＋7.5尺＋7.5尺＋5.0尺となり、梁間では北西側から5.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋5.0尺となる。

身舎部分では桁行５間に梁間２間の長大な部屋を取り、それに出が5.0尺の２面庇を付けて、さらにその南西側に出が5.0尺の庇が付いている。古代寝殿造の対屋を想わせる形式であり、この遺跡の古さを実感させられる。

SB62掘立柱建物跡：先と同様の場所から検出された。桁行７間に梁間４間の規模で、北東棟である。柱間寸法は、桁行では北東側から7.5尺＋8.0尺＋8.0尺＋7.5尺＋8.0尺＋8.0尺＋7.5尺であり、梁間では北西側から5.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋5.0尺となっている。桁行の寸法が梁間よりは伸びており、ばらつきもみえている。

身舎部分を桁行３間に梁間２間の部屋と桁行４間に梁間２間の部屋とに分けて取り、その両側に出が5.0尺の庇を付けて、典型的な２面庇の建築としたものとみられる。

SB63掘立柱建物跡：先と同じところからの検出である。桁行５間に梁間４間という規模で、北東棟である。その柱間寸法は桁行では北東側から7.0尺＋7.0尺＋7.5尺＋7.0尺＋7.0尺であり、梁間では北西側から5.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋4.5尺となる。

桁行で中央部分が7.5尺に取られ、また梁間では東側が4.5尺となるが、他は5.0尺と7.0尺だけである。身舎梁間は２間をとり、北東側から２間に２間の部屋を連続する続き間にしているが、北東側の部屋は総柱となっている。また、南西側には２間に１間の部屋が取られている。そしてこれらの両側に出が5.0尺と4.5尺の２面庇が取り付く、という形である。

SB65掘立柱建物跡：この遺跡でもっとも大規模な掘立柱建物跡である。先の５棟ほどが重複していたところから４間ほど北東側で、その北西側で検出された。桁行９間に梁間４間を数える規模をもち、北西棟を示している。柱間寸法は桁行で北西側から5.0尺＋8.0尺＋8.0尺＋8.0尺＋8.0尺＋8.0尺＋8.0尺＋8.0尺＋8.0尺＋4.0尺となり、梁間では北東側から5.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋5.0尺となっている。梁間では7.0尺であるが桁行では8.0尺を用いて、より桁行の長さを強調しているようにもみられる。

身舎の梁間を２間に取り、なかで５間に２間の長大な部屋と１間に２間の小さな部屋とに区分けしており、この小規模な部屋が長大な部屋の両端にくる。そしてこれらの部屋の南北に出を5.0尺とする２面の庇が付き、さらにその両端に下屋が下りる形である。下屋の出は5.0尺および4.0尺となっている。先のSB59やSB62のような小部屋を取ることと関連があるかもしれない。また、なかの５間に２間の長大な部屋は、先に見たSB62の３間に２間および４間に２間の部屋やSB61の５間に２間の部屋に相当する。このような大きくて長大な部屋が取られることは、この遺跡の特徴の一つであるが、それにしても、どんな使われ方をしたのであろうか。

SB66掘立柱建物跡：先のSB65と重複するところで検出された。桁行４間に梁間４間で、北西棟である。柱間寸法は桁行で北西側から4.0尺＋6.5尺＋7.0尺＋7.5尺となり、梁間では北東側から4.0尺＋7.0尺＋7.0尺＋4.0尺となっている。

身舎は桁行３間に梁間２間であり、その南北両側に出が4.0尺の２面の庇が付き、さらに北西側に出を4.0尺とする下屋が下りている。

SB72掘立柱建物跡：これもSB65と重複する形で検出された。桁行３間に梁間２間で北西棟を示している。柱間寸法は桁行では北西側から7.0尺＋6.5尺＋7.0尺となり、梁間では北東側から5.0尺＋7.0尺となる。

SB73掘立柱建物跡：やはりSB65と重複する場所で検出された。桁行３間に梁間３間で、同様に北

西棟を示している。柱間寸法は桁行では３間ともに7.0尺を取り、梁間では北東側から3.0尺＋4.0尺＋8.0尺となる。この身舎の梁間では柱穴が欠如していて、明確には決めかねたのであるが、梁間12.0尺という大きな寸法も取れずに、上のようにしたまでである。

SB88掘立柱建物跡：以上に述べたところから北東方向に飛んだところで検出された。桁行３間に梁間２間であり、総柱の掘立柱建物跡で北西棟を示す。この掘立柱建物跡は一見すると歪な形をしているが、無理をして線を引くこともできた。当時の建築施工精度による誤差と見たい。柱間寸法を当たると、桁行では北西側から7.0尺＋7.0尺＋6.0尺となり、梁間では北東側から4.0尺＋6.0尺と当たることができる。

SB95掘立柱建物跡：もっとも北側で検出された掘立柱建物跡である。桁行３間に梁間３間で、縦型の北東棟である。構成される柱穴が小さくて、中世のものかとの疑問もあるが、一応ここに上げた。柱間寸法は桁行では北東側から4.0尺＋6.0尺＋4.0尺となり、梁間では北西側から3.0尺＋5.0尺＋4.0尺となっている。

SB97掘立柱建物跡：さきのSB65の南東側に接するようにして検出された。桁行７間に梁間４間で北西棟である。柱間寸法は桁行では７間すべてが7.0尺と揃えており、梁間では北東側から5.5尺＋7.0尺＋7.0尺＋5.5尺と身舎梁間２間を7.0尺にして、5.5尺を２面庇の出としている。桁行７間を４間と３間とに分けて間仕切りをしており、SB61あるいはSB62のような長大な部屋とはしていない。

SB100掘立柱建物跡：さきのSB59、SB61とSB97とに挟まれた形で検出された。桁行４間に梁間３間で北西棟をもつ。柱間寸法はすべてが7.0尺と揃っている。この掘立柱建物跡は、柱穴の欠如や大小の柱穴が入り混じっていることなどで、明確には線を引けないものの、身舎の梁間を北東側の２間として捉え、南西側を１間の庇とした。身舎内部に柱穴が一つある。ここに２間に１間の小部屋が取られたものと考えることとする。

SB104掘立柱建物跡：SB55に接して北西側で検出された。桁行２間に梁間１間という小さなものであり、北西棟をもっている。柱間寸法は桁行では北西から7.0尺＋8.5尺となり、梁間は7.0尺である。

３．間取りの特徴

この遺跡における掘立柱建物跡の間取りを見ると、先にも述べたように、建物のなかに長大な部屋をもつものが多いことであろう。桁行５間を数えるこれらの部屋は、SB61、SB65の２棟を数えるが、そのほかにSB62も内部の間仕切りがあるけれど、４間に２間という部屋を持っている。

これらの掘立柱建物跡はそれぞれの時期において主殿のような使われ方をしたのだろうが、その使われ方は、古代における寝殿造邸宅にも似ていたようなものかもしれない。

SB65においては、あたかも寝殿そのものを想わせる。この長大な部屋においては、当時の公家のように召使いを使いながら、人が来るたびに室礼を整え換えていたのであろうか。

SB61では、寝殿造の対屋を想わせる平面である。ここでも、障壁具を整えて、何かあるたびに室礼を変えていたのであろう。寝殿造とは、一つの建築のなかでなんでもできるように、何も造っていない建築であった。その都度、この室礼をし直すのである。

朝に起床すると洗面器が持ち込まれ、朝食が持ち込まれ、自分が誰かに手紙を書こうとするときには、二階棚や文机が持ち込まれて、几帳や屏風などで一人分の大きさの部屋になり、午後に和歌の友

人が２～３人来るというと、それなりの大きさの部屋になるのである。夜には宴会だというと、庇まで開け放った広々とした空間で、それなりの室礼をもって、昔ながらの仕来たりどおりにできるのである。

13世紀の中頃から末期に、そのような公家的な生活がなされていたとすれば、どういうことが考えられるであろうか。ここには京都からでも流れてきた公家階級の人が居たとでもいうのであろうか。

すでにこの時期になると、武家方であれば、鎌倉では、寝殿造を基調としながらも、このような長大な大部屋を取るのではなく、もっと小さな部屋に間仕切りがなされた、武士らしい住宅系の建築が造られはじめている。

むすび

間取りのところで述べたように、大きな掘立柱建物跡のほとんどが桁行５間に梁間２間という長大な部屋をもつものであった。これについては、今後とも考慮して行かなければならない。

SB95のように、柱穴の大きさや柱間寸法からは、どうしても中世のものとは言えないような建物跡が検出されているが、これについては、時期なども不明であり、今回は一応拾ったものとして取り上げている。またSB88のように、柱穴は小さいけれどもしっかりとした寸法を示しているが、柱穴の並びは歪なものになっている。当時の施工精度の問題とも絡めて考えなければならないことであろう。

各掘立柱建物跡の造られた時期をもう一度纏めると、

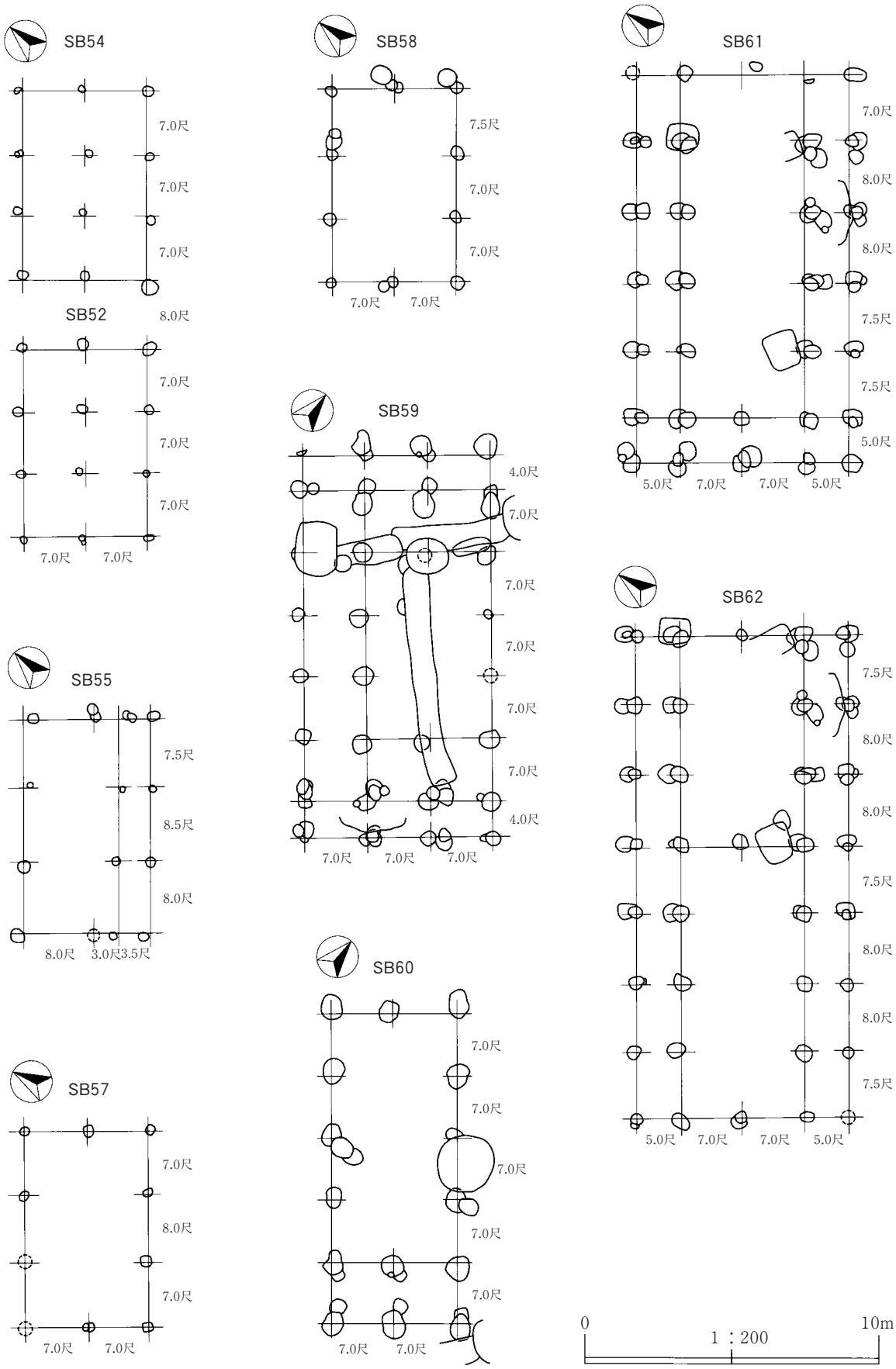
13世紀前半ころ	―― SB65、SB59、SB55、 柱間寸法に8.0尺が多く用いられている。
13世紀半ばころ	―― SB66、SB61、 柱間寸法には6.5尺もあり7.0尺も、8.0尺もある。
13世紀末～14世紀初頭ころ	―― SB97、SB62、SB60、SB52、SB54、 柱間寸法はすべて7.0尺と揃っている。
14世紀初頭を過ぎたころ	―― SB72、SB58、SB100、 柱間寸法には7.0尺のほかに、6.5尺や5.0尺も入っている。
14世紀前半ころ	―― SB73、SB63、 柱間寸法はやはり7.0尺を基調としながらも、3.0尺や4.0尺が入り、また、7.5尺という寸法も見えている。

となるようだ。やはり柱間寸法が7.0尺と揃ってくるころが、この遺跡がもっとも活動的な時期を迎えていたと見ることができそうである。

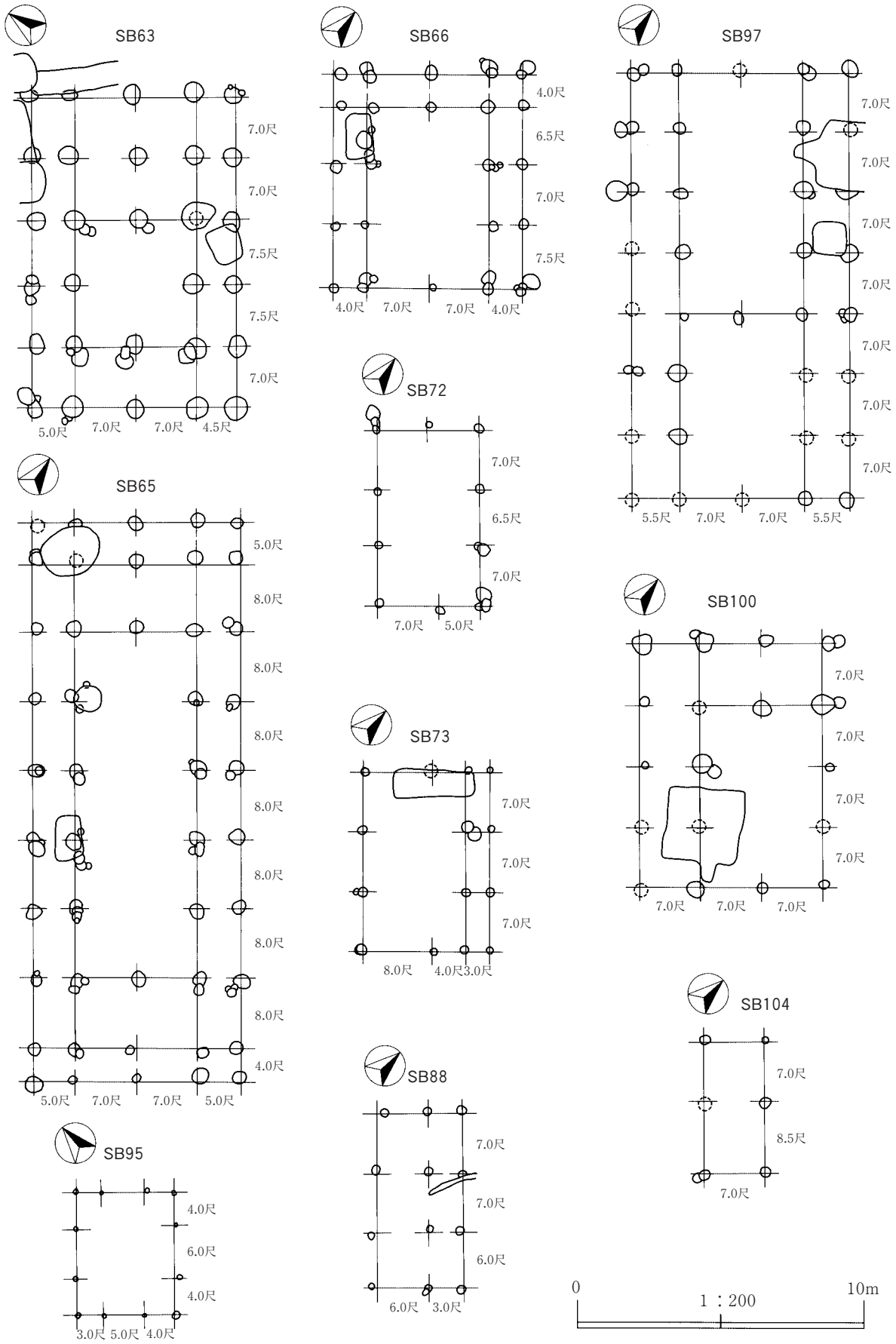
第49図　掘立柱建物跡の配置と年代（１）

第50図　掘立柱建物跡の配置と年代（２）

第51図　掘立柱建物跡の配置と年代（３）



第52図　掘立柱建物跡の柱間寸法（1）



第53図　掘立柱建物跡の柱間寸法（２）

第７章　まとめ

雄物川右岸の扇状地上に立地する新屋敷遺跡は、今回の調査により中世の居館跡、縄文時代・近世の遺物散布地であることが判明した。縄文時代・近世に関しては明確な遺構が検出されなかったことからここでは省略し、中世の主要な遺構と遺物の特徴をまとめ、遺構の切り合いと分布状況から同時期と考えられる遺構群を抽出してその変遷観を提示し、遺跡の性格について若干の考察を行いたい。

１　検出遺構について

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は全て北側調査区にあり、河川跡を境界として、南側に17棟、北側に２棟が分布する。第４章で述べたとおり、これらは柱の配置状況により総柱・梁行１間・梁行２間・梁行３間の建物に大きく分類することができ、さらに梁行２間の建物は下屋の有無により細分が可能である。建物個々の性格を直接判断するのは困難であるが、身舎規模が梁行２間・桁行５間以上のものや二面以上の下屋を伴うものは主屋的な建物、身舎規模が桁行３間・梁行２間ほどのものは付属屋的な建物と考えられる。建物の桁行方位は北東・北西方向を主軸とし、北東方向では北から東へ44～61°の範囲に、北西方向では北から西へ37～47°の範囲にまとまり、全体的に軸線方向の振れは少ない。掘立柱建物跡の変遷についてはすでに第６章で詳述されている。ここでは提示された変遷観に従い、建物の構造的な部分の変化を整理しておく。

河川跡南側では、比較的大形の掘立柱建物跡が著しく重複し、竪穴状遺構や土坑とともに遺構集中区域を形成している。一方この遺構集中区域の南西側には比較的小形の掘立柱建物跡が散漫に分布する。一定の場所に継続して占地する前者の建物群については主屋的な性格が、散発的なあり方を示す後者の建物群については付属屋的な性格が想定される。遺構集中区域にある掘立柱建物跡群は、柱穴の切り合い関係による結びつきにより、隣接する南北２つのまとまりに分けることができ（ここでは第６章での呼称に倣い南側をＡ群、北側をＢ群とする）、それぞれのまとまりごとに建物の変遷を追うことが可能である。すなわちＡ群ではSB59→61→60→62→58→63と変遷し（ただしSB60と61の先後関係は必ずしも明確ではない）、Ｂ群ではSB65→66→73、SB97→100と変遷する。これら先後関係をもつ掘立柱建物跡を、面積・身舎規模・下屋面数・最大室内空間規模・間仕切り箇所・間仕切り位置・桁行方向の柱間寸法という点で比較すると、下表のようになる。

第23表　遺構集中区域の掘立柱建物跡各属性値

番号	所属	面積（m²）		身舎規模（桁行×梁行）	下屋面数	室内空間規模（桁行×梁行）	間仕切り箇所	間仕切り位置	桁行柱間寸法平均値（尺）
		延面積	床面積						
SB59	Ａ群	83.2	45.6	５×２	三面	３×２	2	両側	７尺
SB61	Ａ群	95.8	49.6	５×２	三面	５×２	なし	なし	7.6尺
SB60	Ａ群	45.6	45.6	５×２	なし	４×２	1	片側	７尺
SB62	Ａ群	118.8	69.3	７×２	両面	４×２	1	中央	7.8尺
SB58	Ａ群	27.7	27.7	３×２	なし	３×２	なし	なし	7.2尺
SB63	Ａ群	56.1	47.3	５×２	両面	２×２	3	両側・中央	7.2尺
SB65	Ｂ群	143.1	73.1	７×２	四面	５×２	2	両側	８尺
SB66	Ｂ群	49.5	27.5	３×２	三面	３×２	なし	なし	７尺
SB73	Ｂ群	27.7	22.7	３×２	片面	３×２	なし	なし	７尺
SB97	Ｂ群	114	64.5	７×２	両面	４×２	1	中央	７尺
SB100	Ｂ群	54.4	36.6	４×２	片面	３×２	1	片側	７尺

第１に、面積および身舎規模を比較すると、大規模化した後縮小化する傾向を指摘できる。Ｂ群では完全に縮小化しているが、Ａ群では４番目の位置付けとなるSB62が最大規模をもつ。第２に、下屋の面数は前出するものに多く、後出するものには少ない。第３に、間仕切りを伴わない室内空間の規模は小さくなる。相対的に古く位置づけられるSB61･65は５間×２間という長大な空間を確保しており、Ａ群で最も新しいSB63は身舎全体の規模に対して間仕切りが多く、室内空間は狭い。第４に、間仕切りの位置に着目すると、各群において最古の位置づけがなされるSB59･65の間仕切りは両端にあり、身舎の中央部に広い空間が確保されるという特徴がある。一方SB62･97の間仕切りは中央部に位置し、身舎を大きく二分している。SB63は最も間仕切りが多い。第５に、柱間寸法は梁行でほぼ７尺に揃うが、桁行で変化が認められる。Ａ群では最古のSB59が整然と７尺に揃い、SB61・62は不揃いで平均すると８尺弱、最も新しいSB63も不揃いで平均すると７尺強となる。以上のような構造的な部分の相違点から、主屋級の掘立柱建物群について新旧２期の小画期を設定しておく。

１期：三面もしくは四面廂の掘立柱建物。間仕切りは伴わない場合と身舎端部に伴う場合があり、中央に広い空間が確保されている。桁行柱間は整然と７尺に揃うか、８尺ほどの寸法を採用している。SB59・61・65・66が該当する。

２期：両面廂の掘立柱建物。間仕切りは中央付近にあり、長大な空間が分割されている。桁行柱間は７尺もしくは８尺弱を採用している。SB62・63・97が該当する。

なお、Ａ群のうちSB60は桁行５間の大形建物でありながら唯一下屋を伴わず、主屋級建物として認定すべきか判断に苦しむが、室内空間が広大な点と桁行柱間が整然と７尺に揃う点から、１期に相当する主屋級建物の可能性を指摘しておく。

今回の調査で検出した主屋級の掘立柱建物は梁間２間を基本としており、いわゆる「律令型」の構造と言えよう。また１期掘立柱建物の室内空間が広く未分化である点は、第６章でも述べられた通り、寝殿造の特色を備えているとも評価できる。

掘立柱建物個々の時期を決定するのは困難であるが、出土遺物全体の傾向より、12世紀末から13世紀にかけて継続的に建造されたものと推測する。当該時期と同等の年代観をもつ秋田県内の遺跡は、峰浜村中田面遺跡、琴丘町盤若台遺跡、秋田市下タ野遺跡・同秋田城、本荘市大浦遺跡・同土花遺跡、矢島町九日町遺跡、神岡町薬師遺跡、雄勝町館堀城などが挙げられる。しかし、これらの遺跡で検出された掘立柱建物跡の大部分は総柱型建物であり、新屋敷遺跡で検出された律令型建物とは構造面において決定的に異なっている。四面廂建物についてもは検出例は少なく、前出の中田面遺跡で８例、薬師遺跡で１例が確認されているに過ぎない。

ところで秋田県外では、岩手県平泉町において12世紀に属する四面廂掘立柱建物跡が数多く検出されている。松本建速氏は平泉町で検出された12世紀後半代の四面廂掘立柱建物跡と廂を伴わない掘立柱建物跡とを比較し、前者の周辺で瓦が出土する場合が多く、棟に瓦を置いた立派な外観であった可能性が高いこと、また周辺から儀礼に結びついた遺物と推定される折敷やかわらけの出土が多いことを指摘し、儀式・儀礼を執り行う建物としての性格を想定している。本遺跡で検出した四面廂建物は廂の出が小さいものの、周辺で13世紀のものと考えられるかわらけが一定量出土している。平泉町検出の四面廂建物は12世紀後半で姿を消すと言われており、新屋敷遺跡との時期差に問題を残すが、儀礼を執り行う建物の様式がある程度継続していた可能性は十分考えられる。

河川跡北側に分布する２棟の掘立柱建物跡に目を転じると、SB88は総柱建物としたが梁行と桁行の間尺が揃わず、SB95は柱穴径が小さく柱間に６尺以下の短い寸法が用いられる点において、河川跡南側に分布する掘立柱建物跡群とは異質である。このような相違は時期差を反映している可能性もあるが確実ではなく、性格は不明と言わざるを得ない。

竪穴状遺構

竪穴状遺構は、河川跡南側の遺構集中区域周辺で４基検出した。１基については柱穴が確認されなかったが、他は四隅とその中間に柱穴が配置される。堆積土は全て人為的な一括埋め戻し土である。これらの竪穴状遺構全ての底面において炭化物や焼土の集中箇所が認められ、また鍛造剥片や金床石の出土から、鋼製鉄器を製作する工房跡としての性格が考えられる。帰属時期は明確でないが、採取した炭化物の放射性炭素年代測定結果を参考にすると、14～15世紀代の年代観が想定される。

溝跡

溝跡は河川跡北側で４条、南側調査区で１条検出した。北側調査区で検出した３条に関しては小規模で時期・性格とも不明確であり、ここでは残り２条の溝跡について触れておく。南側調査区で検出したSD64は、幅約1.5～2.4mで、調査区外へと延伸するため全体規模・平面形状は明確でないが、空中写真で確認されたクロップマークから、直線距離130m以上の規模をもつと推測できる。この溝跡から北側には掘立柱建物群が集中し、これらと主軸方位が整合することから、居館の南側を区画するものと考えられる。本溝跡北辺に沿う形で検出した柱穴は、溝内側の塀などを構成していたかもしれない。一方、北側調査区東端で検出したSD45は、幅約3.3mでほぼ直角に折れ曲がり、全体規模・平面形状は不明である。この溝跡にはわずかであるが東辺に沿う形で柱穴が検出されており、今回調査対象区域外となった東側に別の遺構群が展開している可能性もある。

溝跡の幅に着目して周辺遺跡の検出例と比較すると、鵜沼城の堀跡は７～10m、桐木田遺跡の堀跡は約３m、館堀城の堀跡は９～1.7mとなり、かなり小規模であることが指摘できる。新屋敷遺跡の溝跡を規模の面から捉えると、防御性に乏しく、区画溝としての性格が強いと言える。

土坑

土坑は河川跡北側で７基、河川跡南側で40基検出した。ここでは、平面形状・堆積土・分布域に類似した特徴をもつ以下３種の土坑を抽出する。Ａ類：長方形平面をなして掘り込みは浅く、堆積土は灰色味を帯びて一括埋め戻しの様相を呈し、河川跡南側に分布する。SK02・03・05・07・08・11・30・47・51・67・80が該当する。Ｂ類：方形平面を基調として掘り込みは深く、堆積土は一括埋め戻しの様相を呈し、河川跡南側に分布する。SK01・04・09・12・13・23・26・28・31・36が該当する。Ｃ類：小形不整の平面形をなして掘り込みは浅く、堆積土に焼土もしくは炭化物を多く含み、河川跡北側に分布する。SK39・42・43が該当する。

河川跡南側に分布するＡ類・Ｂ類は切り合い関係をもつ場合が多く、全てＡ類→Ｂ類の順を示す。これらの土坑については時期･性格ともに不明であるが、長軸方位は掘立柱建物跡等と整合しており、中世に帰属する可能性が高い。Ｃ類の小形不整形土坑に関しては、焼土・炭化物の集中から火葬墓の可能性を指摘しておく。これも時期は不明確であるが、SK39で採取した炭化物の放射性炭素年代測定結果は14世紀初頭の年代観を示している。これら小型不整形土坑を墓と認識した場合、河川跡を隔てて遺構集中区域から隔絶しているという分布状況は、当時の他界観を反映しているのかもしれない。

２　出土遺物について

出土遺物の詳細については第４章第３節に詳述したので、ここでは時期毎の遺物構成の大枠を示しておく。12世紀後半～13世紀前半には、白磁・同安窯系青磁・内面劃花文の龍泉窯系青磁・常滑産陶器・須恵器系中世陶器を組成する。常滑産陶器は秋田県内でも報告例が少なく特筆されよう。13世紀後半～14世紀には、青白磁・蓮弁文もしくは端反りの龍泉窯系青磁・須恵器系中世陶器・かわらけを組成する。15世紀以降には、瀬戸産陶器・瓦質土器を組成するが、量的には非常に少ない。

３　遺構群の変遷と遺跡の性格について

遺構集中区域における主要な遺構の切り合い関係を遺構種別毎に整理すると、少なくとも次の点を指摘することができる（第55図）。①掘立柱建物跡は土坑より古い。②掘立柱建物跡は竪穴状遺構より古い。③土坑は竪穴状遺構より古い。竪穴状遺構と土坑の切り合い関係は１箇所のみの確認であるため不確定であるものの、基本的にこれら３種の遺構群は併存せずに、それぞれ大きな画期をもって展開したと推測される。また、遺構の長軸方位を遺構種別毎にまとめると、大部分が居館の区画に関係すると目される溝跡の方位に整合しており（第54図）、軸線方位には強い規制が看取される。これらの遺構は出土遺物の年代観から12世紀末～15世紀の幅に収まるものと考えられる。

ここでは掘立柱建物跡・土坑・竪穴状遺構を、それぞれ「遺構群」として理解し、次に示す大枠で変遷したものと考える。

Ⅰ期：掘立柱建物群が展開する時期。大形掘立柱建物の構造から２期の小画期を設定する。

Ⅱ期：土坑群が展開する時期。性格は不明であるが、土坑形態の相違から２期の小画期を設定する。

Ⅲ期：竪穴状遺構群が展開する時期。鉄生産に関連する工房跡である。

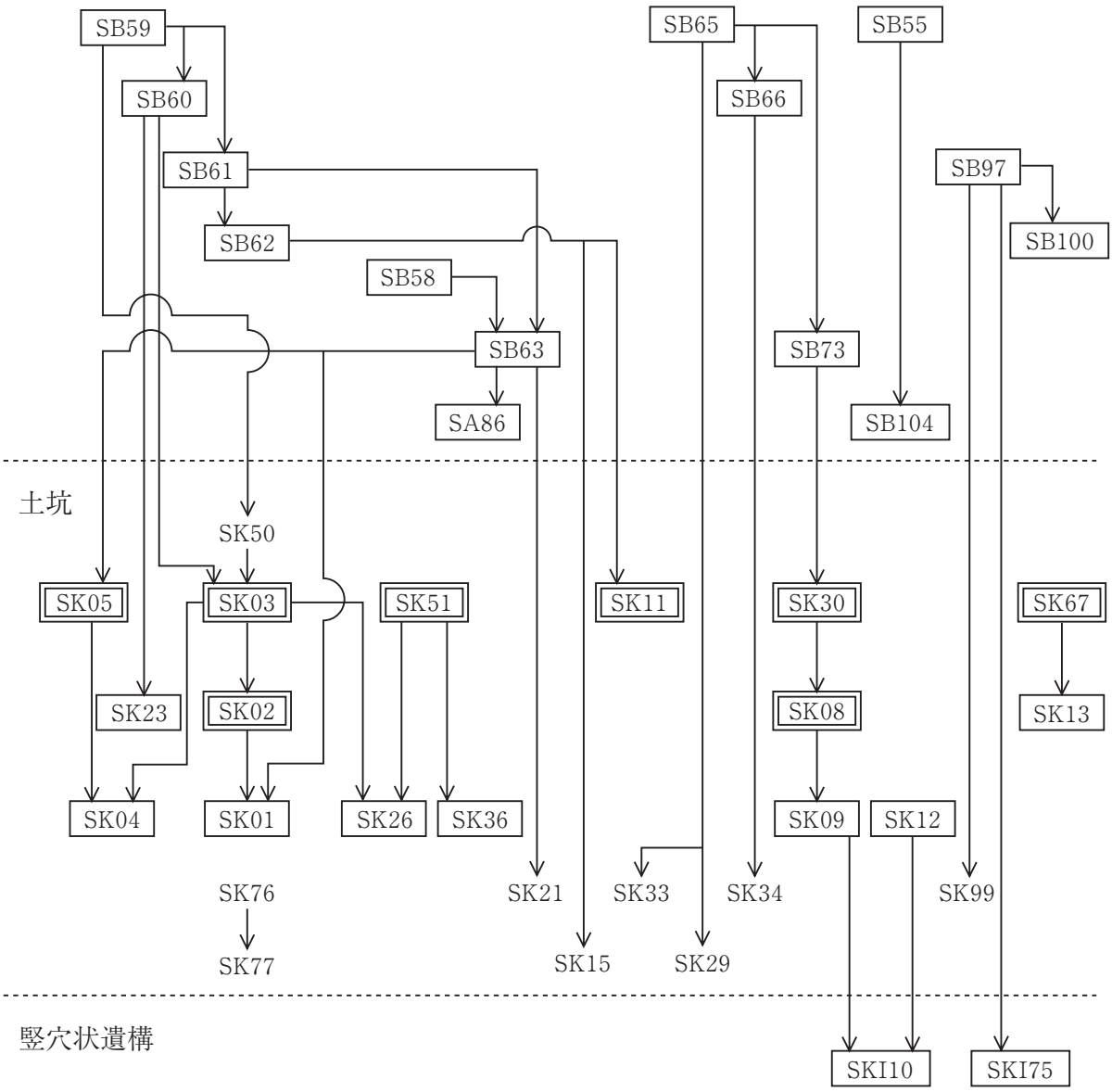
本遺跡は鎌倉時代において周辺地域の領地支配を担った居館の一部であると考えられ、当地域での領地経営のあり方を検討する上で極めて重要な意味を持つと評価できる。本報告においては成し得なかったが、地形改変以前の古い地籍図や空中写真等を利用した遺跡範囲の推定など、歴史地理的なアプローチを通じた遺跡全体像の解明が今後必要となろう。

参考文献

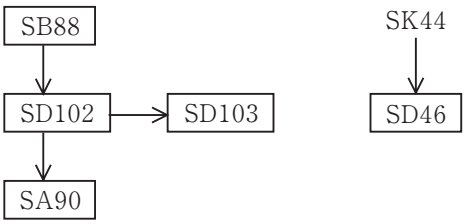
秋田県教育委員会　『鵜沼城跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第73集　1980（昭和55）年
秋田県教育委員会　『中田面遺跡・重兵衛台Ⅰ遺跡・重兵衛台Ⅱ遺跡・根洗場遺跡発掘調査報告書』
秋田県文化財調査報告書第74集　1980（昭和55）年
秋田県教育委員会　『桐木田遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第95集　1982（昭和57）年
秋田県教育委員会　『盤若台遺跡－一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ－』
秋田県文化財調査報告書第319集　2001（平成13）年
秋田県教育委員会　『館堀城跡－県営ほ場整備事業（寺沢地区）に係る発掘調査報告書－』秋田県文化財調査報告書第320集
2001（平成13）年
秋田県教育委員会　『盤若台遺跡－主要地方道琴丘上小阿仁線高速交通関連整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』
秋田県文化財調査報告書第331集　2001（平成13）年
秋田県教育委員会　『薬師遺跡－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』
秋田県文化財調査報告書第388集　2005（平成17）年
秋田市教育委員会　『下タ野遺跡発掘調査報告書』　1979（昭和54）年
東北中世考古学会　『中世出羽の諸様相－寺院・生産・城館・集落－東北中世考古学会第９回大会資料集』　2003（平成15）年
本荘市教育委員会　『土花遺跡（第２次調査）－上野新田地区担い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』
本荘市文化財調査報告書第20集　2003（平成15）年
松本建速　「12世紀平泉の四面廂掘立柱建物」『紀要ⅩⅦ』（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1997（平成９）年
宮本長二郎　「古代末から中世の住居建築」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第16号　2002（平成14）年
矢島町教育委員会　『九日町遺跡－矢島地区担い手育成基盤整備事業に係る発掘調査報告書－』
矢島町文化財調査報告書第１集　2003（平成15）年

遺構密集区域

掘立柱建物跡・柱穴列



河川跡北側



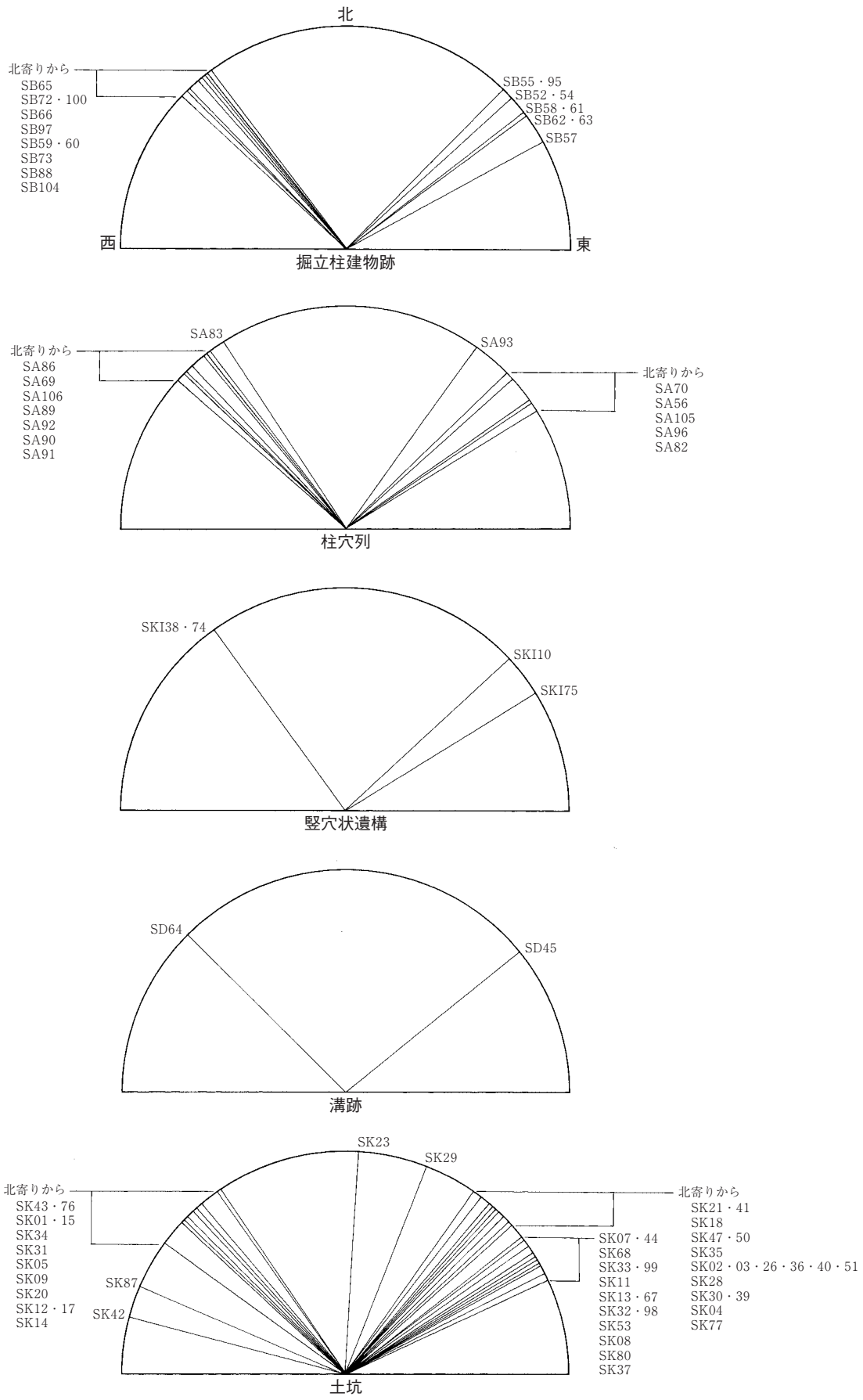
※土坑の表記

長方形・浅形

方形・深形

枠無し　その他

第54図　遺構新旧関係模式図



第55図　各検出遺構の主軸方位

1　遺跡遠景（北東から）

2　遺跡遠景（北東から）

1　LR48⑬（SB58）土層断面（南東から）

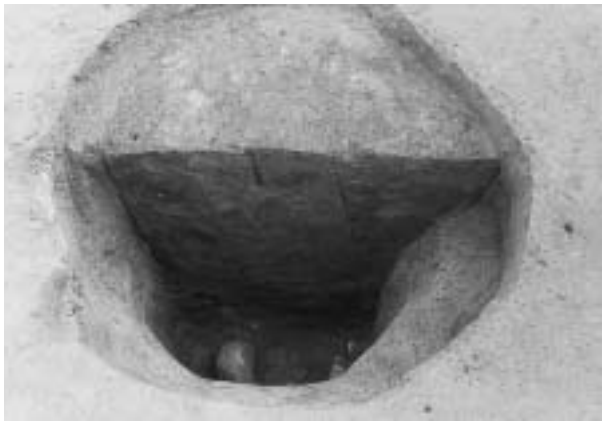
2　LQ50⑪（SB59）土層断面（南東から）

3　LR53②（SB60）土層断面（北東から）

4　LR47②（SB61）土層断面（南東から）

5　LQ47⑤（SB62）土層断面（南東から）

6　LR48①（SB63）土層断面（南東から）

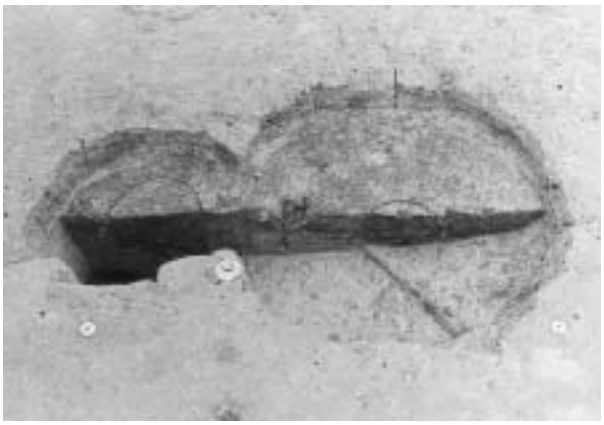


7　LQ57③（SB65）土層断面（北西から）

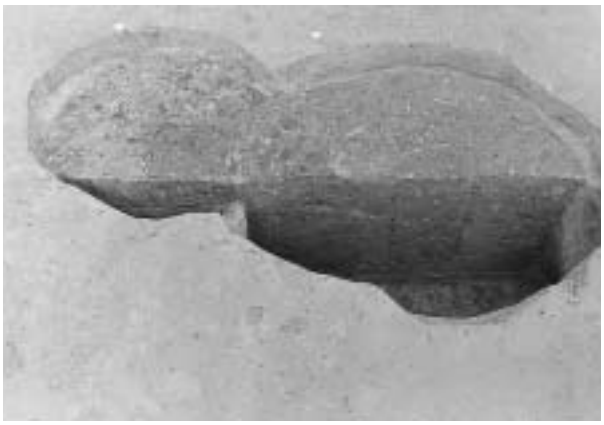
8　LP56①（SB66）土層断面（北西から）

1　LO56⑩(SB72)土層断面(北東から)

2　LP57⑰(SB73)土層断面(北東から)



3　LQ49①(SB63)・②(SB58)土層断面(東から)



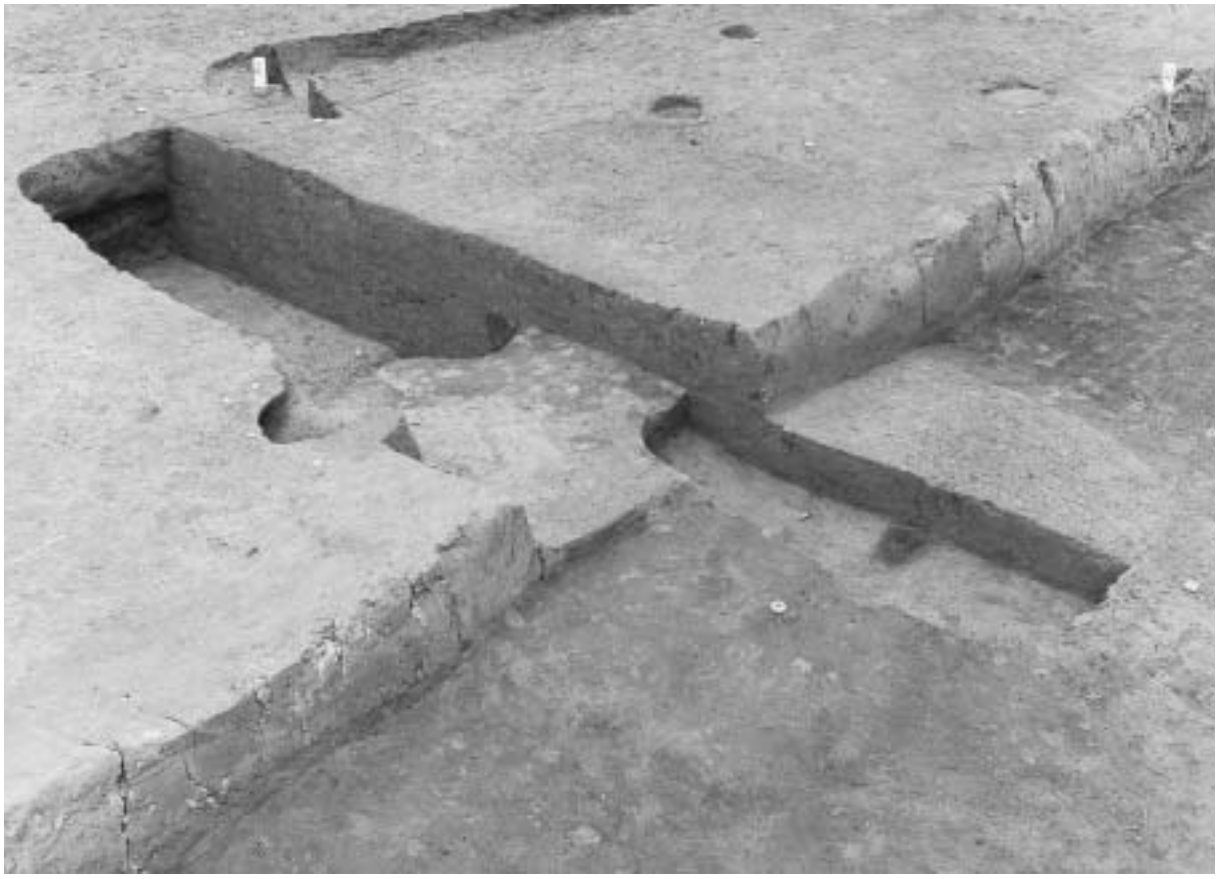
4　LQ51④(SB59)・⑤(SB60)土層断面(南西から)

5　LO48③(SB61)・④(SB62)・⑯(SB59)土層断面(南東から)

6　LP48①(SB62)・⑯(SB61)土層断面(南東から)

7　LR49②(SB61)・③(SB63)土層断面(北西から)

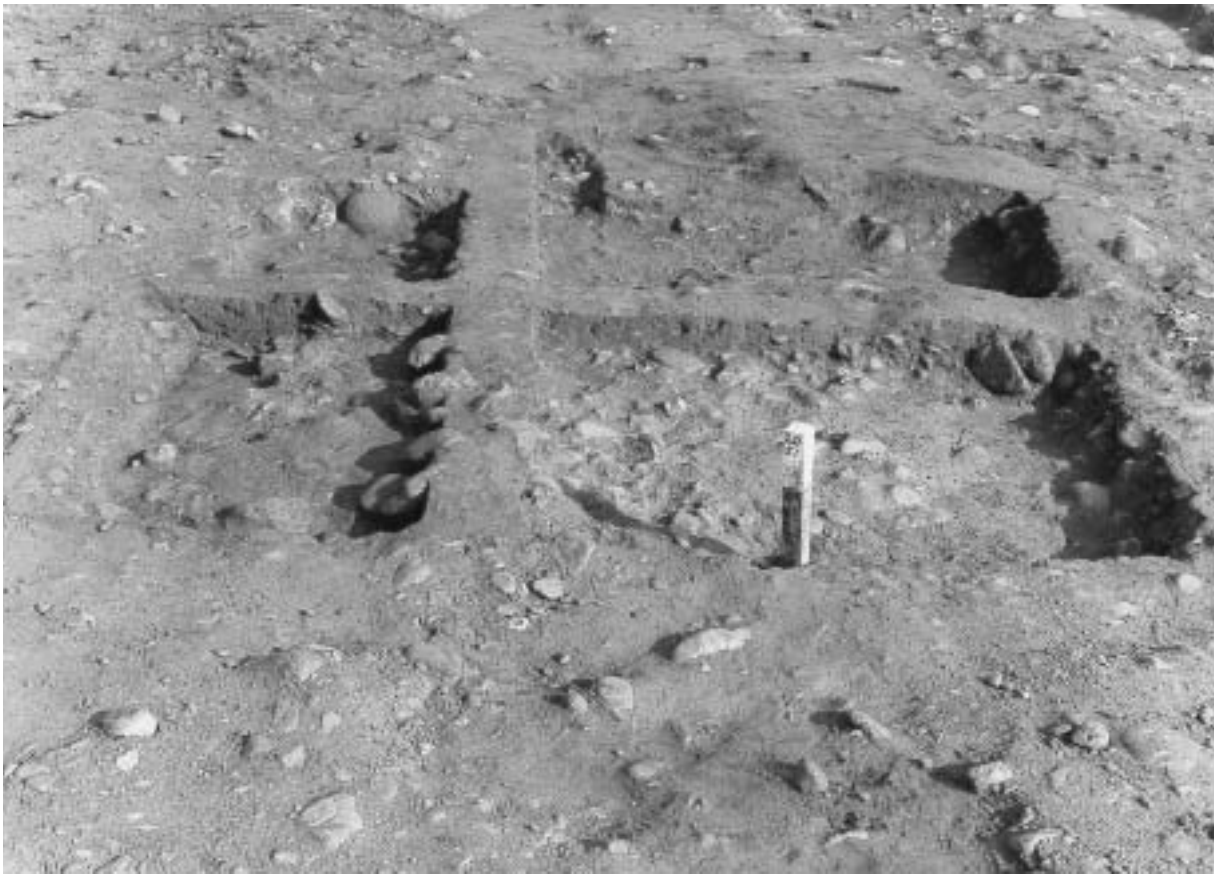
8　LO56⑧(SB66)・⑨(SB65)土層断面(北東から)



1　SK09・12、SKI10土層断面（南から）

2　SK09・12、SKI10完掘状況（南から）

1　SKI38土層断面（南西から）

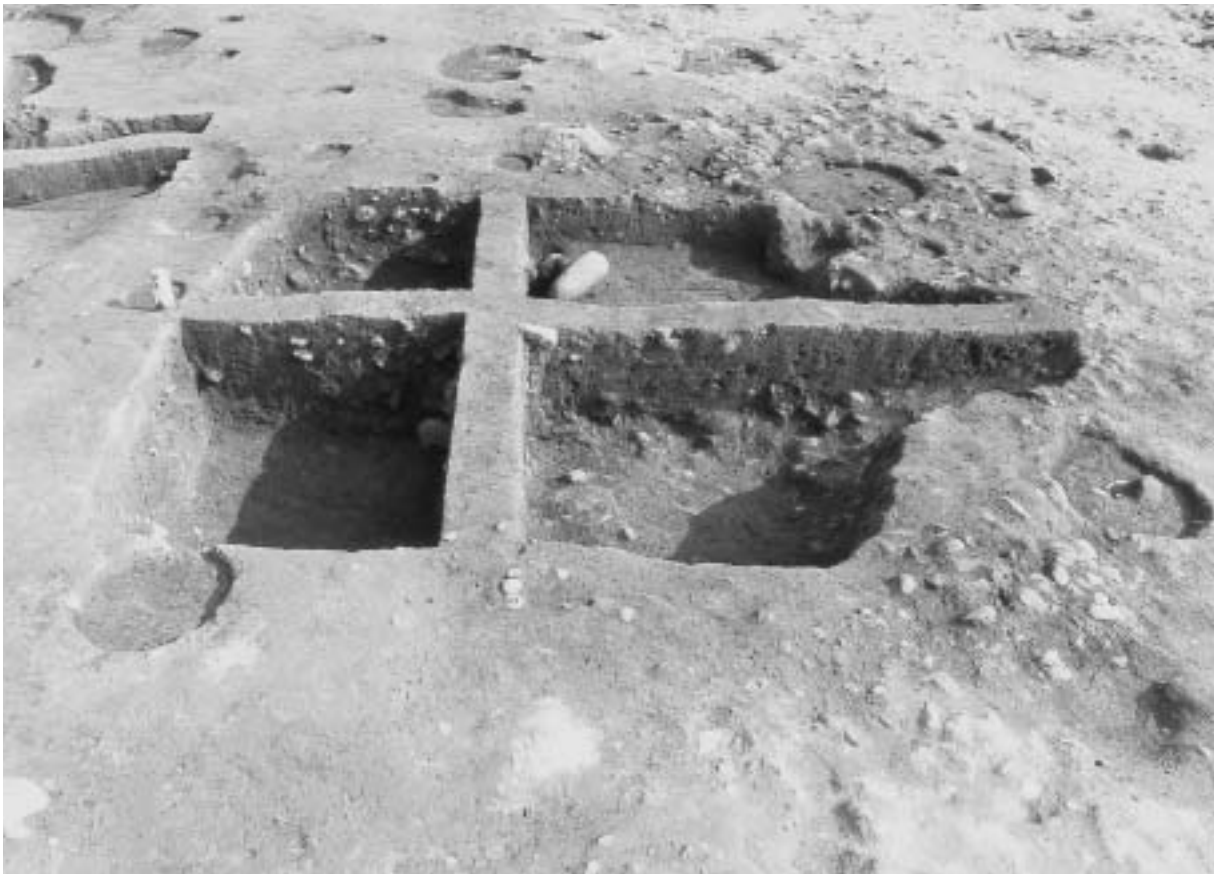


2　SKI38土層断面（北西から）

図版6

1　SKI74土層断面（南西から）

2　SKI74土層断面（北西から）



1　SKI75土層断面（北西から）

2　SKI75土層断面（南西から）

1　SD45完掘状況（南西から）

2　SD45B－B’ライン土層断面（北から）

3　SD45C－C’ライン土層断面（南西から）

4　SD45D－D’ライン土層断面（南西から）

5　SD45E－E’ライン土層断面（南西から）

6　SD46土層断面（南西から）

7　SD102・103土層断面（北西から）

1　SD64完掘状況（北西から）

2　SD64B―B’ライン土層断面（北西から）

3　SD64C―C’ライン土層断面（北西から）

4　SD64D―D’ライン土層断面（北西から）

5　SD64E―E’ライン土層断面（北西から）

6　SD64F―F’ライン土層断面（北西から）

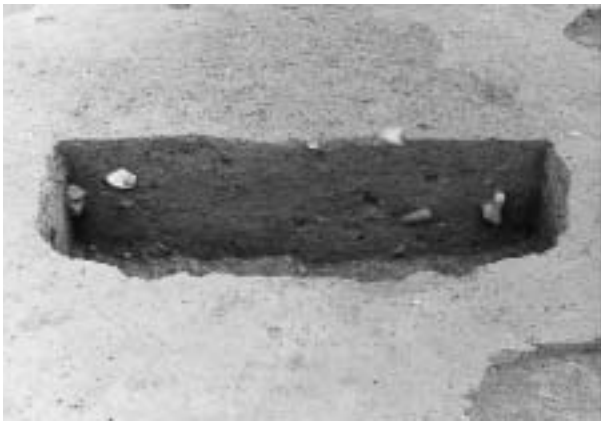
7　SD64G―G’ライン土層断面（西から）

1　SE71中位平面（南東から）

2　SE71完掘状況（北西から）

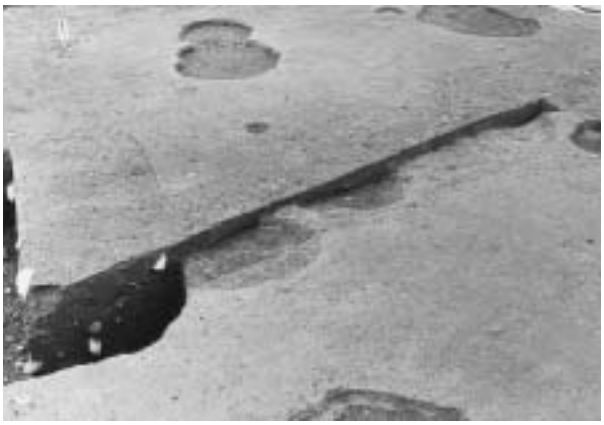
3　SN79土層断面（北西から）

4　SN81土層断面（北西から）



1　SK01土層断面（南西から）

2　SK01・02完掘状況（南から）



3　SK01・02・03土層断面（南から）

4　SK03土層断面（北西から）

5　SK03・50土層断面（北東から）

6　SK03完掘状況（西から）

7　SK03・04土層断面（北東から）

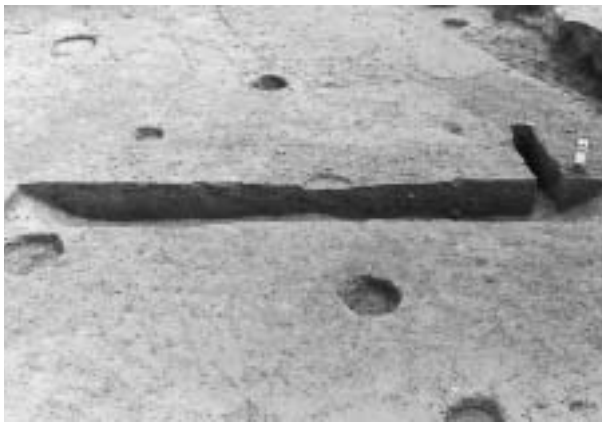
8　SK04完掘状況（西から）

1　SK05土層断面（北西から）

2　SK05完掘状況（北西から）

3　SK07土層断面（北から）

4　SK07完掘状況（北から）



5　SK08土層断面（北西から）

6　SK08完掘状況（北から）

7　SK09土層断面（南東から）

8　SK09完掘状況（南から）

1　SK11土層断面（北から）

2　SK11完掘状況（北から）

3　SK12土層断面（南東から）

4　SK12完掘状況（南から）

5　SK13土層断面（北西から）

6　SK13完掘状況（西から）

7　SK14土層断面（北東から）

8　SK14完掘状況（北から）

1　SK15土層断面（東から）

2　SK15完掘状況（北西から）

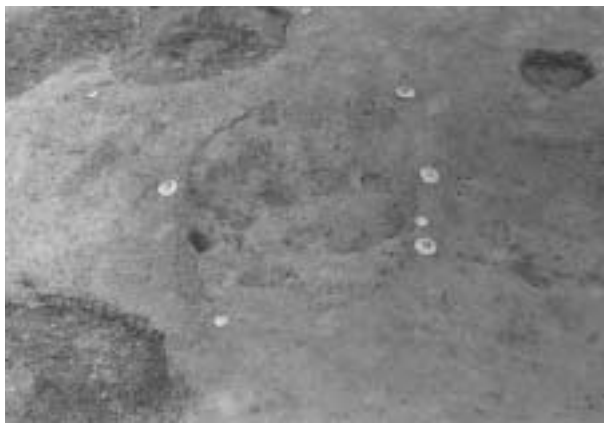
3　SK17土層断面（西から）

4　SK17完掘状況（南西から）

5　SK18土層断面（北西から）

6　SK18完掘状況（北から）

7　SK20土層断面（南から）

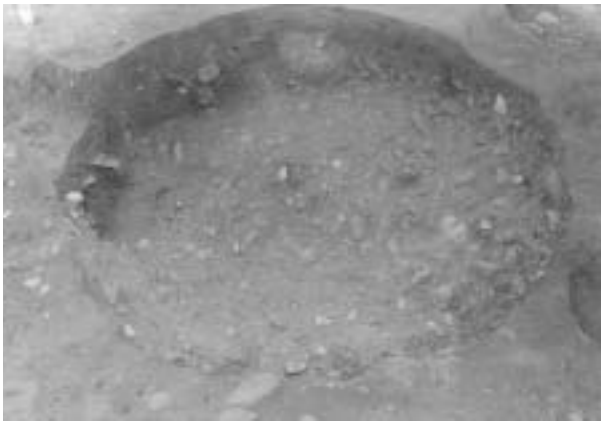


8　SK20完掘状況（北東から）

1　SK21完掘状況（西から）

2　SK33確認状況（西から）

3　SK23土層断面（南西から）



4　SK23完掘状況（南から）

5　SK26土層断面（北西から）

6　SK26完掘状況（北から）

7　SK28土層断面（南西から）

8　SK28完掘状況（南から）

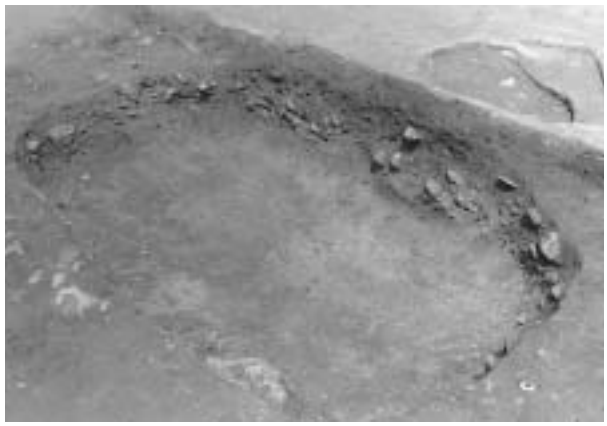
1　SK29土層断面（南から）

2　SK29完掘状況（南から）

3　SK30土層断面（南東から）

4　SK30完掘状況（南から）

5　SK31土層断面（南西から）



6　SK31完掘状況（南から）

7　SK32土層断面（北西から）

8　SK32完掘状況（南から）

1　SK34土層断面（南西から）

2　SK34完掘状況（西から）

3　SK35土層断面（南西から）

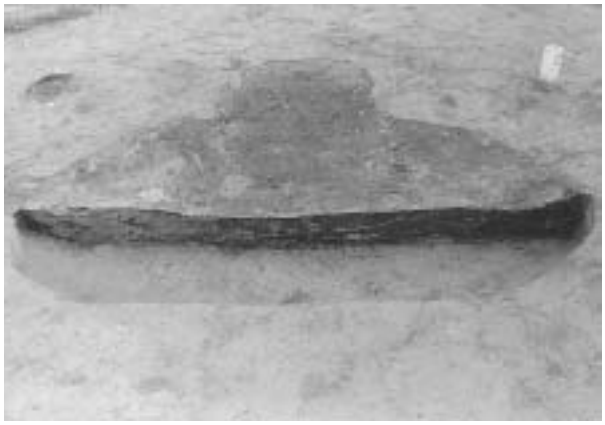
4　SK35完掘状況（南から）

5　SK36土層断面（北西から）

6　SK36完掘状況（西から）

7　SK37土層断面（西から）

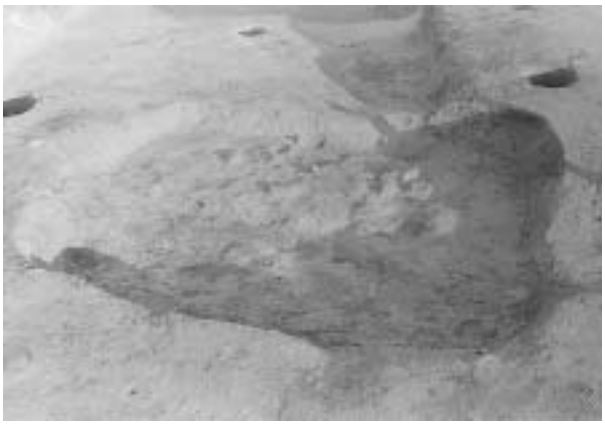
8　SK37完掘状況（西から）



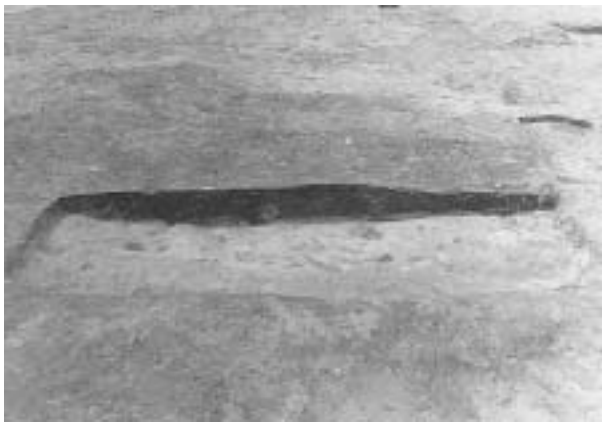
1　SK39土層断面（南西から）

2　SK39完掘状況（北東から）

3　SK40土層断面（北西から）



4　SK40完掘状況（西から）



5　SK41土層断面（東から）

6　SK41完掘状況（西から）

7　SK42土層断面（南から）

8　SK42完掘状況（北西から）

1　SK43土層断面（南西から）

2　SK43完掘状況（北西から）

3　SK44土層断面（南東から）

4　SK44完掘状況（南東から）

5　SK47土層断面（南東から）

6　SK47完掘状況（南から）

7　SK50完掘状況（北西から）

8　SK67土層断面（西から）

1　SK51土層断面（北西から）

2　SK51完掘状況（西から）

3　SK53土層断面（南東から）

4　SK53完掘状況（南から）

5　SK68土層断面（西から）

6　SK68完掘状況（北から）

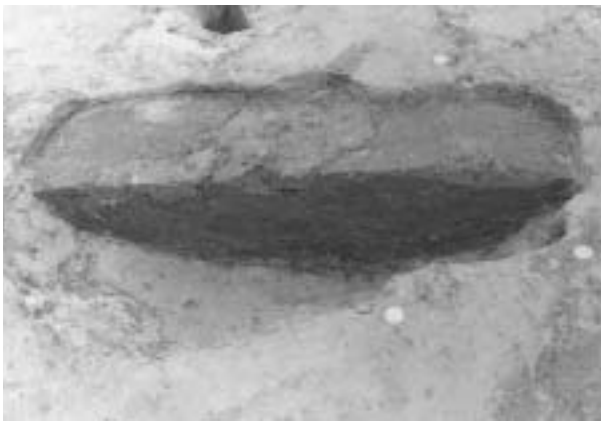
7　SK76土層断面（北東から）

8　SK76・77土層断面（北西から）

1　SK77土層断面（南西から）

2　SK76・77完掘状況（北東から）

3　SK80土層断面（北西から）



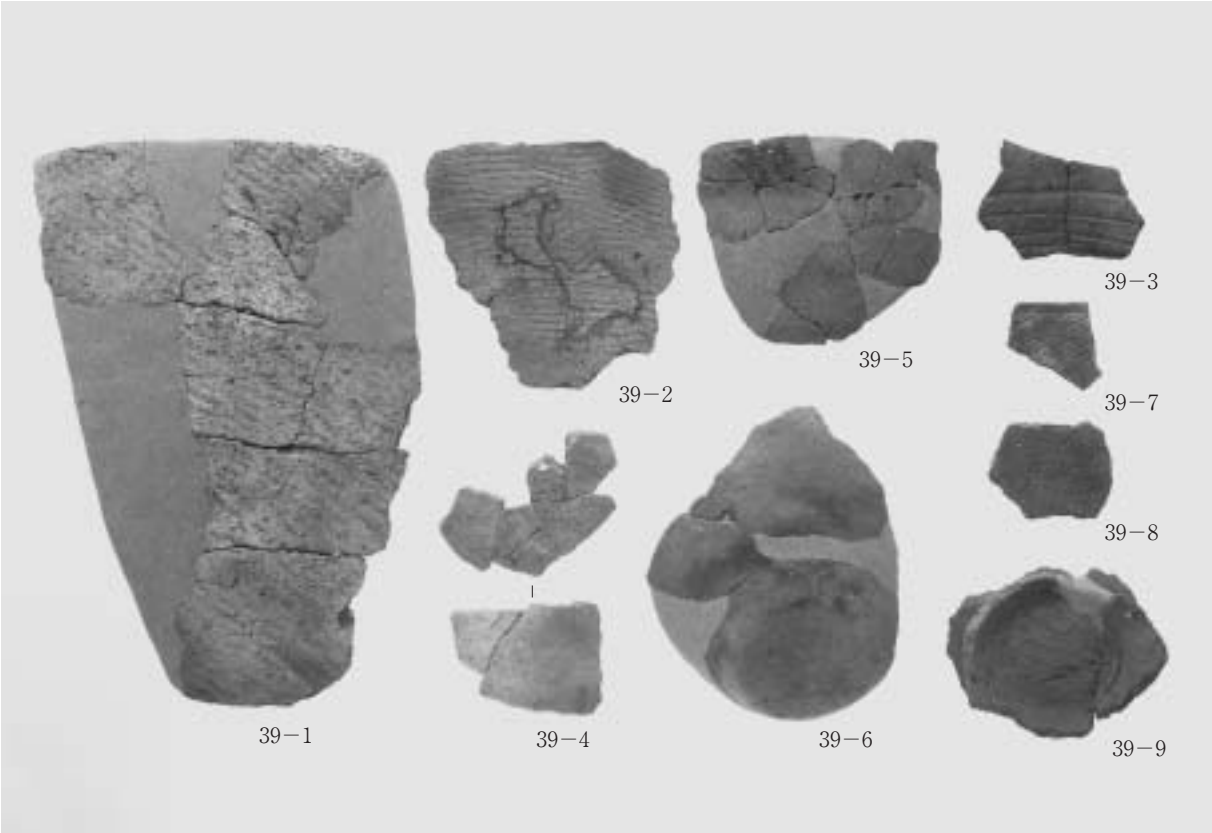
4　SK98土層断面（南から）

5　SK87土層断面（南西から）

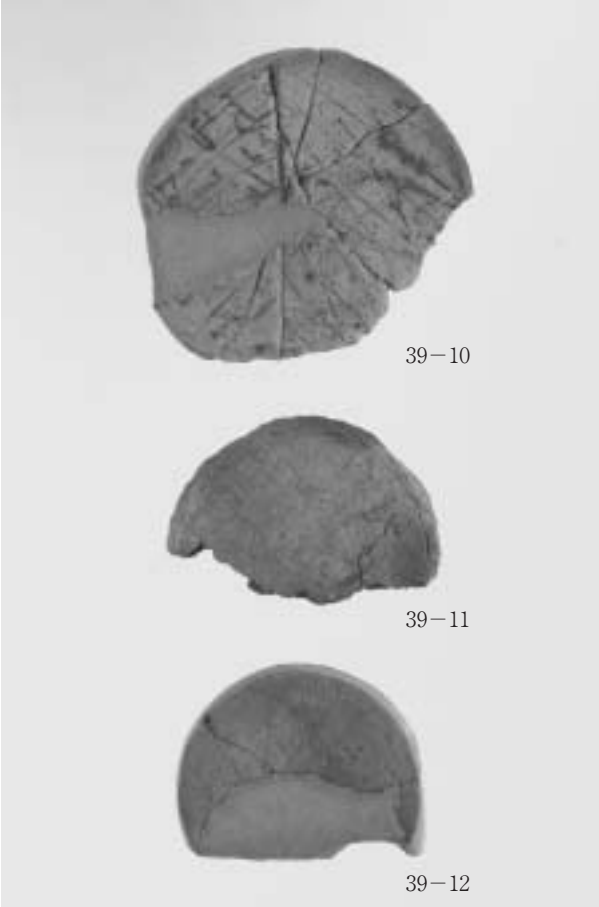
6　SK87礫出土状況（北西から）

7　SK99土層断面（南西から）

8　SK99完掘状況（東から）

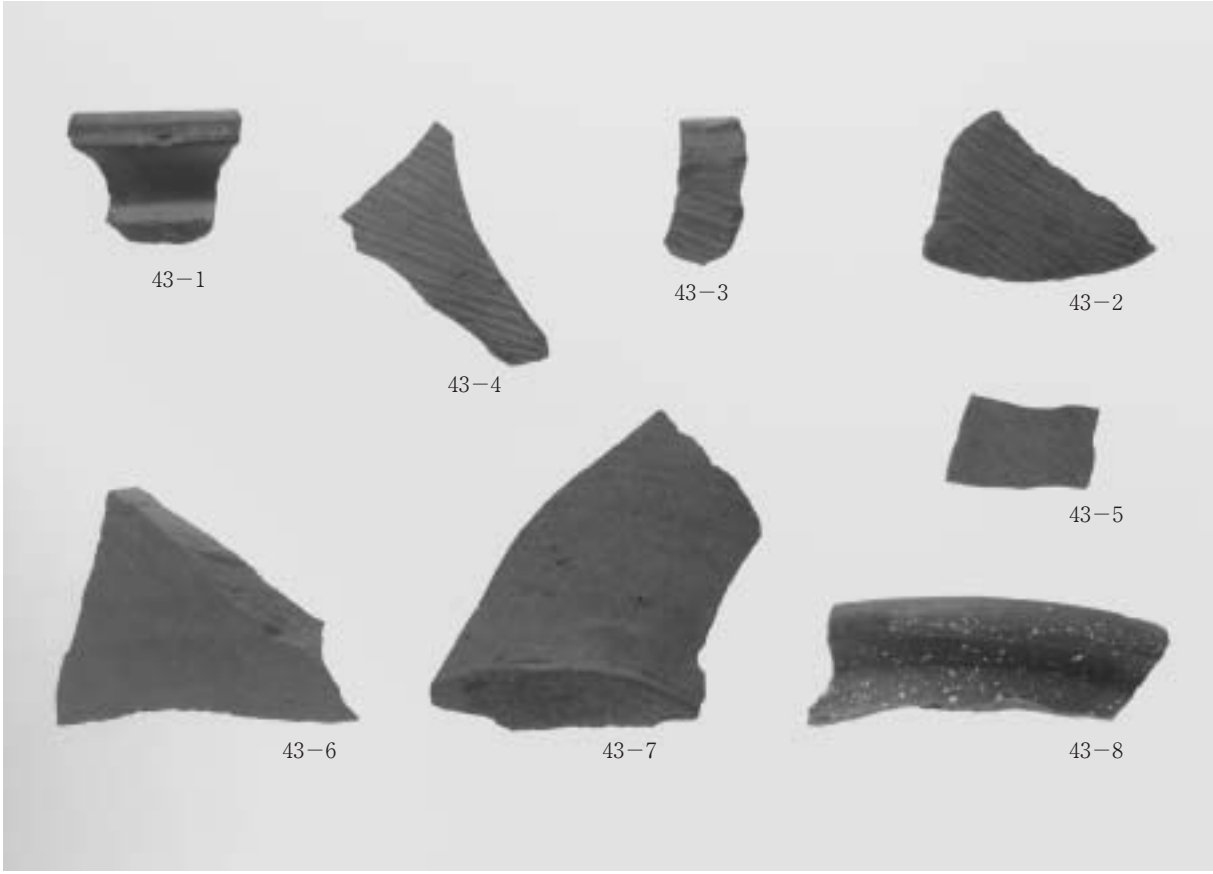


1　縄文土器

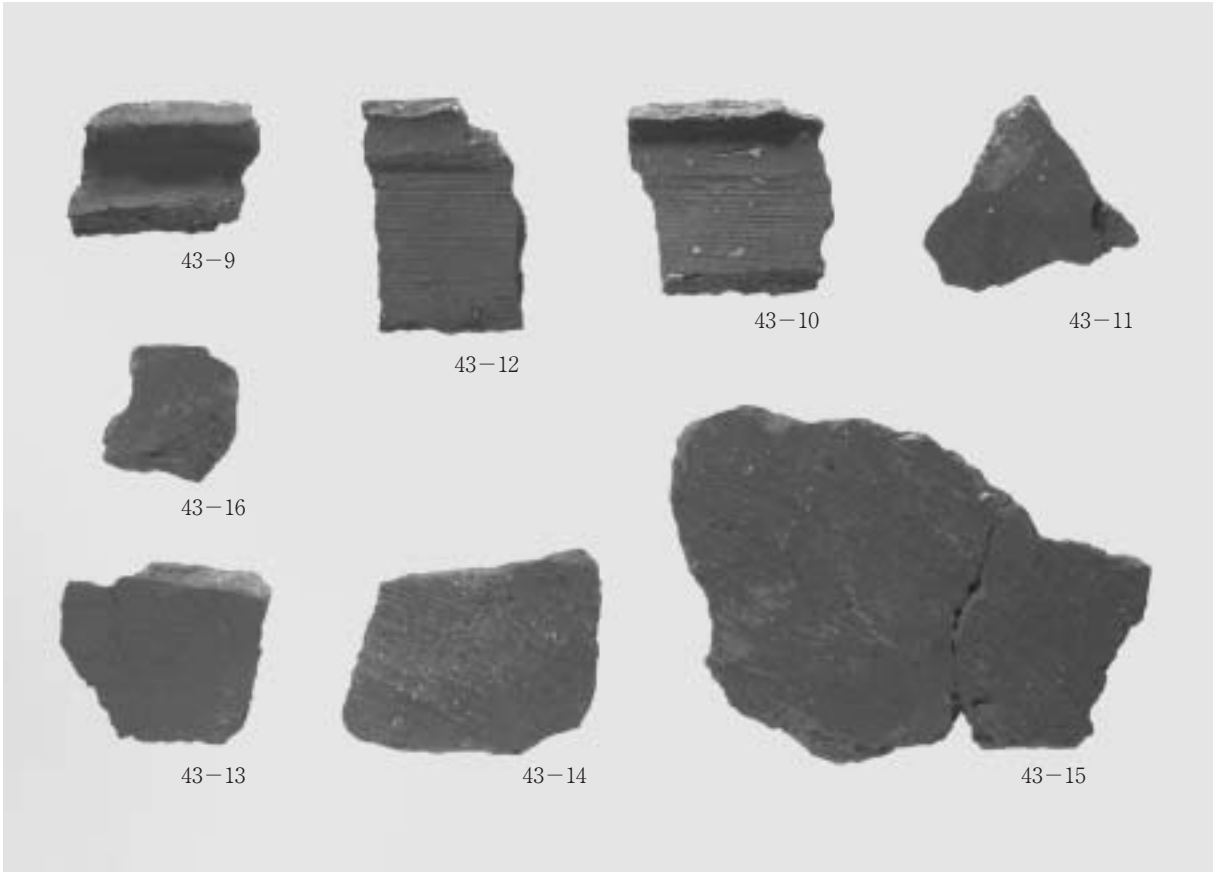


2　縄文土器底面

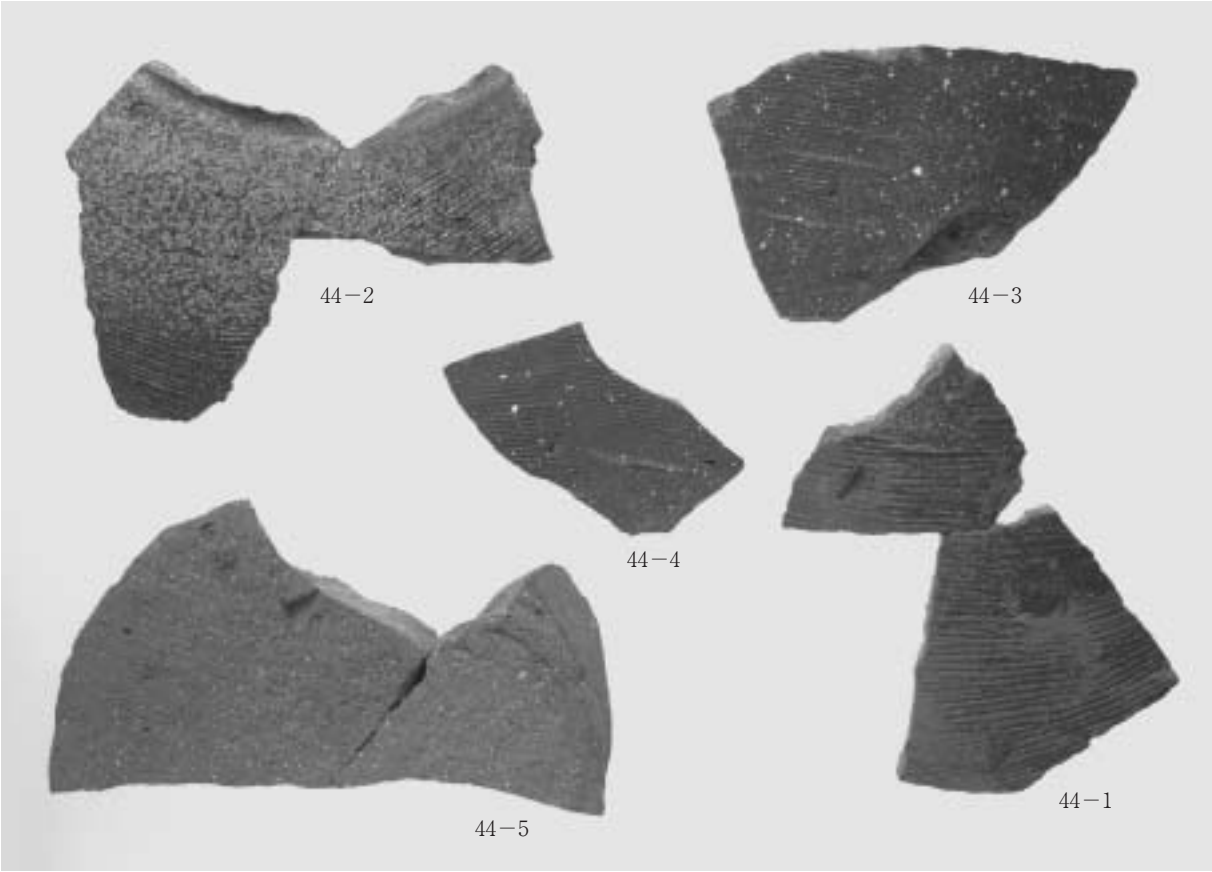
3　石器



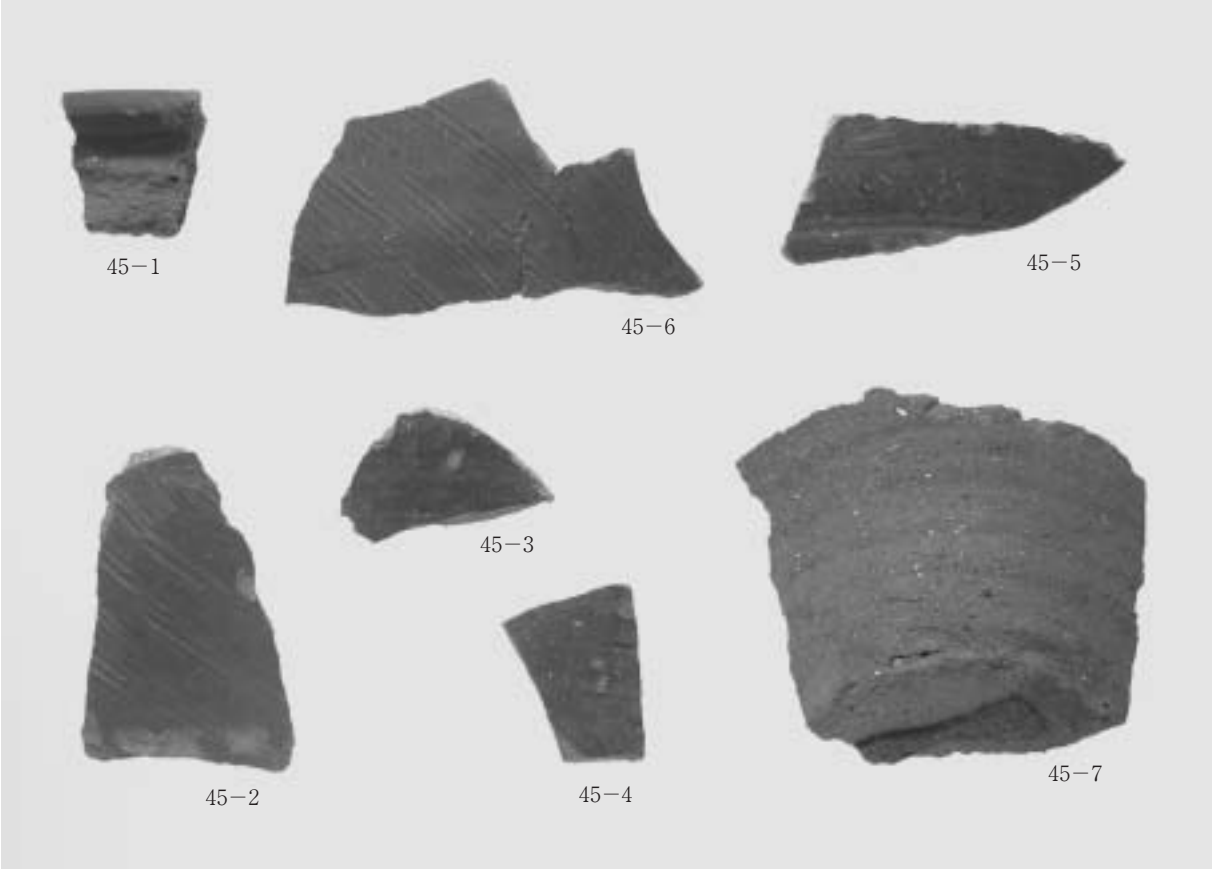
1　須恵器系中世陶器甕　個体１・２



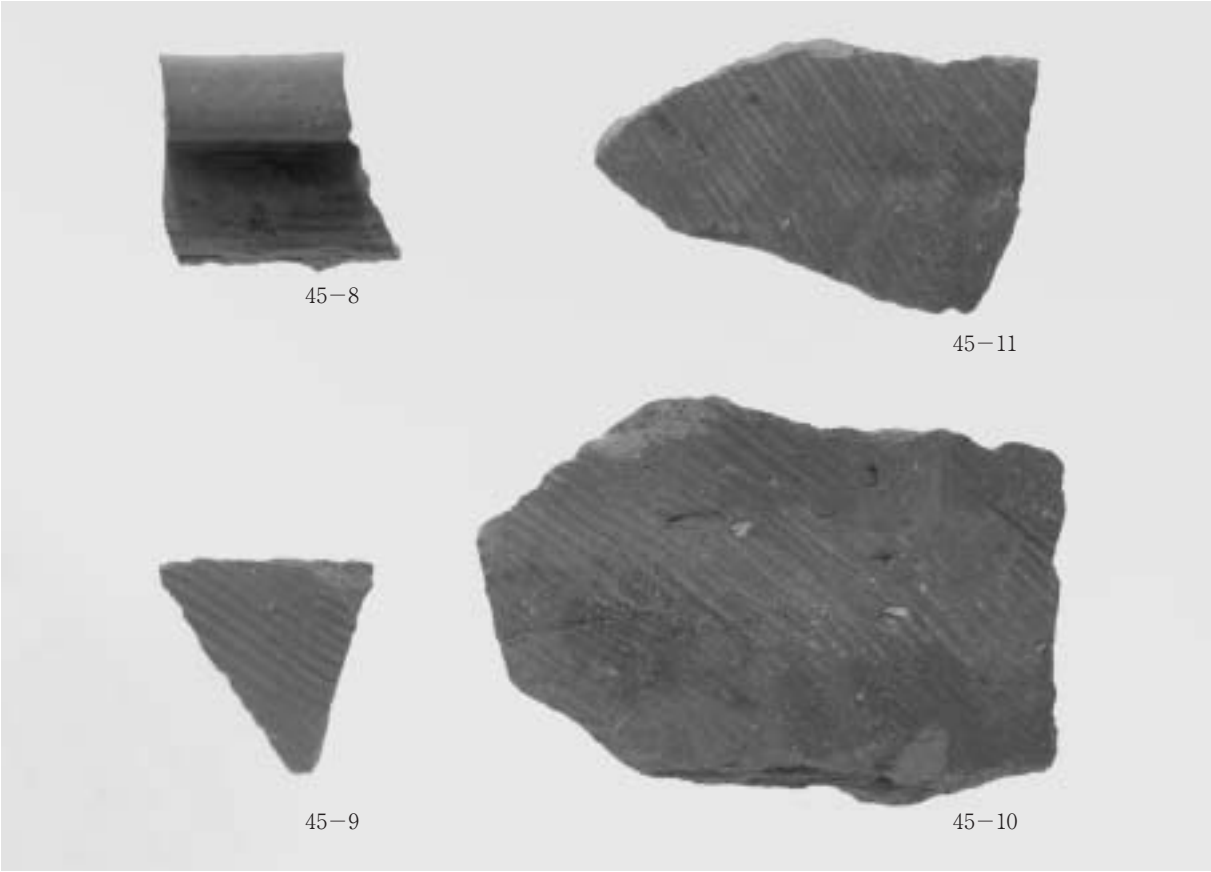
2　須恵器系中世陶器甕　個体３



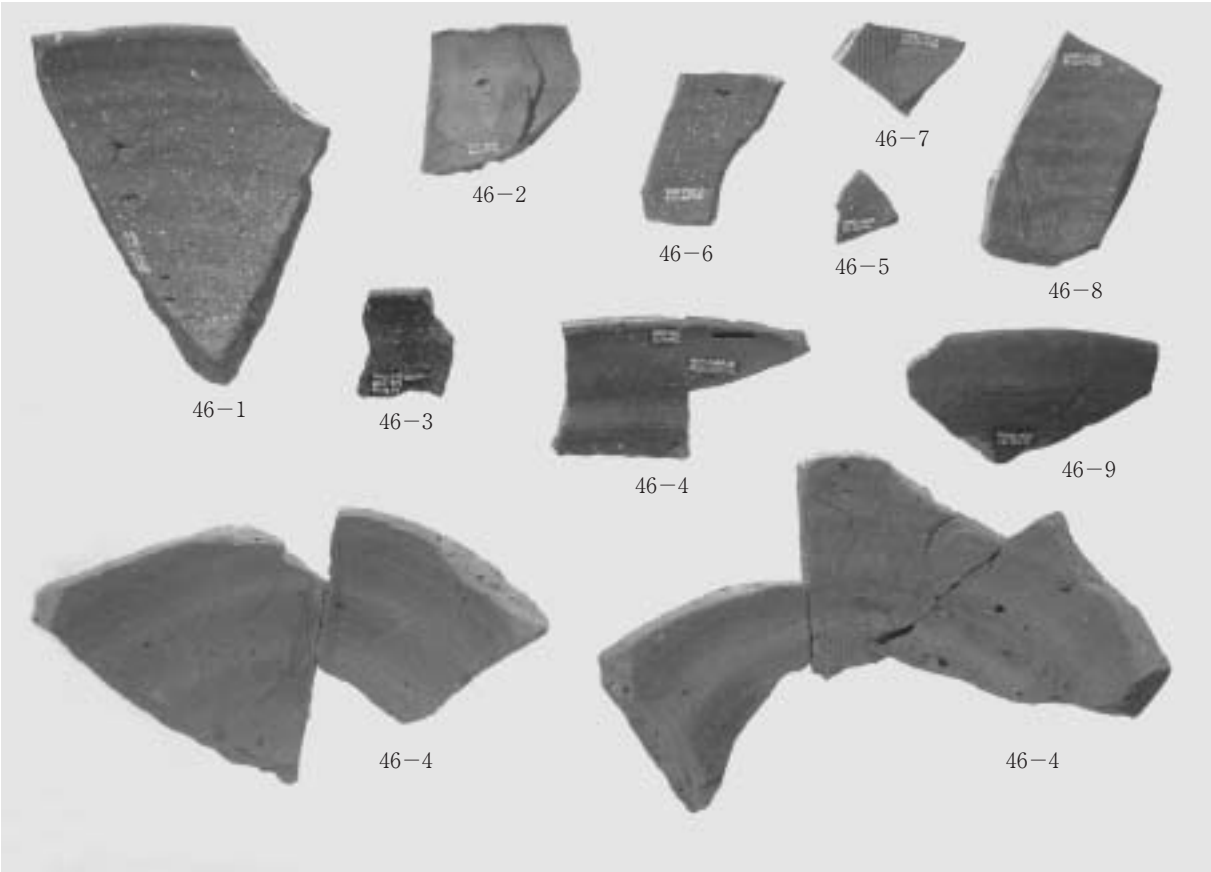
1　須恵器系中世陶器甕　個体４・５



2　須恵器系中世陶器甕　個体６・７



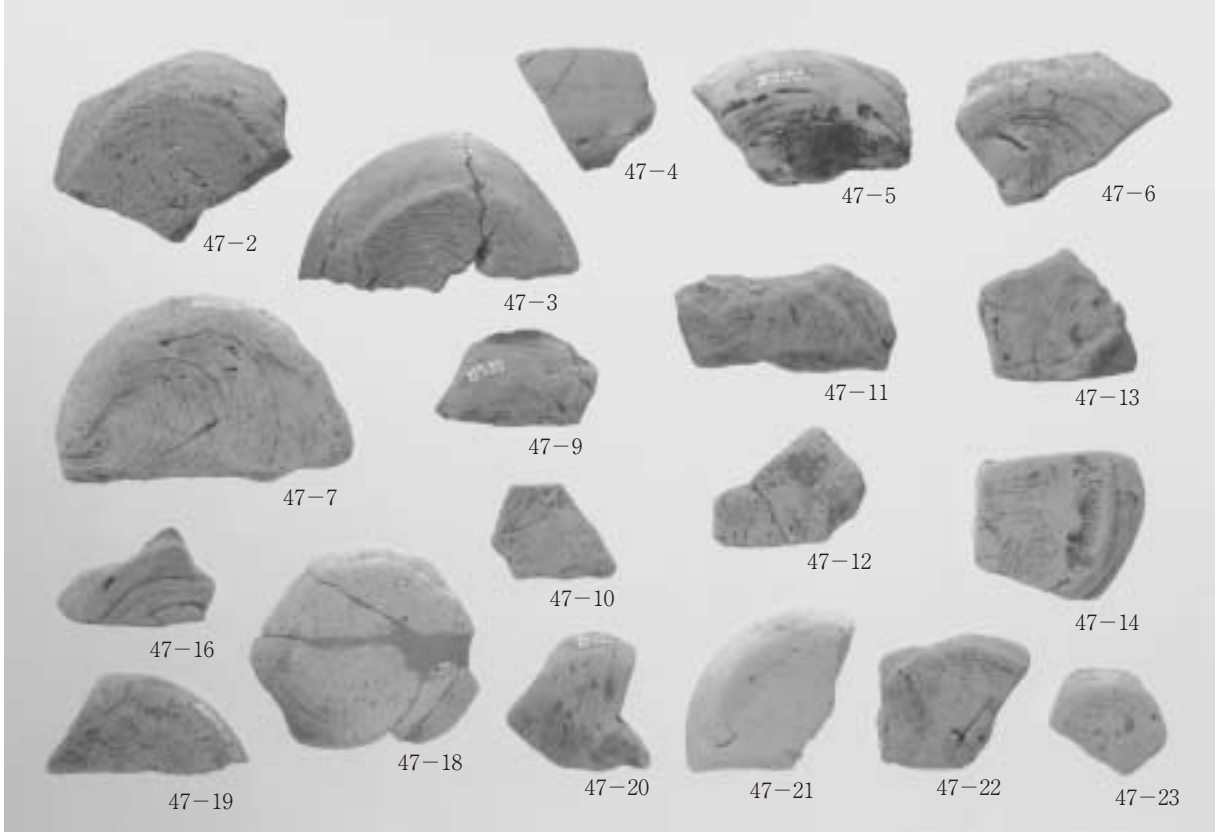
1　須恵器系中世陶器甕　個体 8



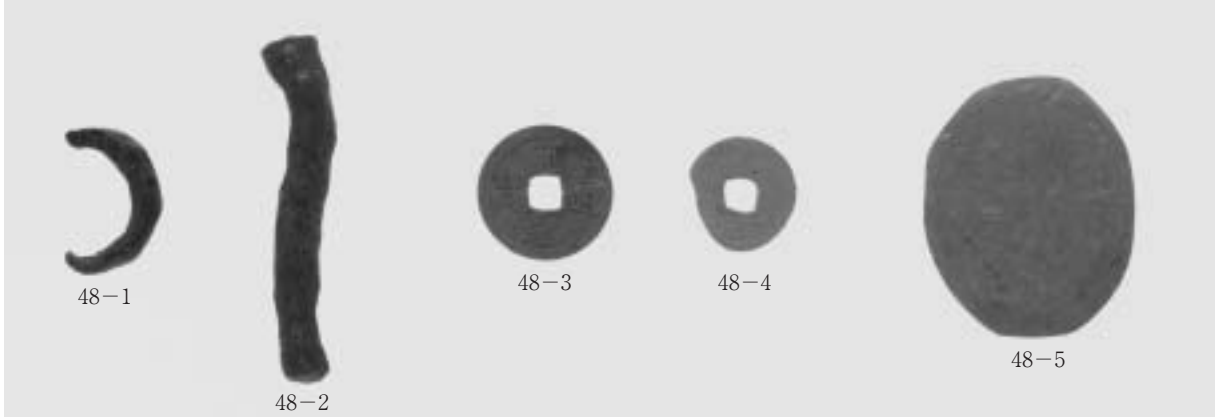
2　須恵器系中世陶器鉢・瓦質土器

1　SE71出土かわらけ杯

2　LS48⑥(SB62)出土かわらけ皿



3　かわらけ



4　鉄製品・銭貨・砥石

秋田県文化財調査報告書第389集
新屋敷遺跡
－一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－

印刷・発行　平成17年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話 0187（69）3331　FAX（0187）69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王４丁目１番２号
電話 018（860）3193
印　　刷　鶴田印刷株式会社

秋田県文化財調査報告書第389集
新屋敷遺跡　―一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―

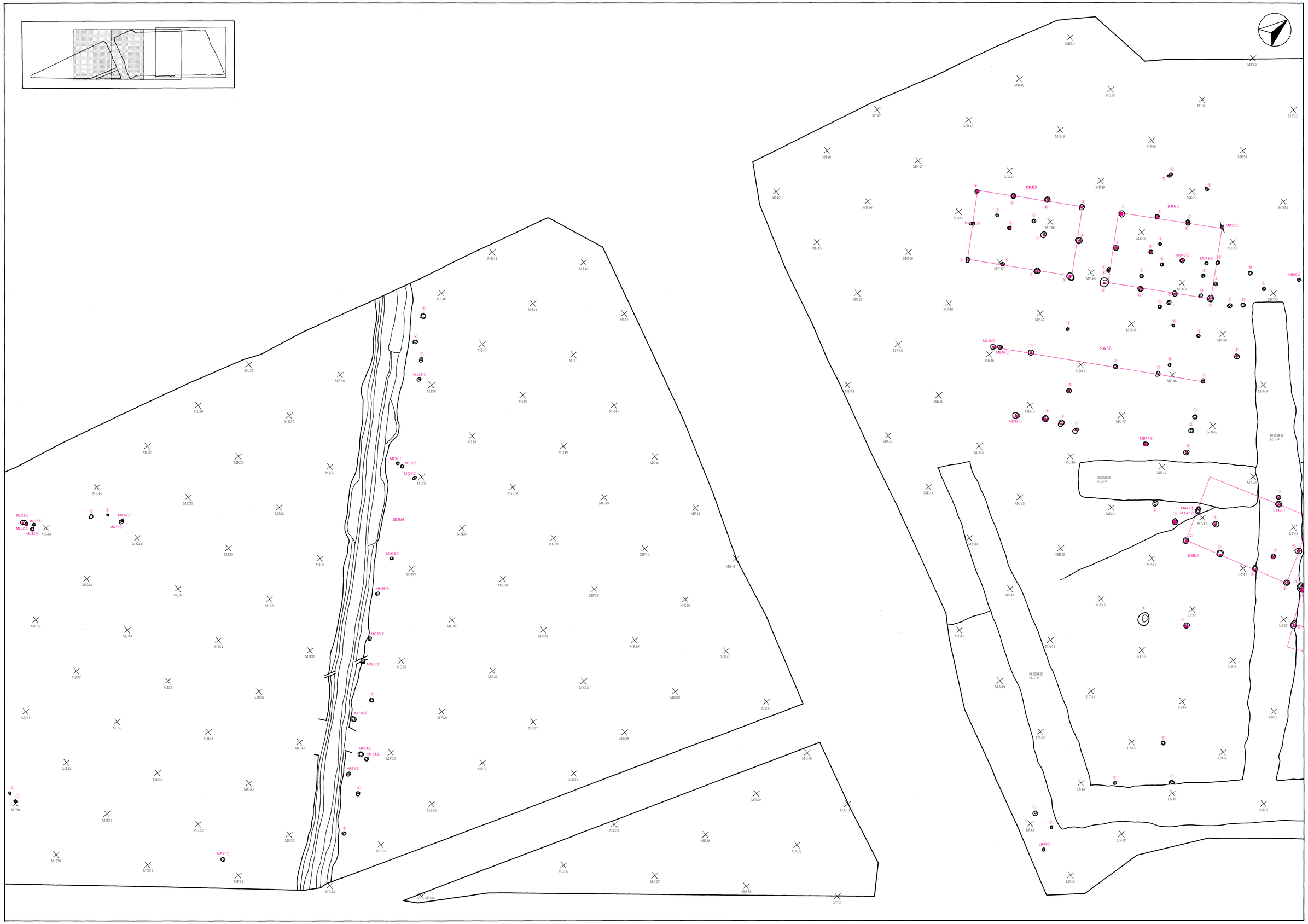
付図１　遺構配置図（１）

0　1：100　10m

秋田県文化財調査報告書第389集
新屋敷遺跡　―一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―

付図2　遺構配置図(2)

0　1：100　10m



秋田県文化財調査報告書第389集
新屋敷遺跡　－一般国道13号湯沢横手道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－

付図３　遺構配置図（３）

0　1：100　10m